

令和2年度

岩手大学農学部年報

Vol.26

IWATE UNIVERSITY

2020

岩手大学農学部

農学部年報第 26 号の刊行によせて

岩手大学農学部長 伊藤菊一

2021 年 6 月 18 日に「統合イノベーション戦略 2021」が閣議決定されました。これは今年 3 月に決定された第 6 期科学技術・イノベーション基本計画の最初の年次戦略として位置づけられています。この中では「国民の安全と安心を確保する持続可能で強靱な社会」や「一人ひとりの多様な幸せ (well-being) が実現できる社会」の実現を目指し、今後取り組む科学技術やイノベーション政策が具体化されています。農林水産業関連では、「みどりの食料システム戦略」が農林水産省により策定され、今後はこの戦略に基づいた各種の施策が実施されることとなります。「みどりの食料システム戦略」が掲載されている HP を見ると、2050 年までに我が国の目指す姿が具体的に描かれており、化学農薬の使用量 (リスク換算) の 50% 低減や、輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量の 30% 低減といった野心的な目標が掲げられています。農学部における教育はこれまでの農学の学問体系に則った形で進められていくことが基本ではありますが、イノベーションを掲げる社会の要請を踏まえたバージョンアップも必要になるでしょう。

ところで、そもそも「イノベーション」とはどんな様相を指すのでしょうか。私の手元にある英英辞典では、Innovation: a new idea, method, or invention と書かれてありますが、日本人にはあまりピンとこない説明のように思います。私もいろいろなところで「イノベーション」の説明を聞いて来ましたが、最も腑に落ちた説明は以下のようなものです。すなわち、「イノベーションの事例は「エレベーター」である。初期にエレベーターを考え出した人は、数階の上下移動を補助する手段としてアイデアを出したかもしれない。しかし、エレベーターの真のイノベーションは、エレベーターの存在を基盤として、超高層ビルが立ち、人口が集積し、社会が大きく発達したことである」というものです。このような事例を聞いた上で世の中を見渡すと、イノベーションの種は我々の周りにも数多く存在していることに気づかされます。

この冊子には農学部教員が生み出した新しいアイデア、手法、原理、観察結果、考察、等々がそれぞれの教員の活動と共に掲載されております。この冊子が岩手大学農学部発のイノベーションの一助となることを願っております。

令和 3 年 11 月

目 次

農学部年報第26号の刊行によせて

令和2年度の活動概要

1	トピックス	3
2	年間主要行事	5
3	広報等活動状況	6
教員・スタッフ		
1	学部教員	
	(1) 植物生命科学科	9
	(2) 応用生物化学科	23
	(3) 森林科学科	37
	(4) 食料生産環境学科	47
	(5) 動物科学科	63
	(6) 共同獣医学科	71
2	附属施設教員	
	(1) 附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター	95
	(2) 附属動物病院	98
	(3) 附属動物医学食品安全教育研究センター	100
3	技術部	101
4	学会等の開催	112
5	研究助成	113
6	非常勤講師	115
7	委員会一覧	120
学 生		
1	入試	
	(1) 大学入学共通テストの受験を要する教科・科目等	125
	(2) 大学入学共通テスト及び個別学力検査等の評価・配点	125
	(3) 入学者選抜状況	126
	(4) 学校推薦型選抜入学選抜状況	127
	(5) 植物生命科学科・応用生物化学科・食料生産環境学科・動物科学科編入学選抜状況	127
	(6) 大学院総合科学研究科(修士課程)選抜状況	127
	(7) 大学院獣医学研究科(博士課程)選抜状況	129
2	カリキュラム	
	(1) 植物生命科学科	130
	(2) 応用生物化学科	131
	(3) 森林科学科	132
	(4) 食料生産環境学科	133
	(5) 動物科学科	136
	(6) 共同獣医学科	137

3	学部学生	
	(1) 入学年度別在籍者数	138
	(2) 研究生・科目等履修生・特別聴講生受入状況	138
	(3) 卒業者数	139
	(4) 卒業者の進路状況	139
4	大学院修士課程	
	(1) 在籍者数	140
	(2) 修了者数	140
	(3) 修了者の進路状況	141
	(4) 修士論文一覧	142
5	大学院博士課程	
	(1) 岩手大学大学院連合農学研究科学位論文一覧	145
	(2) 岐阜大学大学院連合獣医学研究科学位論文一覧	148
	国際交流	
1	海外渡航	151
2	外国人研究者の受入	151
3	留学生の受入	151
4	交換留学生の派遣と受入	151
	地域交流	
1	セミナー・公開講座等の開催	155
	(1) 職業的専門家（経営者・技術者等）を対象とするもの	155
	(2) 一般市民・児童生徒を対象とするもの	158
	(3) 公開講座等	159
2	その他の地域連携事業	161
	(1) いわてアグリフロンティアスクール	161
	(2) AFR（岩手農林研究協議会）	163
3	受託研究員の受入	163
	附属施設	
1	附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター	167
	1-1 地域フィールド総合科学分野	
	(1) 概要，教育研究の内容	
	(2) 地域貢献	
	1-2 持続型農業生産技術分野（滝沢農場，御明神牧場）	
	(1) 概要	
	(2) 教育研究の内容	
	(3) 実習	
	(4) 土地利用計画	
	(5) 家畜	
	(6) 農畜産物売払高	
	1-3 循環型森林管理技術分野（御明神演習林，滝沢演習林）	
	(1) 概要	
	(2) 教育研究の内容	
	(3) 御明神演習林	
	(4) 滝沢演習林	
	(5) 林産物の販売	

2	附属動物病院	173
	(1) 概要	
	(2) 診療状況	
	(3) 臨床教育の内容	
3	附属植物園	176
	(1) 概要	
	(2) 主な構成	
	(3) 園内概況	
	(4) 運営委員会	
	(5) 植物園・ガラス温室利用状況	
	附属農業教育資料館	180
	(1) 概要	
	(2) 展示資料	
	(3) 入館者数	
	(4) 農業教育資料館特別企画	
	(5) 農業教育資料館来館記念品の作成	
	(6) 農業教育資料館蔵資料の他施設・団体への貸出実績	
6	附属動物医学食品安全教育研究センター	182
	事務組織等	
1	事務組織	187
2	令和元年度予算関係	187
3	職員の動向	188
	(1) 教育職員	188
	(2) 事務系職員	189
	(3) 技術系職員	189

令和2年度の活動概要

1. トピックス

【新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止への対応】

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、行事等の中止や縮小が相次ぎ、例年とは異なる1年となった。

前期は、入学式の中止から始まり、授業開始が4月20日に延期されたが、政府が緊急事態宣言を全国へ拡大したことにより、5月7日に再延期された。前期の授業は、原則としてオンライン形式で行われ、オンライン授業を受講できる環境がない学生には、教室の開放やパソコンの貸し出しを行った。

後期は、感染対策を講じた上で対面授業が行われたが、卒業式・大学院修了式は縮小開催となり、学位記を受領する代表者及び答辞総代のみの参加で開催された。

【国際交流】

(1) アメリカオーバン大学との学術交流

平成10年に締結された「学術交流に関する協定書」に基づき、学術交流の一環として平成16年から学生交流が行われている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症による影響を踏まえ、学生の派遣は中止とした。

(2) カナダサスカチュワン大学との学術交流

平成25年3月1日から10年間で締結された岩手大学とカナダサスカチュワン大学との大学間学術交流協定に基づき、岩手大学農学部とカナダサスカチュワン大学言語センターとの学生派遣に関する合意を平成26年2月20日から締結し、学生の派遣を開始した。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症による影響を踏まえ、学生の派遣は中止とした。

(3) ドイツロッテンブルク大学との学術交流

平成25年11月6日から10年間で締結された岩手大学農学部とドイツロッテンブルク大学との学術交流協定に基づき、学生の派遣を行っている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症による影響を踏まえ、学生の派遣は中止としたが、信州大学と合同でオンラインセミナーを開催した。

(4) 吉林農業大学との学術交流

例年、数名の教員が吉林農業大学を訪問し、研究交流を行っているが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症による影響を踏まえ、教員の研究交流は中止とした。

(5) 上海海洋大学と学術交流

令和2年度は、11月24～25日にNPO法人国際食育交流協会主催、岩手大学と上海海洋大学共催のオンライン国際会議「Current trends on food processing, safety and nutrition」を行った。また、12月13日には上海海洋大学でオンライン会議が開催され、2月には上海海洋大学の学生が岩手大学でのオンライン授業（水産食品加工学特論）に参加した。

(6) 福建農林大学と学術交流協定を締結

令和元年7月8日に岩手大学と福建農林大学との学術交流協定が締結された。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症による影響を踏まえ、教員の派遣は行わなかったが、今後の活動再開を計画するためにオンラインミーティングを3回開催した。

(7) 石河子大学との学術交流協定の更新

令和元年8月20日に岩手大学と石河子大学との学術交流協定が更新された。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症による影響を踏まえ、交流は中止とした。

【研究助成】

(1) 共同研究

令和2年度における民間等との共同研究は30件行われ、岩手県内の企業等から9件であった。

(2) 受託研究

令和2年度には29件行われ、独立行政法人の研究機関から13件であった。

【学部長及び附属施設長の交代等】

(1) 副学部長の就任

前任者の任期満了に伴い、伊藤菊一教授が令和2年4月1日付けで就任した。

(2) 附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター長の就任

前任者の任期満了に伴い、由比進教授が令和2年4月1日付けで就任した。

(3) 附属農業教育資料館長の再任

伊藤菊一教授が任期満了に伴い、令和2年4月1日付けで再任された。

【その他】

(1) 農学部附属農業教育資料館特別公開及び土日祝日の公開

令和2年11月3日(火, 祝日)の文化の日を記念して、農業教育資料館の特別公開(無料開館)が行われ、期間中多くの入館者が訪れた。また、令和2年6月6日(土)から令和2年11月3日(火)(全学一斉休業期間を除く。)まで、土日祝日も一般公開を行った。

(2) 授業公開と教育懇談会の開催

令和2年度は、21回目の授業公開及び教育懇談会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症による影響を踏まえ、中止とした。

(3) 進路懇談会の開催

令和2年度は、18回目の進路懇談会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症による影響を踏まえ、中止とした。

2. 年間主要行事

年月日	曜日	事項
令和2年		
4. 8	水	新入生オリエンテーション
6. 1	月	開学記念日
7. 1	水	令和3年4月入学岩手大学大学院総合科学研究科地域創生専攻推薦入学試験
8. 5	水	令和3年度岩手大学農学部（森林科学科，共同獣医学科を除く4学科）編入学試験
8. 6	木	Web オープンキャンパスサイト公開（令和3年2月26日まで）
8.13	木	夏季休業（9月30日まで）
8.19	水	令和3年10月入学・令和3年4月入学第1期岩手大学大学院総合科学研究科入学試験（20日まで）
8.21	金	令和2年10月入学・令和3年4月入学第1期岩手大学大学院獣医学研究科共同獣医学専攻入学試験
9. 3	木	令和2年10月入学・令和3年4月入学第1期岩手大学大学院連合農学研究科入学試験
9.18	金	令和2年9月岐阜大学大学院連合獣医学研究科学学位記授与式
9.25	金	令和2年9月岩手大学卒業・修了式，連合農学研究科学学位記伝達式
10. 1	木	令和2年10月入学式
10.24	土	公開講座「樹木の成長・繁殖様式から森林の成り立ちを知る」（滝沢演習林）
11.20	金	令和3年度岩手大学学校推薦型選抜（共同獣医学科を除く5学科）
12.24	木	冬季休業（1月5日まで）
12.25	金	令和3年度岩手大学農学部総合型選抜
令和3年		
1.16	土	大学入学共通テスト（17日まで）
1.26	火	令和3年4月入学岩手大学大学院総合科学研究科第2期入学試験（27日まで）
1.28	木	令和3年4月入学第2期岩手大学大学院獣医学研究科共同獣医学専攻入学試験
1.30	土	大学入学共通テスト（31日まで）
2. 4	木	令和3年4月入学第2期岩手大学大学院連合農学研究科入学試験
2.25	木	令和3年度岩手大学一般選抜（前期日程）
3. 8	月	附属動物医学食品安全教育研究センター成果発表会
3.12	金	令和3年度岩手大学一般選抜（後期日程）
3.15	金	令和2年度岐阜大学大学院連合獣医学研究科学学位記授与式
3.23	火	令和2年度岩手大学学位記授与式，連合農学研究科学学位記伝達式
3.24	水	春季休業（31日まで）

3 . 広報等活動状況

日 程	種 別	高 校 名	対 応 者
10月 8日	大学見学	福島県立白河高等学校	折笠 貴寛
10月15日	大学見学	岩手県立遠野高等学校	高橋 正弘
10月20日	大学見学	青森県立五所川原農林高等学校	立石 貴浩
10月21日	大学見学	岩手県立葛巻高等学校	松波 麻耶
10月26日	大学見学	岩手県立種市高等学校	濱上 邦彦
10月 3日	出前講義	宮城県立泉館山高等学校	下野 裕之
10月 6日	出前講義	岩手県立金ヶ崎高等学校	木村 賢一
10月 6日	出前講義	岩手県立福岡高等学校	小出 章二
10月13日	出前講義	盛岡中央高等学校	下野 裕之
10月15日	出前講義	岩手県立盛岡第四高等学校	濱上 邦彦・折笠 貴寛
10月16日	出前講義	栃木県立矢板東高等学校	伊藤 芳明
10月27日	出前講義	宮城県立古川高等学校	三浦 靖
10月29日	出前講義	青森県立青森高等学校	立石 貴浩
10月30日	出前講義	青森県立青森南高等学校	小田 伸一
11月12日	出前講義	栃木県立足利高等学校	木村 賢一
12月16日	出前講義	福島県立安積黎明高等学校	山下 哲郎
3月15日	出前講義	栃木県立栃木高等学校	佐藤 洋

教員・スタッフ

研究業績の著者が複数いて本人が責任著者の場合、アンダーラインを付しています。

1 学部教員

(1) 植物生命科学科

上村 松生

Uemura, Matsuo



赴任：1999年

現職：教授（2019年4月～
連合農学研究科長）

学位：理学博士（北海道大学）

専門分野：植物生理学，環境生物学，低温生物学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 環境適応における細胞膜機能と構造の関わり
2. 植物の寒冷応答分子機構
3. 植物遺伝子資源の超低温保存

担当科目：

1. 人間と自然「生命のしくみ」（年次指定なし，分
担）
2. 植物生理学（2年次）
3. 科学文献読解法（3年次，分担）
4. 植物環境ストレス応答機構特論（大学院修士課程）

所属学会等：日本植物学会，日本植物生理学会（代議
員），低温生物工学会（総務担当理事，編集委員），
東北植物学会（会長），American Society of Plant
Biologists, Society for Cryobiology, Scandinavian Society of
Plant Physiologists, American Society for Biochemistry and
Molecular Biology

学会賞等：平成24年度低温生物工学会賞（2012年）

その他の主な活動：Adjunct Professor (College of
Agriculture and Bioresources, University of Saskatchewan, Canada),
Subject Editor (Physiologia Plantarum), Academic Editor
(PLOS One)

研究業績

A. 著書・訳書

1. Takahashi, D., Li, B., Nakayama, T., Kawamura, Y.,
Uemura, M. (2020) Shotgun proteomics of plant
plasma membrane and microdomain proteins using
nano-LC-MS/MS. *In: Methods in Molecular Biology*
(Plant Proteomics: Methods and Protocols, 3rd Ed,
Jorin-Novo, J.V., Valledor, L., Sanchez, M.A.C., Rey,
M.-D. eds), Springer Science + Business Media, LLC,
New York, NY, vol 2139, pp 89-106 (doi, 10.1007/978-
1-0716-0528-8_7; ISBN, 978-1-0716-0527-1).
2. Kamal, M.M., Takahashi, D., Nakayama, T., Miki, Y.,
Kawamura, Y., Uemura, M. (2020) Proteomic
approaches to identify cold regulated membrane
proteins. *In: Methods in Molecular Biology (Plant Cold
Acclimation: Methods and Protocols, Hinch, D.K.,
Zuther, E. eds), 2nd Ed, Springer Science + Business*

Media, LLC, New York, NY, vol 2156, pp 171-186. (doi,
10.1007/978-1-0716-0660-5_13; ISBN, 978-1-0716-
0659-9).

3. 小出章二, 大須賀玲, 折笠貴寛, 上村松生 (2020)
青果物の高品質長期保存を目指す：-5°C氷点下
保存への取り組み. *アグリバイオ*, 4: 44-46.

B. 学術雑誌

(a)原著論文

1. Ahamed, A., Kawamura, Y., Maeshima, M., Rahman,
A., Uemura, M. (2020) Functional redundancy of
plasma membrane aquaporins PIPs under cold
acclimation and freezing tolerance in *Arabidopsis
thaliana*. *Plant and Cell Physiology* 61: 787-802 (doi:
10.1093/pcp/pcaa005).
2. Hiraki, H., Watanabe, M., Uemura, M., Kawamura, Y.
(2020) Season specificity in the cold-induced calcium
signal and the volatile chemicals in the atmosphere.
Physiologia Plantarum 168: 803-818 (doi:
10.1111/ppl.13019).
3. Zhong, Z., Kobayashi, T., Zhu, W., Imai, H., Zhao, R.,
Ohno, T., Rehman, S., Uemura, M., Tian, J., Komatsu,
S. (2020) Plant-derived smoke enhances plant growth
through ornithine-synthesis pathway and ubiquitin-
proteasome pathway in soybean. *Journal of Proteomics*
221: 103781 (doi: 10.1016/j.jprot.2020.103781).
4. Koide, S., Yoneyama, A., Orikasa, T., Uemura, M.
(2020) Assessing the supercooling of fresh-cut
onions at -5°C using electrical impedance analysis.
Food Quality and Safety 4: 55-58. (doi:
10.1093/fqsafe/fyz044).
5. Kamal, Md M., Erazom C., Taninom K.K., Kawamura,
Y., Kasuga, J., Laarveld, B., Olkowski, A., Uemura, M.
(2020) A single seed treatment mediated through
reactive oxygen species increases germination, growth
performance, and abiotic stress tolerance in *Arabidopsis*
and rice. *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry*
84: 2597-2608 (doi: 10.1080/09168451.2020.1808444).
6. Kovács, T., Ahres, M., Palmá, T., Kalapos, B., Kovacs,
L., Uemura, M., Crosatti, C., Galiba, G. (2020)
Decreased R:FR ratio in the incident white light affects
the composition of barley leaf lipidome and freezing
tolerance in a temperature dependent manner.
International Journal of Molecular Sciences 21: 7557
(doi: 10.3390/ijms21207557).
7. Kamal, M.M., Takahashi, F., Ishikawa, S., Suzuki, K.,
Kamo, M., Umezawa, T., Shinozaki, K., Kawamura, Y.

Uemura, M. (2020) Large scale phosphoproteomic study of *Arabidopsis* membrane proteins reveal early signaling events in response to cold. *International Journal of Molecular Sciences* 21: 8631 (doi: 10.3390/ijms21228631).

8. Ceballos-Laita, L., Gutierrez-Carbonell, E., Takahashi, D., Abadía, A., Uemura, M., Abadía, J., López-Millán, A.F. (2020) Effects of manganese toxicity on the protein profile of tomato (*Solanum lycopersicum*) xylem sap as revealed by shotgun analyses. *International Journal of Molecular Sciences* 21: 8863 (doi: 10.3390/ijms21228863).

C. 国際学会発表

1. Kamal, M.M., Ishikawa, S., Takahashi, F., Shinozaki, K., Umezawa, T., Kawamura, Y., Uemura, M. (2020) Comparative phosphoproteomic study of *Arabidopsis* microsomal membrane fraction in response to cold treatment. *International Symposium on Environmental Response Mechanisms in Plants and Animals* (Morioka, Japan) (Best Poster Presentation Award).

D. 国内学会発表

1. 大須賀玲, 小出章二, 桜井美咲, 折笠貴寛, 上村松生 (2020) カットリングの過冷却保存が品質に与える影響. 2020 年度冷凍空調学会年次大会 (オンライン).
2. 上村松生 (2020) 植物の環境適応機構における細胞膜の重要性. 日本植物学会第 84 回大会シンポジウム(オンライン)(企画シンポジウム講演).

小森 貞 男

Komori, Sadao

赴任: 2001 年

現職: 教授

学位: 博士(農学)(東京農工大学)

専門分野: 果樹園芸学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 果樹育種に関する研究
2. リンゴの培養に関する研究
3. リンゴの果実肥大に関する研究

担当科目:

1. 果樹園芸学各論(3年次)
2. 果樹園芸学概論(2年次, 分担)
3. 園芸学実験(3年次, 分担)
4. 生物学(1年次, 分担)
5. 基礎生物学実験(1年次, 分担)



6. 果樹園芸学特論(大学院修士)

7. 次世代農学特論(大学院修士, 分担)

所属学会: 園芸学会(代議員), 園芸学会東北支部会(代議員), 日本育種学会, 日本熱帯農業学会, 日本植物細胞分子生物学会

学会賞等: 園芸学会園芸功労賞(2020年)

その他の主な活動: 農研機構「革新的技術開発・緊急展開事業・先導プロジェクト」専門P0, 岩手県農業研究センター試験研究推進アドバイザー

[研究業績]

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Watanabe, M., Goto, R., Murakami, M., Komori, S. and Suzuki A. (2020) Interaction Between Ethylene and Abscisic Acid and Maturation in Highbush Blueberry. *The Hort. Journal*. 90: 14-22.
2. Kagaya, H., Ito, N., Shibuya, T., Komori, S., Kato, K., and Kanayama, Y. (2020) Characterization of *FLOWERING LOCUS C* Homologs in Apple as a Model for Fruit Trees. *Int. J. Mol. Sci.* 21: 4562. doi: 10.3390/ijms21124562.
3. 劉 嘉儀, 小森貞男, 工藤静香, 熊谷初美, 伊藤大雄, 渡邊学. (2021) リンゴ5品種における休眠特性と低温要求の評価. *園芸学研究*, 印刷中.

B. 国内学会発表

1. 大谷昭博, 澤村大祐, 佐々木真人, 高橋 藍, 渡邊学, 小森貞男 (2020) リンゴ品種‘黄香’の裂果に関する研究. *園学研* 19(別1): 238.
2. 劉 嘉儀, 岡田初彦, 小森貞男, 村上政伸, 渡邊学 (2020) *Malus hupehensis*(無配偶生殖実生)の水耕栽培を利用した早期開花. *園学研* 19(別1): 243.
3. 伊藤幹人, 間瀬誠子, 岡田初彦, 西谷千佳子, 國久美由紀, 佐藤善政, 渡邊学, 小森貞男 (2020) リンゴ倍加半数体‘95P6’等の薬培養に関する研究. *園学研* 19(別1): 245.

佐原 健

Shara, Ken



赴任: 2012年

現職: 教授

学位: 博士(農学)

専門分野: 昆虫細胞遺伝子学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 昆虫の遺伝子マッピング
2. 鱗翅目昆虫の染色体進化に関する研究
3. 昆虫精子に関する研究

担当科目：

1. 応用昆虫学
2. 生物制御学概論
3. 昆虫バイオテクノロジー

所属学会等：日本蚕糸学会，日本応用動物昆虫学会，染色体学会

学会賞等：日本蚕糸学会蚕糸学進歩賞(奨励賞)(1997年)，日本農学進歩賞(2007年)，科研費審査員表彰(2014年)，染色体学会賞(2015年)，日本蚕糸学会賞(2016年)

研究業績

A. 著書・訳書

5. 藤本章晃，倉西良一，安河内祐二，佐原 健 (2019) ホタルトビケラおよびニンギョウトビケラのBACライブラリー構築．東北蚕糸・昆虫利用研究報告：44，1-4．

1. 佐原 健 (2020) カイコの染色体をみてみると (IN カイコの科学 日本蚕糸学会編集) 朝倉書店，pp47-48.

B. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Ohno M, Kawamoto M, Sahara K (2020) Development of an application, *Bombyx mori* tool for ortholog picking 1 (*BmTOP*). Journal of Insect Biotechnology and Sericology 89, 1-7.
2. Sakai H, Konagaya T, Takemura Y, Sahara K, Niimi T (2020) Double-copulated introduction of ejaculate with dominant larval phenotype to maintain *Bombyx mori* mutant with dysfunctional apyrene sperm. Journal of Insect Biotechnology and Sericology 89: 39-43.
3. 藤本章晃，大野瑞紀，佐原 健 (2020) BAC-FISH を用いたトビケラ類ゲノムアセンブルの試行．東北蚕糸・昆虫利用研究報告 45: 10-13.

C. 国内学会発表

1. 藤本章晃，大野瑞紀，安河内祐二，佐原 健 (2021) ニンギョウトビケラとチョウ目昆虫の染色体コリニアリティー．日本蚕糸学会第90回大会講演要旨集 p44.

下野 裕之

Shimono, Hiroyuki



赴任：2007年

現職：教授

学位：博士(農学)(北海道大学)

専門分野：作物学

学会賞等：日本作物学会学術奨励賞，日本農学進歩賞
主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 異常気象に負けない作物を育てるための機構の解明

担当科目：

1. 食用作物学 I (2 年次)
2. 作物栽培学概論 (1 年次)
3. 情報基礎 (1 年次, 分担)
4. 農学概論 (1 年次, 分担)
5. 基礎生物学実験 (1 年次, 分担)
6. 植物生命科学演習 I (3 年次, 分担)
7. 植物生命科学演習 II (4 年次, 分担)
8. 作物栽培学特論 (大学院修士)
9. 作物生産生理学特論 (大学院修士)
10. グローバル環境科学特論 (大学院修士, 分担)
11. 卒業研究

所属学会等：日本作物学会，American Society of Agronomy，日本農学気象学会

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Rahman, M.S., Tareq, T.M., Sarker, P.K., Rashid, H. K.E.S.M., Yasmeen, R.M., Alia, M.A., Seraj, Z.I. and Shimono, H. (2019) Genetic variation of phenotypic plasticity in Bangladesh rice germplasm. Field Crops Research: 243 (1) Article 107618.
2. Okamura, S., Mumtahina, N., Shimono, H. and Matsunami, M. (2020) Root sampling and RNA extraction methods for field-based gene expression analysis of soybeans. Plant Production Science (in press).
3. Masuya, Y., Kumagai, E., Matsunami, M. and Shimono, H. (2021) Dry matter partitioning to leaves differentiates African and Asian rice genotypes exposed to elevated CO₂. Journal of Agronomy and Crop Science 220: 120-127.
4. 及川聡子，鈴木健策，西 政佳，由比 進，松波麻耶，下野裕之(2021) 水稻の初冬直播き栽培における出芽率に及ぼす種子への薬剤処理と採種年の効果 日作紀 90：1-9.

B. 国内学会発表

1. 下野裕之(2021) 常識破りの「初冬直播き栽培」で水稻栽培の規模拡大を後押し. アグリビジネス創出フェア 2020 2020年11月11日(水)・13日(金) 10:00~17:00 東京ビッグサイト青海展示棟 Aホール, 農林水産省主催.

吉川 信幸

Yoshikawa, Nobuyuki



赴任: 1986年

現職: 教授

学位: 農学博士 (大阪府立大学)

専門分野: 植物ウイルス学, 植物病理学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 寒冷地果樹のウイルス病に関する研究
2. 植物ウイルスベクターを用いた果樹・花卉類の開花促進技術の開発

担当科目:

1. 植物病理学 (2年次)
2. 生物制御学概論 (2年次)
3. 植物病理学 (3年次)
4. 農学概論 (1年次)
5. 植物病理学特論 (大学院修士)
6. 次世代農学特論 (大学院修士)

学会賞等: 日本植物病理学会学術奨励賞 (1989年), 日本植物病理学会賞 (2012年), 文部科学大臣表彰・科学技術賞 (研究部門) (2016年)

その他の主な活動: 岩手大学次世代アグリイノベーション研究センター長, 内閣府食品安全委員会/遺伝子組換え食品等部門調査会専門委員

研究業績

A. 著書・訳書

1. 吉川信幸 (2021) 高速開花技術による「花開くエゾリンドウ」育成. 最新農業技術 花卉 vol.13 (農文協), pp.185-193.

B. 総説・論説

1. 吉川信幸 (2021) 果樹研究最前線(290) ウイルスベクターを利用した高速開花技術のリンゴ育種への利用. 果実日本 76: 60-63.

C. 原著論文

1. Li, C., Yaegashi, H., Kishigami, R., Kawakubo, A., Yamagishi, N., Ito, I., Yoshikawa, N. (2020) Apple russet ring and apple green crinkle diseases: Fulfillment of Koch's postulates by virome analysis, amplification of full-length cDNA of viral genomes, in vitro transcription of infectious viral RNAs, and reproduction

of symptoms on fruits of apple trees inoculated with viral RNAs. *Frontiers in Microbiology* 11, article 1627.

2. Izuishi, Y., Isaka, N., Li, H., Nakanishi, K., Kageyama, J., Ishikawa, K., Shimada, T., Masuta, C., Yoshikawa, N., Kusano, H., Yazaki, K. (2020) Apple latent spherical virus (ALSV)-induced gene silencing in a medicinal plant, *Lithospermum erythrorhizon*. *Scientific Reports* 10, 13555.
3. Naitow, H., Hamaguchi, T., Maki-Yonekura, S., Isogai, M., Yoshikawa, N., Yonekura, K. (2020) Apple latent spherical virus structure with stable capsid frame supports quasi-stable protrusions expediting genome release. *Communications Biology* 3, Article number 488.
4. Isogai, M., Miyoshi, K., Watanabe, M., Yoshikawa, N. (2020) Characterization of horizontal transmission of blueberry latent spherical virus by pollen, *Archives of Virology* 165, 2807-2815.
5. Ogata, T., Toyoshima, M., Yamamizo-Oda, C., Kobayashi, Y., Fujii, K., Tanaka, K., Tanaka, T., Mizukoshi, H., Yasui, Y., Nagatoshi, Y., Yoshikawa, N. and Fujita, Y. (2021) Virus-Mediated Transient Expression Techniques Enable Functional Genomics Studies and Modulations of Betalain Biosynthesis and Plant Height in Quinoa, *Frontiers in Plant Science* 12, article 643499.

D. その他

1. 吉川信幸, 山岸紀子, 渡邊 学 (2021) 研究トピック「高速開花技術」を利用したリンゴ新品種育成への取り組み. AIC News Letter 3: 8-11.
2. 理化学研究所, 吉川信幸 (2021) 研究最前線「ウイルス遺伝子放出をクライオ電鍵で捉える・植物ウイルスの安定なキャプシド構造が支える遺伝子放出機構」. AIC News Letter 3: 20-22.
3. 農研機構, 吉川信幸 (2021) 研究最前線「スーパー作物キヌアの遺伝子機能解明への道を切り拓く・優れた環境適応性や栄養特性の謎を解き, 作物開発を加速化」. AIC News Letter 3: 26-29.

F. 国内学会発表

1. 中嶋 瞳, 八重樫 元, 山岸紀子, 磯貝雅道, 森谷 茂樹, 吉川信幸 (2020) リンゴ斑点落葉病に対する感受性の原因となる候補遺伝子(A8)の解析, 第56回)日本植物病理学会東北部会, オンデマンド開催 2020年10月9-12日.

磯貝 雅 道

Isogai, Masamichi



赴任：1999年

現職：准教授

学位：博士（農学）（北海道大学）

専門分野：植物ウイルス学，植物病理学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 植物ウイルスとゲノムそれにコードされるタンパク質に関する研究
 2. 果樹に感染するウイルスの研究
- 担当科目：
1. 植物病理学実験（3年次）
 2. 基礎生物学実験（1年次，分担）
 3. 植物ウイルス学（3年次）
 4. 植物ウイルス学特論（修士）
 5. 植物ウイルスの感染と宿主植物の応答（博士）

所属学会等：日本植物病理学会，日本ウイルス学会，American Society for Microbiology，北日本病害虫研究会
研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Isogai, M., Miyoshi, K., Watanabe, M., and Yoshikawa, N. (2020) Characterization of horizontal transmission of blueberry latent spherical virus by pollen. Archives of Virology, 165, 2807-2815.
2. Naitow, H., Hamaguchi, T., Maki-Yonekura, S., Isogai, M., Yoshikawa, N., and Yonekura, K. (2020) Apple latent spherical virus structure with stable capsid frame supports quasi-stable protrusions expediting genome release. Communications Biology, 3, 488.

B. 国内学会発表

1. 磯貝雅道，吉越瑞奈，吉川信幸（2019）ラズベリー黄化ウイルスの胚感染と種子伝染との関連性解析. 日本植物病理学会東北部会, オンライン.
2. 吉田一世，八重樫元，山岸紀子，磯貝雅道，伊藤伝，吉川信幸（2020）リンゴ輪状さび果病罹病樹に見出されるリンゴクロロティックリーフスポットウイルス（ACLSV）配列変異株（SV）の解析. 日本植物病理学会東北部会, オンライン.
3. 中嶋瞳，八重樫元，山岸紀子，磯貝雅道，森谷茂樹，吉川信幸（2020）リンゴ斑点落葉病に対する感受性の原因となる候補遺伝子(A8)の解析. 日本植物病理学会東北部会, オンライン.
4. 青木秀道，今西弘幸，吉川信幸，磯貝雅道（2020）低分子RNA解析による栽培ラズベリー樹からの

ウイルス検出. 日本植物病理学会大会，オンライン.

河村 幸 男

Kawamura, Yukio



赴任：2009年

現職：准教授

学位：博士（地球環境化学）
（北海道大学）

専門分野：低温植物生理学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 植物の凍結障害及びその耐性機構
2. 植物の冷温傷害及びその耐性機構

担当科目：

1. 生物学（1年次，分担）
2. 化学入門（1年次，隔年，分担）
3. 基礎生物学実験（1年次，分担）
4. 植物生理学実験（1年次，代表）
5. 環境植物生理学（3年次）
6. 科学文献読解法（3年次，分担）
7. 低温植物生理学特論（大学院修士）

所属学会等：日本植物生理学会，低温生物工学会
研究業績

A. 著書・訳書

1. Takahashi D, Li B, Nakayama T, Kawamura Y, Uemura M. (分担執筆)(2020) Proteomic approaches to identify cold regulated plasma membrane proteins. "Methods in Molecular Biology (Plant Proteomics: Methods and Protocols, 3rd Ed)" (Eds.: Jorin-Novo JV, Valledor L, Castillejo Sanchez MA, Rey M-D).
2. Kamal MM, Takahashi D, Nakayama T, Miki Y, Kawamura Y, Uemura M. (分担執筆)(2020) Proteomic approaches to identify cold regulated plasma membrane proteins. "Methods in Molecular Biology (Plant Cold Acclimation: Methods and Protocols)" (Eds.: Hincha DK, Zuther E).

B. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Hiraki, H., M. Watanabe, M. Uemura, Y. Kawamura. (2020) Season specificity in the cold-induced calcium signal and the volatile chemicals in the atmosphere. Physiologia Plantarum 168: 803-818.
2. Kamal, M. M., C. Erazo, K. K. Tanino, Y. Kawamura, J. Kasuga, B. Laarveld, A. Olkowski, M. Uemura. (2020) A single seed treatment mediated through reactive

oxygen species increases germination, growth performance, abiotic stress tolerance in *Arabidopsis* and rice. *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry* 84: 2597-2608.

- 3 . Kamal, M. M., S. Ishikawa, F. Takahashi, K. Suzuki, M. Kamo, T. Umezawa, K. Shinozaki, Y. Kawamura, M. Uemura. (2020) Large-Scale Phosphoproteomic Study of *Arabidopsis* Membrane Proteins Reveals Early Signaling Events in Response to Cold. *International Journal of Molecular Sciences* 21: 8631.
- 4 . Rahman, A., Y. Kawamura, M. Maeshima, A. Rahman, M. Uemura. (2020) Plasma Membrane Aquaporin Members PIPs Act in Concert to Regulate Cold Acclimation and Freezing Tolerance Responses in *Arabidopsis thaliana*. *Plant and Cell Physiology* 61: 787-802.
- 5 . Tominaga, Y., K. Suzuki, M. Uemura, Y. Kawamura. (2021) In Planta Monitoring of Cold-Responsive Promoter Activity Reveals a Distinctive Photoperiodic Response in Cold Acclimation. *Plant and Cell Physiology* 62: 43-52.

C . 国内学会発表

- 1 . 河村幸男, 上村松生(2020) 植物の冬の感知と秋から冬にかけての気温と日長の特徴的な変化. 第61回日本植物生理学会年会, 大阪.
- 2 . 加藤旦, 上村松生, 河村幸男(2020) G-CaMPIによる低温誘導性カルシウムイオン動態の観察, 東北植物学会第10回大会, 山形 オンライン大会)
- 3 . 高橋俊介, 上村松生, 河村幸男 (2020) 氷点下温度と凍結がもたらす馴化と耐凍性へのその影響. 東北植物学会第10回大会, 山形 (オンライン大会).

立澤文見

Tatsuzawa, Fumi

赴任: 2009年

現職: 准教授

学位: 博士(農学)(千葉大学)

専門分野: 蔬菜花卉園芸学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動

- 1 . アブラナ科花卉作物における新花色品種の育種に関する基礎研究
- 2 . ラン類の花色とアントシアニンに関する研究
- 3 . 野生植物の花色分析と花色における遺伝資源としての可能性に関する研究



- 4 . 主要切花, 鉢物, および花壇用花卉作物の花の発色機構に関する研究
- 5 . 遺伝子組み換え体や培養変異体の花色色素の同定および色素合成系遺伝子の探索
- 6 . エディブルフラワーの花色とフラボノイドに関する研究

担当科目

- 1 . 花卉園芸学各論(2年次)
- 2 . 蔬菜園芸学各論(2年次, 代表)
- 3 . 蔬菜・花卉園芸学概論(1年次, 代表)
- 4 . 生物学(1年次, 分担)
- 5 . 農学概論(1年次, 分担)
- 6 . 植物栽培と環境テクノロジー(1年次, 代表)
- 7 . 蔬菜花卉園芸学実験(3年次, 代表)
- 8 . 花卉園芸学特論(大学院修士課程)
- 9 . 先端生命科学特論(大学院修士課程, 分担)

所属学会等

園芸学会, 植物色素談話会, 日本食生活学会, ラン懇話会, 北海道園芸談話会, 植物化学研究会

研究業績

A . 学位論文

- 1 . 立澤文見(1997) ラン科植物の花色とアントシアニン・特に *Cattleya* 類 *Bletilla* 属 *Cymbidium* 属, *Phalaenopsis* 属および *Vanda* 属について. [博士(農学)(千葉大学)].

B . 原著論文

(a) 学術雑誌

- 1 . Deguchi, A., Tatsuzawa, F., Miyoshi, K. (2020) A blackish-flowered cultivar of *Catharanthus roseus* accumulates high concentrations of a novel anthocyanin with a unique feature of aggregation in weak acid solutions. *Dyes and Pigments* 173:108001 .
- 2 . 水野貴行, 中根理沙, 貝塚隆史, 石川(高野)祐子, 立澤文見, 井上栄一, 岩科司(2020) 茨城県特産赤ネギ品種‘ひたち紅っこ’に含まれるフラボノイドの同定と抗酸化活性評価. *園芸学研究* 19(3):237-245 .
- 3 . Nuraini, L., Ando, Y., Kawai, K., Tatsuzawa, F., Tanaka, K., Ochiai, M., Suzuki, K., Aragoes, V., Daros, J.-A., Nakatsuka, T. (2020) Anthocyanin regulatory and structural genes associated with violet flower color of *Matthiola incana*. *Planta* 251:61.
- 4 . Tatsuzawa, F. (2020) Flower colors and flavonoid s in the cultivars of *Lobelia erinus* L. (Campanulaceae). *Dyes and Pigments* 180:108500 .
- 5 . Tatsuzawa, F. (2020) Flavonoids in the blue flowers

of *Parochetus communis* Buch.-Ham. ex. D. Don (Leguminosae). *Biochemical Systematics and Ecology* 92: 104108.

C. 国内学会発表

1. 佐野広之, 谷川奈津, 立澤文見 (2020) キキョウの花のアントシアニン. *園芸学研究* 19 巻別 1:402.
2. 瀬戸花香, 笹木悟, 立澤文見 (2020) サルビアコクシネア園芸品種の花のアントシアニン. *園芸学研究* 19 巻別 1:403.
3. 立澤文見, 吉越有紗, 鈴木栄 (2020) キョウチクトウの花のアントシアニン. *園芸学研究* 19 巻別 1:404.

畠山 勝徳

Hatakeyama, Katsunori



赴任: 2015年

現職: 准教授

学位: 博士(農学)(東北大学)

専門分野: 植物育種学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 有用農業形質の分子遺伝育種学的研究
2. アブラナ科野菜の耐病性機構に関する研究
3. 組織培養を利用した新規育種素材の開発

担当科目:

1. 基礎遺伝学(1年次)
2. 植物育種学I(2年次)
3. 植物育種学(3年次)
4. 植物育種学特論(大学院修士)
5. 農学概論(1年次, 分担)
6. 情報基礎(1年次, 分担)
7. 基礎生物学実験(1年次, 分担)
8. 生命のしくみ(1年次, 分担)
9. 研究者倫理特論(大学院修士, 分担)

所属学会等: 日本育種学会, 園芸学会, 日本植物病理学会

学会賞等: 日経BP技術賞大賞(2001年), 第118回講演会日本育種学会優秀発表賞(2010年), NARO Research Prize 2011 (2011年), 農林水産研究10大トピックス(2011年), 第135回講演会日本育種学会優秀発表賞(2019年)

その他の主な活動: 日本育種学会運営委員, *Breeding Science*誌編集委員

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Tonosaki, K., Ono, A., Kunisada, M., Nishino, M., Nagata, H., Sakamoto, S., Kijima, S.T., Furuumi, H., Nonomura, K-I., Sato, Y., Ohme-Takagi, M., Endo, M., Comai, L., Hatakeyama, K., Kawakatsu, T., Kinoshita, T. (2020) Mutation of the imprinted gene *OsEMF2a* induces autonomous endosperm development and delayed cellularization in rice, *The Plant Cell*, 33, 85-103.

B. 特許・設計等

1. 川崎光代, 畠山勝徳, 小原隆由, 石田正彦, 柿崎智博 (2020) *Brassica napus* L. *oleifera* (ナタネ種) 出願品種の名称: CRななしきぶ(東北106号) 品種登録出願番号第34645号.

C. 国内学会発表

1. 畠山勝徳, 清水元樹 (2020) 岩手県のキャベツ生産振興に貢献する根こぶ病抵抗性品種の育成に向けて. 岩手生物工学研究センター第250回公開セミナー(2020.11.18).
2. 秋田谷茉那, 高橋美紗子, 松元 哲, 殿崎 薫, 畠山勝徳 (2020) 根こぶ病抵抗性遺伝子 *Crr1b* 候補 ORF の集積による過敏感反応様形質の誘導. 第15回東北育種研究集会要旨集 p5.
3. 佐々木祥子, 白澤健太, 殿崎 薫, 高畑義人, 畠山勝徳 (2020) エンドウにおける不可食性莢にみられる厚壁組織形成に関する遺伝子座のマッピング. 第15回東北育種研究集会要旨集 p21.
4. 尾形圭介, 殿崎 薫, 畠山勝徳 (2020) ダイコンにおける形質転換系の確立. 第15回東北育種研究集会要旨集 p27.
5. 佐々木祥子, 白澤健太, 殿崎 薫, 高畑義人, 畠山勝徳 (2021) ゲノムワイド関連解析によるエンドウの莢可食性関連形質のマッピング. *育種学研究* 23 (別1) 42.
6. 秋田谷茉那, 清水元樹, 高橋美紗子, 松元 哲, 殿崎 薫, 畠山勝徳 (2021) ハクサイ根こぶ病抵抗性遺伝子 *Crr1b* の候補 ORF を集積したシロイヌナズナにおける過敏感反応の誘導. *育種学研究* 23 (別1) 103.

ラーマン アビドゥール

RAHMAN Abidur



赴任: 2006年

現職: 准教授

学位: Ph.D in Bio-Science
(神戸大学)

専門分野: 植物生理学, 植物分子生物学, 細胞生物学, 非生物学的ストレス

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

- 1 .Hormonal regulation of growth and development of plant
- 2 . Abiotic stress response in plant
- 3 . Developing phytoremediation technique to clean up contaminated soil
- 4 . Developing eco-friendly novel herbicides

担当科目：

- 1 . General Plant Biology (学部2年次)
- 2 . 科学文献解読法 (学部3年次)
- 3 . 植物生理学実験 (2年次, 分担)
- 4 . 生物学入門 (1年次, 分担)
- 5 . 植物分子生物学 (Plant Molecular Biology大学院修士課程)

所属学会等：Japanese society of Plant Physiology, American Society of Plant Biology, Scandinavian society for Plant Physiology, Society for Experimental Biology, Global Network for Bangladeshi Biotechnologists.

その他の主な活動：

- 1 . Associate Editor- Frontiers in Plant Science, (Plant Cell Biology Section) Editor- PLOS ONE ; Journal of Plant Growth Regulation.

研究業績

A . 原著論文

(a) 学術雑誌

- 1 . Ashraf, MA., Akihiro, T., Ito, K., Kumagai, S., Sugita, R., Tanoi, K., Rahman, A. (2021) ATP Binding Cassette Proteins ABCG37 and ABCG33 function as potassium-independent cesium uptake carriers in Arabidopsis root. Molecular Plant 14:664-678, DOI: <https://doi.org/10.1016/j.molp.2021.02.002>
- 2 . Rahman, T., Shao, M., Pahari, S., Venglat, P., Soolanayakanahally, R., Qiu, X., Rahman, A., Tanino, K. (2021) Dissecting the roles of cuticular wax in plant resistance to shoot dehydration and low-temperature stress in Arabidopsis. Int. J. Mol. Sci. 22(4), 1554; DOI: <https://doi.org/10.3390/ijms22041554>
- 3 . Aslam, M., Sugita, K., Qin, Y., Rahman, A. (2020) Aux/IAA14 Regulates microRNA-Mediated Cold Stress Response in Arabidopsis Roots. Int. J. Mol. Sci. 21(22), 8441; DOI: <https://doi.org/10.3390/ijms21228441>
- 4 . Rahman, A., Kawamura, Y., Maeashima, M., Rahman, A., Uemura, M. (2020) –Plasma membrane aquaporin members PIPs act in concert to regulate cold acclimation and freezing tolerance responses in *Arabidopsis thaliana* Plant and Cell Physiology 61 (4): 787-802 DOI:10.1093/pcp/pcaa005

B . 国際学会発表発表

- 1 . Rahman, A. (2021) Using newly discovered cesium and arsenite transporters for phytoremediation. International Biotech Symposium, February 13-20, 2021, Community of Biotechnologists Webinar, CA, USA (Oral Presentation, Invited speaker).
- 2 . Hanzawa, A., Rahman, A. (2021) Actin isovariant ACT8 regulates the cold response in Arabidopsis root. 2021 AAAS ANNUAL MEETING on "Understanding Dynamic Ecosystems". February 8-11, 2021, Online Conference (Poster presentation, won the third best poster award).
- 3 . Sugita, K., Rahman A (2021) RIC2 and RIC4 act redundantly to regulate the actin mediated developmental process. 2021 AAAS ANNUAL MEETING on "Understanding Dynamic Ecosystems". February 8-11, 2021, Online Conference. (Poster presentation, won the second best poster award).

C . 国内学会発表

- 1 . Hanzawa, A., Rahman, A. (2020) Actin isovariant ACT8 regulates the cold response in Arabidopsis root through modulating protein trafficking. “東北植物学会第10回大会”山形(Web online). December 12- 13, 2020, Online Conference (Poster presentation).
- 2 . Kenji, S., Rahman, A. (2020) RIC2 and RIC4 act redundantly to regulate the actin mediated developmental process in Arabidopsis “東北植物学会第10回大会”山形 (Web online). December 12- 13, 2020, Online Conference (Poster presentation).
- 3 . Parveen, S., Rahman, A (2021): High temperature response in Arabidopsis is regulated by isovariant specific actin. 62nd Annual Conference of The Japanese Society of Plant Physiologists. March 14-16, 2021. Online Conference, (Poster presentation).

安 嬰

An, Ying



赴任：2001年

現職：講師

学位：博士（農学）（岩手大学）

専門分野：昆虫生理学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

- 1 . 天蚕麻痺性ペプチドによるカイコ休眠卵の誘導機構とその利用
- 2 . 昆虫脳から由来する新規タンパク質の構造と機能の解析

担当科目：

1. 昆虫生理学 (3年次: 分担)
2. 昆虫生理学特論 (大学院修士)
3. 応用昆虫学実験 (3年次)
4. 人の暮らしと生物環境 (1年次: 分担)
5. 基礎生物学実験 (1年次: 分担)
6. 農学概論 (1年次, 分担)

所属学会等：日本蚕糸学会 (評議員), 日本応用動物昆虫学会, 日本野蚕学会, 日本昆虫学会 (東北支部幹事), 日本蚕糸学会東北支部 (庶務幹事)

学会賞等：

1. 日本土木学会第32回環境工学研究フォーラム論文奨励賞 (1996年)
2. The 2002 Joint Meetings of Korean Society of Sericultural Science & Japanese Society of Sericultural Science Best Poster Award (2002)

川原田 泰之

Kawaharada, Yasuyuki



赴任：2016年

現職：助教

学位：博士 (生命科学) (東北大学)

専門分野：植物-微生物相互作用学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. マメ科植物と根圏微生物との共生相互作用解析
2. 植物と菌根菌の共生相互作用解析
3. 微生物と微生物の相互作用解析

担当科目：

1. 蔬菜花卉園芸学概論 (1年次, 分担)
2. 農学概論 (1年次, 分担)
3. 園芸学実験 (3年次, 分担)

所属学会等：日本植物生理学会, 植物-微生物研究会, 日本植物学会

研究業績 A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Yasuyuki Kawaharada, Niels Sandal, Vikas Gupta, Haojie Jin, Maya Kawaharada, Makoto Taniuchi, Hafijur Ruman, Marcin Nadziejka, Kasper R. Andersen, Korbinian Schneeberger, Jens Stougaard, Stig U. Andersen (2021) Natural variation identifies a *Pxy* gene controlling vascular organization and formation of nodules and lateral roots in *Lotus japonicus*. *New Phytologist* 230:2459-2473 (2021).
2. 川原田泰之 (2020) 宿主特異性がもたらす根粒共生の多様性 マメ科植物と根粒菌のさまざま

な共生相互作用因子. *化学と生物* 58(8): 461-468.

3. 川原田 泰之 (2021) 土壌・植物微生物叢の中で行われるマメ科植物の根粒共生. *アグリバイオ* 5(1):23-27.

B. 国内学会発表

1. 川原田 泰之, Jens Stougaard, Andersen Stig (2020) *ミヤコグサ Pxy/Tdr* 遺伝子は維管束形成と根粒の形成を制御する. 第84回日本植物学会 愛知.
2. 千葉悠平, 増田幸子, 柴田ありさ, 白須 賢, 川原田泰之 (2021) *ミヤコグサ (Lotus spp.)* と根粒菌 (*Rhizobium sp.*) との根粒共生における宿主特異性. 第62回日本植物生理学会 松江.
3. Hafijur Ruman, Masanori Saito, Yasuyuki Kawaharada (2021) Classification of Lysin motif receptor like kinase (LysM-RLKs) in seed plants. 第62回日本植物生理学会 松江.

殿崎 薫

Tonosaki, Kaoru



赴任：2019年

現職：助教

学位：博士 (農学) (東北大学)

専門分野：植物育種学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 胚乳の生殖隔離メカニズムに関する研究
2. 野生イネのエピゲノム多様性に関する研究
3. インプリント遺伝子の制御および機能の解析

担当科目：

1. 遺伝育種学 (3年次, 主担)
2. 植物育種学実験 (3年次, 主担)
3. 植物分子遺伝学特論 (大学院修士, 主担)

所属学会等：日本育種学会, International Association of Sexual Plant Reproduction Research

学会賞等：日本育種学会第136回講演会優秀発表賞 (2019年), 植物インフォマティクス研究会優秀発表賞 (2019年), 日本育種学会第139回講演会優秀発表賞 (2021年)

その他の主な活動：文部科学省 科学技術・学術政策研究所 (NISTEP) 専門調査員

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Tonosaki, K., Ono, A., Kunisada, M., Nishino, M.,

Nagata, H., Sakamoto, Saku T Kijima, S., Furuumi, H., Nonomura, K., Sato, Y., Takagi, M., Endo, M., Comai, L., Hatakeyama, K., Kawakatsu, T. and Kinoshita, T. (2021) Mutation of the imprinted gene OsEMF2a induces autonomous endosperm development and delayed cellularization in rice. *The Plant Cell* 33: 85-103.

B. 国内学会発表

1. 殿崎 薫 (2021) The factor of transcriptional repression regulating endosperm development in rice. 第 62 回 日本植物生理学会年会 Abstract Book : p162.
2. 殿崎 薫, 小野明美, 古海弘康, 野々村賢一, 佐藤 豊, 遠藤真咲, Luca Comai, 畠山勝徳, 川勝泰二, 木下 哲 (2021) イネ胚乳発生を制御するポリコム複合体の標的遺伝子の同定. 日本育種学会第 139 回講演会. 育種学研究第 23 巻別冊 1号 : p61.
3. 佐々木祥子, 白澤健太, 殿崎 薫, 高畑義人, 畠山勝徳 (2021) ゲノムワイド関連解析によるエンドウの英可食性関連形質のマッピング. 日本育種学会第 139 回講演会. 育種学研究第 23 巻別冊 1号 : p42.
4. 秋田谷 茉, 清水元樹, 高橋美紗子, 松元 哲, 殿崎 薫, 畠山勝徳 (2021) ハクサイ根こぶ病抵抗性遺伝子 *Crr1b* の候補 ORF を集積したシロイヌナズナにおける過敏感反応の誘導. 日本育種学会第 139 回講演会. 育種学研究第 23 巻別冊 1号 : p103.

松波 麻耶
Matsunami, Maya



赴任 : 2017年

現職 : 助教

学位 : 博士 (農学) (東北大学)

専門分野 : 作物学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動 :

1. 水や土壌養分に対するイネの生育反応に関する研究
2. イネ根系の生理形態的特性に関する研究

担当科目 :

1. 作物学実験 (3 年次)
2. 食用作物学 (3 年次)
3. 生命のしくみ (1 年次, 分担)

所属学会等 : 日本作物学会, 日本作物学会東北支部会, 根研究学会

学会賞等 : 日本作物学会研究奨励賞 (2016年), 日本作物学会第239回講演会優秀発表賞 (2015年), 韓国作物学会優秀発表賞 (2013年), 根研究学会学術奨励賞 (2013年), 日本作物学会第232回講演会優秀発表賞 (2011年)

その他の主な活動 : 岩手大学ものづくり技術研究センター兼務, 根研究学会評議員, 根研究学会和文誌編集委員

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Gibrilla Dumbuya, Habtamu Assega Alemayehu, Md Mehedi Hasan, Maya Matsunami, Hiroyuki Shimono (2021) Effect of soil temperature on growth and yield of sweet potato (*Ipomoea batatas* L.) under cool climate. *Journal of Agricultural Meteorology* 77: 118-127.
2. Habtamu Assega Alemayehu, Gibrilla Dumbuya, Mehedi Hasan, Tilahun Tadesse, Shinsuke Nakajyo, Tomoaki Fujioka, Akira Abe, Maya Matsunami, Hiroyuki Shimono (2021) Genotypic variation in cold tolerance of 18 Ethiopian rice cultivars in relation to their reproductive morphology. *Field Crops Research* 262 :108042-108042.
3. Seiji Oikawa, Ayaka Katayanagi, Akira Abe, Maya Matsunami, Hiroyuki Shimono (2021) Lodging tolerance of rice is improved without decreasing productivity by mixing lines with different maturity dates. *Crop and Pasture Science* 72 :38-43.
4. 及川聡子, 鈴木健策, 西 政佳, 由比 進, 松波麻耶, 下野裕之 (2021) 初冬直播き栽培における薬剤処理と採種年. *日本作物学会紀事* 90(1) :1-9.
5. Maya Matsunami, Kyoko Toyofuku, Natsumi Kimura, Atsushi Ogawa (2020) Osmotic Stress Leads to Significant Changes in Rice Root Metabolic Profiles between Tolerant and Sensitive Genotypes. *Plants* 9(11): 1503-1503.
6. Shin Okamura, Nabila Mumtahina, Hiroyuki Shimono, Maya Matsunami (2020) Root sampling and RNA extraction methods for field-based gene expression analysis of soybeans. *Plant Production Science*. doi.org/10.1080/1343943X.2020.1834867.
7. Yusuke Masuya, Etsushi Kumagai, Etsushi, Maya Matsunami, Hiroyuki Shimono. (2020) Dry matter partitioning to leaves differentiates African and Asian rice genotypes exposed to elevated CO₂. *Journal of Agronomy and Crop Science* DOI: 10.1111/jac.
8. 松波麻耶 (2020) 岩手大学農学部の作物学実験

「イネ科作物の環境応答:土壌水分とイネ科作物」の紹介. 根の研究 29(2) :57-61.

(2) 应用生物化学科

伊藤 菊一

Ito, Kikukatsu



赴任：1994年

現職：教授

学位：博士（医学）（山形大学）

専門分野：分子生物学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 植物の熱産生機構に関する研究
2. 植物の寒冷応答システムに関する研究

担当科目：

1. 基礎生物学実験（1年次，分担）
2. 宮沢賢治の世界（1年次，分担）
3. 生化学II（2年次，分担）
4. 植物ストレス応答学（3年次）
5. 生体機能システム学特論（大学院修士）
6. 先端生命科学特論（大学院修士，分担）
7. 次世代農学特論（大学院修士，分担）

所属学会等：日本分子生物学会，日本生化学会，日本農芸化学会，American Society of Plant Biologists

学会賞等：Early Career Scientists Best 6（1999年），日本生化学会東北支部奨励賞（2004年）

その他の主な活動：日本農芸化学東北支部参与，日本生化学会評議員

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Ito, K., Ogata, T., Seito, T., Umekawa, Y., Kakizaki, Y., Osada, H. and Moore, A.T.(2020) Degradation of mitochondrial alternative oxidase in the appendices of *Arum maculatum*. *Biochem. J.*, 477: 3417-3431.

B. 国内学会発表

1. 谷本 悠, 梅川 結, 伊藤菊一 (2020) ザゼンソウ SBP1 遺伝子の発熱組織特異的な発現に関する研究. 第93回日本生化学会大会要旨: P780.

木村 賢一

Kimura, Ken-ichi



赴任：2001年

現職：教授

学位：農学博士（東北大学）

専門分野：天然物生化学（ケミカルバイオロジー）

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 食材，植物，微生物などの天然資源からの低分子生

物活性物質（バイオプローブ）の探索とその化学生物学的研究

担当科目：

1. 基礎ゼミ（1年次，分担）
2. 基礎分析化学（2年次，分担）
3. 天然物化学（2年次）
4. 化学生物学実験（3年次）
5. 機器分析化学（3年次，分担）
6. ケミカルバイオロジー（3年次）
7. 応用生物化学演習（3年次）
8. 応用生物化学演習（4年次）
9. ケミカルバイオロジー特論（大学院修士）
10. 先端生命科学特論（大学院修士，分担（世話人））

所属学会等：日本農芸化学会，日本生化学会，日本放線菌学会，日本ケミカルバイオロジー学会，日本がん分子標的治療学会，新素材探索研究会

学会賞等：第3回農芸化学研究企画賞（2006年），第5回食品薬学シンポジウム優秀発表賞（2013年），2015年日本農芸化学会トピックス賞（2015年），第38回分子生物学会年会・第88回生化学会大会合同大会（BMB2015）若手優秀発表賞（2015年），第89回生化学会大会若手優秀発表賞（2016年），2018年度 住木・梅澤記念賞（2018年），第9回福島地区CEセミナー優秀ポスター賞（2018年），第1回農芸化学中小企業産学・産官連携研究助成（2019年），新規素材探索研究会第18回セミナー最優秀ポスター発表賞（2019年）
その他の主な活動：理研客員研究員，日本農芸化学東北支部参与，日本生化学会評議員，日本がん分子標的治療学会評議員，新素材探索研究会幹事，JSPS第189委員会「日本におけるケミカルバイオロジーの新展開」委員

研究業績

A. 総説・論説

1. 上杉祥太, 木村賢一 (2020) 微生物二次代謝産物から見出した共有結合性化合物の多様な化学生物学的特徴. *日本生化学会誌*, みにれびゅう, 92, 556-562.
2. 木村賢一 (2020) 岩手県のバイオプローブに基づく機能性研究. *FOOD style* 21, 24, 19-24.
3. 木村賢一, 鈴木 聡 (2021) 久慈産琥珀の多彩な生物活性・コラーゲン産生促進活性の発見. *BIO INDUSTRY*, 38, 40-52.

B. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. S. Aoki, T. Aboshi, Y. Shiono, K. Kimura, T. Murata, D. Arai, Y. Iizuka, T. Murayama (2020) Constituents

from the fruiting body of Poisonous Mushroom *Omphalotus japonicus* (Kawam.) Kirchm. & O.K.Mill., *Chem. Pharm. Bull.*, 68, 436-442.

2. E. Shimizu, N. Shimoda, T. Kawamura, N. Ueda, K. Kimura (2020) Comparison of Japanese ambers on the biological activity and the compound. *Adv. Biol. Chem.*, 10, 99-112.
3. J. Abe, H. Koshino, N. Shimoda, K. Kimura (2020) A novel Ca²⁺-signal transduction inhibitor, Kujione A, isolated from medium polar fractions of Kuji amber. *Phytochem. Lett.*, 38, 136-139.

C. その他

1. 木村賢一, 吉田 潤 (2020) 主要穀類・豆類に含まれる脂肪酸類の酵母を用いた多彩な機能性の評価. 2019年度年報, (公財) 飯島藤十郎記念食品科学振興財団, 35, 341-349.

D. 国内学会発表

1. 小野寺拓夢, 栗澤尚瑛, 湯川格史, 登田 隆, 木村賢一 (2020) 浄法寺生漆に含まれる HSET 過剰発現分裂酵母株に作用する生物活性物質と構造活性相関. 日本生化学会東北支部第 86 回例会, 2020 年 5 月 30 日 (土), 郡山, p78.
2. 三浦悠花, 松尾洋孝, 中島琢白, 片岡孝夫, 大西素子, 木村賢一 (2020) 琥珀と微生物由来の生物活性物質の PPM1A 活性化作用と RBL-2H3 細胞での脱顆粒抑制活性との関連性. 第 93 回日本生化学会 (横浜), 9 月 14 日 (月) ~ 16 日 (水), 2Z05-07, P-697.
3. 阿部純平, 鈴木 聡, 高橋俊哉, 越野広雪, 木村賢一, 久慈産琥珀から単離された新規メラニン産生抑制物質の構造と活性. 第 62 回天然有機化合物討論会 (名古屋), 2020 年 9 月 22 日 (火) ~ 24 日 (木), P2-16, 493-497.
4. 工藤 唯, 三浦悠花, 高橋穂乃香, 大西素子, 越野広雪, 木村賢一 (2020) 久慈産琥珀からの UV 吸収が弱い生物活性物質の単離精製, 構造決定, 並びに生物活性. 第 31 回万有仙台シンポジウム (仙台), 2020 年 10 月 17 日 (土), P-13, p52.
5. 及川和吉, 越野広雪, 阿部純平, 白井誠之, 木村賢一 (2020) 超臨界メタノール分解・抽出法により得られた久慈産琥珀含有成分の構造と活性. 第 155 回日本農芸化学会東北支部大会, 2020 年 11 月 7 日 (土) ~ 8 日 (日), A17, p20.
6. 高屋敷 望, 小野寺拓夢, 池田はるな, 湯川格史, 登田 隆, 平野弘之, 長田裕之, 木村賢一 (2020) ヒトキネシン-14 (HSET) 過剰発現分裂酵母を

用いたケミカルライブラリーの抗がん剤の探索. 第 155 回日本農芸化学会東北支部大会, 2020 年 11 月 7 日 (土) ~ 8 日 (日), A18, p20.

7. 上杉祥太, 箱崎真友佳, 高橋穂乃香, 工藤 唯, 木村賢一, 山田秀俊, 矢野 明 (2020) フキ属山菜の化学分類規定成分 bakkenolide B による IL-2 産生阻害作用. 第 155 回日本農芸化学会東北支部大会, 2020 年 11 月 7 日 (土) ~ 8 日 (日), B16, p30.
8. 木村賢一 (2020) 第 155 回日本農芸化学会東北支部大会受賞講演・ミニシンポジウム・特別講演, ケミカルバイオロジーによる震災復興と地方創生への挑戦!! . 2021 年 3 月 17 日 (水), 13:00 ~ 16:45, p9-10.
9. 吉田 潤, 上杉祥太, 藤澤日土美, 伊藤芳明, 木村賢一 (2020) 肝細胞糖産生を抑制するヒドロキシ脂肪酸 ricinoleic acid 類の構造活性相関研究. Web 開催, 2021 年日本農芸化学会, 2021 年 3 月 18 日 (木) ~ 21 日 (日), 2F07-08.
10. 上杉祥太, 箱崎真友佳, 菅野裕子, 高橋穂乃香, 工藤 唯, 木村賢一, 山田秀俊, 矢野 明 (2020) フキ属山菜の化学系統分類規定成分 bakkenolide 類による interleukin-2 産生阻害作用. Web 開催, 2021 年日本農芸化学会, 2021 年 3 月 18 日 (木) ~ 21 日 (日), 3G03-05.
11. 鈴木瑞季, 井上奈々, Menor-Salván CESAR, 越野広雪, 木村賢一 (2020) ドイツ産琥珀と久慈産琥珀の生物活性物質の構造と活性の比較研究. Web 開催, 2021 年日本農芸化学会, 2021 年 3 月 18 日 (木) ~ 21 日 (日), 3G01-10.
12. 松浦秀太郎, 高木博史, 木村賢一 (2020) 酵母 *Cyberlindium nigrum* 株の AZC ストレス下で生育回復活性を有する化合物の探索と評価. 2021 年日本農芸化学会, 2021 年 3 月 18 日 (木) ~ 21 日 (日), Web 開催, 3G01-09.
13. 青木聡樹, 網干貴子, 木村賢一, 新井大輔, 飯塚禎明, 村山哲也 (2020) ツキヨタケ (*Omphalotus japonicus*) 菌糸培養濾液より単離した新規な illudalane 型セスキテルペンについて. 2021 年日本農芸化学会, 2021 年 3 月 18 日 (木) ~ 21 日 (日), Web 開催, 2G03-02.

E. 特許

1. 木村賢一, 阿部純平, 越野広雪, 鈴木聡 (2020) 久慈産琥珀に含まれる新規メラニン産生抑制物質. 特願 2020-131386.

塚本 知 玄
Tsukamoto, Chigen



赴任：1999年

現職：教 授

学位：博士（農学）（東北大学）

専門分野：食品科学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

- 1.大豆サポニンの化学構造と遺伝特性に関する研究
- 2.大豆加工食品の味に関する研究
- 3.大豆の高付加価値化に関する研究

担当科目：

- 1.情報基礎（1年次，分担）
- 2.基礎ゼミナール（1年次，分担）
- 3.基礎分析化学（2年次，分担）
- 4.食品化学（2年次）
- 5.食品化学実験（2年次）
- 6.食品衛生学（3年次）
- 7.食品保蔵学（3年次）
- 8.応用生物化学演習（3年次，分担）
- 9.応用生物化学演習（4年次，分担）
- 10.食品科学特論（大学院修士）

所属学会等：日本農芸化学会，日本食品科学工学会，日本栄養・食糧学会，日本食品衛生学会，日本育種学会，種子生理生化学研究会

学会賞等：日本食品科学工学会平成16年度論文賞（2005年）

その他の主な活動：岩手県農政審議会委員

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Wanida Tewaruth Chitisankul, Mei Itabashi, Yuya Takahashi, Ayaka Ito, Warunee Varayanond, Kazuko Shimada and Chigen Tsukamoto (2021) Soyasaponin composition complexities in soyfoods relating nutraceutical properties and undesirable taste characteristics. *LWT-Food Science and Technology*, 146, July 2021: 111337 (15 pages).

B. その他

1. 石本政男・塚本知玄 (2020) *ダイズサポニンの生合成と機能*. *アグリバイオ* 4(12), 23-27.

C. 国内学会発表

1. Haereon Son, Genta Takahashi, Takehiro Mori, Minae Sasaki, Hiroki Muraoka, Susumu Hiraga, Masao Ishimoto and Chigen Tsukamoto (2021) Structural elucidation of soybean saponins by LC-

PDA/MS/MS profile analysis. The 139th Annual Meeting of Japanese Society of Breeding (日本育種学会第139回講演会) March 19-21, 2021, Web Online Conference, Japan, P14-B.

西 山 賢 一

Nishiyama, Kenn-ichi



赴任：2010年

現職：教 授

学位：博士（農学）（東京大学）

専門分野：生化学，分子細胞生物学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

- 1.膜内在性タンパク質の膜挿入機構や分泌タンパク質の膜透過機構の解明

担当科目：

- 1.基礎ゼミ（1年次，分担）
- 2.人間と自然「生命のしくみ」（1年次，分担）
- 3.分子生物学（2年次）
- 4.分子生物学（3年次）
- 5.応用生物化学演習（3年次，分担）
- 6.応用生物化学演習（4年次，分担）
- 7.細胞構造形成学特論（大学院修士）

所属学会等：日本生化学会（評議員，代議員），日本分子生物学会，日本農芸化学会（東北支部参与），無細胞生命科学研究会（幹事），21世紀大腸菌研究会（世話人），デザイン生命工学研究会（幹事），細胞形成研究会（幹事）

学会賞等：日本生化学会奨励賞（1999年），JB論文賞受賞（2001年），EMBO Long-term Fellow Award（2002年），平成25年度長瀬研究振興賞受賞（2013年），日本生化学会東北支部奨励賞（2004年），第16回天野エンザイム酵素応用シンポジウム研究奨励賞（2015年）

その他の主な活動：J. Gen. Appl. Microbiol., Executive Editor, J. Bichem., Advisory Board Member

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Kamemoto, Y., Funaba, N., Kawakami, M., Sawasato, K., Kanno, K., Suzuki, S., Nishikawa, H., Sato, R. and Nishiyama, K. (2020) Biosynthesis of glycolipid MPIase (membrane protein integrase) is independent of the genes for ECA (enterobacterial common antigen). *J. Gen. Appl. Microbiol.*, 66: 169-174.
2. Nishikawa, H., Sasaki, M., Nishiyama, K. (2020) *In vitro*

assay for bacterial membrane protein integration into proteoliposomes. *Bio-Protoc.*, 10: e3626.

3. Nishikawa, H., Kanno, K., Endo, Y. and Nishiyama, K. (2021) Ring assembly of c subunits of F_0F_1 -ATP synthase in *Propionigenium modestum* requires YidC and UncI following MPIase-dependent membrane insertion. *FEBS Lett.*, 595: 647-654.

B. 招待講演

1. 西山賢一 (2020) タンパク質膜挿入・膜透過に必須の糖脂質 MPIase の構造と機能. 日本農芸化学会東北支部 2020 年度シンポジウム「いまホットな脂質研究」.

C. 国内学会発表

1. 菅野琴華, 西川華子, 沢里克宏, 山田美和, 西山賢一 (2020) TatABC と糖脂質 MPIase による TAT (Twin-Arginine Translocation) 膜透過の完全再構成. 日本生化学会東北支部 第 86 回例会・シンポジウム, 誌上開催 (最優秀口頭発表賞受賞)
2. 関谷優晟, 沢里克宏, 西山賢一 (2020) 真核生物の Cds (CDP ジアシルグリセロールシンターゼ) ファミリーはタンパク質膜挿入に関わる糖脂質 MPIase の生合成能をもつ. 日本生化学会東北支部 第 86 回例会・シンポジウム, 誌上開催. (優秀ポスター発表賞受賞)
3. 菅野琴華, 西川華子, 沢里克宏, 山田美和, 西山賢一 (2020) TatABC と糖脂質 MPIase は TAT 完全再構成に必須十分である. 第 93 回日本生化学会大会, オンライン開催. (優秀発表賞受賞)
4. 関谷優晟, 沢里克宏, 西山賢一 (2020) リン脂質および糖脂質 MPIase の生合成に関与する酵素 CdsA の機能発現機構の解明. 第 93 回 日本生化学会大会, オンライン開催.
5. 西川華子, 菅野琴華, 沢里克宏, 山田美和, 西山賢一 (2020) TAT (Twin-Arginine Translocation) 膜透過機構の解析. 第 93 回 日本生化学会大会, オンライン開催.
6. 関谷優晟, 沢里克宏, 西山賢一 (2020) リン脂質および糖脂質 MPIase の生合成に関与する Cds (CDP-ジアシルグリセロール シンターゼ) ファミリーの膜トポロジー解析. 日本農芸化学会東北支部 第 155 回大会, オンライン開催.
7. 村主 渉, 天野一清, 松村健児, 西山賢一, 山田美和 (2020) エチレングリコールを原料としたグリオキシリル酸合成量向上を目指した活性向上酵素変異体の創出と組換え大腸菌におけるペリプラズムへの酵素集積. 日本農芸化学会東北支部

第 155 回大会, オンライン開催.

8. 亀本有生, 星 紀行, 西山賢一 (2020) 小タンパク質 YncL のもつ糖脂質 MPIase 生合成活性. 日本農芸化学会東北支部 第 155 回大会, オンライン開催.
9. 菅野琴華, 西川華子, 沢里克宏, 山田美和, 西山賢一 (2020) 糖脂質 MPIase は TAT (Twin-Arginine Translocation) 基質の膜へのターゲティングに関与する. 日本農芸化学会東北支部 第 155 回大会, オンライン開催.
10. 遠藤佑太, 沢里克宏, 佐々木優, 清水優子, 車愈澈, Ross Dalbey, 西山賢一 (2020) MPIase 依存性膜挿入における YidC とプロトン駆動力の協調作用. 日本農芸化学会東北支部 第 155 回大会, オンライン開催.
11. 沢里克宏, 平野絵里香, 西山賢一 (2020) 生体膜に化学物質に対する耐性度を与える因子の探索. 日本農芸化学会東北支部 第 155 回大会, オンライン開催.
12. 西川華子, 菅野琴華, 沢里克宏, 山田美和, 西山賢一 (2020) TAT (Twin-Arginine Translocation) 膜透過の再構成系の構築. 日本農芸化学会東北支部 第 155 回大会, オンライン開催.
13. 遠藤佑太, 清水優子, 西山賢一 (2021) タンパク質膜挿入に関わる因子群と膜電位の協調作用の解析. 第 6 回 デザイン生命工学研究会, オンライン開催.
14. 遠藤佑太, 清水優子, 西山賢一 (2021) タンパク質膜挿入に関与する因子群と膜電位の連携に関する *in vitro* 解析. 第 15 回 無細胞生命科学研究会, オンライン開催.
15. 西川華子, 菅野琴華, 遠藤 佑太, 西山賢一 (2021) F_0F_1 -ATPase の c サブユニット (Foc) の膜挿入と c リング形成の分子機構の解明. 第 15 回 無細胞生命科学研究会, オンライン開催.

三 浦 靖
Miura, Makoto



赴任: 1994年

現職: 教授

学位: 農学博士 (東北大学)

専門分野: 食品化学工学, 食品科学, レオロジー

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 食品新素材の開発

2. 食品の新規な加工・保蔵法の開発
3. 食品の新規な品質評価法の開発
4. 地域食品産業支援

担当科目:

1. 情報基礎 (1年次, 分担)
2. 食品化学工学 (2年次)
3. 食品物理化学 (3年次)
4. 食品化学工学実験 (3年次)
5. 美味学 (3年次, 分担)
6. 食品加工システム学 (4年次)
7. 食品化学工学特論 (大学院修士課程)

所属学会等: 日本食品科学工学会 (編集委員), 日本農芸化学会, 日本食品保蔵科学会, 日本食品工学会 (代議員), 日本レオロジー学会 (理事, 編集委員), 高分子学会, 日本官能評価学会, 日本音響学会, 日本人間工学会, 日本冷凍空調学会, 日本応用糖質科学会, 日本油化学会, Cereals & Grains Association. 食品ハイドロコロイド研究会, 食品の物性に関するシンポジウム (運営委員), 日本食品機械研究会 (理事)
その他の主な活動: 岩手ネットワークシステム (INS) 会員, 農林水産省「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」に係る運営委員・評価委員

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. 森川卓哉, 伊藤綾香, 三浦 靖 (2020) 恒温低酸素気流によるそば粉の加熱殺菌. 日本食品保蔵科学会誌 47: 27-35.

B. その他

1. 三浦 靖 (2021) 食品分野におけるレオロジー・製造, 保蔵, 流通, 品質との関係. ファインケミカル 50(2): 5-10.

C. 特許・設計等

1. 徳久貴一, 瀬戸次朗, 三浦 靖 (2020) 食感の評価方法. 特開 2020-159693.
2. 三浦 靖, 田中ゆうこ, 田中妙子 (2021) 食品の力学的特性の評価方法及び食品の食感の評価方法. 特開 2021-007347.

D. 国内学会発表

1. 朱 文睿, 杉山晋也, 藁谷勲, 三浦 靖 (2020) 流動性ヨーグルトの微細構造と理化学特性の関係. 日本食品工学会第21回(2020年度)年次大会講演要旨集: 91.
2. 石井達也, 三浦 靖 (2020) 粗視化動力学シミュレーション法による食品テクスチャーが良好な米飯塊のモデル化に向けた米飯粒および米飯

塊の理化学的特性の検討. 第68回レオロジー討論会要旨集: 48-49.

3. 大川紘奈, 三浦 靖 (2020) O/W型エマルションの凍結・解凍安定性に及ぼすマルトオリゴ糖の影響. 日本油化学会第59回年会: A 18.

宮崎 雅雄

Miyazaki, Masao



赴任: 2012年

現職: 教授

学位: 博士 (農学) (岩手大学)

専門分野: 生化学, 分子生体機能学, 分析化学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. ネコのにおいやフェロモンを介した嗅覚コミュニケーションの分子基盤解明
2. ネコのマタタビ反応に関する研究
3. ネコのコレステロール代謝に関する研究
4. におい分析装置の開発

担当科目:

1. 機器分析化学 (3年次, 分担)
2. 生化学 (3年次)
3. 生化学実験 (3年次)
4. 応用生物化学演習 (4年次)
5. 基礎ゼミナール (1年次, 分担)
6. 分子生体機能学特論 (大学院農学研究科)
7. 化学入門 (1年次)

所属学会等: 日本生化学会, 日本味と匂学会, 日本動物行動学会, 日本農芸学会, International Society of Chemical Ecology

学会賞等: 日本獣医学会奨励賞, ひらめきときめきサイエンス推進賞, 日本味と匂学会奨励賞

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Uenoyama, R., Miyazaki, T., Hurst, J., Beynon, R., Adachi, M., Murooka, T., Onoda, I., Miyazawa, Y., Katayama, R., Yamashita, T., Kaneko, S., Nishikawa, T. and Miyazaki, M. (2021) The characteristic response of domestic cats to plant iridoids allows them to gain chemical defense against mosquitoes. Sci Adv. eabd9135.
2. Ohno, M., Miyazaki, M., Kimura, M., Minowa, Y., Sakaguchi, M., Oyama, F. and Yamashita, T. (2020) Characterization of mouse di-N-acetylchitinase that can degrade chitin-oligosaccharides. Biosci. Biotechnol.

Biochem. 84:2499-2507.

3. Moriya, H., Takita, Y., Matsumoto, A., Yamahata, Y., Nishimukai, M., Miyazaki, M., Shimoi, H., Kawai, S., Yamada M. (2020) Cobetia sp. bacteria, which are capable of utilizing alginate or waste Laminaria sp. for poly (3-hydroxybutyrate) synthesis, isolated from a marine environment. Front. Bioeng. Biotechnol. 8: 974.

B. 国際学会発表

1. Uenoyama, R., Miyazaki, T., Hurst, J., Beynon, R.J., Adachi, M., Yamashita, T., Kaneko, S., Nishikawa, T., and Miyazaki, M. Activation of the μ -opioid system induces the euphoric-like stereotyped response to plant iridoids in the domestic cat. ECRO XXX-2020.

C. 国内学会発表

1. 三浦舞音, 片山理恵子, 山下哲郎, 宮崎雅雄 (2020) コレステロール生合成抑制経路を亢進させたネコ型マウスの作成. 日本生化学会東北支部第 86 回例会.
2. 上野山怜子, 室岡孝信, 安立昌篤, 小野田伊吹, 山下哲郎, 西川俊夫, 宮崎雅雄 (2020) ネコ科動物にマタタビ反応を誘起する活性物質の同定. 日日本生化学会東北支部第 86 回例会.
3. 宮崎珠子, 上野山怜子, 山下哲郎, 平田統一, 宮崎雅雄 (2020) ウシ尿中黄体形成ホルモンの検出. 日本生化学会東北支部第 86 回例会.
4. 上野山怜子, 室岡孝信, 安立昌篤, 小野田伊吹, 山下哲郎, 西川俊夫, 宮崎雅雄 (2020) ネコ科動物にマタタビ反応を誘起するイリドイド化合物の同定. 第 93 回日本生化学会大会.
5. 上野山怜子, 宮崎珠子, 安立昌篤, 室岡孝信, 小野田伊吹, 片山理恵子, 宮澤悠, 山下哲郎, 西川俊夫, 宮崎雅雄 (2020) ネコ科動物特異な反応を誘起する新たなイリドイドの同定はマタタビ反応の行動意義を解明した. 第 62 回天然有機化合物討論会.
6. 上野山怜子, 宮崎珠子, 安立昌篤, 小野田伊吹, 片山理恵子, 山下哲郎, 金子周司, 西川俊夫, 宮崎雅雄 (2020) ネコのマタタビ反応における神経生理学的メカニズムの解明. 日本味と匂学会第 53 回大会.
7. 上野山怜子, 宮崎珠子, 安立昌篤, 小野田伊吹, 山下哲郎, 西川俊夫, 宮崎雅雄 (2020) ネコのマタタビ反応は蚊の忌避を可能にする. 日本農芸化学会東北支部 第 155 回大会.
8. 三浦舞音, 上野山怜子, 宮崎珠子, 山下哲郎, 宮崎雅雄 (2020) ネコとマウスのスタチン投与時

における血中コレステロール値とフェリニン経路代謝産物排泄量の変動. 日本農芸化学会東北支部 第 155 回大会.

9. 小畑雄太郎, 上野山怜子, 山下哲郎, 喜多純一, 宮崎雅雄 (2020) アロマデザイナーを用いたオミSSION法による唐揚げ臭に特徴的な香気成分の探索. 日本農芸化学会東北支部 第 155 回大会.
10. 上野山怜子, 西川俊夫, 宮崎雅雄 (2020) ネコのマタタビ反応 1: 反応時に活性化される μ オピオイド神経系. 第 39 回日本動物行動学会大会.
11. 上野山怜子, 西川俊夫, 宮崎雅雄 (2020) ネコのマタタビ反応 2: 擦り付け行動は蚊の化学防除を可能にする. 第 39 回日本動物行動学会大会.
12. 宮崎雅雄 (2020) なぜネコは肉ばかり食べても元気でいられるか? 遺伝研研究会「コンパニオンアニマルのゲノム医療」(招待講演).
13. 上野山怜子, 宮崎珠子, Hurst, J., Beynon, R., 安立昌篤, 小野田伊吹, 西川俊夫, 宮崎雅雄 (2020) ネコのマタタビへの擦り付け行動は蚊の化学防除を可能にする. 日本農芸化学会 2021 年度(令和 3 年度)[仙台]大会.
14. 市沢翔太, 上野山怜子, 宮崎雅雄 (2020) ネコ腎臓に蓄積する特異な分岐脂肪酸を有するトリグリセリドの発見. 日本農芸化学会 2021 年度(令和 3 年度)[仙台]大会.
15. 小野澤麗, 上野山 怜子, 宮崎珠子, 宮崎雅雄 (2020) 発情期の雌イヌの尿中に排出される性フェロモンの探索. 日本農芸化学会 2021 年度(令和 3 年度)[仙台]大会.
16. 土井侃昂, 三浦舞音, 上野山怜子, 宮崎珠子, 宮崎雅雄 (2020) コレステロール生合成を抑制する Felinine 経路の機能解析. 日本農芸化学会 2021 年度(令和 3 年度)[仙台]大会.

山下 哲郎
Yamashita, Tetsuro



赴任: 1994年

現職: 教授

学位: 博士(理学)(東京大学)

専門分野: 生化学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 生体内におけるストレス応答機構
2. 生体エネルギー論

担当科目:

- 1 . 生化学実験 (3 年次)
- 2 . 生化学 (1 年次)
- 3 . 生化学 (2 年次)
- 4 . 生化学特論 (大学院修士)
- 5 . 化学入門 (1 年次)

所属学会等：日本生化学会，日本農芸化学会，日本蚕糸学会
研究業績

A . 原著論文

(a) 学術雑誌

(a) 学術雑誌

- 1 . Wei, H., Tian, Y., Lin, Y., Maeda, H., Yamashita, T., Yu, K., Takaki, K., Yuan, C. (2020) Condition-dependent adenosine monophosphate decomposition pathways in striated adductor muscle from Japanese scallop (*Patinopecten yessoensis*) J. Food. Sci. 85: 1462-1469.
- 2 . Yasuoka, Y., Fukuyama, T., Izumi, Y., Nakayama, Y., Inoue, H., Yanagida, K., Oshima, T., Yamazaki, T., Uematsu, T., Kobayashi, N., Shimada, Y., Nagata, Y., Mukoyama, M., Yamashita, T., Sato, Y., Sands, J., Kawahara, K., Nonoguchi, H. (2020) Erythropoietin production by the kidney and the liver in response to severe hypoxia evaluated by Western blotting with deglycosylation.. Physiological Reports 8: e14485.
- 3 . Wei, H., Tian, Y., Yamashita, T., Ishimura, G., Sasaki, K., Niu, Y., Yuan, C.. (2020) Effects of thawing methods on the biochemical properties and microstructure of pre-rigor frozen scallop striated adductor muscle. Food Chem. 319: 126559.
- 4 . Ohno, M., Miyaaki, M., Kimura, M., Minowa Y., Sakaguchi, M., Oyama, F., Yamashita, T. (2020) Characterization of mouse di-*N*-acetylchitobiase that can degrade chitin-oligosaccharides. Biosci. Biotech. Biochem. 84: 12499-2507.
- 5 . Yasuoka, Y. et al (2020) Differentiation of endogenous erythropoietin and exogenous ESAs by Western blotting. Heliyon e05389.
- 6 . Uenoyama, R., Miyazaki, T., Hurst, J.L., Beynon, R.J., Adachi, M., Murooka, T., Onoda, I., Miyazawa, Y., Katayama, R., Yamashita, T., Kaneko, S., Nishikawa, T., Miyazaki, M. (2021) The characteristic response of domestic cats to plant iridoids allows them to gain chemical defense against mosquitoes. 7: 9135.

B . 国際学会発表

- 1 . Miyazaki, T., Hirata, T., Sasaki, K., Sasaki, K., Okada, K., Yamashita, T., Miyazaki, M. (2020) Detecting urinary

luteinizing hormone (LH) in cows. WBC2020.

- 2 . Dong, S., Wei, H., Bizen, R., Yu, K., Yamashita, T., Yuan, C. (2020) Effect of Super-chilling Storage on Maintenance of Quality and Freshness of Pacific oyster *Crassostrea gigas*. Online International Symposium of FSMILE 2020.

C . 国内学会発表

- 1 . 上野山怜子，室岡孝信，安立昌篤，小野田伊吹，山下哲郎，西川俊夫，宮崎雅雄 (2020) ネコ科動物にマタタビ反応を誘起する活性物質の同定. 日本生化学会東北支部第 86 回例会.
- 2 . 宮崎珠子，上野山怜子，山下哲郎，平田統一，宮崎雅雄 (2020) ウシ尿中応対形成ホルモンの検出. 日本生化学会東北支部第 86 回例会.
- 3 . 大野美紗，宮崎雅雄，木村将大，坂口政吉，小山文隆，山下哲郎 (2019) マウスにおけるジ-*N*-アセチルキトピアーゼの発現解析と酵素の性質解析. 第 92 回日本生化学会大会.
- 4 . 上野山怜子，室岡孝信，安立昌篤，小野田伊吹，山下哲郎，西川俊夫，宮崎雅雄 (2020) マタタビ反応を誘起するイリドイド化合物の同定. 第 93 回日本生化学会大会.
- 5 . 伊藤銀河，内海 慎，金子武人，山下哲郎，尾崎拓 (2020) マウス ES1 ホモログの組織分布と細胞内局在. 第 93 回日本生化学会大会.
- 6 . 藺 禹萌，于 克鋒，魏 華茂，董 師良，山下哲郎，袁 春紅 (2021) ツノナシオキアミ黒変に關与する酵素の部分精製及び生化学特性. 令和 3 年度日本水産学会春季大会 .

伊 藤 芳 明

Ito, Yoshiaki



赴任：1999年

現職：准教授

学位：博士（農学）（東京大学）

専門分野：栄養化学，分子栄養学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

- 1 . 食品成分による生体機能の調節機構に関する研究

担当科目：

- 1 . 情報基礎 (1 年次，分担)
- 2 . 生物学 (1 年次，分担)
- 3 . 基礎分析化学 (2 年次，分担)
- 4 . 栄養化学 (2 年次，分担)
- 5 . 栄養化学実験 (3 年次)

- 6. 食品機能学 (3年次)
- 7. 分子栄養学 (大学院修士)
- 8. 先端生命科学特論 (大学院修士)

所属学会等：日本農芸化学会，日本生化学会，日本分子生物学会，日本栄養・食糧学会，日本食品科学工学会，日本アミノ酸学会

その他の主な活動：日本栄養・食糧学会参与，同学会東北支部監事，日本食品科学工学会誌英文誌編集委員

研究業績
A. 原著論文

(a) 学術雑誌

- 1. Tchoukoua, A., Douanla, M.H., Ariefa, N.R., Yoshida, J., Ito, Y., Ngadjui, B.T. and Shiono, Y. (2021) Triterpene saponins from the roots of *Acacia senegal* (L.) Willd. *Fitoterapia* 151: 104859.

B. 国内学会発表

- 1. 平野雄大, 伊藤芳明, 長澤孝志(2020) 尾部懸垂ラットの骨格筋萎縮に対するフェネチルイソチオシアネートの効果. 日本栄養・食糧学会東北支部 第 54 回支部大会およびシンポジウム 講演要旨集: 18.
- 2. 加賀彩夏, 長澤孝志, 伊藤芳明(2020) アミノ酸による骨格筋タンパク質分解抑制作用の速筋と遅筋の相違. 日本栄養・食糧学会東北支部 第 54 回支部大会およびシンポジウム 講演要旨集: 19.
- 3. 八重沢菜々恵, 伊藤芳明, 長澤孝志 (2020) 肝臓細胞の糖代謝応答に対するオレアノール酸の影響. 公益社団法人日本農芸化学会東北支部第 155 回大会 プログラム・講演要旨集: 21.
- 4. 加賀彩夏, 長澤孝志, 伊藤芳明 (2020) Ex vivo 実験法を用いたメチオニンの骨格筋萎縮抑制効果の検討. 日本アミノ酸学会第 14 回学術集会 (JSAAS2020) アミノ酸研究 14: 58.
- 5. 吉田潤, 上杉祥太, 箱崎真友佳, 藤澤日土美, 大川佑介, 小山卓也, 伊藤芳明, 木村賢一 (2021) 肝細胞糖産生を抑制するヒドロキシ脂肪酸 ricinoleic acid 類の構造活性相関研究. 日本農芸化学会 2021 年度大会 2F07-08.

齋藤 靖史

Saitoh, Yasushi

赴任：1999年

現職：准教授

学位：博士（農学）（東北大学）



専門分野：分子生物学，細胞生物学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

- 1. ゲノム編集技術を利用したイネ種子形成メカニズムの解析
- 2. シロツメクサ(クローバー)の複葉形成に関わる遺伝子機能解析

担当科目：

- 1. 遺伝子工学 (3年次)
- 2. 細胞生物学 (3年次)
- 3. 分子生物学実験 (3年次)
- 4. 生物学 (1年次)
- 5. 生物学入門 (1年次)
- 6. 染色体・ゲノム生物学特論 (大学院修士)

所属学会等：日本農芸化学会，日本育種学会，種子生理生化学研究会

その他の主な活動：東北農業研究センター遺伝子組換え生物等第二種使用実験安全委員

研究業績

A. 国内学会発表

- 1. 高橋実和子, 大矢志緒里, 宮川紗也, 菅原里花子, 杉山輝樹, 齋藤靖史 (2020) イネ種子形成における CDK インヒビターの機能解析. 日本育種学会第 138 回講演会.
- 2. 納谷瑛志, 西方千佳, 畠山隆平, 齋藤靖史 (2020) *Oryza;Cystatin* の種子における機能解析. 日本育種学会第 138 回講演会.
- 3. 和泉宏彬, 田村 健, 齋藤靖史 (2020) シロツメクサ SLM1 の機能解析. 日本育種学会第 138 回講演会.
- 4. 納谷瑛志, 西方千佳, 畠山隆平, 小山慧祐, 齋藤靖史 (2021) イネ *Cystatin9* の機能解析. 日本育種学会第 139 回講演会.

鈴木 雄二

Suzuki, Yuji



赴任：2017年

現職：准教授

学位：博士（農学）（東北大学）

専門分野：植物栄養生理学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

- 1. 維管束植物の光合成機能の改良
- 2. 維管束植物の光合成機能の形成メカニズムの解明

担当科目：

- 1. 化学入門 (1年次, 分担)
- 2. 植物栄養生理学 (2年次)

- 3 . 基礎分析化学 (2 年次 , 分担)
- 4 . 植物栄養学実験 (2 年次)
- 5 . 植物栄養学・肥料学 (3 年次)
- 6 . 植物栄養生理学特論 (大学院修士)
- 7 . 次世代農学特論 (大学院修士 , 分担)
- 8 . 農学特別講義 (英語) (大学院博士 , 分担)

所属学会等 : 日本土壌肥料学会 , 日本植物生理学会
学会賞等 : 日本土壌肥料学会 SSPN award (2005 年) ,
日本土壌肥料学会奨励賞 (2012 年)

その他の主な活動 : 日本土壌肥料学会英文誌 Soil
Science and Plant Nutrition 編集委員 , 同学会第 4 部門
副部門長 , 同学会代議員 , 同学会東北支部支部長委嘱
評議員 , JA 全農いわて特別栽培農産物認証審査委員会
委員長

研究業績

A . 総説・論説

- 1 . Furutani, R., Ifuku, K., Suzuki, Y., Noguchi, K., Shimaka, G., Wada, S., Makino, A., Sohtome, T. and Miyake, C. (2020) P700 oxidation suppresses the production of reactive oxygen species in photosystem I. Adv. Bot. Res. 96: 151-176.

B . 原著論文

(a) 学術雑誌

- 1 . Takagi, D., Miyagi, A., Tazoe, Y., Suganami, M., Kawai-Yamada, M., Ueda, A., Suzuki, Y., Noguchi, K., Hirotsu, N. and Makino, A. (2020) Phosphorus toxicity disrupts Rubisco activation and reactive oxygen species defence systems by phytic acid accumulation. Plant Cell Environ. 43: 2033-2053.
- 2 . Kudo, N., Mano, K., Suganami, M., Kondo, E., Suzuki, Y. and Makino, A. (2020) Effects of overexpression of the Rubisco small subunit gene under the control of the Rubisco activase promoter on Rubisco contents of rice leaves at different positions. Soil. Sci. Plant Nutr. 66: 569-578.
- 3 . Makino, A., Kaneta, Y., Obara, M., Ishiyama, K., Kanno, I., K., Kondo, E., Suzuki, Y., and Mae, T. (2020) High yielding ability of a large grain rice cultivar, Akita 63. Sci. Rep. 10: Article number 12231.
- 4 . Wada, S., Miyake, C., Makino, A. and Suzuki, Y. (2020) Photorespiration Coupled With CO₂ Assimilation Protects Photosystem I From Photoinhibition Under Moderate Poly(Ethylene Glycol)-Induced Osmotic Stress in Rice. Front. Plant Sci. 11: Article 1121.
- 5 . Furutani R., Makino, A., Suzuki, Y., Wada, S., Shimakawa, G. and Miyake, C. (2020) Intrinsic

Fluctuations in Transpiration Induce Photorespiration to Oxidize P700 in Photosystem I. Plants 9: 1761.

- 6 . Nagashima, Y., Sasaki, A., Hiraoka, R., Onoda, Y., Tanaka, K., Wang, Z.-Y., Kuwana, A., Sato, Y., Suzuki, Y., Izumi, M., Kuwahara, S., Nukina, M. and Kiyota, H. (2020) Synthesis of (12R,13S)-pyriculariol and (12R,13S)-dihydropyriculariol revealed that the rice blast fungus, *Pyricularia oryzae*, produces these phytotoxins as racemates. Biosci. Biotech. Biochem. 85: 134-142.
- 7 . Suganami, M., Suzuki, Y., Tazoe, Y., Yamori, W. and Makino, A. (2021) Co-overproducing Rubisco and Rubisco activase enhances photosynthesis in the optimal temperature range in rice. Plant Physiol. 185: 108-119.
- 8 . Suzuki, Yuji, Ishiyama, K., Sugawara, M., Suzuki, Yuka, Kondo, E., Takegahara-Tamakawa, Y., Yoon, D.-K., Suganami, M., Wada, S., Miyake, C. and Makino, A. (2021) Overproduction of Chloroplast Glyceraldehyde-3-Phosphate Dehydrogenase Improves Photosynthesis Slightly under Elevated [CO₂] Conditions in Rice. Plant Cell Physiol. 62: 156-165.

C . 国内学会発表

- 1 . 尹 棟敬, 香川昂亮, 石山敬貴, 菅波真央, 前 忠彦, 鈴木雄二, 石田宏幸, 牧野 周, 小原実広 (2020) 欠損 GS3 遺伝子により大粒性を有した準同質遺伝子系統ノトヒカリの作出とほ場での収量評価試験 . 日本土壌肥料学会講演要旨集第 66 集 : 42 .
- 2 . 菅波真央, 鈴木雄二, 田副雄士, 牧野 周 (2020) イネにおける Rubisco と Rubisco activase の同時増強が光合成に与える影響 . 日本土壌肥料学会講演要旨集第 66 集 : 45 .
- 3 . 鈴木雄二, 石山敬貴, 菅原水彩季, 鈴木優佳, 玉川夕紀, 和田慎也, 菅波真央, 近藤依里, 三宅親弘, 牧野 周 (2020) カルビンサイクル酵素グリセルアルデヒド-3-リン酸デヒドロゲナーゼおよびトリオースリン酸イソメラーゼの遺伝子組換えがイネ葉の光合成に及ぼす影響 . 日本土壌肥料学会講演要旨集第 66 集 : 46 .
- 4 . 尹 棟敬, 香川昂亮, 石山敬貴, 菅波真央, 前 忠彦, 鈴木雄二, 石田宏幸, 小原実広, 牧野 周 (2020) 遺伝子組換え植物専用隔離ほ場水田を用いた Rubisco 増強イネの収量評価試験 . 日本土壌肥料学会講演要旨集第 66 集 : 47 .
- 5 . 高橋佑季, 和田慎也, 野口 航, 三宅親弘, 牧野

周, 鈴木雄二 (2020) 異なる窒素施肥量・生育温度がイネの光化学系 II および I の光化学反応に及ぼす影響. Rubisco と Rubisco activase の同時過剰生産がイネの光合成に与える影響. 2020 年度日本土壤肥料学会東北支部大会ポスター発表講演要旨: 発表番号 5.

6. 澤口尚生, 影山創大, 宮澤真一, 牧野 周, 鈴木雄二 (2020) 6 種の針葉樹における Rubisco 比活性の評価 2020 年度日本土壤肥料学会東北支部大会ポスター発表講演要旨: 発表番号 6.
7. 宮澤真一, 深山貴文, 田原 恒, 鈴木雄二, 西口満 (2020) 代謝物解析による針葉樹の光呼吸経路の探索. 62th Annu. Meeting Jpn. Soc. Plant Physiol.: 180.
8. 古谷吏侑, 牧野周, 鈴木雄二, 嶋川銀河, 和田慎也, 三宅親弘 (2021) イネの不安定な気孔開閉による CO₂ 固定反応効率の変動と光呼吸による P700 酸化誘導. 62th Annu. Meeting Jpn. Soc. Plant Physiol.: 404.
9. 鈴木雄二, 石山敬貴, 菅原水彩季, 鈴木優佳, 近藤依里, 竹ヶ原(玉川)夕紀, 伊 棟敬, 和田慎也, 菅波真央, 三宅親弘, 牧野 周 (2021) 葉緑体型グリセルアルデヒド-3-リン酸デヒドロゲナーゼの過剰発現がイネの光合成と個体生育に及ぼす影響. 62th Annu. Meeting Jpn. Soc. Plant Physiol.: 665.

D. その他

1. Ifuku, K., Krieger-Liszkay, A., Noguchi, K. and Suzuki, Y. (2020) Editorial: O₂ and ROS Metabolisms in Photosynthetic Organisms. Front. Plant Sci. 11: Article 618550.

立石 貴浩

Tateisi, Takahiro



赴任: 2002年

現職: 准教授

学位: 博士(学術)(広島大学)

専門分野: 土壌学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 土壌微生物の機能を利用した土壌修復や生態系保全に関する研究

担当科目:

1. 生命のしくみ(教養教育科目, 分担)
2. 廃棄物と環境(教養教育科目, 分担)
3. 基礎ゼミ(1年次, 分担)

4. 土壌資源利用論(2年次)
5. 基礎分析化学(2年次, 分担)
6. 分析化学実験(2年次)
7. 土壌環境微生物学・生化学(3年次)
8. 応用生物化学演習, (3・4年次, 分担)
9. 環境土壌学特論(大学院修士)
10. 次世代農学特論(大学院修士, 分担)

所属学会等: 日本土壤肥料学会, 日本土壤微生物学会, 日本微生物生態学会, 日本菌学会, 園芸学会, 土木学会

研究業績

A. 国内学会発表

1. 川端菜月, 立石貴浩, 颯田尚哉 (2020) 黒ボク土の臭素酸還元能と臭素酸還元菌との関係性について. 日本土壤微生物学会2020年度大会(大阪): 008.
2. 遠藤友里, 立石貴浩, 阿部 岳, 前田武己, 颯田尚哉 (2020) 畑土壌でのリターバッグ法による生分解性プラスチックの分解特性の評価. 日本土壤肥料学会2020年度岡山大会講演要旨集: 129.
3. 立石貴浩, 今福毬花, 石川奈緒, 颯田 尚哉 (2019) 森林の堆積腐植層の物理的攪乱が微生物バイオマスに保持されたセシウムに及ぼす影響. 2020年度日本土壤肥料学会東北支部大会: 2.

山田 美和

Yamada, Miwa



赴任: 2011年

現職: 准教授

学位: 博士(工)(北海道大学)

専門分野: 応用微生物学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 微生物による有用物質生産

担当科目:

1. 化学入門(1年次, 分担)
2. 基礎ゼミナール(1年次, 分担)
3. 生命のしくみ(1年次, 分担)
4. 微生物学概論(2年次)
5. 微生物学実験(3年次)
6. 微生物生理学(3年次)
7. 応用生物化学演習, (3・4年次, 分担)
8. 産業微生物学特論(大学院農学研究科)
9. 先端生命科学特論(大学院修士, 分担)

所属学会等: 農芸化学会, 生物工学会

学会賞等：北海道大学大塚賞（2010年），第27回井上研究奨励賞（2011年），第13 回天野エンザイム酵素応用シンポジウム研究奨励賞（2012年），第1回農芸化学若手女性研究者賞（2017年），平成30年度岩手県三陸海域研究論文岩手県知事賞（2018年），2020年度長瀬研究振興賞（2020年），2020年度日本農芸化学会東北支部奨励賞（2020年）

その他の主な活動：日本農芸化学会和文誌「化学と生物」編集委員，日本農芸化学会英文誌「Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry」編集委員
研究業績

A．原著論文

(a) 学術雑誌

1. Shimoi, H., Kawamura, N., Yamada, M. (2020) Cloning of the SPO11 gene that complements a meiotic recombination defect in sake yeast. *Journal of Bioscience and Bioengineering* 130: 367-373.
2. Moriya, H., Takita, Y., Matsumoto, A., Yamahata, Y., Nishimukai, M., Miyazaki, M., Shimoi, H., Kawai, S.J., Yamada, M. (2020) *Cobetia* sp. bacteria, which are capable of utilizing alginate or waste *Laminaria* sp. for poly(3-hydroxybutyrate) synthesis, isolated from marine environment. *Frontiers in Bioengineering and Biotechnology* <https://doi.org/10.3389/fbioe.2020.00974>

B．国内学会発表

1. 下飯 仁, 前田岳彦, 田中美穂, 相澤みお, 山田美和, 末次-佐々木春菜, 赤尾 健 (2020) 実験室酵母の清酒高発酵性変異株の変異遺伝子の解析. 令和2年度日本醸造学会大会講演要旨: 24.
2. 松本 晶, 森谷大樹, 滝田祐人, 河合盛進, 鈴木宏昭, 山田美和(2020) *Cobetia* 属細菌によるアルギン酸や海藻を原料としたポリ(3-ヒドロキシブタン酸)の合成. 日本農芸化学会東北支部第155回大会講演要旨: C02.
3. 林田宗記, 村主 涉, 杉森大助, 山田美和(2020) エタノールアミンを原料としたグリコール酸の微生物合成系構築. 日本農芸化学会東北支部第155回大会講演要旨: C03.
4. 村主 涉, 天野一清, 松村健児, 西山賢一, 山田美和(2020) エチレングリコールを原料としたグリオキシル酸合成量向上を目指した活性向上酵素変異体の創出と組換え大腸菌におけるペリプラズムへの酵素集積. 日本農芸化学会東北支部第155回大会講演要旨: C04.
5. 菅野琴華, 西川華子, 沢里克宏, 山田美和, 西山賢一(2020) 糖脂質 MPIase は TAT (Twin-

Arginine Translocation) 基質の膜へのターゲティングに関する. 日本農芸化学会東北支部第155回大会講演要旨: C09.

6. 西川華子, 菅野琴華, 沢里克宏, 山田美和, 西山賢一(2020) TAT (Twin-Arginine Translocation) 膜透過の再構成系の構築. 日本農芸化学会東北支部第155回大会講演要旨: C13.
7. 山田美和(2020) 産業廃棄物の利活用を目指した有用物質の微生物合成に関する研究. 日本農芸化学会東北支部第155回大会受賞講演.
8. 村主 涉, 山下岳士, 山田美和(2021) エチレングリコールからのグリコール酸合成量向上を目指した高活性変異酵素スクリーニング系の構築. 日本農芸化学会2021年度大会講演要旨: 3A05-01.
9. 佐々浪由梨香, 外村彩夏, 河合盛進, 鈴木宏昭, 山田美和(2021) 生分解性プラスチックナイロン4分解酵素の精製と諸性質解明. 日本農芸化学会2021年度大会講演要旨: 3A05-02.
10. 佐藤奈々, 金濱晶, 柏木明子, 山田美和, 西向めぐみ(2021) 微生物由来プラスマローゲンのラット小腸におけるリンパ吸収動態. 日本農芸化学会2021年度大会講演要旨: 3D02-10.

(3) 森林科学科

井良沢 道也

Irasawa, Michiya



赴任：2001年

現職：教授

学位：博士（学術）

専門分野：砂防学，森林水文・雪氷防災学，緑化学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 流域における土砂の動態解明及び砂防対策手法に関する研究
2. 溪流環境の保全と創出に関する研究
3. 山地における水文循環特性の解明

担当科目：

1. 砂防学（3年次）
2. 砂防学実習（3年次）
3. 森林・雪氷水文学（2年次）
4. 環境防災学（2年次）
5. 砂防学特論（大学院修士）
6. 森林科学入門（1年次，分担）
7. 森林科学基礎演習（1年次，分担）
8. 地域の環境を考える（1年次）
9. 防災・まちづくり特論（大学院修士）
10. グローバル環境科学特論（大学院修士）
11. 地域防災特論（大学院修士）

所属学会等：砂防学会員（東北支部長，理事），地すべり学会員（東北支部幹事），日本森林科学会員，東北森林科学会員

その他の主な活動：岩手県国土利用計画審議会委員，福島県金山町小栗山地区土砂災害対策委員会委員長，青森県森林土木工事総合評価審査員，岩手県土砂災害発生避難基準検討委員会委員長，宮城県総合土砂災害検討委員会委員長，岩手県Cライン検討委員会委員長，岩手ブロック公共工事総合評価委員会委員，岩手火山災害対策検討委員会委員，国土交通省岩手工務事務所 岩手山直轄砂防事業環境調査検討会委員，（財）砂防水理模型実験検討委員会委員，東北地域環境計画研究会会員，岩手技術士会会員，（独）防災科学技術研究所雪氷防災実験棟運用委員会委員，（財）道路保全技術センター道路防災ドクター，（社）雪センター「雪センターTC制度」メンバー，福島県福島県公共事業評価委員会委員

研究業績

A. 著書・訳書

1. 井良沢道也（分担執筆）（2020） 砂防の観測の現場を訪ねて～土砂災害を知るための観測～.公益社団法人砂防学会編，東京，p87-94.

2. 井良沢道也（分担執筆）（2021） 土砂災害に備える地区防災計画.公益社団法人砂防学会編，ブイツーソリューション社，p95-108.

B. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. M.Irasawa, T.Koi, C.Tsou, N.Kato, S.Matsuo, M.Arai, M.Kaibori, T. Yamada, M.Kasai, T.Wakahara, D.Higaki, H.Keda, Y.Ishikawa, K.Arai, S.Hirose, T.Sato, H.Kawatabata, M.Koubu, S.Niwa, K.Sugawara, H.Matsusaka, N.Tada(2020) October 2019 Sediment Disaster in the Tohoku Region owing to Typhoon No. 19 (Typhoon Hagibis), International Journal of Erosion Control Engineering Vol. 13, No. 2, p48-55.
2. 田中隆文，石垣勝之，磯打千雅子，井良沢道也，小穴久仁，大槻聡志，大沼乃里子，大村さつき，蟹井 進，酒井千富，霜田宜久，鈴木清敬，中村清美，町田尚久，三崎貴弘(2020) 土砂災害に備える観点からの地区防災計画事例の比較研究.地区防災計画学会誌，Vol.17，p.35-57.
3. 渡邊正一，森下 淳，井良沢道也，江川千洋，島健，村松広久，大橋広治，中野雅章，中村ゆかり，中村美夫(2020) 大源太川第1号砂防堰堤の老朽化調査に基づく補強対策工の基本設計.砂防学会誌，Vol.73，No.1，p.25-31.
4. 澤 陽之，小川紀一朗，井良沢道也(2020) 新潟県万内川・日影沢および鎌倉沢川における歴史的砂防施設の建設経緯と技術的特徴.砂防学会誌，Vol.73，No.2，p.14-23.

C. 国内学会発表

1. 田中隆文，石垣勝之，磯打千雅子，井良沢道也，小穴久仁，大村さつき，蟹井 進，酒井千富，霜田宜久，鈴木清敬，中村清美，町田尚久(2020) 砂防学会公募研究会「土砂災害に備える地区防災計画研究会」活動報告 .2020 年度砂防学会研究発表会講演要旨：27-28.
2. 井良沢道也，松尾新二郎，池田 一，新井瑞穂，佐藤達也，多田信之，海堀正博(2020) 令和元年10月台風第19号等による東北地方の土砂災害の特徴について 2020 年度砂防学会研究発表会講演要旨：43-44.
3. 古賀勇輝，新井瑞穂，荒井健一，戸谷千鶴，井良沢道也(2020) UAV で見た令和元年度台風19号災害.2020 年度砂防学会研究発表会講演要旨：135-136.
4. 松嶋秀士，井良沢道也，堀 和彦(2020) 既設落

石防護柵の維持管理の課題と補修補強方法の検討 .2020 年度砂防学会研究発表会講演要旨:293-294.

5. 石川丈瑛, 井良沢道也, 林 一成(2020) 大規模地震後に崩壊が発生した斜面の地形的特徴 .2020 年度砂防学会研究発表会講演要旨:387-388.
6. 林一成, 井良沢道也, 石川丈瑛(2020) 数値標高モデルを用いた斜面の微地形分類手法の検討 . 2020 年度砂防学会研究発表会講演要旨:449-450.
7. 後藤伶央, 井良沢道也(2020) 地区防災計画の現状と課題 ~土砂災害に対する警戒避難体制構築に向けて~ 2020 年度砂防学会研究発表会講演要旨:485-486.
8. 小泉瑳智, 井良沢道也(2020) 防災学習が児童の意識に与える影響把握 ~宮城県蔵王町の二つの小学校を対象として~ 2020 年度砂防学会研究発表会講演要旨:491-492.
9. 澤 陽之, 井良沢道也, 熊谷和馬, 飯塚珠恵, 森隆彰(2020) 歴史的砂防施設の利活用の現状と課題について ~新潟県における歴史的砂防施設の事例から~ 2020 年度砂防学会研究発表会講演要旨:667-668.
10. 松嶋秀士, 井良沢道也, 堀 和彦, 成田南(2020) 落石調査における UAV レーザ測定の有用性 .2020 年度日本地すべり学会大会講演要旨:CD-ROM .
11. 石戸みさと, 青木佳音, 熊谷 誠, 井良沢道也, 厚井高志, 金俊之(2020) 台風 19 号による岩手県内の土砂災害に対する避難の実態 .令和 2 年度東北地域災害科学研究集会講演予稿集 .
12. 青木佳音, 石戸みさと, 井良沢道也, 和田智恵, 福留邦洋(2020) 釜石市内小中学校における土砂災害防災教育の取り組み .令和 2 年度東北地域災害科学研究集会講演予稿集 .
13. 村井克成, 羽田京香, 松嶋秀士, 井良沢道也, 林一成 (2020) 秋田県災害履歴データベースを用いた落石災害の誘因解析 .令和 2 年度東北地域災害科学研究集会講演予稿集 .
14. 羽田京香, 井良沢道也 (2020) 地すべり巡視員制度の現状と課題 .令和 2 年度東北地域災害科学研究集会講演予稿集 .

小藤田 久 義
Kofujita, Hisayoshi

赴任:1994 年
現職:教 授



学位:博士(農学)(愛媛大学)

専門分野:木材化学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 樹木芳香族成分の生分解
2. 樹木抽出成分の分析と機能開発

担当科目:

1. 森林科学入門(1年次, 分担)
2. 森林科学基礎演習(1年次, 代表担当)
3. 森林と環境(1年次, 代表担当)
4. 森林科学研修(2年次, 分担)
5. 林産化学(2年次)
6. 森林バイオマスの成分利用(3年次)
7. 森林化学演習(3年次)
8. 森林資源化学特論(大学院修士)

所属学会等:日本木材学会(機関幹事), 東北森林科学会(理事), 紙パルプ技術協会, 日本アロマセラピー学会, リグニン学会

その他の主な活動:盛岡市クリーンセンター公害監視委員会委員

研究業績

A. 原著論文

1. Yamaji, Y., Wakabayashi, T., Kofujita, H. (2020) Potential of sugi wood diterpenes as an Alzheimer's disease preventive and therapeutic drug by the β -amyloid toxicity reduction effect. Journal of Wood Science 66: 76-81.

B. 国内学会発表等

1. 関川春奈, 橋本勝次, 小倉省五, 大野泰史, 福盛田洋幸, 小藤田久義(2021) クワ抽出成分のスキンケア製剤としての利用 ~抽出方法ならびに有効成分に関する検討~ .第 71 回日本木材学会大会講演要旨集: 1P159.
2. 田中文悠, 若林篤光, 楠本倫久, 小藤田久義(2021) 国内産樹木精油の抗アルツハイマー病作用 第 71 回日本木材学会大会講演要旨集: 1P170.
3. 西條裕美, 小藤田久義, 芦谷竜矢(2021) ジテルペノイドトタロールの抗酸化性の評価 .第 71 回日本木材学会大会講演要旨集: 1P170.

関 野 登
Sekino, Noboru

赴任:1984年

現職:教 授

学位:農学博士(東京大学)

専門分野:木質材料学



主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 木質材料の接着耐久性の評価
2. 木質系断熱材の開発と性能評価
3. 木質バイオマスの利用技術の開発

担当科目：

1. 森林と環境（全学1年次，分担）
2. 森林科学入門（1年次，分担）
3. 森林科学基礎演習（1年次，分担）
4. 木材と住宅（2年次）
5. 木材工学（3年次）
6. 木材工学演習（3年次）
7. 木質資源工学特論（大学院修士）

8. グローバル環境科学特論（大学院修士，分担）

所属学会等：日本木材学会，日本木材加工技術協会（木質ボード部会・部会長），木質炭化学会

その他の主な活動：「木を勉強する会（木勉会）」代表幹事，「いわて木材利用優良施設コンクール」審査員，いわて県産木材等利用推進協議会（副委員長），環境省環境研究総合推進費2-1906アドバイザー

研究業績

A. 総説・論説

1. 関野 登，姜 卓秋（2020）中国吉林省のキノコ栽培と廃菌床の燃料利用. 木材工業:75(6)254-257.

B. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Noboru Sekino and Zhuoqi Jiang (2021) Fuel and material utilization of a waste shiitake (*Lentinula edodes*) mushroom bed derived from hardwood chips I: characteristics of calorific value in terms of elemental composition and ash content. *J. Wood Sci.* 67(1), open access, published 6th January, <https://doi.org/10.1186/s10086-020-01935-7>.

(b) 紀要

1. 関野 登，岡 美森，日當和孝（2020）樹皮を廃プラスチックで結合した樹皮圧密燃料の製造（第1報）燃料品質に及ぼす結合剤添加率・原料含水率および圧縮圧力の影響，岩手大演報，51，15-35.

C. 国内学会発表

1. 関野 登，姜 卓秋（2020）シイタケ廃菌床の材料利用の可能性（第4報）～圧縮乾燥により密度増加させたブロック材料の機械的性質～.（公社）日本木材加工技術協会第38回年次大会（岐阜：2020年10月），講演要旨集：68-69.
2. 姜 卓秋，関野 登（2021）シイタケ廃菌床の

材料利用の可能性（第5報）～未圧縮および圧縮乾燥して得たブロック材料の熱伝導率～.第71回日本木材学会大会（オンライン），3月，研究発表予稿集 PDF 1P116.

3. 関野 登，姜 卓秋（2021）シイタケ廃菌床の材料利用の可能性（第6報）～廃菌床実質の熱伝導率～.第71回日本木材学会大会（オンライン），3月，研究発表 PDF 1P107.

立川 史郎

Tatsukawa, Shiro



赴任：1981年

現職：教授

学位：博士（農学）（東京農工大学）

専門分野：林業生産工学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 未利用森林資源のエネルギー利用システム
2. 人工林の高蓄積化に対応した機械化作業システム
3. 日本における馬搬作業の分析と評価

担当科目：

1. 森林科学入門（1年次，分担）
2. 森林と環境（1年次，分担）
3. 森林測量学（2年次）
4. 森林測量学実習（2年次）
5. 林業生産工学（2年次）
6. 林業生産工学実習（3年次）
7. 森林工学特論（大学院修士）

所属学会等：日本森林学会，森林利用学会（理事），東北森林科学会（会長）

その他の主な活動：福島県公共事業評価委員会委員，東北森林管理局技術検討会委員，いわて林業アカデミー運営協議会委員（議長）

研究業績

A. 国内学会発表

1. 斎藤仁志，大屋智誠，立川史郎（2020）岩手県における林業労働災害の経年変化と要因分析. 森林利用学会第27回学術研究発表会講演要旨集：5.
2. 生駒 直，斎藤仁志，立川史郎（2021）皆伐地における森林作業道の実態把握. 第132回日本森林学会大会学術講演集：216.

真坂 一彦

Masaka, Kazuhiko



赴任：2017年

現職：教授

学位：博士（農学）（北海道大学）

専門分野：森林生態学，造林学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 天然林の動態に関する研究
2. 海岸林の保全と管理に関する研究
3. 植物の性比配分戦略に関する研究
4. 養蜂を介した森林の生態系サービスに関する研究
5. 環境林造成および不成績要因に関する研究
6. 飛砂害史に関する研究

担当科目：

1. 森林造成学（3年次）
2. 森林造成学実習（3年次，分担）
3. 科学英語（3年次，分担）
4. 森林保護学（3年次，分担）
5. 樹木学（2年次，分担）
6. 樹木学実習（2年次，分担）
7. 森林と環境（1年次，分担）
8. 森林科学入門（1年次，分担）
9. 基礎ゼミナール（1年次）
10. 森林造成学特論（大学院修士）

所属学会等：日本森林学会，東北森林学会，北方森林学会，日本海岸林学会，日本雪氷学会

学会賞等：日本森林学会奨励賞（2011年）

研究業績

A. 著書・訳書

1. 真坂一彦（2020）木本植物の生理生態．第9章 9-2 クローン成長，小池孝良・北尾光俊・市栄智明・渡辺 誠 編，pp.147-152，共立出版（11月25日初版発行）ISBN978-4-320-05812-5．
2. 倉本恵生，齋藤央嗣，真坂一彦（2021）森林学の百科事典．第7章 7-18 林業と花粉症，日本森林学会編，pp.260-261，丸善出版（1月末日初版発行）ISBN978-4-621-30584-3．

B. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Iwasaki, K., Tamura, M., Sato, H., Masaka, M., Oka, D., Yamakawa, Y., and Kosugi, K. (2020) Application of ground-penetrating radar and a combined penetrometer-moisture probe for evaluating spatial

distribution of soil moisture and soil hardness in coastal and inland windbreaks. *Geosciences* 10:1-15 .

2. Seiwa, K., Negishi, Y., Eto, Y., Hishita, M., Masaka, K., Fukasawa, Y., Matsukura, K., and Suzuki, M. (2020) Successful seedling establishment of arbuscular mycorrhizal-compared to ectomycorrhizal-associated hardwoods in arbuscular cedar plantations. *Forest Ecology and Management* 468: 118155 .
3. Negishi, Y., Eto, Y., Hishita, M., Negishi, S., Suzuki, M., Masaka, K., and Seiwa, K. (2020) Role of thinning intensity in creating mixed hardwood and conifer forests within a *Cryptomeria japonica* conifer plantation: A 14-year study. *Ecology and Management* 468:118184.
4. Koga, W., Suzuki, A., Masaka, K., and Seiwa K. (2020) Conspecific distance-dependent seedling performance, and replacement of conspecific seedlings by heterospecifics in five hardwood, temperate forest species. *Oecologia* 193:937-947.
5. Torita, H. and Masaka, K. (2020) Influence of planting density and thinning on timber productivity and resistance to wind damage in Japanese larch (*Larix kaempferi*) forests. *Journal of Environmental Management* 268:110298.
6. Seiwa, K., Negishi, Y., Eto, Y., Hishita, M., Negishi, S., Masaka, K., and Suzuki, M. (2020) Effects of repeated thinning at different intensities on the recovery of hardwood species diversity in a *Cryptomeria japonica* plantation. *Journal of Forest Research* 26: 17 - 25.

C. 国内学会発表

1. 真坂一彦（2020）森・ミツバチ・食のつながり 森林はモリやハヤシではない．森・人・地域 再生シンポジウム in 遠野 2020 .
2. 岩崎健太，南光一樹，中田康隆，真坂一彦，篠原慶規，新田響平，水永博己（2021）港湾建設に伴う海岸線変化が生じさせた海岸林樹高成長の空間的不均質性．第132回日本森林学会大会．
3. 松木佐和子，中村日香，真坂一彦（2021）ウダイカンバの餌としての葉質は樹木の成長段階によってどう変化する？．第132回日本森林学会大会．

伊藤 幸男

Ito, Sachio



赴任：1997年

現職：准教授

学位：博士（農学）（岩手大学）

専門分野：森林政策，木材産業論

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 木材の生産と消費に関する研究
2. 地域林業に関する研究
3. 森林政策に関する研究

担当科目：

1. 森林科学入門（1年次，分担）
2. 森林と環境（1年次，分担）
3. 情報基礎（1年次，分担）
4. 林業・木材産業論（2年次）
5. 山村経済・地域おこし論（2年次，分担）
6. 6次産業化論（2年次，分担）
7. 地域マネジメント論（2年次，分担）
8. 森林政策学（3年次）
9. 海外・日本の林業（3年次，分担）
10. 地域創生特論（修士，分担）
11. グローバルエネルギー特論（修士，分担）
12. 森林山村政策学特論（修士）

所属学会等：日本森林学会，林業経済学会，東北森林科学会，農村計画学会，東日本林業経済研究会
研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. 滝沢裕子，伊藤幸男，山本信次（2020）ドイツにおける林業労働力の教育制度の実態—バーデン・ヴュルテンベルク州におけるデュアルシステムを例に—．日本森林学会誌 102(5)：281-287．

(b) 紀要

1. 原科幸爾，山本信次，伊藤幸男，高野涼，松本一穂（2020）阿蘇地域における防災力向上等の多面的付加価値の創出を意図した木質バイオマス利用ゾーニング．岩大演報 51：79-89．

國崎貴嗣

Kunisaki, Takashi



赴任：1997年

現職：准教授

学位：博士（農学）（九州大学）

専門分野：森林計測学，群落生態学，森林計画学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 針葉樹人工林の広葉樹林化技術の開発
2. 手入れ不足な人工林の改善技術の開発
3. 天然更新の簡便な刈り払い技術の開発

担当科目：

1. 森林科学入門（1年次，分担）
2. 基礎数学入門（1年次）
3. 生物統計学（1年次）
4. 微分積分学入門（1年次）
5. 線形代数学入門（1年次）
6. 森林計測学（2年次）
7. 科学英語（3年次）
8. 海外・日本の林業（3年次）
9. 森林計測学実習（3年次）
10. 森林計画学（3年次）
11. データ分析演習（3年次）
12. 森林科学応用演習（3年次）
13. 森林科学応用演習（4年次）

所属学会等：日本森林学会，日本生態学会，森林立地学会

学会賞等：森林計画学会黒岩菊郎記念研究奨励賞（2011年3月）

その他の主な活動：日本森林学会英文誌(J. For. Res.)

編集委員，いわての森林づくり県民税事業評価委員会

委員長（岩手県），緑の雇用／フォレストリーダー研

修講師（岩手県林業労働対策基金），フォレストリー

ダー研修（森林整備フォローアップ）講師（宮城県林

業労働力確保支援センター），森林施業プランナー認

定試験面接官（森林施業プランナー協会），令和2年

度東北森林管理局技術開発委員会委員（林野庁東北森

林管理局），令和2年度国立研究開発法人森林研究・

整備機構東北地域評議会委員（森林総合研究所東北支

所），伐採・搬出・再造林ガイドラインの策定にかかる

意見照会への対応（岩手県），皆伐ガイドラインの

見直し検討会委員（NJ素材流通協同組合）

研究業績

A. 著書・訳書

1. 國崎貴嗣（分担執筆）（2020）森林計画学入門．第4章第2節 針葉樹人工林の管理と施業，田中和博ら編，pp.61-74，朝倉書店（4月5日初版発行）ISBN978-4-254-747055-0．
2. 國崎貴嗣（分担執筆）（2021）森林学の百科事典．第7章 保育間伐，日本森林学会編，pp.244-245，丸善出版（1月30日初版発行）ISBN978-4-621-30584-3．

B. 原著論文

(a) 紀要

1. 鎌塚祥子，鞍懸重和，山内貴義，國崎貴嗣（2020）岩手県雫石町のスギ人工林におけるクマ剥ぎ発生に関する主要な林分因子の抽出．岩大演報

51 : 37-48 .

- 2 . 國崎貴嗣 (2020) 胸高帯の低下に及ぼす斜面位置と個体サイズの影響 : スギ若齢過密人工林での事例 . 岩大演報 51 : 49-58 .
- 3 . 國崎貴嗣 (2020) 滝沢演習林広葉樹見本研究林における林分構成値の推移 . 岩大演報 51 : 59-78 .

C . 国内学会発表

- 1 . 國崎貴嗣 (2020) 胸高帯のみかけの低下に及ぼす傾斜度の影響 : スギ若齢林での事例 . 第 131 回日本森林学会大会 (口頭 (経営部門) PR0038) , 2020 年 3 月 (名古屋市) .

齋藤 仁志

Saito, Masashi



赴任 : 2019年

現職 : 准教授

学位 : 博士 (農学) (東京農工大

学)

専門分野 : 森林工学

主なテーマ及び主な教育研究活動 :

- 1 . 森林路網の効率的配置に関する研究
- 2 . 作業システムの効率化に関する研究
- 3 . 情報化技術を用いた森林管理に関する研究

担当科目 :

- 1 . 森林測量学 (2 年次)
- 2 . 森林測量学実習 (2 年次)
- 3 . 林道工学 (3 年次)
- 4 . 林道工学実習 (3 年次)
- 5 . 森林科学入門 (1 年次 , 分担)
- 6 . 林業生産工学特論 (大学院修士 , 分担)

所属学会等 : 日本森林学会 , 東北森林学会 , 森林利用学会 , 森林計画学会

学会賞等 : 森林利用学会賞 (2013年)

その他の主な活動 : 今後の路網整備ありかた検討委員会 (林野庁) , 森林整備保全事業費用対効果分析手法検討委員会委員 (林野庁) 技術力維持・向上対策研修講師 (東北森林管理局) , 森林クラウドシステムの導入に向けた検討会委員 (岩手県) , フォレストワーカー研修講師 (岩手県林業労働対策基金) , フォレストリーダー研修講師 (岩手県林業労働対策基金) , 高知県林業大学校講師 , 森林作業道現地検討会講師 (宮城県南部流域森林・林業活性化センター)

研究業績

A . 著書・訳書

- 1 . 齋藤仁志 (分担執筆) (2020) 農業食料工学ハンドブック . コロナ社 .
- 2 . 齋藤仁志 (分担執筆) (2020) 地域林業のすすめ . 築地書館 .

B . 原著論文

(a) 学術雑誌

- 1 . Chikara Nakahata, Kazuhiro Aruga, Masashi Saito, Uichi Hayashi (2020) Productivity and Cost of Clear-Cutting and Regeneration Operations with Small and Medium-Sized Forestry Machines in Utsunomiya City, Tochigi Prefecture, Japan . SMALL-SCALE FORESTRY .
- 2 . 瀧 誠志郎, 中澤昌彦, 齋藤仁志, 大野勝正, 鈴木秀典, 吉田智佳史, 千原敬也, 関子光太郎 (2020) 動画データによる作業道の三次元点群データの構築 . 森林利用学会誌 .
- 3 . Kai Moriguchi, Tatsuhito Ueki, Masashi Saito (2020) Establishing optimal forest harvesting regulation with continuous approximation .

C . 国内学会発表

- 1 . 齋藤仁志, 大屋智誠, 立川史郎 (2020) 岩手県における林業労働災害の経年変化と要因分析 . 森林利用学会 第 27 回学術研究発表会 .
- 2 . 生駒 直, 白澤紘明, 齋藤仁志, 渡部 優, 植木達人 (2020) 森林作業道を対象とした道路損壊の実態把握 . 森林利用学会 第 27 回学術研究発表会 .
- 3 . 生駒 直, 齋藤仁志, 立川史郎 (2020) 皆伐地における森林作業道の実態把握 . 第 132 回日本森林学会 .

山内 貴義

Yamauchi, Kiyoshi



赴任 : 2017年

現職 : 准教授

学位 : 博士 (農学) (東京大学大学院)

専門分野 : 野生動物管理学 , 動物生態学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動 :

- 1 . ツキノワグマの個体群動態と将来予測ならびに人里への出没メカニズムの解明
- 2 . ニホンジカの個体数推定と将来予測に関する研究

担当科目 :

- 1 . 野生動物管理学 (2 年次)
- 2 . 野生動物管理学実習 (2 年次)
- 3 . 森林科学入門 (1 年次 , 分担)
- 4 . 動物と環境 (1 年次 , 分担)

5. 森林と環境 (1年次, 分担)
6. 基礎生物学実験 (1年次, 分担)
7. 森林科学応用演習 (3年次)
8. 野生動物管理学特論 (大学院修士, 分担)
9. 森林科学研修 (2年次, 分担)

10. インターンシップ (3年次)

所属学会等: 日本哺乳類学会, 日本野生動物医学会
 学会賞等: 第95回日本繁殖生物学会大会優秀ポスター賞 (2002年)

その他の主な活動: 日本哺乳類学会正会員, 日本野生動物医学会正会員, 日本哺乳類学会シカ作業部会部会員, 農林水産省農作物野生鳥獣被害対策アドバイザー (登録番号第350号), 環境省鳥獣保護管理プランナー (登録番号P10015), 令和2年度青森県ニホンジカ管理対策検討科学委員会委員, 令和2年度ニホンジカ捕獲関連事業プロジェクトチーム外部有識者 (東北森林管理局), 令和2年度早池峰山周辺地域のニホンジカ生息状況等調査に係る検討委員会の委員 (東北森林管理局), 地域ぐるみの鳥獣被害対策モデル事業 (紫波町鳥獣被害防止対策協議会) におけるニホンジカの生態等研修会の講演, 地域で取組む市街地等におけるクマ防除対策支援事業 (令和2年度県南広域振興局地域経営推進費事業) 講師, 令和2年度ニホンジカ及びイノシシの個体数推定及び生息状況等調査ヒアリング (環境省), 令和2年度鳥獣被害対策研修会講師 (岩手県農林水産部農業普及課), 令和2年度生きがいセミナー講師 (大船渡市), 令和2年度経営者レベルアップ研修会 (北上市認定農業者連絡協議会), 令和2年度鳥獣保護管理に係る人材育成研修事業「特定鳥獣 (獣類) の保護管理に係るオンライン研修会講師 (環境省), 令和2年度ニホンジカ及びイノシシの個体数推定及び生息状況等調査業務 (密度分布図他) におけるヒアリング (環境省), 令和2年度宮古・下閉伊地域鳥獣被害防止対策研修会講師 (宮古農林振興センター), 獣害防止策への技術指導 (小岩金網株式会社)

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Masatani, T., Kojima, I., Tashir, M., Yamauchi, K., Fukui, D., Ichikawa-Seki, M. and Harasawa, R. (2020) Molecular detection of filarial nematode parasites in Japanese black bears (*Ursus thibetanus japonicus*) from Iwate Prefecture, Japan. *J. Vet. Med. Sci.* 83:208-213.

(b) 紀要

1. 鎌塚祥子, 鞍懸重和, 山内貴義, 國崎貴嗣 (2020) 岩手県雫石町のスギ人工林におけるクマ剥ぎ発生

に関する主要な林分因子の抽出. 岩大演報 51:37-48.

東 淳 樹

Azuma, Atsuki



赴任: 2000年

現職: 講師

学位: 博士 (農学) (東京大学)

専門分野: 保全生物学, 動物生態学

主な研究テーマ及び教育研究活動:

1. 猛禽類等の保全生態学的研究
2. 野生鳥獣による被害対策に関する研究
3. 生態系に低負荷な持続可能な暮らしの研究

担当科目:

1. 森林科学入門 (1年次, 分担)
2. 基礎数学演習 (1年次)
3. 動物と環境 (1年次, 分担)
4. 森林情報基礎 (1年次, 分担)
5. 地域生態系保全論 (2年次)
6. 森林科学基礎演習 (2年次, 分担)
7. 科学英語 (3年次, 分担)
8. 野生動物管理学実習 (3年次, 分担)
9. 保全生物学特論 (大学院修士)

所属学会等: 日本生態学会, 日本鳥学会, 野生生物と社会学会, 農村計画学会, 応用生態工学会, 農業農村土木学会

その他の主な活動: 北上川水系河川整備学識者懇談会委員 (2007年度~), 河川水辺の国勢調査アドバイザー (2007年度~), 岩手県環境審議会委員 (2016年度~), 盛岡市環境審議会委員 (2016年度~), 裏下地区生態系保全対策検討委員会委員 (2008年度~)

研究業績

A. 原著論文

1. 森 航大, 榎原貴之, 野口将之, 吉井千晶, 東 淳樹 (2020) 岩手県沿岸部におけるミサゴの育雛期の食性. *Bird Research* 16: A15-A24.

松 木 佐和子

Matsuki, Sawako



赴任: 2006年

現職: 講師

学位: 博士 (農学) (北海道大学)

専門分野: 森林生理生態学, 森林保全生態学

主な研究テーマ及び教育研究活動:

- 1.開葉初期に見られる被食防衛メカニズムの樹種特性
2. 広食性昆虫クスサンの大発生メカニズムの解明
3. 生物多様性に配慮した石灰石鉱山捨石堆積場の緑化

担当科目：

1. 森林保全生態学 (2年次)
2. 森林保護学 (3年次, 分担)
3. 森林科学基礎演習 (1年次, 分担)
4. 「環境」を考える (1年次, 分担)
5. 森林保全生態学特論 (修士1, 2年)
6. 樹木学 (2年次, 分担)
7. 樹木学実習 (2年次, 分担)
8. 野生動物管理学実習 (3年次, 分担)
9. 基礎数学演習 (1年次)
10. 森林科学入門 (1年次, 分担)
11. 情報基礎 (1年次, 分担)
12. 環境マネジメント実践学 (分担)

所属学会等：日本生態学会，日本森林学会，樹木医学会

その他の主な活動：仙台市環境影響評価審査委員 (2012年度～)，山形県文化財保護審査議会委員(2016年度～)，東北森林管理局保護林管理委員会委員(2018年度～)，盛岡市環境審議会委員 (2018年度～)

A. 著書・訳書

1. 松木佐和子 (分担執筆) (2020) 被食への防御, 「木本植物の生理生態」. (小池孝良・北尾光俊・市栄智明・渡辺誠編), 共立出版, 東京, p.65-68. ISBN9784320058125.
2. 松木佐和子 (分担執筆) (2021) 樹液とシロップ, 「森林学の百科事典」. (日本森林学会編), 丸善出版, 東京, 368p. ISBN9784621305843.

B. 国内学会発表

1. 松木佐和子, 中村日香, 真坂一彦 (2021) ウダイカンバの餌としての葉質は樹木の成長段階によってどう変化する?. 第132回日本森林学会大会, 府中市, P-357, 学術講演集222p.

山崎 遥

Yamazaki, Haruka



赴任：2020年

現職：助教

学位：博士(環境科学)(北海道大学)

専門分野：森林資源管理学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 天然更新補助作業の高度化に関する研究
2. 広葉樹施業の確実性向上に関する研究

担当科目：

1. 森林科学入門 (1年次, 分担)
2. 生物統計学 (1年次, 分担)
3. 森林計測学 (2年次, 分担)
4. 海外・日本の林業 (3年次, 分担)

所属学会等：日本森林学会，日本生態学会，東北森林科学会

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Suzuki, N., Yoshida, T., Miyamoto, T., Fukuzawa, K., Taniguchi, T. and Yamazaki, H. (2021) Early establishment of spruce (*Picea glehnii* [Fr. Schm.] Masters) seedlings on disturbed soil with the aim of assisted natural regeneration. Scand. J. Forest Res. 36 : 126-134.

B. 国内学会発表

1. 山崎 遥, 吉田俊也 (2021) 掻き起こし作業実施後の土壌環境に土性の違いが与える影響. 森林学会第132回大会講演要旨集：163.
2. 吉田俊也, 山崎遥, 高木健太郎 (2021) 天然更新補助作業の確実性：かき起こし地の成長に及ぼす地形の影響. 森林学会第132回大会講演要旨集：163.
3. Kagiya, S., Utsumi, S., Yamazaki, H. and Kobayashi, M. (2021) Meta-analysis of global revegetation after landslide disturbance. 日本生態学会第68回全国大会講演要旨集：P2-126.

(4) 食糧生産環境学科

農村地域デザイン学コース

倉島 栄一
Kurashima, Eiichi



赴任：1985年

現職：教授

学位：農学博士（北海道大学）

専門分野：農学水文学，水文学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 大気・地表の熱輸送にかかわる水収支の研究
2. 洪水流出の研究

担当科目：

1. 測量学基礎実習（2年次）
2. 構造力学（2年次）
3. 水循環論（3年次）
4. 構造力学演習（3年次）
5. 水循環特論（大学院修士）

所属学会等：農業土木学会，水文・水資源学会，
American Geophysical Union

その他の主な活動：岩手県政策評価委員会委員長，いわての川づくりプラン懇談会会長

研究業績

A. 国内学会発表

1. 今野雄太，山本清仁，金山素平，倉島栄一
（2020） 八郎潟における電磁探査による土壌
EC 分布測定．2020 年度（第 69 回）農業農村工
学会大会講演会講演要旨集，607-608．

金山 素平
Kanayama, Motohei



赴任：2013 年

赴任：2013 年

現職：教授

学位：博士（農学）（九州大学）

専門分野：農業土木学，土質理工学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 農地・農業用構造物の維持管理と保全に関する
研究
2. マイクロ技術を援用した粘土の力学的挙動の評
価
3. 環境に配慮した施工技術の開発に関する研究

担当科目：

1. 食料生産環境学概論（1年次，分担）
2. 総合科目特別講義（2年次，分担）

3. 農村環境デザイン学演習（2年次，分担）

4. 測量学フィールド実習（2年次，分担）

5. 環境修復学（3年次，分担）

6. 農地工学（3年次，分担）

7. 土質力学（3年次）

8. 土壌土質実験（3年次，分担）

9. 土質力学演習（3年次）

10. 農村環境デザイン学セミナー（3年次，分担）

11. 地盤工学特論（大学院修士）

所属学会等：農業農村工学会，日本粘土学会，地盤工
学会

学会賞等：農業農村工学会賞（研究奨励賞）（2014 年），
平成 28 年度農業農村工学会大会講演会優秀ポスター
賞（2016 年），平成 29 年度農業農村工学会東北支部研
究奨励賞（2017 年），令和元年度農業農村工学会東北
支部研究奨励賞（2020 年），令和 2 年度農業農村工学
会東北支部研究奨励賞（2021 年）

その他の主な活動：いわての川づくりプラン懇談会
委員，岩手県農林水産部総合評価落札方式技術評価
委員会委員，日本粘土学会編集委員，独立行政法人
日本学術振興会科学研究費委員会専門委員，農業農
村工学会代議員，東北農政局西奥羽土地改良調査管
理事務所八郎潟地区施設整備専門部会委員

研究業績

A. 国内学会発表

1. 宮 隆之，金山素平（2020） 岩洞湖ローム土の
水浸時における圧縮変形挙動に関する研究．2020
年度（第 69 回）農業農村工学会大会講演会講演
要旨集，499-500．
2. 高橋長仁，嵯峨直樹，金山素平（2020） 八郎
潟粘土の圧密変形特性とその変形量の予測．
2020 年度（第 69 回）農業農村工学会大会講演
会講演要旨集，501-502．
3. 今野雄太，山本清仁，金山素平，倉島栄一
（2020） 八郎潟における電磁探査による土壌
EC 分布測定．2020 年度（第 69 回）農業農村工
学会大会講演会講演要旨集，607-608．
4. 高橋長仁，金山素平（2020） 八郎潟粘土の圧
密変形特性とその変形量の予測．農業農村工学
会東北支部第 62 回研究発表会講演要旨集，26-
27．
5. 宮 隆之，金山素平（2020） 岩洞湖ローム土の
水浸時における圧縮変形挙動に関する研究．農業
農村工学会東北支部第 62 回研究発表会講演要旨
集，28-29．

濱上 邦彦
Hamagami, Kunihiko



赴任：2011年

現職：准教授

学位：博士（農学）（九州大学）

専門分野：農業水理学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 農業水利施設における水環境の保全に関わる研究
2. 河川からの物資負荷量に関する研究

担当科目：

1. 基礎数学入門（1年次，分担）
2. 水と環境（1年次分担）
3. 情報基礎（1年次分担）
4. 水理学（2年次）
5. 農村地域デザイン学演習（2年次，分担）
6. 水理学実験演習（3年次）
7. 環境修復学（3年次分担）
8. 農村地域デザイン学セミナー（3年次，分担）
9. 水環境工学特論（大学院修士）

所属学会等：農業農村工学会，雨水資源化システム学会

学会賞等：農業農村工学会優秀論文賞（2009年）

その他の主な活動：岩手ブロック公共工事等総合評価委員会委員，農業農村工学会東北支部幹事，日本雨水資源化システム学会評議員，和賀中央地区水管理技術検討会委員，北上川水系河川整備学識者懇談会委員

研究業績

A. 著書・訳書

1. 濱上邦彦（分担執筆）（2020） 斐伊川のアユと環境-2015年から2020年の研究成果より-. ISBN 978-4-600-00425-5, pp.27-37.

B. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Yoshioka, H., Tsujimura, M., Hamagami, K. and Yoshioka, Y. (2020) A hybrid stochastic river environmental restoration modeling with discrete and costly observations. Optimal Control Applications and Methods, 41, pp.1964-1994.

(b) プロシーディングス

1. Yoshioka, H., Tsujimura, M., Hamagami, K. and Yoshioka, Y. (2020) A Simple Stochastic Process Model for River Environmental Assessment under Uncertainty, E-proceedings of ICCS2020. Vo.12143, pp.494-507.

C. 国内学会発表

1. 濱上邦彦, 田端桃子 (2020) ため池における藻類

の群体形成と鉛直分布特性の検討. 農業農村工学会全国大会：441-442.

2. 濱上邦彦, 水梨子綾音, 原田昌佳, 尾崎章則, 田畑俊範, 平松和昭 (2020) 閉鎖性水域における短期的な藍藻の鉛直移動特性の検討. 農業農村工学会東北支部第62回研究発表会：6-7.

3. 土谷 幹, 濱上邦彦, 長根 麗 (2020) ハナカンナを用いた無土壌水面栽培による水環境への影響に関する研究. 農業農村工学会東北支部第62回研究発表会：4-5.

4. 吉岡秀和, 辻村元男, 濱上邦彦, 吉岡有美, 八重樫優太 (2019) ジャンプ過程と部分的観測にもとづく費用対効果が大きい環境管理について(ファイナンスの数理解析とその応用). 数理解析研究所講義録2173：37-41.

原科 幸爾

Harashina, Kouji



赴任：2004年

現職：准教授

学位：博士（農学）（東京大学）

専門分野：地域生態管理学，緑地環境学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 地域循環型の生物資源利用システム
2. 生物の地理的分布と環境要因の解析
3. ドローンによる近接リモートセンシング

担当科目：

1. 基礎数学入門（1年次，分担）
2. 情報処理演習（1年次，分担）
3. 測量学フィールド実習（2年次，分担）
4. 地域マネジメント論（2年次，分担）
5. 農山村調査実習（2・3年次，分担）
6. 地理情報処理学（3年次）
7. 地理情報処理演習（3年次）
8. 緑地環境学（3年次）
9. 保全情報学特論（大学院修士）
10. 実践統計学（大学院博士，分担）

所属学会等：日本造園学会（東北支部常任委員），農村計画学会（理事），環境情報科学センター，農業農村工学会，日本建築学会，日本都市計画学会

その他の主な活動：婁下地区生態系保全対策検討会委員，紫波町「森林バイオマス利活用検討委員会」委員長，国土交通省「植生回復によるCO2吸収量算定手法に関する検討委員会」委員，岩手県「多面的機能支払い制度推進委員会」委員

研究業績

A. 総説・論説

1. 原科幸爾, 高野 涼 (2021) 国内における木質バイオマス利用の本質と意義. 環境情報科学 50(1): 57-62.

B. その他

1. 原科幸爾, 山本信次, 伊藤幸男, 高野 涼, 松本一穂(2020) 阿蘇地域における防災力向上等の多面的付加価値の創出を意図した木質バイオマス利用ゾーニング. 農学部演習林報告 51: 79-89.

C. 国内学会発表

1. 松本一穂, 高野涼, 伊藤幸男, 山本信次, 原科幸爾(2021) 阿蘇地域の様々な植生における土壌の透水・保水性の評価. 第132回日本森林学会大会, 2021年3月19~23日, 東京農工大学.

三宅 諭

Miyake, Satoshi



赴任: 2002年

現職: 准教授

学位: 博士(工学)(早稲田大学)

専門分野: 都市・地域計画, まちづくり

主な研究テーマ:

1. 歴史と文化を活かした景観・まちづくり
2. 縮減社会における都市・地域計画
3. 復興まちづくりのプロスデザイン

担当科目:

1. 情報基礎(1年次, 分担)
2. 都市と環境(分担)
3. 食料生産環境学概論(1年次, 分担)
4. 農山村調査実習(2・3年次, 分担)
5. 地域景観保全論(3年次)
6. 地域デザイン論(2年次)
7. 環境デザイン演習(2年次)
8. 景観まちづくり特論(大学院修士)
9. 防災まちづくり特論(大学院修士, 分担)
10. 地域防災特論(大学院修士, 分担)

所属学会等: 日本建築学会, 日本都市計画学会, 農村計画学会, 日本生活学会

その他の主な活動

1. 日本建築学会都市計画委員会生きた景観小委員会
2. 日本都市計画学会査読委員
3. 日本都市計画学会会長アドバイザー会議委員

4. 日本都市計画学会東北支部幹事
 5. 日本建築学会計画系論文集査読委員
 6. 日本建築学会住まい・まちづくり支援建築会議運営委員会委員
 7. 日本建築学会復興住まい・まちづくり支援部会幹事
 8. 日本建築学会東北支部岩手支所理事
 9. 農村計画学会評議委員
 10. 岩手県まちづくりアドバイザー
 11. 岩手県開発審査会委員
 12. 岩手県景観形成審議会委員
 13. 岩手県国土利用計画審議会会長
 14. 岩手県特定大規模集客施設立地誘導審議会副委員長
 15. 岩手県建築審査会委員
 16. 岩手県都市計画審議会委員
 17. 盛岡市景観審議会会長
 18. 盛岡城跡公園管理運営委員会委員長
 19. 盛岡市歴史的風致維持向上計画協議会委員
 20. 盛岡市まちづくりアドバイザー
 21. 一関市景観審議会委員
 22. 一関市本寺地区景観むらづくりアドバイザー
 23. 一関市本寺地区景観審議会委員
 24. 一関市骨寺村荘園遺跡指導委員会委員
 25. 北上市景観審議会委員
 26. 奥州市景観審議会会長
 27. 釜石市鶴住居地区土地区画整理審議会委員
 28. 釜石市片岸地区土地区画整理審議会委員
 29. 陸前高田市景観審議会委員
 30. 久慈市洋上風力発電ゾーニング協議会委員長
 31. 雫石町都市計画審議会会長
 32. 雫石町景観推進委員会会長
 33. 雫石町空家対策協議会会長
 34. 一戸町景観審議会会長
 35. 大槌町鎮魂の森整備検討委員会委員
 36. 山田町都市計画マスタープラン策定町民等委員会委員長
 37. 軽米町総合戦略策定委員会会長
 38. 東北活性化研究センターアドバイザー会議委員
 39. 東京水産振興会調査研究委員会委員
- 研究業績

A. 著書・訳書

1. 三宅 諭(分担執筆)(2021) 生きた景観マネジメント(日本建築学会編). 鹿島出版会, 東京, p.94-97, p.135-140

B. 総説・論説

1. 三宅 諭 (2021) 東日本大震災に学ぶ復興計画・事業の課題・岩手県での経験による私見・農村計画学会誌 39 巻 4 号, p.370-373

C. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. 蛭田美紅, 三宅諭 (2020) 原発避難者と受け入れ先住民の意識差に見る今後の近隣関係構築への課題 - 福島県いわき市小名浜を事例として - . 日本都市計画学会都市計画論文集 55(3), p.864-871.
2. 三宅諭 (2021) 津波被災地の復興支援における内陸自治体からの支援方策. 日本建築学会技術報告集 Vol. 27, No.65, p.493-498, 2021 年 2 月

D. その他

1. 内藤 廣, 三宅 諭, 佐藤慎司, 貝島桃代 (2021) 「建築と土木の復興」(復興の 10 年: 日本建築学会・土木学会共同編集). 日本建築学会建築雑誌 Vol. 136, No.1747, 2021 年 3 月 p.7-12.
2. 内藤 廣, 三宅 諭, 佐藤慎司, 貝島桃代 (2021) 「建築と土木の復興」(復興の 10 年: 日本建築学会・土木学会共同編集) 土木学会誌 Vol. 106, No.3, 2021 年 3 月 p.10-16.

E. 報告書・事業報告書

1. 三宅 諭ほか (2020) 東日本大震災における漁村の復興問題・令和元年度事業報告書・一般財団法人東京水産振興会

F. 国内学会発表

1. 成川佑弥, 三宅諭 (2021) 岩手大学留学生による盛岡市の住みやすさ評価 2020 年度日本都市計画学会東北支部研究発表会 (Web), p.49-52.
2. 田宮圭佑, 三宅諭 (2021) 2009 年と 2020 年の店舗比較にみる盛岡市櫻山商店街の形態変化・オンライン上の広報活動に着目して・2020 年度日本都市計画学会東北支部研究発表会 (Web), p.73-76.
3. 渡辺聖夏, 三宅 諭 (2021) 岩手県内の廃校の特性と廃校利用における課題 2020 年度日本都市計画学会東北支部研究発表会 (Web), p.77-80.

武藤 由子

Muto, Yoshiko

赴任: 2006年

現職: 准教授

学位: 博士(学術)(三重大学)



専門分野: 土壌物理学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 土壌環境圏の有機物分解と物質循環
2. 植物の生育を考慮した土中の水・溶質移動
3. 凍結・融解過程にある土壌中の物質移動

担当科目:

1. 土壌物理学 (2 年次)
2. 土壌・土質実験 (3 年次, 分担)
3. 測量学基礎実習 (2 年次, 分担)
4. 水と環境 (1 年次, 分担)
5. 情報基礎 (1 年次, 分担)
6. 農地工学 (3 年次, 分担)
7. 土壌物理学特論 (大学院修士, 分担)
8. 基礎ゼミナール (1 年次)
9. 食料生産環境学概論 (1 年次)
10. 環境計測実験 (3 年次)

所属学会等: 農業農村工学会, 土壌物理学会, 日本雪氷学会, 日本土壌肥料学会, 日本土壌微生物学会
研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. 金山素平, 嘉本晃子, 颯田尚哉, 武藤由子 (2020) マイクロインデンターを用いたカオリン粘土の微小力学的挙動の定量的評価. 粘土科学 59(1): 1-9.
2. 金山素平, 高橋長仁, 山本清仁, 武藤由子, 倉島栄一 (2020) 八郎潟粘土地盤の圧密変形特性. 粘土科学 59(1): 10-17.

山本 清仁

Ymamoto, Kiyohito



赴任: 2009 年

現職: 准教授

学位: 博士(農学)(京都大学)

専門分野: 農業土木学, 地盤工学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 劣化による施設材料の力学特性変化
2. 農業水利施設の調査における非破壊検査手法
3. 農業水利施設の維持管理とその長期的効果
4. 寒冷地における自然エネルギーを用いた温度差発電

担当科目:

1. 情報処理演習 (1 年次, 分担)
2. 応用力学 (1 年次)
3. 施設開発管理学 (2 年次)

4. 農村地域デザイン学演習 (2年次, 分担)

5. 材料実験 (3年次)

6. 施設安全管理学特論 (大学院修士, 分担)

所属学会等 : 農業農村工学会 , 地盤工学会 , 土木学会 ,
日本材料科学会

A. 国内学会発表

1. 高橋郁成, 山本清仁 (2020) 電磁探査による大
柿ダム堤体の比抵抗分布測定 2020年度農業農村
工学会大会講演会講演要旨集 : 449-450.

2. 今野雄太, 山本清仁, 金山素平, 倉島栄一 (2020)
八郎潟における電磁探査による土壌 EC 分布測定 .
2020年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集:
607-608.

食産業システム学コース

小出章二

Koide, Shoji



赴任：1996年

現職：教授

学位：博士（農学）（九州大学）

専門分野：ポストハーベスト工学，生鮮食品保蔵学，食品加工学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 鮮度保持：過冷却青果物保存と日持ち向上
2. 長期保存：青果物冷凍加工
3. 粒食をまもる：低温でおいしいご飯

担当科目：

1. 食料生産環境学概論（1年次，分担）
2. 生活と環境（共通科目，分担）
3. 熱工学（2年次）
4. 食産業システム実験（2年次，分担）
5. 食産業システム実験（3年次，分担）
6. 生物工学（3年次）
7. 農業情報処理（3年次，分担）
8. 食産業システム学演習（3年次）
9. ポストハーベスト工学特論（大学院修士）

所属学会等：農業食料工学会（評議員，食料・食品工学部会幹事），日本食品科学工学会，日本食品保蔵学会，農業施設学会，農業食料工学会東北支部会（常任幹事）

その他の主な活動：岩手食品加工研究会員，いわてアグリフロンティアスクール（IAFS）講師，大分工業高等専門学校講師（農学概論担当），INSいわて雑穀研究会会員，University of Arkansas（Department of Food Science）との連携推進，Reviewer of the Proposal for a Book that has been submitted to CRC Press（from CRC Press）.

研究業績

A. 総説・論説

1. 小出章二，大須賀 玲，折笠貴寛，上村松生（分担執筆）(2020) 青果物の高品質長期保存を目指す：-5℃氷点下保存への取り組み．アグリバイオ，4(13)，1174-1176.

B. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Koide, S., Yoneyama, A., Orikasa, T., Uemura, M. (2020) Assessing the supercooling of fresh-cut onions at -5°C using electrical impedance analysis. Food

Quality and Safety, 4: 55-58.

2. Kurata, D., Orikasa, T., Komuro, M., Sasaki, K., Koide, S. (2020) Quality evaluation of shiitake mushrooms dried by vacuum microwave treatment. Food Science and Technology Research, 26 (3), 339-350.
3. 折笠貴寛，中村千波，小出章二，松嶋卯月，岡田益己(2020) 前加熱処理がトマトパウダのグルタミン酸，グルタミン酸および食味に及ぼす影響．農業食料工学会誌，82(4)：415-417.
4. Sasaki, Y., Orikasa, T., Nakamura, N., Hayashi, K., Yasaka, Y., Makino, N., Shobatake, K., Koide, S., Shiina, T. (2021) Lifecycle assessment of peach transportation considering trade-of between food loss and environmental impact. The International Journal of Life Cycle Assessment, <https://doi.org/10.1007/s11367-020-01832-7>
5. Yamakage, K., Yamada, T., Takahashi, T., Takaki, T., Komuro, M., Sasaki, K., Aoki, H., Kamagata, J., Koide, S., Orikasa, T. (2021) Impact of pre-treatment with pulsed electric field on drying rate and changes in spinach quality during hot air drying. Innovative Food Science & Emerging Technologies, 68, 102615
6. 佐々木琴瑞，折笠貴寛，加藤一幾，松嶋卯月，小出章二(2021) 後加熱処理が減圧マイクロ波濃縮トマトピューレの食味および成分に与える影響．日本食品科学工学会誌，68(3)，115-123．
7. Osuga, R., Koide, S., Sakurai, M., Orikasa T., Uemura, M. (2021) Quality and microbial evaluation of fresh-cut apples during 10 days of supercooled storage. Food Control, 126, 108014 (in press)
8. 小館琢磨，藤岡智明，仲條眞介，岡留博司，小出章二(2021) 高タンパク低アミロース“きらほ”の浸水裂傷粒発生率と吸水特性．日本食品保蔵科学会誌，47(4)（in press）．

C. その他

1. Koide, S. (2021) Determination of alive/dead of fresh cut vegetables during storage at sub-zero temperature. International Lab Seminars (US & Japan) - 1st Joint Webinar between Prof Atungulu's Lab (University of Arkansas) and Profs Koide & Orikasa's Lab -, Online, (PDF version). January 18 US Central (January 19 Japan).

D. 国内学会発表

1. 小館琢磨，藤岡智明，岡留博司，安江紘幸，仲條眞介，小出章二(2020) タンパク質含有率が異なる低アミロース米のとう精特性の経時変化．第

- 250 回日本作物学会講演会(オンライン) pp. 24. 2020年9月3日~2020年9月4日.
2. 大須賀 玲, 小出章二, 桜井美咲, 折笠貴寛, 上村松生(2020) カットリングの過冷却保存が品質に与える影響 2020年度日本冷凍空調学会年次大会(三重大学, オンライン), C231. 2020年9月9日~2020年9月11日.
 3. 高橋修斗, 小出章二, 折笠貴寛, 小館琢磨, 小室岬(2020) 炊飯米を乾燥させた「アルファ化米」の米飯品質の評価. 農業食料工学会東北支部令和2年度支部大会(オンライン)講演要旨集, 20-21. 2020年12月19日.
 4. 大須賀 玲, 小出章二, 桜井美咲, 折笠貴寛, 上村松生(2020) 過冷却保存技術のカットフルーツへの応用. 農業食料工学会東北支部令和2年度支部大会(オンライン)講演要旨集, 22-23. 2020年12月19日.
 5. 山影航也, 折笠貴寛, 小出章二, 佐藤広崇, 高橋克幸, 高木浩一, 青木仁史, 鎌形潤一, 原田和彦(2020) パルス電界前処理がカットリングの熱風乾燥における乾燥速度および品質変化に及ぼす影響. 農業食料工学会東北支部令和2年度支部大会(オンライン)講演要旨集, 24-25. 2020年12月19日.
 6. 小館琢磨, 高橋修斗, 小室 岬, 藤岡智明, 仲條真介, 小出章二(2021) タンパク質含有率が異なる低アミロース米の玄米内部構造と糊化特性. 第251回日本作物学会講演会(オンライン), pp. 109. 2021年3月29日~2021年3月30日.

折 笠 貴 寛

Orikasa, Takakahiro



赴任: 2012年

現職: 准教授

学位: 博士(農学)(千葉大学)

専門分野: 農産物流通工学, ポストハーベスト工学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 6次産業化に資する青果物乾燥技術の開発
2. 青果物加工へのマイクロ波・遠赤外線の適用
3. 食産業に関わるライフサイクルアセスメント

担当科目

1. 情報基礎(1年次, 分担)
2. 基礎ゼミナール(1年次, 分担)
3. 食料生産環境学概論(1年次, 分担)

4. 応用数学(1年次, 分担)
 5. ポストハーベスト工学(2年次)
 6. 食産業システム学演習(2年次, 分担)
 7. 食産業システム学実験(2年次, 分担)
 8. 農産食品プロセス工学(3年次)
 9. 食産業システム学演習(3年次, 分担)
 10. 食産業システム学実験(3年次, 分担)
 11. 農業情報処理(3年次, 分担)
 12. ポストハーベスト工学特論(大学院修士)
- 所属学会等: 農業食料工学会, 日本食品科学工学会, 日本LCA学会, 農産物流通技術研究会
 学会賞等: 日本食品科学工学会論文賞(2011年), 農業機械学会東北支部学術賞(2013年), 平成27年度農業食料工学会東北支部大会優秀発表賞(2015年), 第10回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウムベストポスター賞(2016年), 日本LCA学会奨励賞(2018年)
- その他の主な活動: いわてアグリフロンティアスクール(IAFS)担当教員, 日本LCA学会誌編集委員, 日本LCA学会地域共生研究会・幹事, 農業食料工学会東北支部・会計, 農業食料工学会東北支部常任幹事, 農業食料工学会誌編集幹事, 農業食料工学会食料・食品工学会部会委員, 岩手県食品加工研究会幹事

A. 総説・論説

1. Yamada, T., Yamakage, K., Takahashi, K., Takaki, K., Orikasa, T., Kamagata, J., Aoki, H. (2020) Influence of drying rate on hot air drying processing of fresh foods using pulsed electric field. IEEJ Transactions on Electrical and Electronic Engineering 15(7): 1123-1125.

B. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Kurata, D., Orikasa, T., Komuro, M., Sasaki, K., Koide, S. (2020) Quality evaluation of shiitake mushrooms dried by vacuum microwave treatment. Food Science and Technology Research 26(3): 339-350.
2. 折笠貴寛, 中村千波, 小出章二, 松嶋卯月, 岡田益己(2020) 前加熱処理がトマトパウダのグアニル酸, グルタミン酸および食味に及ぼす影響. 農業食料工学会誌 82(4): 415-417.
3. Koide, S., Yoneyama, A., Orikasa, T., Uemura, M. (2020) Assessing the supercooling of fresh-cut onions at -5°C using electrical impedance analysis. Food Quality and Safety 4(2): 55-58.
4. Ciptaningtyasa, D., Kagoshima, W., Iida, R., Umehara, H., Johkan, M., Nakamura, N., Orikasa, T.,

Thammawong, M., Shiina, T. (2020) Development of a prediction model for the pericarp CIE a* value of mature green tomato at different storage temperatures as a function of cumulative ethylene production. Journal of Food Engineering 278: 109945.

5. Yamakage, K., Yamada, T., Takahashi, K., Takaki, K., Komuro, M., Sasaki, K., Aoki, H., Kamagata, J., Koide, S., Orikasa, T. (2021) Impact of pre-treatment with pulsed electric field on drying rate and changes in spinach quality during hot air drying. Innovative Food Science and Emerging Technologies 68: 102615.
6. 佐々木琴瑞, 折笠貴寛, 加藤一幾, 松嶋卯月, 小出章二 (2021) 後加熱処理が減圧マイクロ波濃縮トマトピューレの食味および成分に与える影響. 日本食品科学工学会誌 68(3): 115-123.

C. 国内学会発表

1. 大須賀 玲, 小出章二, 桜井美咲, 折笠貴寛, 上村松生 (2020) 過冷却保存技術のカットフルーツへの応用. 農業食料工学会東北支部 2020 年度年次大会.
2. 山影航也, 折笠貴寛, 小出章二, 佐藤広崇, 高橋克幸, 高木浩一, 青木仁史, 鎌形潤一, 原田和彦 (2020) パルス電解前処理がカットリンゴの熱風乾燥における乾燥速度および品質変化に及ぼす影響. 農業食料工学会東北支部 2020 年度年次大会.

木下 幸雄
Kinoshita, Yukio



赴任：2005 年

現職：准教授

学位：博士（農学）（東京大学）

専門分野：農業経済学，農業経営学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 実践的農業経営学の構築
2. 農業環境政策の形成過程に関する国際共同研究
3. 官民協働に関する公共経済学的研究

担当科目：

1. 食料生産環境学概論（1 年次後期，分担）
2. 水と環境（1・2 年次後期，分担）
3. 農業経済学（2 年次前期）
4. 食産業システム学演習（2 年次後期，分担）
5. 食料・農業政策論（3 年次前期）
6. 農業経営学（3 年次前期）
7. 食産業マーケティング論（3 年次後期）

8. 農業情報処理（3 年次後期，分担）
9. 農業経営・経済学演習（3 年次後期）
10. 農業時事演習（3 年次後期）
11. 食産業システム学演習（3 年次後期，分担）
12. 卒業研究（4 年次通年）
13. 農業経営学特論（修士 1・2 年次後期）

所属学会等：日本農業経済学会，日本農業経営学会，農業農村工学会，水資源・環境学会，日本マネジメント学会，Australasian Agricultural and Resource Economics Society，International Farm Management Association
学会賞等：胆沢平野土地改良区感謝状（2019 年），農業農村工学会優秀報文賞（2018 年），胆沢平野土地改良区感謝状（2018 年），農業農村工学会優秀報文賞（2017 年），日本農業経済学会ポスター賞（2013 年），オーストラリア政府エンデバー奨学金研究フェロシップ（2012 年），韓国政府農林水産食品部韓日農漁村交流名誉大使（2010 年），日本農業経済学会ポスター賞（2009 年）

その他の主な活動：

1. サウス・オーストラリア大学ビジネススクール 連携准教授
2. 独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会 専門委員
3. 農林水産省食料・農業・農村政策審議会 臨時委員
4. 農林水産省水管理施設整備効果等に係る効果算定手法検討会 委員
5. 農林水産省全国優良経営体表彰 審査委員
6. 農林水産省土地改良経済効果研究会 委員
7. 公益財団法人東北活性化研究センター有識者アドバイザー会議 委員
8. 実教出版株式会社令和 6 年度用教科書「農業経営」 編修委員

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術誌誌

1. Kinoshita, Y., Dollery, B. and Yamazaki, K. (2020) Creating Institutional Advantage: Local government Co-production with Community Groups. Asia Pacific J. of Public Admin. 42(3): 170-187.

庄野 浩資
Shono, Hiroshi



赴任：1991 年

現職：准教授

学位：博士（農学）（東京大学）
専門分野：農業環境工学，農業情報工学
主な研究テーマおよび主な教育研究活動：

1. 画像計測
2. リモートセンシング
3. 精密農業

担当科目：

1. 情報処理演習（1年次後期，分担）
2. 農業気象・環境学（2年次後期）
3. 食産業システム学実験（2年次後期，分担）
4. プログラミング演習（2年次後期）
5. 植物環境物理学（3年次前期）
6. 食産業システム学実験（3年次前期，分担）
7. 農業情報処理（3年次後期，分担）
8. 植物栽培と環境テクノロジー（分担：全学共通）
9. 地学入門（分担：全学共通）
10. 植物環境情報学特論

所属学会等：日本農業気象学会，日本生物環境工学会，農業情報学会

学会賞等：日本生物環境調節学会奨励賞（1997年），農業情報学会学術奨励賞（2007年），農業情報学会論文賞（2013年）

その他の主な活動：農業情報学会評議員，日本生物環境工学会評議員

研究業績

A. 国内学会発表

1. 松嶋卯月，篠田早紀，庄野浩資（2021）塩水で湛水栽培されたコマツナ葉の水ポテンシャル調節機能. 日本農業気象学会 2021 年全国大会および International Symposium on Agricultural Meteorology 2021 (ISAM2021)，講演発表.
2. 松嶋卯月，佐藤文佳，庄野浩資（2020）赤外線および重水トレーサを用いた植物細胞内における水移動可視化. 日本農業気象学会 2020 年全国大会および International Symposium on Agricultural Meteorology 2020 (ISAM2020)，講演発表.

前田 武己

Maeda, Takeki



赴任：2001年

現職：准教授

学位：博士（農学）（北海道大学）

専門分野：生物資源科学

主な研究テーマおよび主な教育研究活動：

1. 堆肥化に関する速度論的・量論的な解析

2. 生物系廃棄物の利用に関する研究

担当科目：

1. 未利用資源利用論（2年次後期）
2. 農業環境科学特論（地域創生専攻）
3. 廃棄物と環境（分担：全学共通）
4. 食料生産環境学概論（分担：1年次後期）
5. ものづくり実習（分担：2年次前期）
6. 食産業システム学実験（分担（代表）：2年次後期）
7. 食産業システム学演習（分担：2年次後期）
8. 食産業システム学実験（分担：3年次前期）
9. 食産業システム学演習（分担：3年次後期）
10. 農業情報処理（分担：3年次後期）

所属学会等：農業食料工学会（企画委員），農業施設学会，日本土壌肥料学会，廃棄物資源循環学会

その他の主な活動：岩手県廃棄物処理施設等設置専門委員会委員，盛岡市廃棄物処理施設等設置等専門委員会委員，盛岡市廃棄物対策審議会委員，雫石町環境審議会委員

松嶋 卯月

Matsushima, Uzuki



赴任：2005年

現職：准教授

学位：博士（農学）（東京大学）

専門分野：植物生体計測学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 中性子およびX線イメージング等の農学への応用
2. 各種イメージング法を用いた植物体内水移動解析

担当科目：

1. 栽培施設学（2年次）

所属学会等：生物環境調節学会，農業食料工学会，日本農業気象学会，International Society for Neutron Radiology

研究業績

A. 国内学会発表

1. 松嶋卯月，佐藤文佳，庄野浩資（2020）塩水で湛水栽培されたコマツナ葉の浸透ポテンシャル調節過程. 日本農業気象学会 2021 年全国大会（オンライン）.

水産システム学コース

平井俊朗

Hirai, Toshiaki



赴任：2016年

現職：教授

学位：医学博士（群馬大学）

専門分野：水産増殖学，生殖生物学，内分泌学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 魚類の性分化機構の解明と水産対象種の性統御技術開発
2. 魚類の性成熟機構の解明と水産対象種の人為繁殖技術開発
3. 次世代型水産養殖技術に向けた研究と地域新業態水産業創生

担当科目：

1. 水産科学入門（1年次，分担）
2. 水族生理学（2年次）
3. 水産生物学実験（2年次，分担）
4. 水産増殖学（2年次）
5. 水圏生命科学特論（院修士1年次，分担）
6. 水圏生命科学演習（院修士1年次，分担）
7. 水族生理学特論（院修士1年次）
8. 水族生理学演習（院修士1年次）
9. 水産生命科学特別講義（院修士1年次）

所属学会等：日本水産学会，日本比較内分泌学会，日本動物学会 ほか

石村学志

Ishimura, Gakushi



赴任：2015年

現職：准教授

学位：Ph.D. in Resource Management and Environmental Studies (The University of British Columbia, CANADA)

専門分野：資源経済学，資源政策学，数理資源管理学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 多魚種漁獲漁業管理のための金融工学理論分析
2. 漁船漁業の漁獲行動分析と経営改善
3. 水産資源利用の生物経済分析
4. 気候変動下での沿岸社会の適応戦略
5. 衛星データ・人工知能解析を使った漁獲行動分析

担当科目：

1. 水産科学入門（1年次，分担）

2. 生物統計学（1年次）
3. コミュニケーション論（2年次）
4. 起業学入門（2年次，分担）
5. 経営管理学入門（2年次）
6. 漁業経営・水産マーケティング論（2年次，分担）
7. 6次産業化論（2年次，分担）
8. ミクロ経済学入門（2年次）
9. 環境・資源経済学入門（2年次）
10. 経営管理学入門（2年次）
11. 水産制度学（3年次，分担）
12. 水産政策学（3年次）
13. 起業学実習（3年次，分担）
14. 数理漁業資源学（3年次，分担）
15. 漁村計画学（3年次，分担）
16. 地域マネジメント概論（3年次，分担）
17. 自然環境政策論（3年次，分担）
18. 水産システム学特論（大学院）
19. 水産システム学演習（大学院）
20. 水産政策学特論（大学院）
21. 水産政策学演習（大学院）
22. 漁業数理・資源経済学特論（大学院）
23. 漁業数理・資源経済学演習（大学院）
24. 地域創生特論（大学院，分担）

所属学会等：Institute of Fishery Economics and Trade, North America Association of Fishery Economics, 日本水産学会，海洋政策学会，水産海洋学会

その他の主な活動：Pew Marine Fellow (2021年～)，Scientific Advisory Board Member, Global Fishing Watch (2021年～)，国立研究法人国立環境研究所客員研究員(2019年～)，University of Iceland, Faculty of Business Administration 博士課程指導教員(2019年～2021年)，放送大学卒業研究指導教員(2018年～2020年)，Marine Stewardship Council, Stakeholder Council 委員 (2015～2017年)

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Christopher Costello, Ling Cao and Stefan Gelcich, Miguel Angel Cisneros, Christopher M. Free, Halley E. Froehlich, Elsa Galarza, Christopher D. Golden, Gakushi Ishimura, Jason Maier, Ilan Macadam-Somer, Tracey Mangin, Michael C. Melnychuk, Masanori Miyahara, Carryn de Moor, Rosamond Naylor, Linda Nøstbakken, Elena Ojea, Erin O'Reilly, Giacomo Chato Osio, Ana M. Parma, Fabian Pina Amargos, Andrew J. Plantinga, Albert Tacon, and Shakuntala H. Thilste.

- (2020) The future of food from the sea. *Nature* 588 95–100. <https://doi.org/10.1038/s41586-020-2616-y>
- 2 . Keita Abe, Yusuke Matsuki, Gakushi Ishimura, Shunsuke Managi (2021) Rent distribution in an ex-vessel auction market of fisheries. *Marine Policy*. <https://doi.org/10.1016/j.marpol.2021.104771>
 - 3 . Christopher Costello, Katherine Millage, Sabrina Eisenbarth, Elsa Galarza, Gakushi Ishimura, Laura Lea Rubino, Vienna Saccomanno, U. Rashid Sumaila & Kent Strauss.(2020) Ambitious subsidy reform by the WTO presents opportunities for ocean health restoration. *Sustainability Science*. <https://doi.org/10.1007/s11625-020-00865-z>
 - 4 . Lydia C.L.Teh Louise S.L.Teh, Keita Abe, Gakushi Ishimura, RaphaelRoman.(2020) Small-scale fisheries in developed countries: Looking beyond developing country narratives through Japan’s perspective. *Marine Policy*. <https://doi.org/10.1016/j.marpol.2020.104274>
 - 5 . Stefán B. Gunnlaugsson, Daði Már Kristófersson, Sveinn Agnarsson, Hörður Sævaldsson and Gakushi Ishimura. (2021) Derby versus ITQ: Iceland’s coastal fisheries explained and compared to its ITQ-managed fisheries. *Regional Studies in Marine Science*. <https://doi.org/10.1016/j.rsma.2021.101665>

袁 春 紅
YUAN, Chunhong



赴任：2016年

現職：准教授

学位：博士（水産科学）（北海道大学）

専門分野：水産食品科学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

- 1 . 三陸水産物の超高鮮度維持技術の開発
- 2 . 高度加工による高付加価値化技術開発
- 3 . 三陸水産物の高度利用

担当科目：

- 1 . 水産食品加工学（3年次）
- 2 . 水産物流通論（3年次）
- 3 . 分析化学実験（2年次，分担）
- 4 . 漁業経営・水産マーケティング論（2年次）
- 5 . 水産化学（2年次，分担）
- 6 . 水産科学入門（1年次，分担）
- 7 . 生活と化学（1年次，分担）
- 8 . 水産物流・マーケティング特論（大学院）

9 . 水産食品加工学特論（大学院）

10 . 水産食品加工学演習（大学院）

所属学会等：中国水産学会会員，日本水産学会会9

員，アメリカInstitute of Food Technologists

(IFT)学会，日本冷凍空調学会本

その他の主な活動：NPO法人国際食育交流促進協会

代表理事

研究業績

A . 原著論文

(a)学術雑誌

- 1 . Rasul, Md.G., Yuan, C.H. and Shah, A.K.M.A. (2020) Chemical and Microbiological Hazards of Dried Fishes in Bangladesh: A Food Safety Concern. *Food and Nutrition Sciences*, 11, 523-539. <https://doi.org/10.4236/fns.2020.116037>
- 2 . Yang, S., Hu, Y., Takaki, K., Yuan, C., & Yu, H. (2021) The impact of thawing on the quality attributes of swimming crab (*Portunus trituberculatus*) frozen by liquid nitrogen freezing. *CyTA - Journal of Food*, 19:1, 33-39, DOI:10.1080/19476337.2020.1850531
- 3 . Wei, H., Tian, Y., Lin, Y., Maeda, H., Yamashita, T., Yu, K., Takaki, K., & Yuan, C. (2020). Condition-dependent adenosine monophosphate decomposition pathways in striated adductor muscle from Japanese scallop (*Patinopecten yessoensis*) . *J Food Sci*, 85(5), 1462-1469.
- 4 . Ge, Y., Li, Y., Wu, T., Bai, Y., Yuan, C., Chen, S., Gakushi, I., Hu, Y. (2020). The preservation effect of CGA-Gel combined with partial freezing on sword prawn (*Parapenaeopsis hardwickii*) . *Food Chemistry* 313 126078 - 126078
- 5 . Rasul, M.G., Kabir, I.E., Chunhong, Y. and Shah, A.K.M.A. (2020). Effects of Drying Methods on Physico-chemical, Microbiological and Sensory Properties of Torpedo Scad (*Megalaspis cordyla*). *Journal of Microbiology, Biotechnology and Food Sciences*. (Accepted and will be in online soon) (Scopus indexed)
- 6 . 小笠原聖佳, 平井俊朗, 袁春紅(2021) 処理と冷凍・解凍方法による養殖サクラマスの鮮度変化. *養殖ビジネス*, 2月, 17-21 .

B . 国際学会発表

- 1 . Yu, K., Yuan, C. et al. (2020) Application of nondestructive measurement for fish and shellfish freshness evaluation and its limitations. *Online International Symposium of FSMILE 2020 Nov 24th-*

- 25th.
2. Dong, S., Yuan, C. et al. (2020) Effect of Super-chilling Storage on Maintenance of Quality and Freshness of Pacific oyster *Crassostrea gigas*. Online International Symposium of FSMILE 2020 Nov 24th-25th.
 3. Ogasawara, S., Yuan, C. et al. (2020) Effect of post-catch handling on freshness of farmed Cherry salmon (*Oncorhynchus masou*). Online International Symposium of FSMILE 2020 Nov 24th-25th.
 4. Muto, A., Yuan, C. et al. (2020) Changes in freshness of ascidian *Harocynthia roretzi* in various storage conditions Online International Symposium of FSMILE 2020 Nov 24th-25th.

C. 国内学会発表

1. 田元勇, 姜明慧, 刘俊荣, 佐藤里胡, 于克鋒, 袁春紅 (2021) ホタテガイ閉殻横紋筋の筋原繊維タンパク質の高い熱安定性の要因分析. 令和3年度日本水産学会春季大会.
2. 于克鋒, 董師良, 牛雅斌, 島陰直人, 袁春紅 (2021) 異なる保管条件におけるホタテガイ貝柱のインピーダンス変化と生化学指標の関係. 令和3年度日本水産学会春季大会.
3. 藺禹萌, 于克鋒, 魏華茂, 董師良, 山下哲郎, 袁春紅 (2021) ツノナシオキアミ黒変に關与する酵素の部分精製及び生化学特性. 令和3年度日本水産学会春季大会.

後藤友明

Goto, Tomoaki



赴任：2016年

現職：准教授

学位：博士（水産学）（北海道大学）

専門分野：漁業資源生態学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 岩手県の沿岸漁業における東日本大震災からの復興に関する研究
2. 沿岸漁業資源を対象とした資源管理に関する研究
3. 三陸沿岸域における漁業資源の生態に関する研究
4. 外来種ヨーロッパザラボヤの生態に関する研究
5. 定置網におけるクロマグロ漁獲制御技術開発

担当科目：

1. 海洋実習（1年次）
2. 水産科学入門（1年次，分担）

3. 総合フィールド科学（1年次，分担）
4. 応用数学（1年次，分担）
5. 水産動物学（2年次）
6. 漁業資源生態学（2年次）
7. 水産生物学実験（2年次，分担）
8. 地域振興経済・政策論（3年次）
9. 数理漁業資源学（3年次，分担）
10. 水産制度学（3年次，分担）
11. 海洋実習（3年次）
12. 漁村調査実習（3年次）
13. 自然環境政策論（3年次，分担）

所属学会等：日本水産学会（東北支部幹事，水産環境保全委員会委員長，水産政策委員会副委員長，水産教育推進委員），日本魚類学会，水産海洋学会（理事，評議委員，活性化委員長，事業委員），日本板鰓類研究会（編集幹事）

学会賞等：日本水産学会東北支部長賞（2006年），三陸海域研究論文知事表彰特別賞（2014年），水産海洋学会論文賞（2015年），水産海洋学会宇田賞（2016年）

他大学講師：盛岡大学「地域食材資源論」

その他の主な活動：定置網漁業技術研究会会長，大船渡市漁業就業者確保育成協議会委員，我が国周辺水産資源調査・評価事業外部有識者，第7回三陸地域研究集会（一般社団法人水産海洋学会地域研究集会）コンピーナー，岩手県資源管理協議会オブザーバー，いわて水産アカデミー講師

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. 川尻 博, 石村学志, 後藤友明 (2020) 三陸水産物の価格向上戦略探求 活度保持に着目した野田村産ホタテガイの大遠隔地での販路拡大を目指した輸送試験からの考察. 北日本漁業経済, 47.
2. Goto, T., Takanashi, A. (2020) Changes in the strategy of a small-scale jigging fishery for Japanese flying squid *Todarodes pacificus* off northeastern Japan. Fisheries Science, 86: 1-11.
3. 後藤友明 (2020) 三陸沿岸で採集されたヤナギノマイ *Sebastes steindachneri* にみられた色彩と形態異常の記録. 日本生物地理学会会報, 74: 32-35.
4. 後藤友明, 高梨愛梨 (2020) 三陸沿岸におけるタヌキメバル *Sebastes zonatus* の年齢, 成長および成熟特性. 水産海洋研究, 84: 100-109.
5. 片寄 剛, 佐藤直司, 森 俊彰, 難波伸由, 後藤

- 友明, 朝日田卓 (2020) 岩手県南部の砂浜域砕波帯におけるチカHypomesus japonicus誌稚魚の出現動態とその変動要因. 日本水産学会誌, 86: 450-459.
6. Goto, T., H. Shibata, T. Murakami (2021) Effects of the 2011 Tohoku earthquake and tsunami on the abundance and composition of anthropogenic marine debris on the continental slope off the Pacific coast of northeastern Japan. *Marine Pollution Bulletin*, 164: 112039.
7. 後藤友明, 泉澤 宏, 及川利幸 (2021) 三陸沖定置網揚網中の箱網内で行われたROVによる連続観察試験に基づくクロマグロ遊泳深度に関する一知見. 日本水産学会誌, 87: 281-283.
- B. その他
1. 谷瀬香保, 後藤友明 (2020) 東北太平洋沖ババガレイにおける年齢査定手法の確立. *東北底魚研究*, 40: 12-15.
 2. 阿部孝祐, 後藤友明 (2020) 2017年と2018年におけるマコガレイ当歳魚の分布と成長. *東北底魚研究*, 40: 23-29.
 3. 後藤友明, 星野恭佑, 吉川昌吾 (2020) 2018年の大槌湾奥砂浜域における魚類と底生生物群集の特徴. *東北底魚研究*, 40: 137-148.
- C. 学会発表
1. 後藤友明, 齋藤優弥 (2021) 岩手県の定置網漁獲変動と海洋環境の関連性. 第7回水産海洋学会三陸海域の水産業と海洋研究集会.

5. 水産生物学実験 (2年次, 分担)
 6. 三陸の研究 (2年次, 分担)
 7. 海洋実習 (3年次)
 8. 水族ゲノム生物学 (3年次)
 9. 自然環境政策論 (3年次, 分担)
 10. 水圏生命科学特論 (大学院修士, 分担)
 11. 水圏生命科学演習 (大学院修士, 分担)
 12. 先端生命科学特論 (大学院修士, 分担)
- 所属学会等: 日本魚類学会, 日本水産学会, 日本進化学会, 水産育種研究会
 学会賞等: 岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業特別賞 (2013年), サケ科学奨励賞 (2016年)
 研究業績

A. 報告書・事業報告書

1. 塚越英晴 (2020) サクラマス種苗生産技術見直しへ向けた春遡上・秋遡上群の遺伝特性分析. *三陸総合研究*. 45:21-22.

B. 国内学会発表

1. 小田 彩, 板垣 匡, 浦和茂彦, 塚越英晴 (2020) 岩手県のサケの消化管内から検出された条虫2種 (*Eubothrium crissum*, *Proteocephalus sp.*) の遺伝的特徴. 令和3年度日本水産学会春季大会 講演番号: 601.

塚 越 英 晴
Tsukagoshi, Hideharu



赴任: 2016年
 現職: 助教
 学位: 博士 (水産科学)
 (北海道大学)

専門分野: 水族遺伝学, 分子生態学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. サケ類の遺伝特性に関わる研究
2. 海面・内水面漁業重要種の遺伝特性に関わる研究
3. 通し回遊性魚類の分子生態学的研究

担当科目:

1. 水産科学入門 (1年次, 分担)
2. 海洋実習 (1年次, 分担)
3. 情報基礎 (1年次, 分担)
4. 基礎生物学実験 (1年次, 分担)

(5) 動物科学科

喜多一美

Kita, Kazumi



赴任：2006年

現職：教授（2015年3月～理事）

学位：農学博士（名古屋大学）

専門分野：動物栄養学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 高血糖動物における生体内糖化反応に関する研究
2. 未利用資源の家畜飼料原料化に関する研究

担当科目：

1. 動物科学総論（1年次，分担）
2. 飼料機能学（2年次）
3. 家畜飼養学（3年次）
4. 動物科学実験（3年次，分担）
5. 動物栄養生化学特論（大学院修士）

所属学会等：日本畜産学会，日本家禽学会，日本草地学会，日本分子生物学会，日本栄養・食糧学会，東北畜産学会，家畜栄養生理研究会

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Md Salahuddin, Hiramatsu, K. and Kita, K. (2020) Dietary protein level influences on neurotensin-immunoreactive cells in the chicken ileum. *Journal of Poultry Science*. 57(4): 297-302.
2. Makino, R., Uda, M., Shuto, S., Tachibana, T. and Kita, K. (2021) Influence of dietary metformin on growth performance, and plasma concentrations of amino acid and advanced glycation end product in two-types of chickens. *Journal of Poultry Science*. 58(2):110-118.

B. 国内学会発表

1. 平川 祥，牧野良輔，喜多一美(2020) 異なる3種の飼料中植物タンパク質源がニワトリ血漿中終末糖化産物（AGEs）濃度に及ぼす影響．日本家禽学会 2020 年度春季大会，京都大学．
2. 樺元鈴菜，牧野良輔，喜多一美(2020) 植物性タンパク質と動物性タンパク質の違いがニワトリの血漿中終末糖化産物濃度に及ぼす影響．日本家禽学会 2020 年度春季大会，京都大学．
3. 瀧田千恵，樺元鈴菜，喜多一美(2020) 動物性タンパク質源摂取がニワトリ組織中のフルクトサミン3キナーゼ遺伝子発現に及ぼす影響．日本家禽学会 2020 年度春季大会（2020年），京都大学．
4. 平川 祥，川野辺真子，喜多一美(2020) 型糖

尿病マウスにおける血漿中アミノ酸アマドリ化合物濃度．第74回日本栄養・食糧学会大会，仙台国際センター，東北大学川内北キャンパス．

5. 平川 祥，牧野良輔，喜多一美(2020) 飼料中タンパク質源の違いがニワトリ血漿中アミノ酸アマドリ化合物濃度に及ぼす影響．2020年第43回日本分子生物学会年会，オンライン．
6. 樺元鈴菜，牧野良輔，喜多一美(2020) 植物性タンパク質または動物性タンパク質を摂取したニワトリの血漿中アミノ酸アマドリ化合物濃度．2020年第43回日本分子生物学会年会，オンライン．
7. 平川 祥，酒井妙衣，喜多一美(2021) ニワトリにおけるアミノ酸アマドリ化合物の血中半減期．第128回日本畜産学会大会，オンライン．

澤井 健

Sawai, Ken



赴任：2007年

現職：教授

学位：博士（農学）（岡山大学）

専門分野：動物生殖工学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 家畜初期胚の遺伝子発現制御機構に関する研究
2. 家畜初期胚の体外生産技術に関する研究

担当科目：

1. 動物発生学（2年次）
2. 動物生殖学（2年次）
3. 動物生殖学各論（3年次）
4. 家畜生殖技術論（3年次）
5. 動物科学実験（3年次）
6. 牧場実習（3年次）
7. 動物科学総論（1年次）
8. 動物生殖工学特論（大学院修士）

所属学会等：日本繁殖生物学会，日本畜産学会，日本分子生物学会，日本卵子学会，Society for the Study of Reproduction

学会賞等：日本繁殖生物学会奨励賞，日本繁殖生物学会学術賞

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Emura, N., Saito, Y., Miura, R. and Sawai, K. (2020) Effect of downregulating the Hippo pathway members YAP1 and LATS2 transcripts on early development and

gene expression involved in differentiation in porcine embryos. Cell. Reprogram. 22: 62-70.

B. 国内学会発表

1. 澤井 健 (2020) 家畜胚の初期発生における組織分化制御因子の役割に関する研究. 第113回日本繁殖生物学会講演要旨: j27.
2. 三浦瑠璃, 江村菜津子, 澤井 健 (2020) SOX2発現抑制が血清添加培地でのブタ初期胚発生におよぼす影響. 第113回日本繁殖生物学会講演要旨: j67.
3. Emura, N., Miura, R. and Sawai, K. (2020) Effects of downregulating AMOT transcripts by RNA interference on early development of porcine embryos. 第43回日本分子生物学会年会.

築城幹典

Tsuiki, Mikinori



赴任: 1997年

現職: 教授

学位: 博士(農学)(京都大学)

専門分野: 草地生態学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 飼料生産における環境影響の定量的評価
2. リモートセンシングを用いた草地環境の評価
3. 草地における放射性物質動態の解明

担当科目:

1. 動物科学総論(1年次, 分担)
2. 生物統計学(1年次)
3. 畜産環境評価論(3年次)
4. 動物科学実験(3年次, 分担)
5. 草地学(3年次)
6. 草地学特論(大学院修士)
7. 実践統計学(連合農学研究科)

所属学会等: 日本草地学会(副会長), システム農学会(会長), 日本分類学会

他大学講師・客員研究員等: 北里大学獣医畜産学部非常勤講師(草地生態学特論, 植物生態学特論), 京都大学農学研究科非常勤講師(応用生物科学特別講義)

その他の主な活動: 岩手県原発放射線影響対策アドバイザー, 岩手県農業研究センター試験研究推進アドバイザー

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Tarumi, E. and Tsuiki, M. (2020) The cool-season grass

productivity estimation model evaluating impact of global warming, and adaptation strategies on global warming. Grassland Science, <https://doi.org/10.1111/grs.12310>

B. 国内学会発表

1. 築城幹典, 判田玲奈, 樽見恵梨奈, 山田大吾 (2020) 採草地における放射性セシウム移行係数推定モデル. システム農学会 2020 年度大会講演要旨集, pp.37-38.
2. 樽見恵梨奈, 佐藤 真, 築城幹典 (2020) 溶融スラグを用いた牧草生産の環境影響評価. システム農学会 2020 年度大会講演要旨集, pp.7-8.

西向めぐみ

Nishimukai, Megumi



赴任: 2013年

現職: 教授

学位: 博士(農学)(北海道大学)

専門分野: 動物生理学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 機能性リン脂質の役割に関する基盤的研究

担当科目:

1. 動物生理学(2年次)
2. 動物生理学(2年次)
3. 動物生理学特論(大学院修士)
4. 動物科学実験(2年次, 分担)
5. 生命のしくみ(全学1年次, 分担)
6. 動物科学総論(1年次, 分担)
7. 動物と環境(全学1年次, 分担)

所属学会等: 日本農芸化学会, 日本栄養・食糧学会, 日本脂質栄養学会, 日本脂質生化学会, 日本畜産学会, 日本油化学会

研究業績

A. 著書・訳書

1. 西向めぐみ(分担執筆)(2020) 生体におけるリン脂質の性状と機能性.(機能油脂懇話会監修), 建帛社, 東京, pp.111-136.

B. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Moriya, H., Takita, Y., Matsumoto, A., Yamahata, Y., Nishimukai, M., Miyazaki, M., Shimoi, H., Kawai, S.J. and Yamada, M. (2020) *Cobetia* sp. Bacteria, Which Are Capable of Utilizing Alginate or Waste *Laminaria* sp. for Poly(3-Hydroxybutyrate) Synthesis, Isolated From a Marine Environment. Front. Bioeng. Biotechnol. 8:974.

- Mikami, D., Sakai, S., Nishimukai, M., Yuyama, K., Mukai, K. and Igarashi, Y. (2021) Structure-dependent absorption of atypical sphingoid long-chain bases from digestive tract into lymph. *Front. Lipids Health Dis.* 20: 24.

C. 国内学会発表

- 高橋遥風, 藤盛和子, 山崎裕也, 杉山 梢, 滋野浩一, 原 博, 西向めぐみ (2020) 脂質代謝関連組織細胞株を用いたアルキル型リン脂質の吸収とプラスマローゲンへの変換の探索. 第74回日本栄養・食糧学会大会要旨集.
- 庄司智彦, 西向めぐみ (2020) UV照射がラット皮膚構成脂質に及ぼす影響. 日本栄養・食糧学会東北支部第54回大会.
- 岩波梨花, 西向めぐみ (2020) アデニン誘導による慢性腎臓病モデルマウスでは血漿と腎臓のエーテル型リン脂質組成の変化は異なる. 日本栄養・食糧学会東北支部第54回大会.
- 大家功之, 西向めぐみ (2020) 運動および高シヨ糖食が骨格筋エーテル型リン脂質の組成に与える影響. 日本栄養・食糧学会東北支部第54回大会.
- 橋口季和, 山崎裕也, 杉山 梢, 西向めぐみ (2020) 高コレステロール食摂取による血中プラスマローゲン減少モデルラットへのアルキル型リン脂質摂取による脂質代謝への影響. 日本栄養・食糧学会東北支部第54回大会.
- 佐藤奈々, 金濱 晶, 柏木明子, 山田美和, 西向めぐみ (2020) 微生物由来プラスマローゲンのラット小腸におけるリンパ吸収動態. 日本農芸化学会2021年度大会.

松原和衛
Matsubara, Kazuei



赴任：1996年

現職：教授

学位：博士（農学）

（岩手大学大学院連合農学研究科）

専門分野：動物育種・生殖学，生殖免疫学，実験動物学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

- 超早期妊娠因子（Super-EPF）に関する研究
- 始原生殖細胞（PGC）に関する研究
- 野生動物に関する研究

担当科目：

- 動物科学実験（動物科学2年次，分担）
- 動物遺伝育種学（動物科学2年次）
- 動物遺伝育種学特論（大学院修士）
- 生命のしくみ（教養教育1年次，分担）
- 動物科学総論（動物科学1年次，分担）
- 家畜育種学（動物科学3年次）
- 実験動物学概論（動物科学1年次）

所属学会等：日本繁殖生物学会，日本生殖免疫学会（評議員，編集委員），日本野生動物医学会，日本卵子学会（評議員），日本生殖医学会，日本家禽学会，日本生殖発生医学会（評議員）
学会賞等：東北畜産学会賞学術賞（1995年），日本家畜臨床学会賞（2010年），The Journal of Poultry Science優秀論文賞（2012年）

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術誌誌

- Kawagoe, Y., Kawashima, I., Sato, Y., Okamoto, N., Matsubara, K. and Kawamura, K. (2020) CXCL5-CXCR2 signaling is a senescence-associated secretory phenotype (SASP) in preimplantation embryos. *Aging cell*: e13240: 1-14. DOI: 10.1111/ace1.13240.

B. 国内学会発表

- 中村啓哉, 松原和衛 (2020) 胚性期の精細管発達と生殖細胞増殖は非同期的に起こる. 第65回日本生殖医学会学術講演会・総会抄録集: pp. 189.
- 片平睦子, 中村啓哉, 横尾正樹, 松原和衛 (2020) 抗ウシSuper-EPFモノクローナル抗体の精製と評価. 第65回日本生殖医学会学術講演会・総会抄録集: pp. 215.
- 中村啓哉, 松原和衛 (2020) 始原生殖細胞定着後の生殖隆起における血管新生能力の検討. *J. Reprod. Dev.* 64 (Suppl) Japanese Issue, 第113回日本繁殖生物学会大会プログラム: pp. j75.
- 岩川 岳, 中村啓哉, 松原和衛 (2020) 始原生殖細胞の異種間移植を想定したニワトリ胚への蛍光マイクロビーズ移植. *J. Reprod. Dev.* 64 (Suppl) Japanese Issue, 第113回日本繁殖生物学会大会プログラム: pp. j74.
- アボット・リンモエ, 中村啓哉, 松原和衛 (2020) 培養温度の変化がニワトリ始原生殖細胞に及ぼす影響. *J. Reprod. Dev.* 64 (Suppl) Japanese Issue, 第113回日本繁殖生物学会大会プログラム: pp. j74.
- 佐藤英優, 岩川 岳, 中村啓哉, 松原和衛 (2020) マウス胚性期の精細管発達と生殖細胞増殖の関連性. *J. Reprod. Dev.* 64 (Suppl) Japanese Issue, 第113回

日本繁殖生物学会大会プログラム: pp j54.

7. 門岡 憲, 中村啓哉, 平田統一, 松原和衛(2020) ウシ尿中EPF様物質による早期妊娠診断の可能性. J. Reprod. Dev 64 (Suppl) Japanese Issue, 第113回日本繁殖生物学会大会プログラム: pp j104.
8. 門岡 憲, 平田統一, 片平睦子, 中村啓哉, 横尾正樹, 川越雄太, 佐藤可野, 河村和弘, 松原和衛(2020) マウスおよびウシIVF胚に対する超早期妊娠因子抗体の反応. 第61回日本卵子学会学術集会プログラム: pp.S56.

小 田 伸 一

Oda, Shinichi



赴任: 1994年

現職: 准教授

学位: 農学博士 (東北大学)

専門分野: 動物栄養生理学, 動物栄養機能学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 反芻動物の栄養機能と白血球機能
2. 反芻動物の血漿抗酸化活性と白血球機能

担当科目:

1. 動物栄養学 (2年次)
2. 動物科学実験 (2年次, 分担)
3. 動物科学総論 (1年次, 分担)
4. 基礎生物学実験 (1年次, 分担)
5. 動物栄養生理学特論 (大学院修士)
6. 人の暮らしと生物環境 (全学1年次, 分担)
7. 環境マネジメントと岩手大学(全学1年次, 分担)
8. 愛玩動物栄養学 (3年次)
9. 生物学入門 (1年次, 分担)
10. 科学英語 (3年次, 分担)

所属学会等: 日本畜産学会, 東北畜産学会, 日本ペット栄養学会, 日本乳房炎研究会

その他の主な活動: 岩手大学生生活協同組合理事長

研究業績

A. 報告書・事業報告書

1. 小田伸一(2021) 土壌改良植物活性材「みみっこ」の動物への応用可能性. 共同研究報告書.
2. 小田伸一(2021) プロバイオティクスCRONOBE-EXの耐糖能試験. 共同研究報告書.

出 口 善 隆

Deguchi, Yoshitaka



赴任: 2002年

現職: 准教授

学位: 博士 (農学) (東北大学)

専門分野: 応用動物行動学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 野生動物の行動管理
2. 展示動物の行動管理
3. 牛の行動管理

担当科目:

1. 動物管理学 (2年次)
2. 動物行動学 (3年次)
3. 動物科学総論 (1年次, 分担)
4. 動物科学実験 (2年次, 分担)
5. 牧場実習 (3年次, 分担)
6. 基礎生物学実験 (1年次, 分担)
7. 科学英語 (3年次, 分担)
8. インターンシップ (1~4年次)
9. 人の暮らしと生物環境 (1年次, 分担)
10. 動物管理学特論 (大学院修士)
11. グローバル環境科学特論 (大学院修士, 分担)

所属学会等: 日本畜産学会, 動物の行動と管理学会, 東北畜産学会, 日本哺乳類学会

学会賞等: 東北畜産学会学術賞 (2005年)

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. 出口善隆, 大谷洋介, 鈴木貴久, 岩瀬孝司, 辻本恒徳 (2021) 飼育ニホンザルおよびニホンジカにおけるパラメトリックスピーカーを用いた音響刺激に対する反応. 東畜会報 70:37-42.

B. その他

1. 出口善隆 (2021) 東北地方におけるツキノワグマによる飼料作物被害. 畜産技術 No.788: pp. 14-18.

村 元 隆 行

Muramoto, Takayuki



赴任: 2006年

現職: 准教授

学位: 博士 (農学) (新潟大学)

専門分野: 動物資源利用学, 食肉科学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 日本短角種の筋肉の理化学特性に関する研究
2. 野生動物の筋肉の理化学特性に関する研究
3. 筋肉の非破壊分析に関する研究

担当科目:

1. 動物科学総論 (1年次, 分担)
2. 情報基礎 (1年次, 分担)
3. 基礎生物学実験 (1年次, 分担)
4. 動物科学実験 (2年次, 分担)
5. 動物資源利用学 (3年次)
6. 動物資源利用学 (3年次)
7. 動物資源利用学特論 (大学院修士)

所属学会等: 日本畜産学会, 日本食肉研究会, 日本短角種研究会, Asian-Australasian Association of Animal Production Societies, 東北畜産学会, 日本調理科学会
 学会賞等: 日本畜産学会奨励賞 (2001年)

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. 中井瑞歩, 西山萌乃, 村元隆行 (2020) 鹿挽肉に添加した NaCl 含量が鹿肉ソーセージの保水性およびテクスチャー特性に及ぼす影響. 日本畜産学会報, 91: 127-130.
 2. 村元隆行, 福田智歩, 金谷圭太, 横田朋佳 (2020) 日本短角種の子牛と経産牛との間における塩漬された筋肉の理化学特性およびテクスチャー特性の比較. 日本畜産学会報, 91: 241-245.
 3. 村元隆行, 吉田英生, 高田偲帆 (2020) 未熟および完熟のサルナシ (*Actinidia arguta*) の果汁の塗布が日本短角種子牛の筋肉のテクスチャー特性および保水性に及ぼす影響. 日本畜産学会報, 91: 247-250.
 4. 渡邊 彰, 木下一成, 村元隆行, 中井瑞歩, 鈴木結子, 井上朔実, 平田滋樹 (2020) シカ (*Cervus nippon*) およびイノシシ (*Sus scrofa leucomystax*) の肉質に及ぼす要因調査. 日本畜産学会報, 91: 395-401.
 5. 渡辺亮平, 石松朝輝, 鎌田丈弘, 米内美晴, 村元隆行 (2020) 接触型電極を用いたインピーダンス測定による黒毛和種8筋肉の脂肪酸組成の推定. 日本畜産学会報, 91: 403-409.
 6. 村元隆行, 佐々木貴広, 柴 伸弥 (2021) Cells Alive System を用いた磁場での冷凍がプロイラーおよび地鶏の筋肉の理化学特性に及ぼす影響. 東北畜産学会報, 70: 43-48.
 7. 横田朋佳, 福田智歩, 金谷圭太, 渡辺亮平, 村元隆行 (2021) 接触型電極を用いたインピーダンス測定による塩漬中の牛肉のテクスチャー特性, ドリップロス, および塩漬の度合いの非破壊推定. 日本畜産学会報, 92: 71-74.
1. 村元隆行 (2020) 捕獲手法・止め刺し手法等によるイノシシ・シカ肉の品質分析 (イノシシ・シカ肉の理化学的特徴の分析). 生産性革命プロ単年度研究成果報告書 (農林水産省), K.3. (1-2) 1-7.
 2. 横田朋佳, 村元隆行 (2021) 黒毛和種牛肉, 慣行肥育の日本短角種牛肉, 放牧仕上げの日本短角種牛肉の成分比較. 株式会社肉のふがねとの共同研究に関する報告書, 1-12.
 3. 角田智哉, 村元隆行 (2021) 異なる品種のサルナシの果汁が日本短角種牛肉のテクスチャー特性および保水性に及ぼす影響. 岩手大学 2020 年度地域課題解決プログラムの報告書, 1-17.
 4. 村元隆行 (2021) 筋肉細胞の内部の水分割合を非破壊的に推定する方法の開発. 令和2年度科研費獲得支援等経費実績報告書, 1-2.

B. その他

(6) 共同獣医学科

板垣 匡

Itagaki, Tadashi



赴任：1988年

現職：教授

学位：獣医学博士（麻布大学）

専門分野：寄生虫学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 寄生虫の系統分類および寄生虫病診断における分子遺伝学的研究
2. 寄生虫病の免疫血清学的診断に関する研究
3. 寄生虫と宿主の相互関係に関する研究
4. 野生動物の寄生虫相に関する研究

担当科目：

1. 原虫・原虫病学（3年次）
2. 蠕虫・蠕虫病・衛生動物学（3年次）
3. 食品安全管理学（4年次）
4. 獣医寄生虫病学演習（5年次）
5. 獣医寄生虫病学卒業研究（5・6年次）
6. 基礎生物学実験（1年次）

所属学会等：日本獣医学会（評議員），日本寄生虫学会（評議員），日本獣医師会，獣医寄生虫学会（評議員），日本感染症学会，World Association for Advancement of Veterinary Parasitology 会員，寄生虫分類形態懇話会会員

他大学講師・客員研究員等：帯広畜産大学非常勤講師，秋田大学医学部非常勤講師，岐阜大学大学院連合獣医学研究科教授併任

その他の主な活動：農林水産省獣医事審議会専門委員，日本獣医学会誌編集委員，獣医寄生虫学会誌編集委員，国際協力事業団の派遣専門家

研究業績

A. 著書・翻訳

1. 板垣 匡（分担執筆）（2020）原虫各論III（ノゼマ），吸虫各論（肝蛭，双口吸虫，二腔吸虫）「寄生虫病学」（日本獣医寄生虫学会監修）ISBN978-4-89531-569-2，緑書房，東京，pp77-78，pp88-97.
2. 板垣 匡（分担執筆）（2020）牛バエ幼虫症，疥癬，バロア症，アカリダニ症，ノゼマ症。「家畜伝染病ハンドブック」（村上賢二，彦野弘一編）ISBN978-4-254-46038-4，朝倉書店，東京，pp183-184，pp220-221，pp272-273，pp277-280.

B. 総説・論説

1. 板垣 匡（2020）ネオスポラ症の感染源対策は犬だけをターゲットにすれば良いのか。家畜診療，67: 285-286.

C. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Taisuke Tominaga, Mikiko Aoki, Peru Gopal Biswas, Takeshi Hatta, Tadashi Itagaki (2021) Prevalence of *Trichinella* T9 in Japanese black bears (*Ursus thibetanus japonicus*) in Iwate prefecture, Japan. Parasitol. Int. 80: 102217.
2. Shinpei Kasahara, Yuma Ohari, Sakura Jin, Manuel Calvopina, Hidekazu Takagi, Hiromu Sugiyama and Tadashi Itagaki (2021) Molecular analysis revealed no occurrence of parthenogenetic *Fasciola* forms and *Fasciola gigantica* in Ecuador and characterized Ecuadorian *Fasciola hepatica*. Parasitol. Int. 80: 102215.
3. Peru Gopal Biswas, Yuma Ohari, Uday Kumar Mohanta, Tadashi Itagaki (2021) Molecular characterization of *Oxyspirura mansoni* and *Philophthalmus gralli* detected from the eyes of domestic chickens in Bangladesh. Parasitol. Int. 80: 102243.
4. Peru Gopal Biswas, Yuma Ohari, Uday Kumar Mohanta, Tadashi Itagaki (2021) Development of conventional multiplex PCR method for discrimination between *Dispharynx nasuta* and *Cheilospirura hamulosa* (Nematoda: Acuariidae) parasitizing poultry. J. Vet. Med. Sci. 83: 226-229.
5. Yuma Ohari, Kayoko Matsuo, Ayako Yoshida, Nariaki Nonaka, Hiroshi Sato, and Tadashi Itagaki (2021) Genetic diversity and population structure analyses based on microsatellite DNA of parthenogenetic *Fasciola* flukes obtained from cattle and sika deer in Japan Parasitol. Res. 120: 1341-1350.
6. Peru Gopal Biswas, Yuma Ohari, Uday Kumar Mohanta, Tadashi Itagaki (2021) Molecular characterization of *Ascaridia galli* from Bangladesh and development of a PCR method for distinguishing *A. galli* from *Heterakis* spp. J. Vet. Med. Sci. 83: 666-670.
7. Shunsuke Takashima, Yuma Ohari, Tadashi Itagaki (2021) Prevalence of *Nosema* species infections in *Apis cerana japonica* and *Apis mellifera* honeybees in the Tohoku region of Japan. Parasitol. Int. 83: 102361.
8. Peru Gopal Biswas, Yuma Ohari, Uday Kumar Mohanta, Tadashi Itagaki (2021) Development of a multiplex PCR method for discriminating between *Heterakis gallinarum*, *H. beramporia*, and *H. indica* parasites of poultry. Vet. Parasitol. 295: 109463.

- 9 . Chiyo Kitayama, Kei Hayashi, Kaoru Hayashi, Hitomi Igarashi, Satomi Kondo, Ryuta Ogawa, Tomoaki Hashimoto, Saki Okubo, Yasuhiro Takashima, Tadashi Itagaki, Toshiro Kuroki, Toshiyuki Shibahara (2021) Detection and molecular characteristics of *Rhytidodoides* sp. (Digenea: Rhytidodidae) from the gall bladder of green sea turtles (*Chelonia mydas*) in the Ogasawara Islands, Japan. Parasitol. Int. 83: 102377.
10. Kei Hayashi, Chiyo Kitayama, Taizo Saito, Yuma Ohari, Kaoru Hayashi, Satomi Kondo, Yasuhiro Takashima, Toshiro Kuroki, Toshiyuki Shibahara, Tadashi Itagaki (2021) Detection and molecular characteristics of *Pyelosomum cochlear* (Digenea: Pronocephalidae) in the urinary bladder of the green sea turtle (*Chelonia mydas*) in the Northwest Pacific Ocean. Infect. Gen. Evol. In press.

D . 国内学会発表

- 林 慶,板垣 匡(2020) 南アジアにおける反芻動物の胆管内寄生吸虫 *Fasciola* spp.および *Explanatum explanatum* の分子系統解析とその比較.第163回日本獣医学会学術集会(寄生虫分科会若手ゼミナール)CS-3, 山口.
- 尾針由真,入江隆夫,松尾加代子,高島康弘,吉田彩子,野中成晃,佐藤 宏,板垣 匡(2020) 日本における単為生殖型産肝蛭の集団遺伝学的解析:野生シカと家畜ウシにおける相互伝播の解明.第163回日本獣医学会学術集会(寄生虫分科会若手ゼミナール)CS-4,山口.
- 小田 彩,板垣 匡,浦和茂彦,塚越英晴(2020) 岩手県のサケから検出された鮭真吸条虫 *Eubothrium crassum* の遺伝的特徴.令和2年度日本水産学会春季大会, 9119, 東京.
- 西田克彦,日置尚之,川船美咲,板垣 匡,増田 絢,松本 淳(2020) *Mesocestoides vogae* テトラチリジウム 2 分離株の試験管内成虫化能および遺伝学的性状の比較検討.第89回日本寄生虫学会大会,1P-02,帯広.
- 高木 秀和,ロメオ-アルバレス ダニエル,カルボピーニ マヌエル,板垣 匡,杉山 広(2020) エクアドルにおける淡水魚の摂取による吸虫症.第89回日本寄生虫学会大会,1P-12,帯広.
- 高島舜佑,尾針由真,板垣 匡(2020) 東北地方のミツバチにおけるノゼマ病原体の感染状況.第89回日本寄生虫学会大会, 1C-12,帯広
- Biswas Peru Gopal,Ohari Yuma,Mohanta Uday

Kumar,Sakura Jin,Takashima Shunsuke,Itagaki Tadashi (2020) Morphological and molecular characterization of a new species of *Procyrnea* detected from domestic chicken in Bangladesh. 第89回日本寄生虫学会大会, 1C-08,帯広.

宇 塚 雄 次
Uzuka, Yuji



赴任:2009年

現職:教 授

学位:博士(獣医学)(東京大学)

専門分野:伴侶動物神経病学,獣医放射線学,伴侶動物内分泌病学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 犬のてんかんに対する新規治療法の確立
2. 伴侶動物医療における断層撮影の活用
3. 犬の非感染性脳炎に対する予後予測の評価
4. 犬の吸入麻酔時の酸素毒性に関わる研究

担当科目:

1. 基礎生物学実験(1年次,分担)
2. 基礎放射線学(2年次,分担)
3. 獣医外科学総論(3年次,分担)
4. 麻酔学・手術学(4年次,分担)
5. 軟部外科学(4年次,分担)
6. 獣医事法規(4年次,分担)
7. 小動物外科学実習・基礎編(4年次,分担)
8. 小動物外科学実習・応用編(4年次,分担)
9. 画像診断学(5年次,分担)
10. 神経病・運動器病学(5年次,分担)
11. 画像診断実習(5年次,分担)
12. 総合参加型臨床実習(5年次,分担)
13. 総合参加型臨床実習(5年次,分担)
14. 臨床腫瘍学(5年次,分担)

所属学会等:日本獣医学会(評議員),日本獣医師会,日本生理学会,日本臨床神経生理学,獣医神経学会(会長),日本獣医画像診断学会(評議員),動物臨床医学会(理事),獣医麻酔外科学会(評議員)

研究業績

A . 著書・訳書

1. 宇塚雄次(分担執筆)(2019) クレアチニンキナーゼ,第3章 血液化学検査,「犬と猫の検査・手技ガイド 2019」(辻本 元,ほか編集),インターズー,東京,p.p.293-294.
2. 宇塚雄次(分担執筆)(2019) 塩化エドロホニウム刺激試験(テンシロンテスト),第4章 免疫

血清学的検査,「犬と猫の検査・手技ガイド 2019」(辻本 元,ほか編集),インターズー ,東京, p.p.368-369.

3. 宇塚雄次,磯村 洋(分担執筆)(2020) 多発性筋炎,第11章 神経・筋疾患,「犬の治療ガイド2020」(辻本 元,ほか編集),エデュワードプレス,東京, p.p.606-607.
4. 宇塚雄次,磯村洋(分担執筆)(2020) 多発性筋炎,第11章 神経・筋疾患,「猫の治療ガイド2020」(辻本 元,ほか編集),エデュワードプレス,東京, p.p.504-505.
5. 宇塚雄次(石田卓夫総監修,宇塚雄次 第3章章監修)(2021) 第3章 神経と筋肉の疾患 「犬の内科診療 part 3」, 緑書房, 東京, p.p.165-314 .
6. 宇塚雄次(分担執筆)(2021) 3.25.多発性根神経炎「犬の内科診療 part 3」(石田卓夫総監修), 緑書房, 東京, p.p.297-299 .

B. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Chongphaibulpatana, P., Kumagai, Y., Fukui, D., Katayama, M. and Uzuka, Y. (2020) The effect of inspired oxygen concentration on oxidative stress biomarkers in dogs under inhalation anesthesia. *Can J Vet Res.* 84(2): 91-95.
2. Takamura, H., Chongphaibulpatana, P. and Uzuka, Y. (2020) Comparison of pharmacokinetics of intragastrically and intrarectally administered levetiracetam tablets in healthy non-epileptic dogs. *Pol J Vet Sci.* 23(4): 491-494.

岡田 啓 司

Okada, Keiji



赴任: 1991年

現職: 教授

学位: 獣医学博士(岐阜大学)

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. アニマルウェルフェアに基づいたIoTによる牛群管理に関する研究
2. 子牛の母乳性下痢症の病態および防除に関する研究
3. 牛の栄養障害の防除と栄養管理に関する研究
4. 牛の護蹄管理に関する研究

担当科目:

1. 人の暮らしと生物環境(1年次)
2. 家畜衛生学実習(3年次)
3. 大動物臨床学(4年次)
4. 大動物臨床実習・基礎編(5年次)
5. 大動物臨床実習・応用編(5年次)
6. 総合参加型臨床実習(5年次)
7. 食品安全管理学(4年次, 分担)
8. 臨床獣医学演習 (5・6年次)
9. 卒業研究

所属学会等: 日本獣医学会(評議員), 日本産業動物獣医学会, 日本畜産学会, 日本家畜臨床学会(理事), 牛臨床寄生虫研究会(常任理事・事務局長), 護蹄研究会(理事), 原発事故被災動物と環境研究会(理事・事務局長)

学会賞等: 農林水産大臣賞(1992年), 東北地区産業動物獣医学会会長賞(2002年), 日本獣医師会学術奨励賞産業動物部門学術賞(2004年), 日本家畜臨床学会奨励賞(2006年), 吉田賞(2012年), 農林水産省経営局長賞(2012年)

他大学講師・客員研究員等: 岐阜大学大学院連合獣医学研究科教授併任

その他の主な活動: 日本装師会認定試験委員, 全国牛削蹄競技会審査委員長

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Miyazaki, T., Okada, K., Yamashita, T., Miyazaki, M.(2019) Temporal changes of abomasal contents and volumes in calves fed milk diluted with oral rehydration salt solution. *J. Vet. Med. Sci.* 81: 256-262.
2. Gotoh Y, Chiba K, Sekiyama Y, Okada K, Hayashi T, Misawa N.(2020) 16S rRNA-based amplicon analysis of changes in the bacterial population in the lesions of papillomatous digital dermatitis in dairy cattle after topical treatment with allyl isothiocyanate. *Microbiology and Immunology Microbiol Immunol.* doi: 10.1111/1348-0421.12786.
3. Tamura, T., Chida, Y., Okada, K. (2020) Detection of mastication speed during rumination in cattle by 3-axis neck-mounted 3 accelerometers and fast Fourier transfer algorithm. *J. Dairy Sci.*, 103(8):7180-7187.
4. Todaka, A., Toyoda, S., Natsuhori, M., Okada, K., Sato, I., Sato, H., Sasaki, J. (2020) ESR assessment of tooth enamel dose from cattle bred in areas contaminated due to the Fukushima Dai-ichi nuclear power plant accident. *Radiation Measurements*, 136, doi.org: 10.1016/j-

radmeas.106357.

5. Sato, I., Sasaki, J., Satoh, H., Natsuhori, M., Murata, T., Okada, K. (2020) Assessments of DNA Damage and Radiation Exposure Dose in Cattle Living in the Contaminated Area Caused by the Fukushima Nuclear Accident. *Bulletin of Environmental Contamination and Toxicology* 105: 496-501.

B. 報告書・事業報告書

1. 豊田新, 戸高安曇, 夏堀雅宏, 岡田啓司, 佐藤至, 佐藤洋, 佐々木淳(2019) 2019年度日本原子力研究開発機構・量子科学技術研究開発機構 施設利用共同研究 一般共同研究 成果報告書.

C. 国内学会発表

1. 佐々木 淳, 佐藤 至, 佐藤 洋, 岡田啓司, 千田広幸, 大谷久美子(2020) 福島県の被ばく牛でみられた牛白血病の病理学的検討. 日本獣医学会.

落合 謙 爾

Ochiai, Kenji



赴任：2014年

現職：教授

学位：博士（獣医学）（北海道大学）

専門分野：獣医病理学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 神経系と心筋に病原性を示すトリ白血病ウイルスに関する病理学，分子生物学および疫学的研究
2. 家畜，犬，猫，鳥類の自然発生性疾患に関する病理学的研究

担当科目：

1. 動物病理学総論（3年次）
2. 動物病理学各論A（4年次，分担）
3. 病理学実習（3・4年次，分担）
4. 家禽疾病学（4年次）
5. 生物学（1年次，分担）
6. 獣医学演習（5年次）
7. 卒業研究（6年次）
8. 獣医学概論（1年次，分担）
9. 獣医倫理（1年次，分担）

所属学会等：日本獣医学会（評議員），日本獣医病理学専門家協会（評議員，理事），日本獣医師会，日本野生動物医学会（評議員），鶏病研究会（岩手県鶏病研究会副会長，理事）

学会賞等：後藤養鶏学術奨励賞（2004年）

他大学講師・客員研究員等：岐阜大学大学院連合獣医学研究科教授兼任，岩手大学大学院獣医学研究科教授兼任

その他の主な活動：農林水産省獣医事審議会専門委員，日本獣医学会誌編集委員，食鳥処理衛生管理者登録講習会講師，文部科学省獣医学専門委員会委員，岩手県獣医師会学術広報委員長，岩手県獣医畜産業績発表会審査員，日本ウマ科学会英文学術誌編集委員，日本中央競馬会競走馬総合研究所外部研究評価委員会委員，日本獣医師会学術・教育・研究委員会委員，岩手県獣医療計画検討委員会委員，獣医系大学間獣医学教育支援機構理事

研究業績

A. 著書

1. 落合謙爾(2020) 鶏白血病，あひるウイルス性肝炎，あひるウイルス性腸炎．家畜伝染病ハンドブック，村上賢二，彦野弘一編，pp.256-257，pp.264-267．朝倉書店，東京．
2. 落合謙爾(2021) 血液及び造血器．動物病理学各論 第3版，日本獣医病理学専門家協会編，pp.27-59，文永堂，東京．

B. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Nishiura, H., Jou, S., Ogata, T., Kondo, H., Ichijo, T., Sasaki, and Ochiai, K. (2020) Calving-related intradural avulsion injuries of the thoracolumbar spinal nerve roots in a calf. *J. Vet. Diagn. Invest.* 32: 968-971.
2. Nishiura, H., Kubota, I., Kondo, Y., Kachi, M., Hatai, H., Sasaki, J., Goryo, M. and Ochiai, K. (2020) Neuropathogenicity of newly isolated avian leukosis viruses from chickens with osteopetrosis and mesenchymal neoplasms. *Avian Pathol.* 49:440-447.

C. 国内学会発表

1. 佐藤太一, 西浦 颯, 竹内颯人, 津島 文, 中島冬萌, 佐々木 淳, 落合謙爾(2020) 牛の先天性多発性血管肉腫に由来する腫瘍細胞の単離．第163回日本獣医学会学術集会講演要旨集:192．
2. 中島冬萌, 西浦 颯, 小林沙織, 山崎真大, 佐々木 淳, 落合謙爾(2020) 犬の肺に見られた多発性肺実質内気管支原性嚢胞．第163回日本獣医学会学術集会講演要旨集:192．
3. 津島 文, 西浦 颯, 竹内颯人, 佐々木 淳, 落合謙爾(2020) 鳥白血病ウイルス性心筋異常の発生と分子疫学．第163回日本獣医学会学術集会講演要旨集:192．
4. 西浦 颯, 竹内颯人, 津島 文, 佐々木 淳, 落合謙爾(2020) 無限分裂神経膠細胞の試験的作

出．第 163 回日本獣医学会学術集会講演要旨集:194.

5. 竹内颯人,西浦 颯,佐々木 淳,落合謙爾(2020) リアルタイム PCR を用いた鳥白血病ウイルスの検出法の確立．令和元年度・令和2年度岩手県鶏病技術研修会開催要領:5.
6. 津島 文,西浦 颯,佐々木 淳,落合謙爾(2020) 鶏の精巢から精管にわたって形成された重度の精子肉芽腫．令和元年度・令和2年度岩手県鶏病技術研修会開催要領:6.
7. 西浦 颯,竹内颯人,津島 文,佐々木 淳,落合謙爾(2020) 無限分裂細胞技術による鶏の神経膠細胞単離の試み．令和元年度・2年度岩手県鶏病技術研修会開催要領:7.
8. 佐藤太一,落合謙爾(2021) 血管腫症．実験動物病理標本交見会,Web 開催.
9. 中島冬萌,竹内颯人,西浦 颯,落合謙爾(2021) ウイルス定量法に基づく鳥白血病ウイルスの心臓病原性の解析．令和2年度岩手県鶏病技術研修会,盛岡.
10. 佐藤太一,津島 文,西浦 颯,落合謙爾(2021) 新たに見出された心臓病原性鳥白血病ウイルスの分子生物学的特徴．令和2年度岩手県鶏病技術研修会,盛岡.
11. 西浦 颯,竹内颯人,佐藤太一,中島冬萌,佐々木 淳,落合謙爾(2021) 鳥白血病ウイルス感染鶏胚からの iPS 細胞の樹立．第8回日本獣医病理学専門家協会学術集会,Web 開催.
12. 寄崎まりを,西浦 颯,佐々木 淳,落合謙爾(2021) プンチョウ *Lonchura oryzivora* の肝疾患の臨床と病理．第8回日本獣医病理学専門家協会学術集会,Web 開催.
13. 竹内颯人,中島冬萌,西浦 颯,佐々木 淳,落合謙爾(2021) 鳥白血病ウイルス誘発心筋病変とウイルス量との関連．第8回日本獣医病理学専門家協会学術集会,Web 開催.
14. 津島 文,佐藤太一,西浦 颯,佐々木 淳,落合謙爾(2021) 新たに見出された心臓病原性鳥白血病ウイルスの分子生物学的特徴．第8回日本獣医病理学専門家協会学術集会,Web 開催.
15. 中島冬萌,落合謙爾(2021) 猫の脳．第8回日本獣医病理学専門家協会学術集会 スライドフォーラム,Web 開催.

木 崎 景一郎
Kizaki, Keiichiro

赴任:2004年
現職:教授



学位:博士(薬学)(帝京大学)

専門分野:獣医生理学,細胞生物学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 胎子・母体間相互作用の解明に関する研究

担当科目:

1. 動物と環境(1年次)
2. 獣医細胞生物学(1年次)
3. 器官制御生理学(2年次)
4. 生理学実習(2年次)
5. 内分泌学(3年次)
6. 獣医学演習(5年次)
7. 卒業研究(6年次)

所属学会等:日本獣医学会(評議員),日本繁殖生物学会(評議員),日本畜産学会,日本生化学会,日本薬学会

他大学講師・客員研究員等:岩手大学大学院獣医学研究科教授兼任,岐阜大学大学院連合獣医学研究科教授兼任

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Awad M, Kizaki K, Ishiguro-Oonuma T, Takahashi T, Hashizume K (2020) Secreted protein of Ly6 domain 1 enhanced bovine trophoblastic cell migration activity. *In Vitro Cell Dev. Biol. Anim.* 56(10):827-831.
2. Ogata T, Makino H, Ishizuka N, Iwamoto E, Masaki T, Kizaki K, Kim YH, Sato S (2020) Long-term high-grain diet alters ruminal pH, fermentation, and epithelial transcriptomes, leading to restored mitochondrial oxidative phosphorylation in Japanese Black cattle. *Sci. Rep.* 10(1):6381.
3. Sakumoto R, Hayashi KG, Hosoe M, Iga K, Kizaki K (2020) Pregnancy-associated changes of peroxisome proliferator-activated receptor delta (PPARD) and cytochrome P450 family 21 subfamily A member 2 (CYP21A2) expression in the bovine corpus luteum. *J. Reprod. Dev.* 66(3):205-213.

B. 報告書・事業報告書等

1. 木崎景一郎,高橋 透(2020) 牛の早期妊娠診断を目指した血中マイクロRNA 定量に関する基盤的研究(II). 令和元年度 食肉に関する助成研究調査成果報告書(公益財団法人 伊藤記念財団), pp. 172-176.

C. 国内学会発表

1. 二宮千秋,木崎景一郎,石黒(大沼)俊名,金澤朋美,高橋 透,伊賀浩輔(2020) 妊娠ウシ血中

のマイクロ RNA 定量に関する基礎的検討 II. 第 113 回日本繁殖生物学会大会 (Web 開催).

2. 大竹真優, 石黒(大沼)俊名, 落合和彦, 木崎景一郎 (2020) イヌ乳腺腫瘍細胞株に対する HER2 阻害薬の効果の検証. 第 163 回日本獣医学会学術集会 (Web 開催).

佐藤 繁
Sato, Shigeru



赴任: 2007年

現職: 教授

学位: 農学博士 (東北大学),
獣医学博士 (北里大学)

専門分野: 大動物内科学, 大動物代謝病学, 生産獣医療学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 乳牛の周産期疾病の病態および予防に関する研究
2. 乳牛のルーメンアシド・シスの病態および細胞性免疫機能に関する研究
3. 乳牛の乳房炎における抗酸化物質投与の影響および細胞性免疫機能に関する研究
4. 子牛下痢症の病態および抗病性付与に関する研究

担当科目:

1. 獣医内科学
2. 同実習
3. 獣医臨床実習
4. 臨床獣医学演習
5. 家畜疾病学

所属学会等: 日本獣医学会, 日本畜産学会, 日本家畜臨床学会, 日本産業動物獣医学会

学会賞等: 日本獣医学会賞 (第 69 号・1992 年)

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Tsuchiya Y., Kawahara N., Kim Y-H., Ichijo T., and Sato S.(2020) Changes in oxidative stress parameters in healthy and diseased Holstein cows during the transition period in Yamagata Prefecture, Japan. *J. Vet. Med. Sci.* 87, 955-961, doi: 10.1292/jvms.20-0024.
2. 石塚直樹, Kim Yohan, 岩本英治, 正木達規, 木村淳, 一條俊浩, 佐藤 繁(2020) 黒毛和種牛の肥育後期における第一胃内細菌叢構成と肥育および枝肉成績の関係. *産業動物臨床誌* 11, 66-76.
3. 佐々木 淳, 一條俊浩, 後藤浩子, 藤田 茂, 佐藤 繁(2020) 黒毛和種子牛における重複脊髄症及

び水腫症の併発例. *日獣会誌* 73, 37-40.

4. Mizuguchi H., Kim Y-H., Kanazawa T., Ikuta K., and Sato S.(2020) Effects of short-term fasting on ruminal pH and volatile fatty acids in cattle fed high roughage- and high concentrate-diet. *J. Vet. Med. Sci.*, 82, 1415-1420, doi: 10.1292/jvms.20-0359.
5. Tsuchiya Y., Ozai R., Sugino T., Kawashima K., Hasunuma T., Kushibiki S., Kim Y-H., and Sato S. (2020) Changes in peripheral blood oxidative stress markers and hepatic gene expression in Holstein cows with and without subacute ruminal acidosis during the periparturient period. *J. Vet. Med. Sci.*, 82, 1529-1536, doi: 10.1292/jvms.20-0426.
6. Takemura K., Shingu H., Ikuta K., Sato S., and Kushibiki S.(2020) Effects of *Saccharomyces cerevisiae* supplementation on growth performance, plasma metabolites and hormones, and rumen fermentation in Holstein calves during pre- and post-weaning periods. *Anim Sci J.* 2020;00: e13402. doi.org/10.1111/asj.13402.
7. Ogata T., Kim Y-H., Iwamoto E., Masaki T., Ikuta K., and Sato S. (2020) Comparison of pH and bacterial communities in the rumen and reticulum during fattening of Japanese Black beef cattle. *Anim Sci J.* 2020;91:e13487. Doi.org/10.1111/asj.13487.
8. 佐藤 繁 (2021) 黒毛和種牛の肥育時期による第一胃細菌叢構成の変化及び枝肉成績との関係. *日獣会誌* 74, 47-58.
9. 金澤朋美, 木村 淳, 藤原 崇, 福中守人, 一條俊浩, 佐藤 繁: 分娩後乳牛の血中カルシウム濃度に及ぼす分娩前ゼオライト A 給与の影響. *日獣会誌* (印刷中).
10. Mizuguchi H., Kizaki K., Kimura A., Kushibiki S., Ikuta K., Kim Y-H., Sato S. (2021) Anti-lipopolysaccharide antibody administration mitigates ruminal lipopolysaccharide release without accompanying responses in acute-phase inflammation and hepatic transcriptomes during subacute ruminal acidosis challenge in Holstein bull cattle. *J Vet Sci* (In press).
11. Kimura A., Kim Y-H., Hashizume K., Ito A., Mukai K., Kizaki K., Sato S. (2021) Effects of oral β -cryptoxanthin administration on the peripheral blood neutrophil functions by the chemiluminescence responses in Holstein cattle. *J Vet Med Sci* (In press).
12. Mizuguchi H., Ikeda T., Watanabe Y., Kushibiki S., Kizaki K., Ikuta K., Kim Y-H., Sato S. (2021) Effects

of anti-lipopolysaccharide antibody administration on ruminal pH and VFA, and blood metabolites during subacute ruminal acidosis challenge in Holstein bull cattle. *J Vet Med Sci* (In press).

13. Horinaka A., Kim Y-H., Kimura A., Iwamoto E., Masaki T., Ichijo T., Sato S. (2021) Changes in the function of ruminal microbiome by KEGG analysis of Japanese Black beef cattle during fattening stages. *J Vet Med Sci* (In press).

佐藤 洋
Sato, Hiroshi



赴任：2015年

現職：教授

学位：博士（獣医学）（北里大学）

専門分野：毒性学，獣医薬理学，毒性病理学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. ホルモン製剤により誘発された増殖性病変の生物学的特性解析と種差・系統差に関する研究
2. ホルモン依存性腫瘍に対するCox阻害剤やその他抗腫瘍活性物質の効果と薬理作用の解明
3. 細胞傷害性抗がん剤による感覚器毒性の発生機序解明と予防の探索
4. 種々疾患モデルにおける機能性食品の予防効果とその薬効機序解明

担当科目：

1. 統合薬理学（3年次）
2. 薬理学実習（3年次）
3. 毒性学実習（4年次）
4. 食品安全管理学（5年次）

所属学会等：日本獣医学会（評議員），日本毒性学会，日本毒性病理学会（評議員），米国毒性病理学会，日本獣医病理学専門家協会（評議員，理事）

学会賞等：第10回日本毒性病理学会会長賞（1994年），平成10年度日本毒性学会田辺賞（1998年）

他大学講師・客員研究員等：岐阜大学大学院連合獣医学研究科教授兼任，岩手大学大学院獣医学研究科教授兼任，岩手医科大学非常勤講師

その他の主な活動：独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員，環境省環境リスク評価委員会健康リスク評価分科会，環境リスク評価委員会健康リスク評価分科会発がんリスク評価ワーキンググループメンバー，内閣府食品安全委員会専門委員，環境省中央環境審議会臨時委員，厚生労働省薬事・食品衛生審議会臨時委員，農林水産省重組維持審議会専門委員，農林水

産省農薬・動物用医薬品部会委員
研究業績

A. 著書・訳書

1. 佐藤 洋（分担執筆）（2021）第20章 中毒と中毒治療薬．獣医学教育モデル・コアカリキュラム準拠 獣医薬理学 <第二版>（日本比較薬理学・毒性学会編），株式会社 近代出版，東京，pp250-255．
2. 佐藤 洋（分担執筆）（2021）第20章 内分泌器 2.下垂体．獣医学教育モデル・コアカリキュラム準拠 動物病理学各論 <第3版>（日本獣医病理学専門家協会編），文永堂出版，東京，pp383-389．

B. 原著論文

(a)学術雑誌

1. Yamagiwa, Y., Kurata, M. and Sato, H. (2020) Histological Features of Postnatal Development of the Eye in White Rabbits. *Toxicol Pathol.* E-pub. doi: 10.1177/0192623320915460.
2. Sato, I., Sasaki, J., Sato, H., Natsuhori, M., Murata, T. and Okada, K. (2020) Assessments of DNA damage and radiation exposure dose in cattle living in the contaminated area caused by the Fukushima nuclear accident. *Bull Environ Contam Toxicol.* 105:496-501.
3. Kimura, M., Yamasaki, M., Sato, H., Uchida, N. (2021) Repeatable and objective method for evaluating angiogenesis using real-time RT-PCR of endoglin expression in canine tumours. *Vet Comp Oncol.* 34-43.

高橋 透
Takahashi, Toru



赴任：2013年

現職：教授

学位：農学博士

専門分野：繁殖機能制御学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 家畜の妊娠成立機構の解明と繁殖障害の診断・治療・予防に関する教育・研究

担当科目：

1. 繁殖機能制御学（4年次）
2. 総合参加型臨床実習（5年次）
3. 泌尿器病生殖器病学（5年次）
4. 繁殖機能制御学実習（4年次）
5. 臨床繁殖学実習（4年次）

所属学会等：日本獣医学会，日本畜産学会，日本繁殖

生物学会, 日本家畜臨床学会, 日本家畜胚移植研究会
学会賞等: 日本繁殖生物学会学術賞 (2014年)

寺嶋 淳

Terajima, Jun



赴任: 2017年

現職: 教授

学位: 博士 (獣医学) (北海道大学)

専門分野: 細菌学, 生化学, 獣医公衆衛生学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 食品に由来する細菌感染症に関する研究
2. 下痢症を起こす病原性細菌に関する研究

担当科目:

1. 人獣共通感染症学 (3年次)
2. 獣医公衆衛生学総論 (3年次)

所属学会等: 日本細菌学会, 米国微生物学会, 日本食品微生物学会, 日本獣医学会, 日本食品衛生学会, 日本薬学会, 日本防菌防黴学会

その他の主な活動: 厚生労働省 薬事・食品衛生審議会乳肉水産食品部会委員, 文部科学省 学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究協力者会議委員, 岩手県「食の安全安心委員会」委員, 岩手県「感染症対策委員会」委員, 岩手県「感染症検査ネットワーク会議」委員, 日本食品微生物学会 (理事), 日本食品衛生学会 (理事, 学会誌編集委員会委員長)

他大学講師・客員研究員等: 岐阜大学大学院連合獣医学研究科教授兼任

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Hara-Kudo Y, Ohtsuka K, Konishi N, Yoshida T, Iwabuchi K, Hiratsuka T, Nagai Y, Kimata K, Wada H, Yamazaki T, Tsuchiya A, Mori T, Inagaki S, Shiraiishi S, Terajima J. (2020) An interlaboratory study on the detection methods for enterotoxigenic *Escherichia coli* in vegetables using enterotoxin gene screening and selective agars for ETEC-specific isolation. *Int J Food Microbiol.* 334:108832.
2. Aoki W, Watanabe M, Watanabe M, Kobayashi N, Terajima J, Sugita-Konishi Y, Kondo K, Hara-Kudo Y. (2020) Discrimination between edible and poisonous mushrooms among Japanese *Entoloma sarcopum* and related species based on phylogenetic analysis and insertion/deletion patterns of nucleotide sequences of the cytochrome oxidase 1 gene. *Genes Genet Syst.* 95:133-

139.

3. Kubosaki A, Kobayashi N, Watanabe M, Yoshinari T, Takatori K, Kikuchi Y, Hara-Kudo Y, Terajima J, Sugita-Konishi Y. (2020) *Biocontrol Sci.* 25:113-118.

B. 国内学会発表

1. 品川正臣, 和賀萌美, 山崎朗子, 寺嶋 淳 (2020) 岩手県の食肉処理場に搬入された牛の直腸便における腸管出血性大腸菌の保持状況. 日本食品衛生学会第 116 回学術講演会 (WEB 開催).

古市 達哉

Furuichi, Tatsuya



赴任: 2012年

現職: 教授

学位: 博士 (医学) (大阪大学)

専門分野: 実験動物学

主な研究テーマ及び主な教育活動

1. モデル動物を用いた骨軟骨発生メカニズムの解明
2. モデル動物を用いた骨関節疾患の発症メカニズムの解明

担当科目

1. 生命のしくみ (1年次, 分担)
2. 実験動物学 (2年次)
3. 実験動物学実習 (2年次)
4. 獣医遺伝育種学 (2年次)
5. 動物品種論 (3年次, 分担)
6. 獣医学演習 (5, 6年次)
7. 卒業研究 (5, 6年次)

所属学会等: 日本獣医学会 (評議員), 日本実験動物学会 (評議員, 編集委員会委員), 日本実験動物医学専攻会 (理事, 実験動物学教育委員会委員長), 実験動物医学専門医協会, 東北動物実験研究会 (幹事), 日本獣医師会, 日本骨代謝学会

他大学講師・客員研究員等: 岐阜大学大学院連合獣医学研究科教授兼任, 理化学研究所客員研究員兼任

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Kodama, K., Takahashi, H., Oiji, N., Nakano, K., Okamura, T., Niimi, K., Takahashi, E., Guo, L., Ikegawa, S., Furuichi, T. (2020) CANT1 deficiency in a mouse model of Desbuquois dysplasia impairs glycosaminoglycan synthesis and chondrocyte differentiation in growth plate cartilage.

FEBS Open Bio 10: 1096–110.

B. 国内学会発表

1. 古市達哉, 生地伸康, 齋藤宗一郎, 富井健太郎, 福村龍太郎, 権藤洋一. *Crim^{140S}* マウスによって明らかとなったCRIM1分子 internal region 1の重要性. 第67回日本実験動物学会要旨: 217.
2. 生地伸康, 矢神和広, 齋藤宗一郎, 新美君枝, 高橋英機, 古市達哉. コンディショナルKOマウスを用いたCRIM1の軟骨細胞における機能の検討. 第162回日本獣医学会 演題番号 K0-10.

村上 賢二
Murakami, Kenji



赴任: 2012年

現職: 教授

学位: 博士(獣医学)(岐阜大学)

専門分野: 獣医微生物学, 感染症学, 免疫学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 獣医感染症の疫学および病原解析ならびに診断・予防法に関する研究

担当科目:

1. 微生物学総論(2年次)
2. 病原微生物学(3年次)
3. 病原微生物学実習(3年次)
4. 感染症学(4年次)

所属学会等: 日本獣医学会, 日本ウイルス学会, 獣疫学会, 日本家畜臨床学会

その他の主な活動: 日本中央競馬会「競走馬総合研究所外部研究評価委員会」委員, 農林水産省東北農政局「東北農政局消費・安全対策交付金第三者評価委員会」委員, 岩手県「感染症対策委員会」委員, 岩手県「感染症検査ネットワーク会議」委員, 獣医系大学間獣医学教育支援機構 理事, 中央畜産会「生産地等馬伝染性疾病防除強化推進委員会」委員, 公益社団法人 中央畜産会「馬伝染性疾病预防対策技術普及啓発資料作成委員会」委員, 家畜衛生対策推進協議会「自衛防疫体制強化推進委員会」委員, 家畜衛生対策推進協議会「慢性感染症対策検討部会」部会長

研究業績

A. 著書・訳書

1. 村上賢二(編集, 分担執筆)(2020) 家畜伝染病ハンドブック. (村上賢二, 彦野弘一編), 朝倉書店, 東京, p142-143, 146-147, 148-150, 151-152, 153-154.

B. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Kaneda, M., Takahashi, S., Naito, I., Chiba, Y., Hikono, H., Murakami, K. (2020) Nationwide survey of infectious bronchitis virus on layer farms in Japan during 2015. *Avian Dis.* 64(1) 80-84.
2. Ochiai, C., Katagiri, Y., Kobayashi, S., Naitoh, I., Yoneyama, S., Tomita, K., Dongze, L., Hikono, H., Murakami, K. (2020) Development of a microchip electrophoresis-based, high-throughput PCR-RFLP method to type deduced Tax 233 amino acid of bovine leukemia virus in Japan. *Arch Virol.* 165:2961-2966.
3. Tomita, K., Miyauchi, S., Katagiri, Y., Yoneyama, S., Dongze, L., Chiba, Y., Hirata, T-I., Ichijo, T., Yasuda, H.A., Hikono, H., Murakami, K., (2020) Effectiveness of on-farm continuous flow high-temperature short-time pasteurization for inactivation of bovine leukemia virus in milk. *Anim Sci J* 91: e13495.

山崎 真大

Yamasaki, Masahiro



赴任: 2014年

現職: 教授

学位: 博士(獣医学)(北海道大学)

専門分野: 臨床獣医学, 小動物内科学, 獣医皮膚科学, 獣医血液病学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 犬バベシア症の病態解明, 治療法開発, 薬剤耐性機序の解明
2. 犬膿皮症の治療法開発

担当科目:

1. 小動物内科学実習・基礎編(4年次前期, 責任教員)
2. 小動物内科学実習・応用編(4年次後期, 責任教員)
3. 消化器病学(4年次後期, 責任教員)
4. 代謝病・中毒学(5年次後期, 責任教員)
5. 血液免疫病学(5年次後期, 責任教員)
6. 臨床栄養学(5年次後期, 責任教員)
7. 総合参加型臨床実習(5年次前期, 責任教員)
8. 内科学総論(3年次後期, 責任教員)
9. 泌尿器病・生殖器病学(5年次後期, 責任教員)
10. 臨床病理学(3年次後期, 責任教員)

所属学会等: 日本獣医学会, 日本寄生虫学会, 動物臨床医学会, 日本獣医皮膚科学会

研究業績

A . 原著論文

(a) 学術雑誌

- 1 . Kimura, M., Yamasaki, M., Satoh, H., Uchida, N. (2020) Repeatable and objective method for evaluating angiogenesis using real-time RT-PCR of endoglin expression in canine tumours. *Vet. Comp. Oncol.* 1-10. DOI: 10.1111/vco.12635.
- 2 . Yamasaki, M., Idaka, N., Abe, M., Takiguchi, M. (2020) Reduced expression levels of heat shock protein 90 in a diminazene aceturate-resistant *Babesia gibsoni* isolate. *Exp. Parasitol.* 221: 108050. DOI: 10.1016/j.exppara.2020.108050.
- 3 . Otuka-Yamasaki, Y., Inanami, O., Shino, H., Sato, R. and Yamasaki, M. (2021) Characterization of a novel nicotinamide adenine dinucleotide-cytochrome b5 reductase mutation associated with canine hereditary methemoglobinemia. *J. Vet. Med. Sci.* 83: 315-321.

B . 国内学会発表

- 1 . 山崎真大, 佐々木崇, 原田和記, 伊從慶太, 山岸建太郎, 西藤公司, 永田雅彦 (2021) 犬の表在性膿皮症におけるクロルヘキシジン外用治療およびセファレキシリン全身療法の治療効果比較～これまでの研究成果と今後の目標～ . 第 24 回日本獣医皮膚科学会学術集会 .

山本 欣郎
Yamamoto, Yoshio



赴任：2002年

現職：教授

学位：博士（獣医学）（岐阜大学）

専門分野：獣医解剖学・獣医組織学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

- 1 . 哺乳類の呼吸調節に関する研究
- 2 . 哺乳類の感覚受容器の刺激受容機構に関する研究

担当科目：

- 1 . 生物学（1年次，分担）
- 2 . 組織学（2年次）
- 3 . 内臓・脈管系解剖学（2年次）
- 4 . 組織学実習（2年次・分担）
- 5 . 解剖学実習（2年次・分担）
- 6 . 獣医学演習（5，6年次・分担）
- 7 . 獣医学演習（5年次）
- 8 . 卒業研究（6年次）

所属学会等：日本獣医学会，日本解剖学会，日本獣医師会

他大学講師等：岐阜大学大学院連合獣医学研究科教授
併任

研究業績

A . 原著論文

- 1 . Abdali, S.S., Nakamuta, S., Yamamoto, Y., Nakamuta, N. (2020) Distribution of cells expressing vomeronasal receptors in the olfactory organ of turtles. *J. Vet. Med. Sci.* 82, 1068-1079. doi.org/10.1292/jvms.20-0207,
- 2 . Ookoshi, K., Yokoyama, T., Saino, T., Nakamuta, N. Yamamoto, Y. (2020) Morphological characterization of brush cells in the rat trachea. *Tissue Cell* 66, 101399. doi.org/10.1016/j.tice.2020.101399.
- 3 . Hata, K., Araki, O., Yokoi, O., Kusakabe, T., Yamamoto, Y., Ito, S., Nikuni, T. (2020) Multicoding in neural information transfer suggested by mathematical analysis of the frequency-dependent synaptic plasticity in vivo. *Sci. Rep.* 10, 13974. doi.org/10.1038/s41598-020-70876-4.
- 4 . Hirakawa, M., Yokoyama, T., Yamamoto, Y., Saino, T. (2021) Distribution and morphology of P2X3-immunoreactive subserosal afferent nerve endings in the rat gastric antrum. *J. Comp. Neurol.* 529, 2014-2028. doi.10.1002/cne.25069.

B . 国内学会発表

- 1 . 津嶋宥希, 中牟田信明, 山本欣郎 (2020) 低酸素濃度下での二酸化炭素濃度の差によるラット延髄における Fos 発現の変化. 第 163 回日本獣医学会学術集会 (Web 開催), 9 月 .
- 2 . 西村裕之, 中牟田信明, 山本欣郎 (2020) フクロウ 2 種の眼球における比較解剖学的研究. 第 163 回日本獣医学会学術集会 (Web 開催), 9 月 .
- 3 . 中牟田祥子, 山本欣郎, 中牟田信明 (2021) ハイギョ嗅覚器における 1 型鋤鼻受容体発現細胞の分布. 第 1 回 日本獣医解剖アカデミア (Web 開催), 3 月 .
- 4 . 斎藤優気, 中牟田信明, 山本欣郎 (2021) ラット頸動脈小体におけるカルシウムカルモジュリン依存性タンパク質キナーゼ II の分布. 第 1 回 日本獣医解剖アカデミア (Web 開催), 3 月 .
- 5 . 山本欣郎, 横山拓矢, 中牟田信明 (2021) Morphology and function of GNAT3-immunoreactive chemosensory cells in the rat pharynx . 第 126 回日本解剖学会総会・全国学術集会 (Web 開催) 3 月 .
- 6 . 平川正人, 横山拓矢, 山本欣郎, 齋野朝幸 (2021) Morphological analysis of P2X3-immunoreactive afferent nerve endings in the rat gastric subserosa . 第 126 回日本解剖学会総会・全国学術集会 (Web 開催) 3 月 .
- 7 . 中牟田祥子, 二階堂雅人, 山本欣郎, 横山拓矢, 中牟田信明 (2021) Expression of type 1

vomeronasal receptors in the olfactory organ of lungfish .
第 126 回日本解剖学会総会・全国学術集会 (Web
開催) 3 月 .

一 條 俊 浩

Ichijo, Toshihiro



赴任：2016年

現職：准教授

学位：博士（獣医学）（岐阜大学）

専門分野：臨床獣医学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

- 1 . 牛の第一胃アシドーシスの病態と予防に関する研究
- 2 . 乳牛の周産期疾病の病態と予防に関する研究
- 3 . 画像診断による不明疾病の病態解明に関する研究
- 4 . 哺乳子牛の栄養に関する研究

担当科目：

- 1 . 獣医学概論・獣医倫理（1年次，分担）
- 2 . 生命のしくみ（1年次，分担）
- 3 . ヒトと動物の関係学（2年次，分担）
- 4 . 獣医臨床繁殖学実習（4年次，分担）
- 5 . 獣医内科学実習（4年次，分担）
- 6 . 食品安全管理学（4年次，分担）
- 7 . 大動物臨床実習・応用編（5年次，分担）
- 8 . 総合参加型臨床実習（5年次，分担）
- 9 . 代謝病・中毒学（5年次，分担）
- 10 . 卒業研究（6年次，分担）

所属学会等：日本獣医学会，日本産業動物獣医学会，
日本家畜臨床学会，日本畜産学会，家畜感染症学会，
大動物臨床研究会，牛臨床寄生虫研究会，日本アミノ
酸学会

その他の主な活動：日本家畜臨床学会理事，産業動物
臨床医学雑誌編集委員，家畜感染症学会誌編集委員，
農場 HACCP 主任審査員，JGAP 審査員

研究業績

A . 原著論文

(a) 学術雑誌

- 1 . Kim Y-H., Takahashi C., Kushibiki., Ikuta K., Ichijo T.,
and Sato S.(2020) Wood kraft pulp supplementation
alters the rumen fermentation characteristics and
transcriptomes in Holstein cattle during the continuous
high-grain diet challenge. Anim. Feed Sci. Tech. 257,
114292.
- 2 . Tsuchiya Y., Kawahara N., Kim Y-H., Ichijo T., and Sato
S. (2020) Changes in oxidative stress parameters in
healthy and diseased Holstein cows during the transition

period in Yamagata Prefecture, Japan. J. Vet. Med. Sci.
87, 955-961, doi: 10.1292/jvms.20-0024.

- 3 . 佐々木 淳，一條俊浩，後藤浩子，藤田 茂，佐
藤 繁 (2020) 黒毛和種子牛における重複脊髄
症及び水髄症の併発例 . 日獣会誌 73 , 37 40 .
- 4 . 石塚直樹, Kim Yohan, 岩本英治, 正木達規, 木村
淳, 一條俊浩, 佐藤 繁 (2020) 黒毛和種牛の肥
育後期における第一胃内細菌叢構成と肥育および
枝肉成績の関係 . 産業動物臨床医誌 11(2) :66-76 .
- 5 . Mari OKAMOTO, Keisuke OGATA, Nanako
YAMASHITA-KAWANISHI, Toshihiro ICHJO,
Shinichi HATAMA, Maiko ISHIKAWA and Takeshi
HAGA (2020) Genomic characterization and
distribution of bovine foamy virus in Japan. J. Vet. Med.
Sci. 82:1607-1613.
- 5 . Keisuke Tomita, Sonoko Miyauchi, Yuzuru Katagiri,
Syuji Yoneyama, Leng Dongze, Yusuke Chiba, Toh-Ichi
Hirata, Toshihiro Ichijo, Hajime A Yasuda, Hirokazu
Hikono, Kenji Murakami (2020) Effectiveness of on-
farm continuous flow high-temperature short-time
pasteurization for inactivation of bovine leukemia virus in
milk. Animal science journal. 91(1);e13495. doi:
10.1111/asj.13495.
- 6 . 金澤朋美, 木村 淳, 藤原 崇, 福中守人, 一條
俊浩, 佐藤 繁 (2021) 分娩後乳牛の血中カル
シウム濃度 に及ぼす分娩前ゼオライトA給与の影
響 . 日獣会誌 (印刷中) .
- 7 . Kato J., Kita Y., Yo-Han Kim, Ichijo T., Sato S
(2021) Effects of feeding of corn silage in different
quantities and qualities on rumen fermentation, blood
metabolites, and hepatic gene expression in cattle. J. Vet.
Med. Sci., (Under review).
- 8 . Horinaka A., Kim Y-H., Kimura A., Iwamoto E., Masaki
T., Ichijo T., Sato S (2021) Changes in the function
of ruminal microbiome by KEGG analysis of Japanese
Black beef cattle during fattening stages. J. Vet. Med. Sci.,
(Under review).

B. 報告書

- 1 . ICT・ロボット・AI を用いた公共牧場管理マニ
ュアル(2020) 農林水産省革新的技術開発・緊急
展開事業(うち経営体強化プロジェクト)畜産・
酪農(3) 中山間地域における放牧を利用した
収益力向上のための技術体系の確立, ICT 等を活
用した放牧による健全な乳用牛及び肉用牛の低
コスト育成技術開発, ICT・ロボット・AI を活用
した放牧技術による生涯生産性向上を可能とす

- る乳用牛の育成管理技術の開発.
2. 「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト・労働力不足の解消に向けたスマート農業実証」共同型スマート CBS (Cattle Breeding Station) による地域一体となった労働力不足解消技術大家の実証. FAMS2020 年報, 第 15 号 33-37.
 3. 岩手大学・NTTドコモ社研究協定による「5G を用いた産業動物遠隔診療診断支援システムの構築と検証」.
 4. 第 7 回東北農場 HACCP 研究会活動報告 FAMS2020 年報, 第 15 号 23.
- C. 国内学会発表
1. 堀中あさひ, 石塚直樹, 牧野博生, Kim Yohan, 一條俊浩, 佐藤 繁 (2020) 黒毛和種牛の肥育時期による第一胃内細菌叢の構成および機能発現の変化. 第 163 回日本獣医学会学術集会講演要旨, 147.
 2. 金子紘野, 一條俊浩, 佐藤 繁 (2020) 黒毛和種肥育牛における牛白血病ウイルス (BLV) 感染の有無による末梢血中酸化ストレス関連 因子の比較. 第 163 回日本獣医学会学術集会講演要旨, 148.
 3. 田内瞬一, 一條俊浩, 佐藤 繁 (2020) ホルスタイン種子牛の哺乳後における頸静脈血中アミノ酸濃度の推移. 第 163 回日本獣医学会学術集会講演要旨, 149.
 4. 田内瞬一, 一條俊浩, 菅原里佳, 堀中あさひ, 金子紘野, 山村実穂, 小野雅樹, 木村 淳, 金澤朋美, 佐藤 繁 (2020) ホルスタイン種雄子牛の頸静脈, 肝門脈および肝静脈における哺乳後の血漿中アミノ酸濃度推移. 第 14 回日本アミノ酸学会抄録, 150.
 5. 尾形 透, 田村倫也, 近藤寛樹, 一條俊浩 (2020) 痙攣性不全麻痺を疑い部分的脛骨神経切除術を行った黒毛和種子牛の 1 例. 日本家畜臨床学会第 51 回学術集会講演要旨, 124-125.
 6. 山村実穂, 一條俊浩, 後藤浩子, 金子紘野, 田内瞬一, 堀中あさひ, 小野雅樹, 菅原里佳, 佐藤 繁 (2020) 外科的切除術を実施した黒毛和種繁殖牛の鼻腔腺癌の 1 症例. 日本家畜臨床学会第 51 回学術集会講演要旨, 126-127.
 7. 小野雅樹, 一條俊浩, 菅原里佳, 山村実穂, 尾形透, 加藤惇郎, 千葉恵樹, 佐藤 繁 (2020) 臍静脈炎の子牛 4 症例における超音波画像診断および外科的処置. 日本家畜臨床学会第 51 回学術集会講演要旨, 128-129.

8. 菅原里佳, 一條俊浩, 菊地智菜, 金子紘野, 田内瞬一, 堀中あさひ, 小野雅樹, 山村実穂, 佐藤 繁 (2020) 黒毛和種子牛の難治性骨折における腐骨摘出術の 1 例. 日本家畜臨床学会第 51 回学術集会講演要旨, 130-131.

大 沼 俊 名
Oonuma, Toshina



赴任: 2016年

現職: 准教授

学位: 博士 (獣医学) (岐阜大学)

専門分野: 獣医生理学, 血管生物学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 血管新生, リンパ管新生メカニズムの解明

担当科目:

1. 情報基礎 (1 年次, 分担)
2. 獣医学概論 (1 年次, 分担)
3. 獣医倫理 (1 年次, 分担)
4. 獣医細胞生物学 (1 年次)
5. 器官制御生理学 (2 年次, 分担)
6. 生理学実習 (2 年次)
7. 内分泌学 (3 年次, 分担)

所属学会等: 日本獣医学会, 日本血管生物医学会, 日本実験動物医学会

学会賞等: 日本実験動物医学会前島 賞 (2013 年), Young Investigator Award (The 18th International Vascular Biology Meeting, 2014)

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Awad M, Kizaki K, Ishiguro-Oonuma T, Takahashi T, Hashizume K (2020) Secreted protein of Ly6 domain 1 enhanced bovine trophoblastic cell migration activity. *In vitro Cell Dev Biol Anim* 56 (10) 827-831.

B. 国内学会発表

1. 二宮千秋, 木崎景一郎, 石黒 (大沼) 俊名, 金澤朋美, 高橋 透, 伊賀浩輔 (2020) 妊娠ウシ血中のマイクロ RNA 定量に関する基礎的検討 II. 第 113 回日本繁殖生物学会大会 (仙台).
2. 大竹真優, 石黒 (大沼) 俊名, 落合和彦, 木崎景一郎 (2020) イヌ乳腺腫瘍細胞株に対する HER2 阻害薬の効果の検証. 第 163 回日本獣医学会学術集会 (山口).

高橋 正弘

Takahashi, Masahiro



赴任：2014年

現職：准教授

学位：博士（獣医学）（岐阜大学）

専門分野：産業動物臨床学，臨床繁殖学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. ウシの受精卵移植に関する研究
2. 臨床繁殖を中心に産業動物臨床学に関する研究

担当科目：

1. 産業動物臨床学（4年次，分担）
2. 総合参加型臨床実習（5年次）
3. 総合参加型臨床実習（5年次）
4. 総合参加型臨床実習（5年次）
5. 総合参加型臨床実習（5年次）
6. 大動物臨床実習・基礎編（5年次）
7. 大動物臨床実習・応用編（5年次）
8. 小動物内科学実習・応用編（4年次，分担）
9. 動物衛生学実習（4年次）
10. 獣医学概論（1年次，分担）
11. 獣医倫理（1年次，分担）
12. 獣医学演習（4・5年次）

所属学会等：日本獣医学会，日本産業動物獣医学会，日本繁殖生物学会，日本家畜臨床学会（評議員），日本畜産学会

研究業績

A. 報告書・事業報告書

1. 高橋正弘，山本公平（2021）ウシ血中脂肪酸組成ならびに経腔採卵による胚発生に及ぼす不飽和脂肪酸の影響．岩手大学農学部附属FAMS年報，15，56．

中牟田 信明

Nakamuta, Nobuaki



赴任：2007年

現職：准教授

学位：博士（獣医学）（東京大学）

専門分野：獣医解剖学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 嗅覚系と鋤鼻系の解剖学的研究

担当科目：

1. 内臓・脈管系解剖学（2年次，分担）
2. 解剖学実習（2年次，分担）
3. 組織学実習（2年次，分担）

4. 基礎生物学実験（1年次，分担）

5. 獣医学演習（5年次，分担）

6. 卒業研究（6年次，分担）

7. 神経解剖学（大学院博士課程）

所属学会等：日本獣医学会（評議員），アジア獣医解剖学会，日本解剖学会（評議員），日本発生生物学会，日本味と匂学会（評議員），日本獣医師会
他大学講師：岐阜大学大学院連合獣医学研究科准教授併任

その他の主な活動：農林水産省獣医事審議会専門委員，The Journal of Veterinary Medical Science 編集委員，The Journal of Veterinary Science 編集委員

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Abdali, S. S., Nakamuta, S., Yamamoto, Y. and Nakamuta, N. (2020) Distribution of cells expressing vomeronasal receptors in the olfactory organ of turtles. J. Vet. Med. Sci. 82, 1068-1079.
2. Ookoshi, K., Yokoyama, T., Saino, T., Nakamuta, N. and Yamamoto, Y. (2020) Morphological characterization of brush cells in the rat trachea. Tissue Cell 66, 101399.

B. 国内学会発表

1. 津嶋宥希，中牟田信明，山本欣郎（2020）低酸素濃度下での二酸化炭素濃度の差によるラット延髄における Fos 発現の変化．第163回日本獣医学会学術集会，Web 開催（9月）。
2. 西村裕之，中牟田信明，山本欣郎（2020）フクロウ 2種の眼球における比較解剖学的研究．第163回日本獣医学会学術集会，Web 開催（9月）。
3. 中牟田祥子，山本欣郎，中牟田信明ハイギョ嗅覚器における1型鋤鼻受容体発現細胞の分布．第1回日本獣医解剖アカデミア，Web 開催（3月）。
4. 斎藤優気，中牟田信明，山本欣郎（2021）ラット頸動脈小体におけるカルシウムカルモジュリン依存性タンパク質キナーゼ II の分布．第1回日本獣医解剖アカデミア，Web 開催（3月）。
5. 中牟田祥子，二階堂雅人，山本欣郎，中牟田信明（2021）ハイギョ嗅覚器における1型鋤鼻受容体発現解析．第126回日本解剖学会総会・全国学術集会，Web 開催（3月）。
6. 山本欣郎，横山拓矢，中牟田信明（2021）咽頭におけるGNAT3陽性化学受容細胞の形態と機能．第126回日本解剖学会総会・全国学術集会，Web 開催（3月）。

山田 慎二

Yamada, Shinji



赴任：2019年

現職：准教授

学位：博士（獣医学）（北海道大学）

専門分野：獣医感染症学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. ワクチンによる家畜感染症予防に関する研究
2. 家畜感染症の診断に関する研究

担当科目：

1. 生命のしくみ（1年次，分担）
2. 獣医倫理学（1年次，分担）
3. 獣医微生物学実習（2年次）
4. 獣医微生物学実習（3年次）

所属学会等：日本獣医学会，日本癌学会

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Sajiki Y, Konnai S, Ochi A, Okagawa T, Githaka N, Isezaki M, Yamada S, Ito T, Ando S, Kawabata H, Logullo C, da Silva Vaz I Jr, Maekawa N, Murata S, Ohashi K. (2020) Immunosuppressive effects of sialostatin L1 and L2 isolated from the taiga tick *Ixodes persulcatus* Schulze. *Ticks and tick-borne diseases*. 2020;11:101332.
2. Sato M, Matsumoto M, Saiki Y, Alam M, Nishizawa H, Rokugo M, Brydun A, Yamada S, Kaneko MK, Funayama R, Ito M, Kato Y, Nakayama K, Unno M, Igarashi K. (2020) BACH1 promotes pancreatic cancer metastasis by repressing epithelial genes and enhancing epithelial-mesenchymal transition. *Cancer Research*. 2020;80:1279-1292.
3. Goto S, Konnai S, Hirano Y, Kohara J, Okagawa T, Maekawa N, Sajiki Y, Watari K, Minato E, Kobayashi A, Gondaira S, Higuchi H, Koiwa M, Tajima M, Taguchi E, Uemura R, Yamada S, Kaneko MK, Kato Y, Yamamoto K, Toda M, Suzuki Y, Murata S, Ohashi K. (2020) Upregulation of PD-L1 Expression by Prostaglandin E 2 and the Enhancement of IFN- γ by Anti-PD-L1 Antibody Combined With a COX-2 Inhibitor in *Mycoplasma bovis* Infection. *Frontiers in veterinary science*. 2020;7:12.
4. Yamada S, Kaneko MK, Sayama Y, Asano T, Sano M, Yanaka M, Nakamura T, Okamoto S, Handa S, Komatsu Y, Nakamura Y, Furusawa Y, Takei J, Kato

Y. (2020) Development of Novel Mouse Monoclonal Antibodies Against Human CD19. *Monoclonal antibodies in immunodiagnosis and immunotherapy*. 2020;39:45-50.

5. Yasukawa M, Ando Y, Yamashita T, Matsuda Y, Shoji S, Morioka MS, Kawaji H, Shiozawa K, Machitani M, Abe T, Yamada S, Kaneko MK, Kato Y, Furuta Y, Kondo T, Shirouzu M, Hayashizaki Y, Kaneko S, Masutomi K. (2020) CDK1 dependent phosphorylation of hTERT contributes to cancer progression. *Nature Communications*. 2020;11:1557.
6. Goto S, Konnai S, Hirano Y, Kohara J, Okagawa T, Maekawa N, Sajiki Y, Watari K, Minato E, Kobayashi A, Gondaira S, Higuchi H, Koiwa M, Tajima M, Taguchi E, Ishida M, Uemura R, Yamada S, Kaneko MK, Kato Y, Yamamoto K, Toda M, Suzuki Y, Murata, Ohashi K. (2020) Clinical efficacy of the combined treatment of anti-PD-L1 rat-bovine chimeric antibody with a COX-2 inhibitor in calves infected with *Mycoplasma bovis*. *The Japanese journal of veterinary research*. 2020;68:77-90.
7. NW Githaka, Konnai S, Isezaki M, Goto S, Xavier MA, Fujisawa S, Yamada S, Okagawa T, Maekawa N, Logullo C, da Silva Vaz I, Murata S, Ohashi K. (2020) Identification and functional analysis of ferritin 2 from the Taiga tick *Ixodes persulcatus* Schulze. *Ticks and tick-borne diseases*. 2020;11:101547.

山田 美鈴

Yamada, Misuzu



赴任：2007年

現職：准教授

学位：博士（農学）（京都大学）

専門分野：動物生理化学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 低酸素に関わるサイトカインの発現制御機構の解明
2. 腎疾患および腎疾患に付随する二次的症状の発症機序の解明

担当科目：

1. 獣医基礎生化学（2年次）
2. 生化学実習（3年次）
3. 情報基礎（1年次：分担）
4. 生命のしくみ（1年次：分担）

所属学会等：日本獣医学会，日本畜産学会

学会賞等：日本獣医解剖学会奨励賞，独立行政法人日本学術振興会平成28年度特別研究員等審査会専門委員（書面担当）表彰。

内田直宏

Utida, Naohiro



赴任：2014年

現職：助教

学位：博士（獣医学）

専門分野：獣医臨床病理学，獣医臨床腫瘍学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 小動物の腫瘍における血管新生因子の発現

担当科目：

1. 臨床病理学（3年次，分担）
2. 小動物内科学実習・基礎編（4年次，分担）
3. 小動物内科学実習・応用編（4年次，分担）
3. 臨床腫瘍学（5年次，分担）
4. 総合参加型臨床実習（5年次，分担）

所属学会等：日本獣医学会，日本獣医がん学会，日本獣医腎泌尿器学会

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Sato, R., Uchida, N., Kawana, Y., Tozuka, M., Kobayashi, S., Hanyu, N., Konno, Y., Iguchi, A., Yamasaki, Y., Kuramochi, K., Yamasaki, M. (2019) Epidemiological evaluation of cats associated with feline polycystic kidney disease caused by the feline PKD1 genetic mutation in Japan. J. Vet. Med. Sci. 2019 Jun: Epub ahead of print.
2. Iguchi, A., Ooshida, J., Mitsui, I., Uchida, N., Kobayashi, S., Yamasaki, M., Satou, R. (2019) Suspected eccrine adenocarcinoma on footpad of the right hindlimb in a dog. J. Vet. Med. Sci. 81: 821-823.

B. 国際学会発表

1. Kimura, M., Uchida, N., Iguchi, A., Fukui, D., Hoshino, Y., Yamasaki, M. (2018) Evaluation of angiogenesis using semiquantitative RT-PCR for endothelial markers in various canine tumors. ECVIM-CA 28th annual congress, Rotterdam.

C. 国内学会発表

1. 日比孝嘉，小林沙織，内田直宏，戸塚美奈子，井口愛子，山崎真大，佐藤れえ子（2018）ネコの慢性腎臓病における尿細管機能の変動 第2報

・排泄分画率を中心に・第11回日本獣医腎泌尿器学会学術集会抄録：25-26。

2. 益田美佐，井口愛子，内田直宏，小林沙織，佐藤れえ子，山崎真大（2018）*Babesia gibsoni* に対するニューキノロン系抗菌薬の有効性の評価。第161回日本獣医学会学術集会要旨集：437。
3. 井口愛子，小林沙織，内田直宏，佐藤れえ子，山崎真大（2018）アトバコン耐性 *Babesia gibsoni* に対するアトバコンのミトコンドリア膜電位崩壊作用。第161回日本獣医学会学術集会要旨集：437。
4. 櫻井玲奈，山崎弥生，内田直宏，小林沙織，井口愛子，山崎真大，佐藤れえ子（2018）ネコ polycystin-1 遺伝子(PKD1)の遺伝子多型と腎嚢胞形成の関連性。第161回日本獣医学会学術集会要旨集：439。

小林沙織

Kobayashi, Saori



赴任：2009年

現職：助教

学位：博士（獣医学）（岐阜大学）

専門分野：獣医内科学，腎泌尿器学，獣医臨床免疫学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. ネコの常染色体優性遺伝多発性嚢胞腎における病態解明と治療法の検索
2. イヌやネコの薬剤性腎障害における病態解明
3. イヌの好中球機能不全症に対する診断・病態生理・治療法に関する免疫学的・分子遺伝学的研究

担当科目：

1. 人の暮らしと生物環境（1年次，分担）
2. 小動物内科学実習・基礎編（4年次，分担）
3. 小動物内科学実習・応用編（4年次，分担）
4. 総合参加型臨床実習Ⅰ（5年次，分担）
5. 泌尿器病・生殖器病学（5年次，分担）
6. 臨床病理学（3年次，分担）

所属学会等：日本獣医学会，日本ウイルス学会，日本ラクトフェリン学会，日本獣医腎泌尿器学会，日本腎臓学会，動物医学臨床研究所

学会賞等：International Conference on Lactoferrin (Trainee Award(2005年)，Student Award(2007年))，日本獣医内科学アカデミー 文永堂出版 JCVIM 賞（2007年）

その他の主な活動：メープル小動物臨床検討会（幹事），岩手小動物臨床検討会（世話人），日本獣医腎泌尿器学会（理事），日本獣医内科学アカデミー（実行委員）

研究実績

A. 著書・訳書

1. 小林沙織(分担執筆)(2020) 犬の治療ガイド 2020 私はこうしている。「尿失禁」「神経原性排尿障害」(辻本 元, 小山秀一, 大草 潔, 兼島 孝, 中村篤史編集), EDUWARD Press, 東京, pp.453-455, pp.458-463.
2. 小林沙織(分担執筆)(2020) 猫の治療ガイド 2020 私はこうしている。「尿失禁」「神経原性排尿障害」(辻本 元, 小山秀一, 大草 潔, 兼島 孝, 中村篤史編集), EDUWARD Press, 東京, pp.396-398, pp.400-403.
3. 小林沙織(分担執筆)(2020) 病態・疾患別 犬と猫の輸液療法。「リン濃度異常」(岡野昇三監修), 緑書房, 東京, pp.95-100.

B. その他

1. 小林沙織(2020) 猫の慢性腎臓病へのアプローチ ~症例から学ぶ診断・管理法~「蛋白尿のコントロール ~おしっこ回数が増えてきました~」.CAP 2020年12月号, pp.15-22.

C. 国内学会発表

1. 佐々木奈那, 小林沙織, 庄司泰盛, 照喜名弘樹, 森田智也, 米澤智洋, 藤原玲奈, 山下浩樹, 内田直宏, 佐藤れえ子, 山崎真大(2020) ネコ多発性嚢胞腎における総腎容積の予後予測の検討. 第163回日本獣医学会学術集会(オンライン版).
2. 宮原 楓, 内田直宏, 木村真優, 大堀文也, 小林沙織, 森田智也, 山崎真大(2020) イヌの上皮系・非上皮系腫瘍における微小血管密度およびリン酸化 VEGFR2 と増殖活性の相関性の検討. 第163回日本獣医学会学術集会(オンライン版).
3. 中島冬萌, 西浦 颯, 小林沙織, 山崎真大, 佐々木淳, 落合謙爾(2020) 犬の肺に見られた多発性肺実質内気管支原性嚢胞. 第163回日本獣医学会学術集会(オンライン版).
4. 小林沙織(2021) 日本腎泌尿器学会 2020 年度認定講習会「中毒性腎障害」. 第17回本獣医内科学アカデミー学術集会抄録(オンライン版).
5. 小林沙織(2021) 泌尿器疾患の抗菌薬. 第17回本獣医内科学アカデミー学術集会抄録(オンライン版).

佐々木 淳

Sasaki, Jun



赴任: 2007年

現職: 助教

学位: 博士(獣医学)

専門分野: 獣医病理学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 福島第一原発事故による牛における放射線被曝の影響に関する病理学的研究
2. 鶏の感染症および運動器系疾病に関する病理学的研究

担当科目:

1. 動物病理学各論A(3年次)
2. 病理学実習(4年次, 分担)
3. 基礎生物学実験(1年次, 分担)
4. 獣医学演習(5年次, 分担)
5. 卒業研究(6年次, 分担)

所属学会等: 日本獣医学会(評議員), 日本獣医病理学専門家協会(評議員), 日本獣医師会, 鶏病研究会, 日本病理学会

研究業績

A. 著書・訳書

1. 佐々木 淳(分担執筆)(2020) 動物病理学各論 第3版. 文永堂出版, 東京.
2. 佐々木 淳(分担執筆)(2020) 獣医病理学実習 マニュアル第3版. 学窓社, 東京.

B. 総説・論説

1. 佐々木 淳(2020) 福島県の帰還困難区域における被ばく牛の病理. 岩手県獣医師会報, 46, 42-45.

C. 原著論文

(a)学術雑誌

1. Jun Sasaki, Yusuke Kuroda, Atsushi Ueki, Bhuminand Devkota, Norio Yamagishi (2020) Intestinal ganglioneuroma in a neonatal Japanese black calf. Acta Veterinaria Hungarica, 68, 49-52.
2. Azumi Todaka, Shin Toyoda, Masahiro Natsuhori, Keiji Okada, Itaru Sato, Hiroshi Sato, Jun Sasaki (2020) ESR a 1 sassessment of tooth enamel dose from cattle bred in 2 areas contaminated due to the Fukushima Dai-ichi nuclear 3 power plant accident. Radiation Measurements, DOI: 10.1016/j.radmeas.2020.106357.
3. Itaru Sato, Jun Sasaki, Hiroshi Satoh, Masahiro Natsuhori, Takahisa Murata, Keiji Okada (2020) Assessments of DNA Damage and Radiation

Exposure Dose in Cattle Living in the Contaminated Area Caused by the Fukushima Nuclear Accident. Bulletin of Environmental Contamination and Toxicology, 105, 496-501.

4. Hayate Nishiura, Shino Jou, Toru Ogata, Hiroki Kondo, Toshihiro Ichijo, Jun Sasaki, Kenji Ochiai (2020) Calving-related intradural avulsion injuries of the thoracolumbar spinal nerve roots in a calf. Journal of Veterinary Diagnostic Investigation, 32, 968-971.
5. Jun Sasaki, Ipei Muneuchi, Kanako Ushio, Chihiro Sochi, Youichi Irie, Kazunori Yoshizumi and Waturu Hashimoto (2020) Brunner's Gland Adenocarcinoma in an Aged Western Gorilla (*Gorilla gorilla*). Journal of Comparative Pathology, 181, 47-52.

D. 国内学会発表

1. 豊田 新, 戸高安曇, 夏堀雅宏, 岡田啓司, 佐藤至, 佐藤 洋, 佐々木 淳 (2020) 哺乳動物の歯を用いた, 福島第一原子力発電所事故に伴う環境汚染による被曝線量の計測. 2019年度日本原子力研究開発機構・量子科学技術研究開発機構施設利用共同研究一般共同研究成果報告書.

E. 国内学会発表

1. 佐々木 淳, 佐藤 至, 佐藤 洋, 岡田啓司, 千田広幸, 大谷久美子 (2020) 福島県の被ばく牛でみられた牛白血病の病理学的検討. 第163回日本獣医学会学術集会, WEB 開催.

関(市川) まどか

Ichikawa-Seki Madoka



赴任: 2013年

現職: 助教

学位: 博士(獣医学)(岐阜大学)

専門分野: 獣医寄生虫学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動

1. 肝蛭属吸虫の分子疫学および系統解析
 2. 単為生殖型肝蛭の起源および生殖メカニズムの解明
 3. 日本各地におけるクリトスポリジウム属原虫の疫学調査
 4. 新規抗寄生虫薬の探索と作用機序の解明
- 担当科目:
1. 基礎生物学実験(1年次)
 2. 獣医寄生虫学実習(3年次)
 3. 獣医学演習(5年次, 分担)
 4. 卒業研究(6年次, 分担)

所属学会等: 日本獣医学会, 日本寄生虫学会, 日本熱

帯医学会, 日本獣医寄生虫学会, World Association for Advancement of Parasitology, 日本獣医師会学会賞等:

日本獣医寄生虫学会獣医寄生虫学奨励賞(2010年), 日本寄生虫学会若手研究者ベストプレゼンテーション賞(2010年), 日本獣医学会獣医学奨励賞(2013年), 資生堂女性研究者サイエンスグラント(2016年) 研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Sato, H., Hiraya, H., Sugiyama, T., Fukumoto, S., Matsuyama, R., Yanagawa, Y., Nakao, R., Irie, T., Taira, K., Yamazaki, A., Hagiwara, K., Yoshida, A., Kamata, Y. and Ichikawa-Seki, M. (2021) Seroprevalence of fasciolosis in Hokkaido sika deer (*Cervus nippon yesoensis*) from Hokkaido Prefecture, Japan revealed by ELISA using recombinant cathepsin L1. Parasitol. Int. 80:102222.
2. Laatamna, A.E., Tashiro, M., Zokbi, Z., Chibout, Y., Megrane, S., Mebarka, F. and Ichikawa-Seki, M. (2021) Molecular characterization and phylogenetic analysis of *Fasciola hepatica* from high-plateau and steppe areas in Algeria. Parasitol. Int. 80:102234.
3. Masatani, T., Kojima, J., Tashiro, M., Yamauchi, K., Fukui, D., Ichikawa-Seki, M. and Harasawa, R. (2020) Molecular detection of filarial nematode parasites in Japanese black bears (*Ursus thibetanus japonicus*) from Iwate Prefecture, Japan. J. Vet. Med. Sci. 83:208-213.
4. Rehman, Z.U., Tashibu, A., Tashiro, M., Rashid, I., Ali, Q., Zahid, O., Ashraf, K., Shehzad, W., Chaudhry, U. and Ichikawa-Seki, M. (2021) Molecular characterization and phylogenetic analyses of *Fasciola gigantica* of buffaloes and goats in Punjab, Pakistan. Parasitol. Int. 82:102288.
5. Sugiyama, T., Ichikawa-Seki, M., Sato, H., Kounosu, A., Tanaka, M. and Maruyama, H. (2021) Enzyme-linked immunosorbent assay (ELISA) using recombinant *Fasciola* cathepsin L1 for the diagnosis of human fasciolosis caused by *Fasciola hepatica/gigantica* hybrid type. Parasitol. Int. 82:102311.
6. Thang, T.N., Sivakumar, T., Kothalawala, H., Silva, S.S.P., Yokoyama, N. and Ichikawa-Seki, M. (2021) Geographic origin of *Explanatum explanatum* (Creplin, 1847) Fukui, 1929 detected from domestic water buffaloes in Sri Lanka. Infect. Genet. Evol. 91:104806.

B. 国内学会発表

1. 池内 葵, 近藤大輔, Halajian Al, J. Luus-Powell Wilmien, 関 まどか (2020) 南アフリカのカバから得られた双口吸虫の形態学的・分子学的解析. 第 89 回日本寄生虫学会大会プログラム・講演要旨: 75.
2. 岡本衣美, 田代みちよ, Tran Nhat Thang, 関まどか (2020) Fasciola 属における新規種鑑別 DNA マーカーの確立. 第 89 回日本寄生虫学会大会プログラム・講演要旨: 76.
3. 杉山琢俊, 佐藤浩庸, 関 まどか, 黒木美香, 丸山治彦 (2020) 組み換え CathepsinL1 を抗原とした ELISA によるヒト肝蛭症の血清診断. 第 89 回日本寄生虫学会大会プログラム・講演要旨: 87.

山 崎 朗 子

Yamazaki, Akiko



赴任: 2015年

現職: 助 教

学位: 博士 (医学) (長崎大学)

専門分野: 公衆衛生

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. ジビエの安全管理に関する研究
2. 野生動物に寄生する住肉胞子虫の疫学的研究
3. 住肉胞子虫の腸管毒性機序の解明
4. ハウスダストアレルギーの原因となるカビおよびダニのアレルゲン解析

担当科目:

1. 食品衛生学実習 (4年前期)
2. 公衆衛生学実習 (3年後期, 分担)
3. 生命のしくみ (1年次, 分担)
4. 獣医学概論 (1年次, 分担)

所属学会等: 日本獣医学会, 食品微生物学会, 日本野生動物医学会, 防菌防黴学会

その他の主な活動: 岩手県環境審議会委員, 岩手県建築審議会委員

研究業績

A. 著書・総説

(a) 学術雑誌

1. 山崎朗子 (2020) 野生動物を食べる “ジビエと食品衛生の課題”. 産業動物臨床医誌 113 113-120.

B. 原著論文

1. Yamazaki, A., Shirafuji, Y., and Kamata, Y. (2021) Establishment of a Novel Molecular Detection Method

for *Sarcocystis* in Venison. Foodborne Pathog Dis. 18 2 104-113.

2. Izawa, K., Kubosaki, A., Kobayashi, N., Akiyama, Y., Yamazaki, A., Hashimoto, K., Konuma, R., Kamata, Y., Hara-Kudo, Y., Hasegawa, K., Ikaga, T., and Watanabe, M. (2020) Comprehensive Fungal Community Analysis of House Dust Using Next-Generation Sequencing. Int J Environ Res Public Health. 12 17 16 5842.
3. Takahashi, T., Kabeya, H., Sato, S., Yamazaki, A., Kamata, Y., Taira, K., Asakura, H., Sugiyama, H., Takai, S., and Maruyama, S. (2020) PREVALENCE OF YERSINIA AMONG WILD SIKA DEER (*CERVUS NIPPON*) AND BOARS (*SUS SCROFA*) IN JAPAN. J Wildl Dis. 56 2 270-277.
4. Yamazaki, A., Hiroshima, T., Yamaguchi, Y., Shirafuji, Y., Taira, K., Saito, M., Kobayashi, N., Sugita-Konishi, Y., and Kamata, Y. (2020) Presence of *Sarcocystis sybillensis* in Japanese sika deer (*Cervus nippon*) captured in its native territory and its phylogenetic relationship with *Sarcocystis nipponi*. Parasitol Res. 119 7 2309-2315.
5. Sato, H., Hiraya H., Sugiyama, T., Fukumoto, S., Matsuyama, R., Yanagawa, Y., Nakao, R., Irie, T., Taira, K., Yamazaki, A., Hagiwara, K., Yoshida, A., Kamata, Y., and Ichikawa-Seki, M. (2021) Seroprevalence of fasciolosis in Hokkaido sika deer (*Cervus nippon yesoensis*) from Hokkaido Prefecture, Japan revealed by ELISA using recombinant cathepsin L1. Parasitol Int. 80 102222.
6. Oshikata, C., Watanabe, M., Ishid, M., Kobayashi, S., Kubosaki, A., Yamazaki, A., Konuma, R., Hashimoto, K., Kobayashi, N., Kaneko, T., Kamata, Y., Yanai, M., and Tsurikisawa, N. (2020) Increase in asthma prevalence in adults in temporary housing after the Great East Japan earthquake. International Journal of Disaster Risk Reduction. 50 101696.
7. Oshikata, C., Watanabe, M., Ishid, M., Kobayashi, S., Hashimoto, K., Kobayashi, N., Yamazaki, A., Konuma, R., Kaneko, T., Kamata, Y., Kuriyama, S., Yanai, M., and Tsurikisawa, N. (2020) Association between temporary housing habitation after the 2011 Japan earthquake and mite allergen sensitization and asthma development. Authorea. September 28.
8. Konuma, R., Watanabe, M., Irikura, D., Sugita-Konishi, Y., Yamazaki, A., Yanagi, U., Yahia, D., Kobayashi, N.,

Chibana, H., Onami, J., and Kamata, Y. (2021) Polymorphism of *Aspergillus Fumigatus* Major Allergen Genes Associating with Their Isolated Sites Affects Their IgE Epitope Structures. Research Square . 02 Feb.

- 9 . Irie, T., Uruguchi, T., Ito, T., Yamazaki, A., Takai, S., and Yagi, K.(2020) First report of *Sarcocystis pilosa* sporocysts in feces from red fox, *Vulpes vulpes schrencki*, in Hokkaido, Japan. Int. J. Parasitol. Parasites and wildlife **11** 29-31 .

C . 国際学会発表

- 1 . Osumi, A., Sasaki, Y., Watanabe, M., Shirafuji, Y., Terajima, J., and Yamazaki, A. (2020) In Silico Epitope Prediction, Expression and Immunogenicity Analysis of Dermatophagoides Mite Group 1 (Der 1). INDOOR AIR 2020 . Seoul (ONLINE).

D . 国内学会発表

- 1 . 大森香葉, 谷田奈津美, 白藤由紀子, 寺嶋 淳, 山崎朗子 (2020) *Sarcocystis* spp.の腸管毒性の比較検討 . 日本食品衛生学会創立 60 周年記念第 116 回学術講演会 WEB 要旨 演題番号 70.
- 2 . 品川正臣, 山崎朗子, 寺嶋 淳 (2020) 岩手県の食肉処理場に搬入された牛の直腸便における志賀毒素産生性大腸菌の保持状況 . 日本食品衛生学会創立 60 周年記念第 116 回学術講演会 WEB 要旨 演題番号 55.
- 3 . 大森香葉, 谷田奈津美, 白藤由紀子, 寺嶋 淳, 山崎朗子 (2020) ウマ寄生 *Sarcocystis fayeri* に対する細胞応答の解析 . 第 163 回日本獣医学会学術集会 Web 要旨 F0-48.
- 4 . 大角 徳, 佐々木優衣, 渡辺麻衣子, 白藤由紀子, 寺嶋 淳, 山崎朗子 (2020) ダニアレルゲングループ 1 (Der 1) のエピトープの in silico 解析および抗原性分析 . 第 163 回日本獣医学会学術集会 Web 要旨 F0-16.
- 5 . 入江隆夫, 山崎朗子 (2020) シカ科物に寄生する *Sarcocystis* 属原虫の種と生活環 . 第 89 回日本寄生虫学会大会誌上開催要旨 .

2 附属施設教員

(1)附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター

(2)附属動物病院

(3)附属動物医学食品安全教育研究センター

(1) 附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター

山本 信次
Yamamoto, Shinji



赴任：1997年

現職：教授

学位：博士（林学）（東京農業大学）

専門分野：林政学・林業経済学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 自然資源管理ガバナンスに関する研究
2. 森林管理と市民参加
3. 森林教育・都市住民に対する林業普及
4. 都市と山村の交流による地域振興

担当科目：

1. 総合フィールド科学（1年次，分担）
2. 総合フィールド科学実習（1年次，分担）
3. 地域課題演習（1年時，分担）
4. 森林科学入門（1年次，分担）
5. 森林科学基礎演習（1年時，分担）
6. 海外・日本の林業（2年時，分担）
7. 山村経済・地域おこし論（2年時，分担）
8. 地域マネジメント論（2年時，分担）
9. NPO・環境ガバナンス 論（3年次）
10. 地域資源管理学特論（大学院）
11. 地域創生特論（大学院，分担）
12. グローバル環境科学特論（大学院，分担）
13. 公開森林実習（共同利用他大学）

所属学会等：日本森林学会，林業経済学会，環境社会学会，東北森林科学会，農村計画学会

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. 滝沢裕子，伊藤幸男，山本信次（2020）ドイツにおける林業労働力の教育制度の実態——バーテン・ビュルテンベルク州におけるデュアルシステムを例に——. 日林誌102：281-287.

(b) 紀要

1. 吉川紀愛，山本信次，高田乃倫予（2020）国立公園化による地域環境ガバナンスの変遷. 岩大演報51：1-13.
2. 原科幸爾，山本信次，伊藤幸男，高野涼，松本一穂（2020）阿蘇地域における防災力向上等の多面的付加価値の創出を意図した木質バイオマス利用ゾーニング. 岩大演報51：79-89.

由比 進
Yui, Susumu



赴任：2016年

現職：教授

学位：博士（農学）（岩手大学）

専門分野：植物育種学，野菜園芸学，農業気象学，生物教育学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. ハクサイの晩抽性育種
2. 加熱調理用のッキングトマト品種育成と栽培技術の開発・普及活動
3. イネ初冬直播き栽培法の確立
4. トマトを利用した遺伝学教材の開発
5. 在来野菜品種の利活用技術の開発

担当科目：

1. 総合フィールド科学（1年次，分担）
2. 総合フィールド科学実習（1年次，分担）
3. 農場実習（2年次，分担）
4. 農場特別実習（3年次，分担）
5. 雑草防除論（4年次）
6. 植物栽培と環境テクノロジー（1年次，分担）
7. 農学概論（1年次，分担）
8. 農業技術学特論（大学院）
9. 基礎ゼミナール（1年次，分担）
10. 地域課題演習H（人文社会科学部 1,2,3,4 / 教育学部 1,2,3,4 / 理工学部 1,2,3,4 / 農学部 1,2）
11. 栽培理論（教育学部2年次，分担）

所属学会等：日本育種学会，園芸学会，日本生物教育学会

学会賞等：日本生物教育学会論文賞（2014年），日本育種学会春季大会優秀発表賞（2015年）

他大学講師・客員研究員等：盛岡大学管理栄養学部非常勤講師

その他の主な活動：ッキングトマト普及活動，岩手大学地域創生モデル構築活動，日本自然保護協会々員，「メンデルが居たプロジェクト」（小・中・高校等にミニトマト遺伝教材を提供），岩手県農業農村指導士選考委員，岩手県農業研究センター試験研究推進アドバイザー

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. 猿舘みのり，白井賢太郎，秋田 薫，馬場健一郎，

- 渡邊 学, 中西 啓, 由比 進 (2020) 市販のミニトマト F₁ 品種とその後代 F₂ を利用してメンデルの法則を体験する. 生物教育, 62(1): 2-11.
2. 及川聡子, 鈴木健策, 西 政佳, 由比 進, 松波麻耶, 下野裕之 (2021) 初冬直播き栽培における薬剤処理と採種年. 日本作物学会紀事 90(1): 1-9.

B. 特許・設計等

1. 由比 進, 吉澤信行, 三浦光浩, 松橋克也, 小館洋一, 後藤正幸, 藤澤佳行, 菅 正, 本城正憲 (2021.2.10) 特許第 6836772 号「ビニールハウス換気装置」. 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構.

平 田 統 一
Hirata, Tou-Ichi



赴任: 1992年

現職: 准教授

学位: 博士 (獣医学) (岐阜大学)

専門分野: 動物生産機能制御学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 雌牛の繁殖障害防除に関する研究
2. ウシ卵子の体外受精・培養に関する研究
3. ウシ白血病の防除に関する研究
4. 子牛の哺育・育成に関する研究

担当科目:

1. 総合フィールド科学 (1年次, 分担)
2. 牧場実習 (3年次, 分担)
3. 基礎生物学実験 (1年次, 分担)
4. 動物科学総論 (1年次, 分担)
5. 動物科学実験 (2・3年次, 分担)
6. 動物と環境 (人社, 教育, 理工, 農学部 1年次, 分担)
7. 地域課題演習 H (人社, 教育, 理工学部 2年次, 分担)
8. 動物生産学特論 (大学院)

所属学会等: 日本獣医学会, 日本畜産学会, 日本繁殖生物学会, 日本家畜臨床学会, 日本卵子学会, 東北畜産学会, 日本胚移植技術研究会, 北海道牛受精卵移植研究会, 日本家畜臨床学会

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Tomita K, Miyauchi S, Katagiri Y, Yoneyama S, Dongze L, Chiba Y, Hirata T-I, T Ichijo T, Yasuda H, Hikono H,

Murakami K. (2020) Effectiveness of on-farm industrial-scale high-temperature short-time pasteurization for inactivation of bovine leukemia virus in milk. Anim Sci J. First published: 29 December 2020 <https://doi.org/10.1111/asj.13495>.

2. Miyazaki T, Uenoyama R, Matsuzaki T, Yamashita T, T Hirata T-I, Miyazaki M. (2021) Detection of urinary luteinizing hormone in Japanese black cows after administration of gonadotropin-releasing hormone. J Vet Med Sci 83:431-434. doi.org/10.1292/jvms.20-0506.

(b) 紀要

1. 平田統一, 鈴木幸太, 杉本裕介 (2020) 体外成熟培養液に添加したアルギニンが, 成熟後の卵丘細胞や卵子, 胚における遺伝子発現, および体外受精後の牛胚発育能に及ぼす影響. 持続型農業生産技術研究. 12: 8-10.
2. 平田統一, 杉本裕介 (2020) 牛卵子/胚の体外成熟液, 前期発生培養液, 後期発生培養液におけるアミノ酸の消費と蓄積. 持続型農業生産技術研究. 12: 11-13.
3. 平田統一, 千田広幸, 佐々木 修, 佐々木修一, 桃田優子, 田尻和之, 澤井 健 (2020) 食肉処理場由来卵巣を用いた体外受精技術による日本短角種牛の効率的な産子生産技術の開発. 持続型農業生産技術研究. 12: 14-15.

B. 国内学会発表

1. 宮崎珠子, 上野山怜子, 山下哲郎, 平田統一, 宮崎雅雄 (2020) ウシ尿中黄体形成ホルモンの検出. 日本生化学会東北支部第 86 回例会講演要旨: 40.
2. 宮内苑子, 片桐謙, 落合千尋, 平田統一, 松田敬一, 一條俊浩, 彦野弘一, 村上賢二 (2020) 黒毛和種牛におけるビタミン A の制限給餌が牛白血病ウイルスのプロウイルス量および T 細胞応答に及ぼす影響. 第 163 回日本獣医学会学術集会講演要旨: D10-9.
3. 宮崎珠子, 上野山怜子, 平田統一 (2020) 牛で尿検査による発情発見は可能か?. 第 163 回日本獣医学会学術集会要旨: G0-08.
4. 門岡 憲, 中村啓哉, 平田統一, 松原和衛 (2020) ウシ尿中 EPF 様物質による早期妊娠診断の可能性. 第 113 回日本繁殖生物学会講演要旨: P-119.
5. 門岡 憲, 平田統一, 片平睦子, 中村啓哉, 横尾正樹, 川越雄太, 佐藤可野, 河村和弘, 松原和衛 (2020) マウスおよびウシ IVF 胚に対する超早期妊娠因子抗体の反応. 第 61 回日本卵子学会講

演要旨：S56 .

6. 平田統一 (2020) ウシ卵子/胚の体外培養液に添加した尿素およびアンモニアが胚発生成績に及ぼす影響 .第 61 回日本卵子学会講演要旨：S41 .
7. 平田統一, 杉本裕介, 松崎 駿, 池田広輝, 及川真道, 市野晴花 (2021) ルーメンバイパス性アルギニン製剤の給与が黒毛和種雌牛の定時授精前後の繁殖生理に及ぼす影響 .第 128 回日本畜産学会大会講演要旨：P3-03 .

白旗 学

Shirahata, Manabu



赴任：1991年

現職：助 教

学位：博士（農学）（岩手大学）

専門分野：造林学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. スギ人工林物質循環系におけるスギ個体の資源獲得と立地環境
2. ウルシ林造成のための実生苗木生産方法の検討
3. 長期モニタリングによるコナラ二次林再生方法の検討

担当科目：

1. 総合フィールド科学（1年次，分担）
2. 総合フィールド科学実習（1年次，分担）
3. 森林科学入門（1年次，分担）
4. 森林科学基礎演習（1年次，分担）
5. 樹木学実習（2年次，分担）
6. 森林造成学実習（3年次，分担）
7. 環境と樹木の生理（3年次）
8. 森林造成学特論（大学院修士，分担）

所属学会等：日本森林学会，森林立地学会，東北森林科学会（総務主事），根研究学会，日本光合成学会，日本種生物学会，日本海岸林学会

研究業績

A. 国内学会発表

1. 白旗 学, 大村元春(2021) ウルシ苗の植栽後の初期成長と頂芽食害の影響 . 第132回日本森林学会大会学術講演集：162.

渡邊 学

Watanabe, Manabu



赴任：2003年

現職：助 教

学位：博士（農学）（岩手大学）

専門分野：果樹園芸学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. リンゴの果実発育に関する研究
2. リンゴの花芽形成に関する研究
3. ブルーベリーの果実発育に関する研究
4. ブルーベリーの栽培管理に関する研究

担当科目：

1. 総合フィールド科学（1年次，分担）
2. 総合フィールド科学実習（1年次，分担）
3. 農場実習 ， （2年次，分担）
4. 農場特別実習（3年次，分担）
5. 栽培理論 ， （2年次，分担）
6. 果樹園芸学概論（2年次，分担）
7. 寒冷地果樹特論（大学院）

所属学会等：園芸学会，園芸学会東北支部会，植物化学調節学会，サゴヤシ学会，日本ブルーベリー協会，岩手ブルーベリーの会

研究業績

A. 著書・訳書

1. 渡邊 学 (分担執筆) (2021) ハイブッシュブルーベリー栽培の基礎 . 「ハイブッシュブルーベリーの栽培と利用」(岩手ブルーベリーの会), pp93-132 .

B. 原著論文

(a)学術雑誌

1. M. Isogai, K. Miyoshi, M. Watanabe, N. Yoshikawa (2020) Characterization of horizontal transmission of blueberry latent spherical virus by pollen. Archives of Virology 165 : 2807-2815.
2. 猿舘みのり, 白井賢太郎, 秋田 薫, 馬場健一郎, 渡邊 学, 中西 啓, 由比 進 (2020) 市販のミニトマトF1品種とその後代F2を利用してメンデルの法則を体験する . 生物教育 . 62 : 2-11 .
3. M. Watanabe, R. Goto, M. Murakami, S. Komori, A. Suzuki (2021) Interaction Between Ethylene and Abscisic Acid and Maturation in Highbush Blueberry. The Hort. J. 90 : 14-22.

C. その他

1. 渡邊 学 (2021) 品種育成によるブルーベリー産業の発展を目指して . ブルーベリーニュース (日本ブルーベリー協会), No. 93 : pp . 14-21 .
2. 渡邊 学 (2021) ブルーベリー剪定の基礎 . ブルーベリー情報 (岩手ブルーベリーの会会報), 第55号 : pp . 2-8 .

D. 国内学会発表

1. 劉 嘉儀, 小森貞男, 岡田初彦, 窪田 聡, 渡邊

学(2021) *Malus hupehensis* 実生の播種後10か月での開花と相転換時の植物ホルモン動態. 園学研20(別1): 160.

(2) 附属動物病院

片山 泰章
Katayama, Masaaki



赴任: 2005年

現職: 教授

学位: 博士(獣医学)

(日本獣医生命科学大学)

専門分野: 獣医外科学, 臓器移植学, 獣医腎泌尿病学, 獣医整形外科

主な研究テーマ及び主な教育研究活動:

1. 腎臓移植に関する研究
2. 猫の腎臓病に関する研究

担当科目:

1. 神経病・運動器病学(5年次前期, 分担)
2. 麻酔学・手術学(4年次前期, 分担)
3. 泌尿器病・生殖器病学(5年次後期, 分担)
4. 画像診断学(5年次前期, 分担)
5. 軟部外科学(4年次後期, 分担)
6. 外科学総論(3年次後期, 分担)
7. 小動物外科実習基礎・応用編(4年次前・後期, 分担)
8. 画像診断学実習(5年次前期, 分担)
9. 参加型総合臨床実習(5・6年次, 分担)

所属学会等: 日本移植学会, 日本獣医学会, 日本獣医師会, 日本獣医腎泌尿器学会, 日本獣医麻酔外科学会, 動物臨床医学会

研究業績

A. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Chongphaibulpatana, P., Kumagai, Y., Fukui, D., Katayama, M. and Uzuka, Y. (2020) The effect of inspired oxygen concentration on oxidative stress biomarkers in dogs under inhalation anesthesia. *Can. J. Vet. Res.* 84: 91-95.
2. Katayama, M., Ohata, K., Miyazaki, T., Katayama, R., Wakamatsu, N., Ohno, M., Yamashita, T., Oikawa, T., Sugaya, T. and Miyazaki, M. (2020) Renal expression and urinary excretion of liver-type fatty acid-binding protein (L-FABP) in cats with renal disease. *J. Vet. Intern. Med.* 34: 761-769.
3. Watanabe, A., Ohata, K., Oikawa, T., Sugaya, T., Miyazaki, M., Satoh, H., Katayama, M. (2021) Preliminary study of urinary excretion of liver-type fatty acid-binding protein in a cat model of chronic kidney disease. *Can. J. Vet. Res.* 85: 156-160.

星野有希

Hoshino, Yuki



赴任：2017年

現職：准教授

学位：博士（獣医学）（北海道大学）

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 伴侶動物の腫瘍性疾患の新規治療法の開発

担当科目：

1. 小動物外科実習（4・5年次，分担）
2. 臨床腫瘍学（5年次，分担）
3. 外科総論（4年次，分担）
4. 軟部外科学（4年次，分担）
5. 参加型臨床実習（5年次）
6. 臨床獣医学演習（5年次）
7. 消化器病学（4年次，分担）
8. 画像診断学実習（5年次，分担）

所属学会等：日本獣医学会，日本獣医師会，日本獣医麻酔外科学会，日本獣医がん学会，獣医腎臓器学会
学会賞等：日本獣医内科学アカデミー研究アワード受賞（2016年），日本小動物獣医学会北海道地区学会賞受賞（2017年），日本小動物獣医学会東北地区学会賞受賞（2018年），日本獣医腎臓器学会症例報告優秀賞（2019年）

森田智也

Morita, Tomoya



赴任：2020年

現職：助教

学位：博士（獣医学）
（北海道大学）

専門分野：獣医内科学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 犬における心エコー図検査を用いた右心室機能評価法の確立
2. 犬における心臓と腎臓の関連（心腎連関）に関する研究

担当科目：

1. 小動物内科学実習（4年次，分担）
2. 参加型臨床実習（5年次）
3. 獣医臨床病理学（3年次，分担）
4. 画像診断学実習（5年次，分担）

所属学会等：日本循環器学会，動物循環器病学会，獣医腎臓器病学会，日本獣医学会
学会賞等：平成26年度日本小動物獣医学会北海道獣

医師会長賞（2014年），平成27年度日本小動物獣医学会北海道地区学会賞（2015年），第14回獣医内科学アカデミー臨床研究アワード（2018年），第110回日本獣医循環器学会最優秀学会発表賞研究報告の部（2019年）

研究業績

A. 学位論文

1. 森田智也（2018） Application of the assessment of right ventricular function by echocardiography in dogs with heart disease（犬心疾患への心エコー図法を用いた右心室機能評価の応用）[獣医学博士北海道大学]

B. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. Morita T, Harada K, Uechi M. (2020) Right heart failure due to pulmonary hypertension after mitral valve repair in a dog. *Journal of Veterinary Cardiovascular Medicine* 4:8-15.
2. Morita T, Nakamura K, Osuga T, Kawamoto S, Miki S, Sasaoka K and Takiguchi M. (2020) Acute effects of intravenous pimobendan administration in dog models of chronic precapillary pulmonary hypertension. *Journal of Veterinary Cardiology* 32:16-27.
3. Morita T, Nakamura K, Osuga T, Takiguchi M. (2021) Repeatability, reproducibility, and reference intervals for indices of right atrial longitudinal strain derived from speckle-tracking echocardiography in healthy dogs. *American Journal of Veterinary Research* 82:274-279.
4. Osuga T, Morita T, Sasaki N., Morishita K., Ohta H., Takiguchi M. (2019) Echocardiographic estimation of left ventricular-arterial coupling in dogs with myxomatous mitral valve disease. *Journal of Veterinary Internal Medicine*, 35: 78-87.

(3) 附属動物医学食品安全教育研究センター

佐藤 至

Sato, Itaru



赴任：1990年

現職：教授

学位：博士（獣医学）（岐阜大学）

専門分野：公衆衛生学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 放射線内部被曝の防護
2. 放射性物質の環境動態
3. 環境汚染物質の毒性

担当科目：

1. 情報基礎（1年次）
2. 生活と環境（1年次）
3. 基礎放射線学（2年次）
4. 環境衛生学（3年次）
5. 公衆衛生学実習（3年次）
6. 獣医事法規（4年次）
7. 食品安全管理学（4年次）

所属学会等：日本獣医学会，日本トキシコロジー学会

その他の主な活動：日本獣医師会会員

研究業績

A. 総説

佐藤 至（2020）牛の放射能汚染問題．岩獣会報
46: 2-6.

B. 原著論文

(a) 学術雑誌

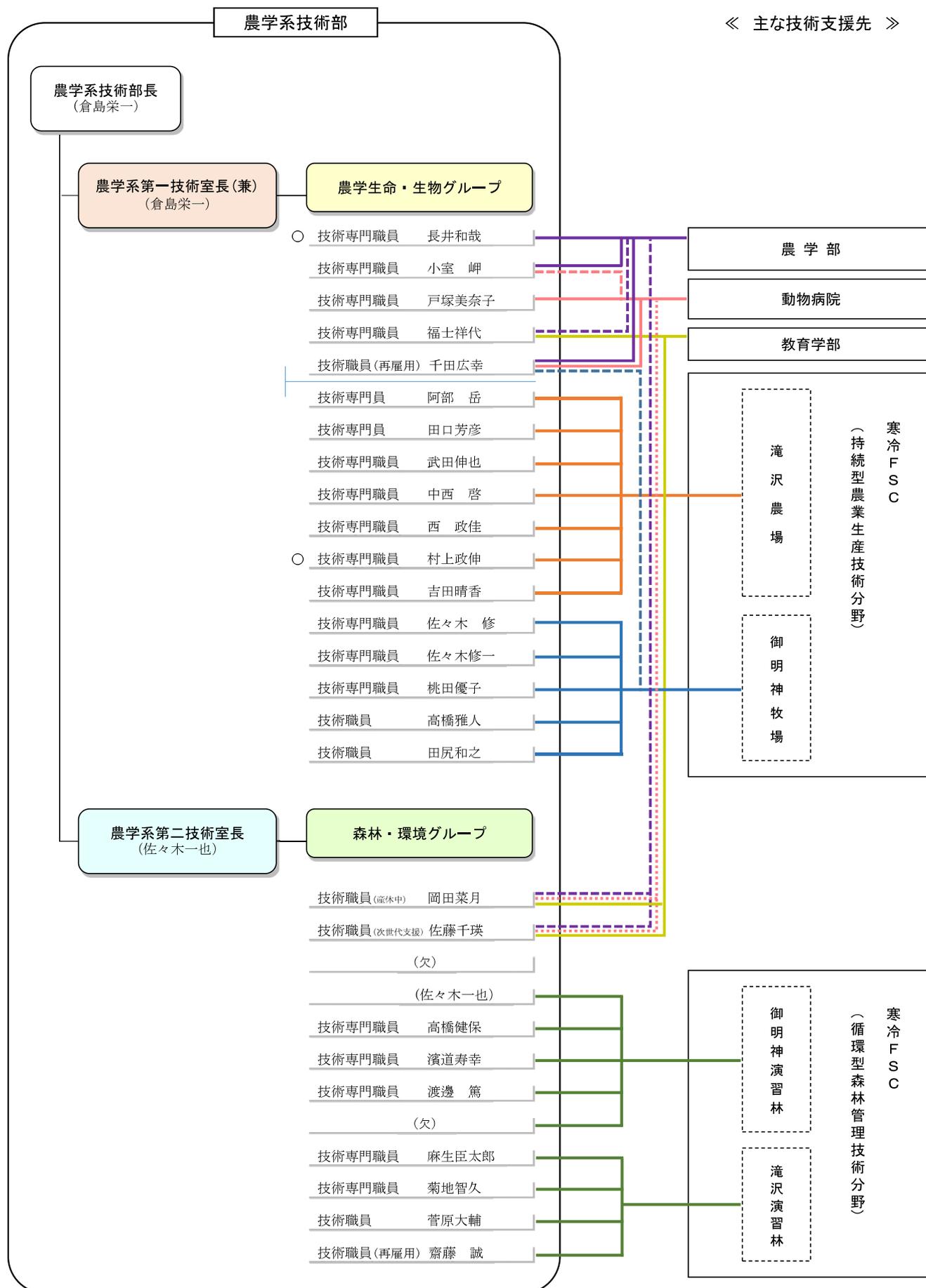
1. Sato, I., Sasaki, J., Satoh, H., Natsuhori, M., Murata, T., Okada, K. (2020) Assessments of DNA damage and radiation exposure dose in cattle living in the contaminated area caused by the Fukushima nuclear accident. Bull. Environ. Contam. Toxicol. 105: 496-501.
2. Todaka, A., Toyoda, S., Natsuhori, M., Okada, K., Sato, I., Sato, H., Sasaki, J. (2020) ESR assessment of tooth enamel dose from cattle bred in areas contaminated due to the Fukushima Dai-ichi nuclear power plant accident. Radiat. Meas. 136: 106357.

C. 国内学会発表

1. 佐々木 淳, 佐藤 至, 佐藤 洋, 岡田啓司, 千田広幸, 大谷久美子（2020）福島県の被ばく牛でみられた牛白血病の病理学的検討．第163回日本獣医学会.

3 技術部

農学系技術部と主な技術支援先(R2年度)



※ 記載は、グループ別主な技術支援先別職位別五十音順。○はグループリーダー。

《技術職員》

長井 和哉
Nagai, Kazuya



赴任：2006年

現職：技術専門職員

学位：博士（農学）（岩手大学）

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 希少猛禽類における分子生態学的研究
2. 次世代シーケンサーを用いた分子生物学的研究

小室 岬
Komuro, Misaki



赴任：2010年

現職：技術専門職員

学位：修士（農学）（山形大学）

資格等：第一種衛生管理者，毒物劇物取扱者（一般）
研究業績

A. 国内学会発表

1. 小館 琢磨, 高橋 修斗, 小室 岬, 藤岡 智明, 仲條 眞介, 小出 章二 (2021) タンパク質含有率が異なる低アミロース米の玄米内部構造と糊化特性. 日本作物学会第 251 回講演会要旨集: 109.

戸塚 美奈子
Tozuka, Minako



赴任：2007年

現職：技術専門職員

担当業務：臨床検査

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 学生実習
2. 動物病院における検査試薬・検査法の改良

担当科目（実施協力）：

1. 総合臨床実習（獣医 5 年）

所属学会：日本臨床衛生検査技師会，岩手県臨床衛生検査技師会

福士 祥代
Fukushi, Sachiyo



赴任：2013年

現職：技術専門職員

学位：修士（農学）（岩手大学）

専門分野：蔬菜園芸学，食品保蔵学

担当科目：（一部担当，実習協力を含む）

1. ものづくり実習（農学部 3 年次）
2. 農場実習（農学部 2 年次）
3. 総合フィールド科学実習（農学部 1 年次）
4. 農場特別実習（農学部 3 年次）

資格等：フォークリフト運転技能講習修了，第一種衛生管理者，毒劇物取扱者（一般）

岡田 菜月
Okada, Natsuki



赴任：2012年

現職：技術職員

学位：修士（農学）（岩手大学）

専門分野：木工，森林生態学，森林環境教育学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 木工における安全な作業について
2. 森林・林業への興味関心につながる木育，クラフトについて

担当科目：

1. 木材概論（教育学部 1，2 年）
2. 木材概論（教育学部 1，2，3 年）
3. 製図演習（教育学部 1，2 年）
4. 小学校理科 B（教育学部 2，3，4 年）
5. 総合フィールド科学実習（農学部 1 年）

所属学会等：日本森林学会

資格等：第一種衛生管理者，2 級ピオトープ計画管理士，森林インストラクター

《滝沢農場》

阿部 岳

Abe, Takeshi



赴任：1980年

現職：技術専門員

専門分野：作物栽培学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 有機畑における茶豆栽培と雑草防除法の確立
2. 有機畑におけるヒエ「長十郎もちヒエ」, サイズ「黒千石大豆」, ソバ「にじゆたか」, 大麦「ミノリムギ」の輪作栽培法に関する研究
3. 黒ボク土での緑肥を利用した有機畑各作物栽培区の土壌リンの動態及び研究
4. 枝豆の早採り, 初冬播きに関する試験研究

担当科目：

1. 農場実習 ・ (学部2年次)
2. 農場特別実習 (学部3年次)
3. 農場実習 (教育学部技術科)
4. 総合フィールド科学実習 (学部1年次)

所属学会等：日本作物学会東北支部, 日本花粉学会

資格等：ボイラー技士(二級), 大型特殊自動車農耕車), ガス溶接技能講習修了, 危険物乙種二, 三, 四, 六類

研究業績

A. 国内学会発表

1. 星野次汪, 佐川 了, 阿部 岳, 吉田晴香, 武田伸也, 守岡 貴, 西 政佳, 渡邊 学, 武田純一, 高畑義人(2020) 短稈モチのヒエ「なんぶもちひえ」の育成と品種特性. 雑穀研究. No.35 : 16-22 .

田口 芳彦

Taguti, Yoshihiko



赴任：1992年

現職：技術専門員

専門分野：作物栽培学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 機能的な大豆及び雑穀を素材とした味噌醸造適性に関する研究調査

担当科目：

1. 農場実習 ・ (学部2年次)
2. 農場特別実習 (学部3年次)
3. 農場実習 (教育学部技術科)

4. 総合フィールド科学実習 (学部1年次)

所属学会等：作物学会東北支部

資格等：大型自動車, 大型特殊自動車, フォークリフト, けん引, ボイラー技士(二級), 危険物乙種四類, 車両系建設機械 (整地等)

武田 伸也

Takeda, Sinya



赴任：1993年

現職：技術専門職員

専門分野：作物栽培学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. サイズ「貴まる」の栽培技術向上に関する研究
- 担当科目：

1. 農場実習 (学部2年次)
2. 農場実習ta (学部3年次)
3. 農場実習 (教育学部技術科)
4. 総合フィールド科学実習 (学部1年次)

所属学会等：日本作物学会東北支部

資格等：大型特殊(農耕車), 日本農業技術検定2級, フォークリフト

中西 啓

Nakanisi, Akira



赴任：1992年

現職：技術専門職員

専門分野：花卉園芸学, 蔬菜園芸学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. リンドウ品種の遺伝資源の収集, 保存
- 担当科目：

1. 農場実習 ・ (学部2年次)
2. 農場特別実習 (学部3年次)
3. 農場実習 (教育学部技術科)
4. 総合フィールド科学実習 (学部1年次)

所属学会等：園芸学会東北支部

資格等：毒物劇物取扱者(農薬用品目), 大型特殊自動車, 第二種衛生管理者, 日本農業技術検定2級 フォークリフト

西 政佳

Nishi, Masayoshi



赴任：1992年

現職：技術専門職員

専門分野：作物栽培学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 水稲栽培における低投入省力化に関する研究
2. 水稲の施肥反応に関する研究

担当科目：

1. 農場実習（学部2年次）
2. 農場特別実習（学部3年次）
3. 農場実習（教育学部技術科）
4. 総合フィールド科学実習（学部1年次）

所属学会等：日本作物学会東北支部

資格等：大型特殊（農耕車）、けん引（農耕車）、フォークリフト

4. 総合フィールド科学実習（学部1年次）

所属学会等：園芸学会東北支部

資格等：第一種衛生管理者、日本農業技術検定2級、フォークリフト

村上 政伸

Murakami, masanobu



赴任：1997年

現職：技術専門職員

専門分野：果樹園芸学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. りんご園の減農薬防除体系確立に関する研究
2. ブルーベリーの品種別整枝剪定法の確立に関する研究

担当科目：

1. 農場実習（学部2年次）
2. 農場特別実習（学部3年次）
3. 農場実習（教育学部技術科）
4. 総合フィールド科学実習（学部1年次）

所属学会等：園芸学会、園芸学会東北支部

資格等：大型自動車、大型特殊自動車、フォークリフト

吉田 晴香

Yoshida, Haruka



赴任：2008年

現職：技術専門職員

学位：修士（農学）（岩手大学）

専門分野：作物学、果樹園芸学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 雑穀遺伝資源の保存
2. 在来野菜の栽培、利用に関する研究

担当科目：

1. 農場実習（学部2年次）
2. 農場特別実習（学部3年次）
3. 農場実習（教育学部技術科）

《御明神牧場》

佐々木 修
Sasaki, Osamu



赴任：1994年

現職：技術専門職員

専門分野：飼料作，機械

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 粗飼料調製に係わる教育研究
2. 御明神牧場における採草地の経年変化に係わる教育研究

担当科目（一部担当，実施協力を含む）

1. 牧場実習（2・3年次）
2. 総合フィールド科学実習（1年次，分担）
3. 農場実習（1年次，分担）
4. 獣医臨床繁殖学実習（4・5年次，分担）
5. 動物科学実験・（2・3年次，分担）

資格等：大型自動車一種，第一種大型特殊自動車免許，第一種けん引免許，車両系建設機械運転技能講習修了，移動式クレーン又はデリックの玉掛け業務に係わる特別教育修了，小型移動式クレーン運転技能特別講習修了，（ガス溶接）技能講習修了，アーク溶接に関する安全衛生特別講習修了，家畜人工授精師（牛），家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植講習修了，二級ボイラー技士，自由研削と石取替え等の業務に係わる特別教育修了，粉じん作業特別教育修了，刈払機取扱作業安全衛生教育修了

佐々木 修一
Sasaki, Shu-ichi



赴任：1991年

現職：技術専門職員

専門分野：飼養，繁殖

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 牛の繁殖に係わる教育研究
2. 黒毛和種の育成に係わる教育研究

担当科目（一部担当，実施協力も含む）

1. 牧場実習（2・3年次）
2. 総合フィールド科学実習（1年次，分担）
3. 農場実習（1年次，分担）
4. 動物科学実験・（2・3年次，分担）
5. 獣医臨床繁殖学実習（4・5年次，分担）

資格等：大型特殊自動車免許（農耕車），けん引免許

（農耕車），毒物劇物取扱者（農業用品目），家畜人工授精師（牛），家畜人工授精及び家畜体内受精卵移植講習修了

桃田 優子
Momota, Yuko



赴任：2007年

現職：技術専門職員

学位：修士（農学）（千葉大学）

専門分野：飼養，繁殖

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 黒毛和種子牛の哺育・育成に係わる教育研究

担当科目：（一部担当，実施協力を含む）

1. 牧場実習（2・3年次）
2. 総合フィールド科学実習（1年次，分担）
3. 農場実習（1年次，分担）
4. 動物科学実験・（2・3年次，分担）
5. 獣医臨床繁殖学実習（4・5年次，分担）

所属学会等：東北畜産学会，動物の行動と管理学会

資格等：家畜人工授精師（牛），大型特殊自動車

田尻 和之
Tajiri, Kazuyuki



赴任：2017年

現職：技術職員

担当科目：

（一部担当，実施協力を含む）

1. 牧場実習（2・3年次）
2. 総合フィールド科学実習（1年次，分担）
3. 農場実習（1年次，分担）
4. 動物科学実験・（2・3年次，分担）
5. 獣医臨床繁殖学実習（4・5年次，分担）

資格等：危険物取扱者三種，中型自動車免許一種，けん引自動車免許一種，フォークリフト技能講習修了，家畜人工授精師（牛），二級削蹄師，車両系建設機械（整地・運搬・積込み用及び採掘用），ガス溶接・溶断技能講習修了，アーク溶接特別教育修了，玉掛け技能講習修了，刈払機作業の安全衛生教育修了，大型特殊自動車

高橋 雅人
Takahashi, Masahito



赴任：2020年

現職：技術職員

専門分野：飼料作，機械

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 粗飼料調製に係る教育研究
2. 御明神牧場における採草地の経年変化に係る教育研究

担当科目：

(一部担当，実施協力を含む)

1. 牧場実習(2・3年次)
2. 総合フィールド科学実習(1年次，分担)
3. 農場実習(1年次，分担)
4. 獣医臨床繁殖学実習(4・5年次，分担)
5. 動物科学実験(2・3年次，分担)

資格等：第一種中型自動車免許，第一種大型特殊自動車免許，ガス溶接技能講習修了，玉掛け技能講習修了，小型車両系建設機械運転業務特別教育修了，刈払機取扱作業安全衛生教育修了

《御明神演習林》

佐々木 一也

Sasaki, Kazuya



赴任：2004年

現職：技術室長

学位：博士(農学)(岩手大学)

専門分野：林政学，森林管理学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 森林政策論
2. 地域づくり，山村問題
3. 大学演習林の意義と役割

担当科目(一部担当，実習協力を含む)

1. 温帯林概論(鹿児島大学農林環境科学科2年次)
2. 森林造成学実習(森林科学科3年次)
3. 森林測量学実習(森林科学科2年次)
4. 林業生産工学実習(森林科学科3年次)
5. 総合フィールド科学実習(農学部全科1年次)
6. 森林科学基礎演習(森林科学科1年次)
7. 教育関係共同利用拠点実習(他大学学生等)

学会賞等：森林管理技術賞(学術貢献賞)(2011年)

資格等：測量士補，森林情報士(森林GIS2級)，第一種衛生管理者

高橋 健保

Takahashi, Takeyasu



赴任：2004年

現職：技術専門職員

専門分野：森林管理学，

森林生産利用学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 超高密路網を基盤とする高能率伐出作業システムの構築
2. 林道路肩保全のための簡易間伐丸太構造物の開発

担当科目(一部担当，実習協力を含む)

1. 教育関係共同利用拠点実習(他大学学生等)
2. 温帯林概論(鹿児島大学農林環境科学科2年次)
3. 林業生産工学実習(森林科学科3年次)
4. 総合フィールド科学実習(農学部全科1年次)

資格等：大型自動車免許，大型特殊自動車運転免許，

車両系建設機械(自重3t以上)，はしり作業主任者，

不整地運搬車運転，地山の掘削及び土止め支保工作
業主任者，玉掛け技能講習，高性能林業機械オペ
レーター，第二種衛生管理者 その他の活動：岩手県高性
能林業機械オペレーター養成研修講師
学会賞等：森林管理技術賞（技術貢献賞）（2015年）

濱 道 寿 幸

Hamamichi, Toshiyuki



赴任：1999年

現職：技術専門職員

主な研究テーマ及び主な教育研

究活動：

- 1．松くい虫耐性苗を利用した天然更新施行
- 2．繊維ロープを利用した集材作業

担当科目

- 1．温帯林概論（鹿児島大学農林環境科学科2年次）
- 2．森林科学基礎演習（森林科学科1年次）
- 3．林業生産工学実習（森林科学科3年次）
- 4．総合フィールド科学実習（農学部全科1年次）

資格等：測量士補，車両系建設機械（自重3 t以上），第一種衛生管理者，はい作業主任者，小型移動式クレーン，高性能林業機械オペレーター，不整地運搬車運転

（2014年），平成28年度森林・林業技術交流発表会東北森林管理局林政記者クラブ賞（2016年）

資格等：第一種衛生管理者，修習技術者，測量士，車両系建設機械（自重3 t以上），玉掛け技能講習（1 t以上），小型移動式クレーン（1 t以上5 t未満），はい作業主任者，地山の掘削及び土止め支保工作業主任者，高性能林業機械オペレーター，森林インストラクター，中型自動車免許，危険物取扱者（乙種第4類），狩猟免許（第一種銃猟，わな猟）

渡 邊 篤

Watanabe, Atsushi



赴任：2009年

現職：技術専門職員

専門分野：林業生産工学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

- 1．日本における馬搬作業の事例分析

担当科目（一部担当，実習協力を含む）：

- 1．総合フィールド科学実習（農学部1年次）
- 2．林業生産工学実習（森林科学科3年次）
- 3．野生動物管理学実習（森林科学科3年次）
- 4．温帯林概論（鹿児島大学農林環境科学科2年次）
- 5．教育関係共同利用拠点実習（他大学学生等）

所属学会等：東北森林科学会

学会賞等：東北森林管理局 平成21年度森林・林業技術交流発表会東北森林管理局林政記者クラブ賞（2009年），第51回環境等研究フォーラム論文賞

《滝沢演習林》

麻生 臣太郎

Aso, Shintaro



赴任：2008年

現職：技術専門職員

専門分野：林業生産工学

学位：修士（岩手大学）

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 超高密度路網による長伐期多間伐システムの構築
2. 低コスト作業路作設によるCO2排出量の推定
3. 御明神演習林における野生動物の林道利用

担当科目（一部担当，実習協力含む）

1. 森林科学基礎演習（森林科学科1年次）
2. 温帯林概論（鹿児島大学農林環境科学科2年次）
3. 森林造成学実習（森林科学科3年次）
4. 森林測量学実習（森林科学科2年次）
5. 林業生産工学実習（森林科学科3年次）
6. 総合フィールド科学実習（農学部全科1年次）

資格等：車両系建設機械（自重3t以上），移動式クレーン運転技能講習（1t以上5t未満），玉掛技能講習（1t以上），中型自動車免許，大型特殊自動車免許，第一種衛生管理者，危険物取扱者（乙種），測量士

菊地 智久

Kikuchi, Tomohisa



赴任：1997年

現職：技術専門職員

専門分野：森林管理学，樹木学，

樹木医学，森林環境教育学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 大学演習林と地域における学校教育との連携を
目指した森林・野外教育プログラムの開発

担当科目（一部担当，実習協力を含む）

1. 温帯林概論（鹿児島大学農林環境科学科2年次）
2. 総合フィールド科学実習（農学部全科1年）
3. 森林科学基礎演習（森林科学科1年）
4. 森林造成学実習（森林科学科3年）
5. 林業生産工学実習（森林科学科3年）
6. 森林計測学実習（森林科学科3年）

7. 教育関係共同利用拠点実習（他大学学生等）

資格等：樹木医，森林インストラクター，第1種衛生管理者，危険物取扱者，ガス溶接技能講習，刈払機作業の安全衛生教育，普通救命講習，自由研削と石取替え等の業務に係る特別教育，小型移動式クレーン運転技能講習，走行集材機運転業務特別教育，簡易架線集材装置等運転業務特別教育，玉掛技能講習，不整地運搬車運転技能講習，地山の掘削作業主任者技能講習，はい作業主任者技能講習，車両系建設機械運転技能講習，アーク溶接等の業務に係る特別教育，伐木等機械運転業務特別教育，車両系建設機械（自重3t以上）はい作業主任者，危険物取扱者（乙種，第4類），小型移動式クレーン運転技能講習（1t以上）修了，第一種衛生管理者，高性能林業機械オペレーター養成研修修了

菅原 大輔

Sugawara, Daisuke



赴任：2012年

現職：技術職員

専門分野：森林管理学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 岩大型森林作業道における最適転圧回数
2. アカマツ林皆伐後の林床木本の更新状況

担当科目（一部担当，実習協力を含む）

1. 森林測量学実習（森林科学科2年次）
2. 温帯林概論（鹿児島大学生物環境科学科3年次）
3. 森林造成学実習（森林科学科3年次）
4. 林業生産工学実習（森林科学科3年次）
5. 総合フィールド科学実習（農学部全科1年次）

所属学会等：東北森林科学会

資格等：修習技術者，測量士補，車両系建設機械（自重3t以上），移動式クレーン運転技能講習（1t以上5t未満），玉掛け技能講習（1t以上），第一種衛生管理者，危険物取扱者（乙種），はい作業主任者

齋藤 誠

Saito, Makoto



赴任：1996年

現職：技術職員

専門分野：森林教育学，植物学

主な研究テーマ及び主な教育研究活動：

1. 児童生徒に対する森林・林業教育のあり方に関する

る研究

担当科目（一部担当，実習協力を含む）

- 1．総合フィールド科学実習（学部全科共通1年）
- 2．森林造成学実習（森林科学科3年）
- 3．樹木学実習（森林科学科2年）
- 4．林業生産工学実習（森林科学科3年）
- 5．温帯林概論（鹿児島大学農林環境科学科2年次）
- 6．教育関係共同利用拠点実習（他大学学生等）

学会賞等：森林管理技術賞（特別功労賞）（2013年）

資格等：大型自動車免許，大型特殊免許，はしり作業主任者，第二種衛生管理者，車両系建設機械（自重3t以上），玉掛技能講習（1t以上）修了，危険物取扱者（乙種，第4類），小型移動式クレーン運転技能講習（1t以上）修了，地山の掘削作業主任者

4 . 学会等の開催

植物生命科学科

- ・名 称：日本植物病理学会東北部会（第 56 回）
- ・年 月 日：令和 2 年 10 月 9 日～12 日
- ・場 所：岩手大学（オンデマンド開催）
- ・参加人数：86 名
- ・その他：開催幹事 磯貝雅道（岩手大学准教授）

応用生物化学科

- ・名 称：日本農芸化学会東北支部・支部大会
- ・年 月 日：令和 2 年 1 1 月 7 日（土）～ 8 日（日）
- ・場 所：Web 開催
- ・参加人数：約 100 名
- ・代表世話人：木村賢一（岩手大学教授）
- ・世話人：山下哲郎（岩手大学教授），伊藤菊一（岩手大学教授），塚本知玄（岩手大学教授），西向めぐみ（岩手大学教授），西山賢一（岩手大学教授），三浦靖（岩手大学教授），宮崎雅雄（岩手大学教授），安川洋生（岩手大学教授），伊藤芳明（岩手大学准教授），斎藤靖史（岩手大学准教授），山田美和（岩手大学准教授），吉田潤（岩手医科大学助教），上杉祥太（岩手生物工学研究センター主任研究員）

- ・名 称：日本農芸化学会東北支部・支部授賞講演，ミニシンポジウム，特別講演
- ・年 月 日：令和 3 年 3 月 1 7 日（水）
- ・場 所：Web 開催
- ・参加人数：244 名（うち，東北地区：88 名，東北以外：156 名）
- ・代表世話人：木村賢一（岩手大学教授）
- ・世話人：山下哲郎（岩手大学教授），伊藤菊一（岩手大学教授），塚本知玄（岩手大学教授），西向めぐみ（岩手大学教授），西山賢一（岩手大学教授），三浦靖（岩手大学教授），宮崎雅雄（岩手大学教授），安川洋生（岩手大学教授），伊藤芳明（岩手大学准教授），斎藤靖史（岩手大学准教授），山田美和（岩手大学准教授），吉田潤（岩手医科大学助教），上杉祥太（岩手生物工学研究センター主任研究員）

- ・名 称：日本レオロジー学会・第 68 回レオロジー討論会
- ・年 月 日：令和 2 年 10 月 21 日（水）～22 日（木）
- ・場 所：Web 開催
- ・参加人数：229 名
- ・実行委員会委員長：三浦 靖（岩手大学教授）
- ・実行委員会委員：井上正志（大阪大学教授），畝山多加志（名古屋大学教授），浦山健治（京都工芸繊維大学教授），折原 宏（北海道大学教授），高橋 勉（長岡技術科学大学教授），徳満勝久（滋賀県立大学工学部），信川省吾（名古屋工業大学教授），比江嶋祐介（金沢大学教授），堀中順一（京都 大学教授），松宮由実（京都大学准教授），山本剛宏（大阪電気通信大学教授）

5 . 研究助成

令和2年度科学研究費補助金採択状況一覧

(単位:千円, 職位は令和2年4月1日もしくは採用時現在)

研究種目	所属	研究代表者名	職位	研究課題名	配分額
新学術領域研究 (研究領域提案型)	応用生物化学科	宮崎 雅雄	准教授	ネコのマタタビ反応で機能する嗅覚受容体と多幸感に関わる神経回路の同定	1,900,000
基盤研究(A)	植物生命科学科	下野 裕之	教授	イネの野外ビッグデータを用いた「人工知能」による育種プラットフォームの開発	13,300,000
基盤研究(B)	植物生命科学科	上村 松生	教授	植物の低温馴化過程における温度と青色光の認識機構	3,300,000
基盤研究(B)	植物生命科学科	西山 賢一	教授	タンパク質膜挿入・膜透過に関与する糖脂質酵素 MPlase の構造と機能に関する研究	2,700,000
基盤研究(B)	植物生命科学科	吉川 信幸	教授	ウイルスベクター の機能を活用したリンコ黒星病新規制御技術に関する基盤研究	3,400,000
基盤研究(B)	植物生命科学科	RAHMAN ABIDUR	准教授	低温ストレス応答の分子メカニズムを基盤とした低温耐性トマトの開発	5,700,000
基盤研究(B)	応用生物化学科	伊藤 菊一	教授	発熱植物ザゼンソウの体温調節に関わる温度センシングモジュールの探索と同定	2,800,000
基盤研究(B)	応用生物化学科	塚本 知玄	教授	プロファイル解析による大豆加工食品中の各種サポニン化学構造の推定	4,100,000
基盤研究(B)	応用生物化学科	鈴木 雄二	准教授	イネの光合成と個体生育の窒素利用効率の改良:炭酸固定とその基質再生産の同時増強	2,300,000
基盤研究(B)	食料生産環境学科	石村 学志	准教授	多魚種混植による不確実性に強い日本型ポートフォリオ漁業の理論化と政策探求研究	4,500,000
基盤研究(B)	動物科学科	喜多 一美	教授	アミノ酸アマドリ化合物によるニワトリ筋肉細胞タンパク質合成促進機能の解明	2,800,000
基盤研究(C)	植物生命科学科	小森 貞男	教授	リンゴゲノム編集技術実用化のための培養技術の開発	1,100,000
基盤研究(C)	植物生命科学科	佐原 健	教授	トビケラ目昆虫における染色体進化の解明	1,300,000
基盤研究(C)	植物生命科学科	立澤 文見	准教授	花色と花色素の体系化による新花色品種を効率よく育成する手法の開発	900,000
基盤研究(C)	植物生命科学科	畠山 勝徳	准教授	アブラ科植物の相補的に機能する病害抵抗性遺伝子の単離と育種基盤の整備	700,000
基盤研究(C)	植物生命科学科	川原田 泰之	助教	陸上植物が保有する EPR3 受容体の機能解析	1,000,000
基盤研究(C)	応用生物化学科	立石 貴浩	准教授	森林の堆積層植層での適切な土壌微生物管理による放射性セシウムの隔離法の提案	400,000
基盤研究(C)	応用生物化学科	山田 美和	准教授	産業廃棄物活用を目指した有用有機酸類の合成:集積型バイオプロセスの新基盤開発	900,000
基盤研究(C)	森林科学科	小藤田 久義	教授	スギ材ジテルペン成分の抗アルツハイマー病活性とその作用機構	700,000
基盤研究(C)	森林科学科	関野 登	教授	シイタケ廃菌床の半炭化処理による新しい木質系断熱材の開発	700,000
基盤研究(C)	森林科学科	國崎 貴嗣	准教授	刈り出ししない刈り払い「筋残し刈り」を用いた省力的天然更新作業の開発	200,000
基盤研究(C)	森林科学科	東 淳樹	講師	ミサゴの内陸部への生息拡大要因-健全な水辺生態系を目指して	1,100,000
基盤研究(C)	食料生産環境学科	金山 素平	教授	廃棄カキ殻を利用した土の固化处理技術の開発とその応用	800,000
基盤研究(C)	食料生産環境学科	庄野 浩資	准教授	新手法:葉内の光合成産物の産生状況を電気的に非破壊かつ連続測定する手法の開発	700,000
基盤研究(C)	食料生産環境学科	原科 幸爾	准教授	二ホンリスの移動と遺伝的多様性からみた都市のエコロジカルネットワークの機能評価	800,000
基盤研究(C)	食料生産環境学科	前田 武己	准教授	バイオ炭の混合による家畜排せつ物処理時の悪臭低減	1,900,000
基盤研究(C)	食料生産環境学科	松嶋 卯月	准教授	植物の根は高濃度塩水湛水栽培にどのように順化するのか?	1,700,000
基盤研究(C)	食料生産環境学科	武藤 由子	准教授	嫌気・好気状態が混在する土中での微生物活動に着目した水分移動過程における窒素動態	800,000
基盤研究(C)	食料生産環境学科	塚越 英晴	助教	MIG-seq 法を用いた三陸岩手サケの河川遡上集団と沿岸海域集団の遺伝特性分析	1,500,000
基盤研究(C)	動物科学科	澤井 健	教授	ウシ体外受精胚の発育不全・組織分化異常に関わる因子の解明とその発現制御	1,300,000
基盤研究(C)	動物科学科	西向 めくみ	教授	慢性腎臓病における エーテル型リン脂質に着目した新規疾病マーカーの開発	1,100,000
基盤研究(C)	共同獣医学科	板垣 匡	教授	ミツバチノゼマ病の新たな病原体 Nosema sp. の種と病原性, 国内分布の解明	1,300,000
基盤研究(C)	共同獣医学科	木崎 景一郎	教授	エクソソームを介したウシ子宮内膜と栄養膜の細胞間クロストーク	900,000
基盤研究(C)	共同獣医学科	高橋 透	教授	ウシ子宮に発現するクロモグラーニン A の生理的役割の解明と低受胎診断への適用	1,000,000
基盤研究(C)	共同獣医学科	山崎 真大	教授	次世代シーケンサーによる Babesia gibsoni の薬剤耐性獲得機序の解析	900,000
基盤研究(C)	共同獣医学科	片山 泰章	准教授	閉塞性腎障害における腎保護性蛋白である L-FABP の前臨床研究	1,000,000
基盤研究(C)	共同獣医学科	中牟田 信明	准教授	カメの性フェロモン受容システムに関する研究	1,100,000
基盤研究(C)	寒冷フィールドサイエンス 教育研究センター	山本 信次	教授	原発事故による放射性物質拡散が農山漁村の自然資源利用に与えた影響とその対応	600,000

研究種目	所属	研究代表者名	職位	研究課題名	配分額
基盤研究(C)	動物医学食品安全教育研究センター	佐藤 至	教授	原発事故帰還困難区域で飼育されている牛の健康状態ならびに食肉の安全性に関する評価	500,000
基盤研究(C)	農学部	長澤 孝志	嘱託教授	シトルリンによるアミノ酸の骨格筋萎縮抑制作用の増強	700,000
基盤研究(C)	農学部	大塚 弥生	客員准教授	犬バベシア症の血小板減少症における分子病態の解明	900,000
挑戦的研究(萌芽)	共同獣医学科	落合 謙爾	教授	レトロウイルス性心筋異常の病態解析と動物モデル化の検討	1,400,000
挑戦的研究(萌芽)	農学部	廣田 純一	嘱託教授	農山漁村集落の持続的発展における拡大コミュニティの形成に関する計画論的研究	900,000
若手研究	植物生命科学科	駒崎 薫	助教	種間雑種胚乳で生じるエピゲノム異常の検証とその原因メカニズムの推定	1,400,000
若手研究	植物生命科学科	松波 麻耶	助教	イネの水と窒素の需要を反映する根の遺伝子群のフィールドでの発現動態の解明	1,100,000
若手研究	共同獣医学科	関 まどか	助教	肝蛭の宿主体内における酸素濃度依存的なエネルギー代謝の転換	1,600,000
若手研究	共同獣医学科	山崎 朗子	助教	ニホンジカ寄生住肉胞子虫の下痢毒性因子の検出および毒性機序の解明	900,000
若手研究	動物病院	森田 智也	助教	超音波検査で犬の心腎連関を解明できるか：右心室機能と腎うっ血に注目した検討	1,800,000
若手研究	農学部	宮崎 珠子	特別研究員	乳牛の「沈黙の排卵」を見破る尿中発情期判定バイオマーカーの探索	1,000,000
合計					85,400,000

6 . 非常勤講師

学科名	氏 名	科目	勤務先	時間数
科生植 学科命物	金澤 俊成	蔬菜園芸学各論	岩手大学教育学部	14
応用生物化学科	下飯 仁	産業微生物学	元岩手大学教授	28
	長澤 孝志	美味学	岩手大学名誉教授	14
	長澤 孝志	栄養化学	岩手大学名誉教授	14
	木村 毅	有機化学概論	岩手大学研究推進機構	28
	小野田 敏行	公衆衛生学	岩手大学保健管理センター	14
森林科学科	井倉 洋二	暖帯林概論	鹿児島大学農学部	28
	佐藤 康	森林科学基礎演習	小岩井農場	3
	山本 清龍	自然環境保全論	東京大学大学院農学生命科学研究科	28
	山本 清龍	地域観光学	東京大学大学院農学生命科学研究科	28
食料生産環境学科	赤木 徳顕	起業学入門	帝京大学経済学部	22
	稲垣 秀悦	起業学入門	いわぎん事業創造キャピタル株式会社	2
	木村 拓哉	起業学入門	一般社団法人東の食の会	2
	鈴木 良太	起業学入門	チーム漁火	2
	長谷川 琢也	起業学入門	株式会社フィッシャーマン・ジャパン・マーケティング	2
	赤木 徳顕	起業学実習	帝京大学経済学部	28
	垣添 直也	漁業経営・水産マーケティング論	マリン・エコラベル・ジャパン協議会	4
	笠井 宗昭	漁業経営・水産マーケティング論	知恵工房	2
	鈴木 允	漁業経営・水産マーケティング論	日本漁業サポート	4
	山本 泰幸	漁業経営・水産マーケティング論	イオン株式会社	2
	神谷 慎一	漁業経営・水産マーケティング論	トース株式会社	2
	桜井 泰憲	漁業資源生態学	函館頭足類科学研究所	2
	横川 太一	漁業資源生態学	海洋研究開発機構	2
	桜井 泰憲	自然環境政策論	函館頭足類科学研究所	4
	阿部 拓三	自然環境政策論	南三陸町	8
	田中 潔	海洋物理学	東京大学大気海洋研究所 国際沿岸海洋研究センター	24
	佐藤 繁	水産微生物学	北里大学海洋生命科学部	9
	中村 修	水産微生物学	北里大学海洋生命科学部	19
	山内 愛子	水産政策学	公益財団法人世界自然保護基金ジャパン	6
	山田 徹	水産政策学	フリーランス	2
	藤井 巖	水産政策学	海洋政策研究所	2
	阿部 拓三	コーディネーション概論	南三陸町	14
	森 晃也	コミュニケーション論	富士ゼロックス株式会社	2
	脇野 博	水産科学技術者倫理	岩手大学教育推進機構	28
	難波 信由	水産植物学	北里大学海洋生命科学部	28
	野村 一郎	漁業・漁業資源経済学	インドネシア漁業省	4
	高橋 幸男	環境デザイン演習	高橋デザイン事務所	14
	山口 勝洋	緑地環境学	紫波町グリーンエネルギー株式会社	2
	工藤 浩一	測量学	岩手県土地改良団体連合会	14
	工藤 将英	測量学	岩手県土地改良団体連合会	14
菊池 豊	農業労働科学	農研機構 農業技術革新工学研究センター	14	

学科名	氏名	科目	勤務先	時間数
食料生産環境学科	武田 純一	農業労働科学	岩手大学名誉教授	14
	久野 叔彦	農村地域デザイン実践論	株)三 コンサルタンツ	4
	登尾 浩助	農村地域デザイン実践論	明治大学農学部	8
	相川 次郎	海外農林開発論	国際協力機構	28
	武田 純一	食産業システム学実験	岩手大学名誉教授	12
	小玉 智	食産業システム学実験	株式会社トセキ東北	12
	武田 純一	食産業システム学実験	岩手大学名誉教授	12
	溝口 勝	環境修復学	東京大学大学院農学生命科学研究科	12
	大島 肇	漁村計画学	RPI	22
	前多 隼人	水産食品加工学	弘前大学農学生命科学部	4
	渡部 終五	水産食品加工学	北里大学海洋生命科学部	4
	落合 芳博	水産食品加工学	東北大学大学院農学研究科	4
	神谷 慎一	水産食品加工学	トーアス株式会社	2
	高橋 剛一	水産物流通論	岩手県すし業生活衛生同業組合	2
	大塚 和彦	地域マネージメント概論	EDF Japan	6
	長谷川 琢也	地域マネージメント概論	株式会社フィッシャーマン・ジャパン・マーケティング	2
	安達 日向子	地域マネージメント概論	一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン	4
	木村 拓哉	地域マネージメント概論	一般社団法人東の食の会	2
	木村 剛	地域マネージメント概論	株式会社ベアレン醸造所 株式会社フィッシャーマン・ジャパン・マーケティング	2
	津田 祐樹	地域マネージメント概論	株式会社フィッシャーマン・ジャパン・マーケティング	4
	松本 裕也	地域マネージメント概論	一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン	4
	戸塚 絵梨子	地域振興経済・政策論	株式会社パソナ東北創生	2
	照井 富也	地域振興経済・政策論	岩手県	4
	廣野 一誠	地域振興経済・政策論	アサヤ株式会社	2
	及川 一也	農業情報処理	株式会社クボタ アグリソリューション推進部	4
	山下 善道	農業情報処理	農研機構 東北農業研究センター	2
	熊谷 悦史	農業情報処理	農研機構 東北農業研究センター	2
	長坂 善禎	農業情報処理	農研機構 東北農業研究センター	2
	山本 聡史	農業情報処理	秋田県立大学生物資源科学部	2
	武田 純一	農業情報処理	岩手大学名誉教授	2
	武田 純一	農作業システム学	岩手大学名誉教授	28
	武田 純一	農業動力利用学	岩手大学名誉教授	28
	武田 純一	応用数学	岩手大学名誉教授	10
	田中 教幸	水産化学	元岩手大学教授	10
	任 恵峰	水産化学	東京海洋大学海洋資源環境学部	2
	于 克鋒	水産化学	岩手大学三陸水産研究センター	2
	颯田 尚哉	水資源論	大同大学情報学部	28
	広田 純一	農村生態工学	岩手大学名誉教授	28
	広田 純一	農村計画学	岩手大学名誉教授	28
	広田 純一	地域マネージメント論	岩手大学名誉教授	14
広田 純一	地域振興政策論	岩手大学名誉教授	28	
長坂 善禎	農業情報処理	農研機構 東北農業研究センター	2	
山本 聡史	農業情報処理	秋田県立大学生物資源科学部	2	

学科名	氏名	科目	勤務先	時間数
動物科学科	小松 守	動物園学	秋田市大森山動物園	14
	谷口 和美	動物形態学	北里大学獣医学部	28
	谷口 和美	動物形態学	北里大学獣医学部	28
	中村 哲雄	牧場実習	葛巻町畜産開発公社	17
	西 千秋	野生動物学	(合)岩手野生動物研究所	14
	平松 浩二	動物組織学	信州大学農学部	14
	藤田 知己	動物科学総論	株式会社陸奥駿舎	7
	佐野 宏明	家畜生産生理学	岩手大学名誉教授	28
	佐野 宏明	動物栄養学	岩手大学名誉教授	28
共同獣医学科	居在家 義昭	動物品種論	元岩手大学教授	8
	辻本 恒徳	動物品種論	盛岡市動物公園	4
	安田 準	動物品種論	岩手大学名誉教授	4
	稲葉 睦	血液免疫病学	北海道大学大学院獣医学研究科	4
	植木 淳史	総合参加型臨床実習	植木家畜医院	18
	田高 恵	総合参加型臨床実習	岩手県農業共済組合岩手県北基幹家畜診療所	20
	足立 眞也	総合参加型臨床実習	小岩井農牧株式会社	15
	近藤 寛樹	総合参加型臨床実習	岩手県農業共済組合岩手県北基幹家畜診療所	14
	大澤 健司	臨床繁殖学実習	宮崎大学農学部	6
	菊地 和弘	臨床繁殖学実習	農研機構 生物機能利用研究部門	6
	岡村 雄司	臨床繁殖学実習	おかむらアニマルクリニック	6
	野口 倫子	臨床繁殖学実習	麻布大学	6
	大野 耕一	消化器病学	東京大学大学院農学生命科学研究科	10
	渡邊 一弘	消化器病学	岐阜大学応用生物科学部	2
	笠嶋 快周	産業動物臨床学	JRA 競走馬総合研究所	2
	高木 哲	臨床腫瘍学	麻布大学獣医学部	12
	木村 祐哉	人と動物関係学	北里大学獣医学部獣医学科	8
	辻本 恒徳	人と動物関係学	盛岡市動物公園	10
	松浦 晶央	人と動物関係学	北里大学獣医学部	8
	安田 準	人と動物関係学	岩手大学名誉教授	2
	辻本 恒徳	野生動物学	盛岡市動物公園	15
	秦 英司	病原微生物学	農研機構 動物衛生研究部門	4
	福田 智一	獣医遺伝育種学	岩手大学理工学部	4
	古濱 和久	毒性学実習	元岩手大学教授	9
	古濱 和久	薬理学実習	元岩手大学教授	21
	帆保 誠二	馬臨床学	鹿児島大学共同獣医学部	12
	下川 哲哉	解剖学実習	愛媛大学大学院医学系研究科	6
	白岩 利恵子	食品衛生学実習	一般社団法人岩手県獣医師会 食鳥検査センター	3
	白岩 利恵子	公衆衛生学実習	一般社団法人岩手県獣医師会 食鳥検査センター	3
	豊田 武士	病理学実習	国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター	6
	夏堀 雅宏	画像診断学	北里大学獣医学部	12
	山手 寛嗣	獣医倫理	松園動物病院	2
	鈴木 一由	大動物臨床実習・応用編	酪農学園大学獣医学群	6

学科名	氏名	科目	勤務先	時間数
学部専門教育科目	岩崎昭子	地域おこし論	根浜 MIND	2
	若生和江	地域おこし論	惣菜弁当加工販売「やまんば工房」	2
	岡本翔馬	地域おこし論	NPO 法人桜ライン 311	2
	黍原 豊	地域おこし論	三陸駒舎	2
	高家卓範	地域おこし論	森のそば屋	2
	佐々木富士夫	地域おこし論	いさわ南部農事組合法人	2
	中村一郎	地域おこし論	三陸鉄道株式会社	2
	望月達也	地域おこし論	早池峰の自然を考える会	2
	若菜千穂	地域おこし論	NPO 法人いわて地域づくり支援センター	2
	平野多佳子	地域おこし論	やはば百笑倶楽部	2
	土澤 智	地域おこし論	岩手県ふるさと振興部	2
	細田 真弓	地域おこし論	フリーランス	2
	北爪 英一	基礎化学実験	岩手大学名誉教授	42
	佐藤 和憲	6次産業化論	東京農業大学	12
	安江 紘幸	6次産業化論	農研機構 東北農業研究センター	2
	三田 林太郎	6次産業化論	三田農林株式会社	2
	桶田陽子	6次産業化論	農事組合法人 宮守川上流生産組合	2
	尾臺喜孝	線形代数学入門	岩手大学理工学部	28
	小野田敏行	農学のための倫理学	岩手大学保健管理センター	14
	開 龍美	農学のための倫理学	岩手大学名誉教授	14
	竹原明秀	基礎生物学実験	岩手大学人文社会科学部	9
	竹原明秀	生物学入門	岩手大学人文社会科学部	6
	柳澤忠昭	地学入門	盛岡中央ゼミナール	8
	厚井 高志	地学入門	北海道大学	8
	越谷 信	地学入門	岩手大学理工学部	4
	山本 英和	地学入門	岩手大学理工学部	4
	奈良光紀	基礎数学入門	岩手大学理工学部	28
	石垣 剛	基礎物理学実験	岩手大学理工学部	42
	大柳 洸一	基礎物理学実験	岩手大学理工学部	42
	花原和之	微分積分学入門	岩手大学理工学部	28
	花見仁史	物理学入門	岩手大学理工学部	28
	花見仁史	物理学	岩手大学理工学部	28
	ベンジャミン・ブレア	科学英語(食料)	フリーランス	28
ベンジャミン・ブレア	科学英語(植物)	フリーランス	28	
宮崎珠子	科学英語(応用)	日本学術振興会	56	
木村 毅	化学	岩手大学教育推進機構	28	

大学院総合科学研究科 農学専攻

専攻	氏名	科目	勤務先	時間数
コ科生植 ↑ 入学命物	西原昌宏	植物バイオテクノロジー特論	公益財団法人 岩手生物工学研究センター	28
	佐野輝男	植物生命科学特別講義	弘前大学農学生命科学部	14
コ化生応 ↑ 入学物用	小松 晃	応用生物化学特別講義	農研機構 生物機能利用研究部門	14

大学院獣医学研究科

氏名	科目	勤務先	時間数
笠嶋快周	獣医臨床医科学外演習	JRA 競走馬総合研究所 臨床医学研究室	16

客員教授・客員准教授

施設名	氏名	研究テーマ	勤務先	時間数
動物医学 教育研究センター 食品安全	福永陽子 (客員教授)	岩手大学農学部附属動物医学食品安全教育研究センターの健康な家畜の生産と食の安全・安心に関する研究における, 専門的立場からの助言	農林水産省消費安全局食品安全政策課	15
	請川真也 (客員教授)		農林水産省 消費・安全局動物衛生課	15
	酒井淳一 (客員教授)		株式会社ポップアップクリエイティブ/山形県農業共済組合	15
	温泉川肇彦 (客員教授)		国立保健医療科学院生活環境研究部	15
	宮田真智子 (客員教授)	岩手大学農学部附属動物病院の犬と猫の問題行動に関する研究における, 専門的立場からの指導・助言	岩手大学農学部附属動物病院	192
動物病院	宮田真智子 (客員教授)	岩手大学農学部附属動物病院の犬と猫の問題行動に関する研究における, 専門的立場からの指導・助言	岩手大学農学部附属動物病院	192
	大野美紗 (客員准教授)	岩手大学農学部附属動物病院の疾患の診断と治療に関する研究	岩手大学農学部附属動物病院	192
研究科 獣医学	山本健久 (客員教授)	岩手大学大学院獣医学研究科における, 専門的立場からの指導・助言	農研機構 動物衛生研究部門	48

委員会	学科等	植物生命科学	応用生物化学	森林科学	食料生産環境	動物科学	共同獣医	寒冷ワールド	動物病院	動物センター	植物園	農業教育資料館	評議員	事務部等	任期等
17	寒冷ワールドサイエンス教育研究センター運営委員会	立澤	立石	東	山本(清)	出口	高橋(正)	由比 山本(信) 平田 渡邊	山崎(真)	佐藤(至)				事務室長	2年 R2.4.1~R4.3.31 センター長、次長、専任教員 各学科から各1、2施設から各1 農学系技術部(農学系第一技術室及び 農学系第二技術室)から各1
18	動物病院運営協議会	ラーマン	伊藤(芳)	真坂	塚越	松原	落合 村上 宇塚 佐藤(繁)		山崎(真) 山崎(真) 星野 森田					病院事務職員	2年 R2.4.1~R4.3.31 病院長、各学科(共同獣医を除く)から 各1、共同獣医学科2、診療主任2、 病院専任教員、病院事務職員
19	動物医学食品安全教育研究センター運営委員会	安	伊藤(芳)	伊藤(幸)	小出	澤井	×	山崎(真)	寺嶋						2年 R2.4.1~R4.3.31 センター長、副センター長、部門長、 ユニット長、各学科から教授又は准教授 を各1(センター長、副センター長、 部門長の所属学科を除く)、 2施設いずれかから教授又は准教授1、 センター専任教員、その他センター長指名
20	植物園運営委員会	立澤	大野	真坂	袁	澤井	佐々木		立川						2年 R2.4.1~R4.3.31 植物園長、各学科から各1
21	農業教育資料館運営委員会	ラーマン	伊藤(菊)	松木	武藤	松原	小林					伊藤(菊)			2年 R2.4.1~R4.3.31 館長、副館長、各学科から各1
22	自然エネルギー利用温室運営委員会	下野	鈴木	斎藤(仁)	濱上	村元	関								2年 R2.4.1~R4.3.31 各学科から各1
23	生物環境制御装置室運営委員会	畠山	鈴木	斎藤(仁)	庄野	村元	山田(鈴)								2年 R2.4.1~R4.3.31 各学科から各1
24	ホームページ専門委員会	松波、立石、斎藤(仁)、濱上、松原、小林、平田	齋藤	関野	庄野	出口	内田	山本(信)	森田					技術部職員 事務室職員	広報委員会選出7、技術部1、 学部運営グループ1
25	環境管理委員会	川原田	齋藤	関野	庄野	出口	内田	山本(信)	森田				山下		2年 R2.4.1~R4.3.31 各学科から各1、2施設から各1、 その他学部長指名

(総合科学研究科農学専攻)

委員会	コース等	植物生命科学	応用生物化学	動物科学	事務部等	任期等
26	農学専攻運営委員会	佐原	三浦	築城	専攻長 副専攻長 事務長	2年 R2.4.1~R4.3.31 専攻長、副専攻長、コース長3
27	農学専攻学務委員会	立澤	斎藤	村元	副専攻長	2年 R3.4.1~R3.3.31 副専攻長、各コースから各1

学 生

1. 入試

(1) 令和3年度大学入学共通テストの受験を要する教科・科目及び個別学力検査実施教科・科目等

学科・コース	日程	大学入学共通テストの受験を要する教科・科目名	個別学力検査実施教科・科目名等
植物生命科学科 応用生物化学科 森林科学科 食料生産環境学科 農村地域デザイン学コース 食産業システム学コース 水産システム学コース 動物科学科	前期日程	国(国) 地歴(世A,世B,日A,日B,地理A,地理B) } から1 公民(現社,倫,政経,倫政経) 数【(数,数・数Aから1)と(数,数・数B,簿,情報から1)】	数(数・数・数A・数B) 理(物理基礎・物理,化学基礎・化学,生物基礎・生物) [1教科1科目] 大学入学希望理由書
	後期日程	理(物理,化学,生物,地学から2) 外【英(リスニングテストを含む),独,仏,中,韓から1】 [5教科7科目]	小論文
共同獣医学科	前期日程	国(国) 地歴(世A,世B,日A,日B,地理A,地理B) } から1 公民(現社,倫,政経,倫政経) 数【数・数Aと(数・数B,簿,情報から1)】	数(数・数・数A・数B) 理(物理基礎・物理,化学基礎・化学,生物基礎・生物から1) [2教科2科目] 大学入学希望理由書
	後期日程	理(物理,化学,生物から2) 外【英(リスニングテストを含む),独,仏,中,韓から1】 [5教科7科目]	小論文

(2) 令和3年度大学入学共通テスト及び個別学力検査等の評価・配点

日程	試験区分 学科・コース	大学入学共通テストの配点								個別学力検査等の配点						合計			
		国語	地歴	公民	数学		理科	外国語	小計	数学 数・数A・数B	理科			小論文	大学入学 希望理由書		小計		
					数学	数学					物理基礎	化学基礎	生物基礎						
前期日程	植物生命科学科	200	(100)	(100)	100	100	100	100	200	900	(300)	(300)	(300)	(300)		20	320	1,220	
	応用生物化学科	200	(100)	(100)	100	100	100	100	200	900	(300)	(300)	(300)	(300)		20	320	1,220	
	森林科学科	200	(100)	(100)	100	100	100	100	200	900	(300)	(300)	(300)	(300)		20	320	1,220	
	食料生産環境学科	農村地域デザイン学コース	200	(100)	(100)	100	100	100	100	200	900	(300)	(300)	(300)	(300)		20	320	1,220
		水産システム学コース	200	(100)	(100)	100	100	100	100	200	900	(300)	(300)	(300)	(300)		20	320	1,220
	動物科学科	200	(100)	(100)	100	100	100	100	200	900	(300)	(300)	(300)	(300)		20	320	1,220	
	共同獣医学科	200	(100)	(100)	100	100	100	100	200	900	200	(200)	(200)	(200)		20	420	1,320	
後期日程	植物生命科学科	200	(100)	(100)	100	100	100	100	200	900					300		300	1,200	
	応用生物化学科	200	(100)	(100)	100	100	100	100	200	900					300		300	1,200	
	森林科学科	200	(100)	(100)	100	100	100	100	200	900					300		300	1,200	
	食料生産環境学科	農村地域デザイン学コース	200	(100)	(100)	100	100	100	100	200	900					300		300	1,200
		水産システム学コース	200	(100)	(100)	100	100	100	100	200	900					300		300	1,200
	動物科学科	200	(100)	(100)	100	100	100	100	200	900					300		300	1,200	
	共同獣医学科	200	(100)	(100)	100	100	100	100	200	900					200		200	1,100	

備考：表中の()は、選択科目であることを表す。

(3) 令和3年度入学者選抜状況

大学入学共通テスト 第1日程：令和3年1月16日～令和3年1月17日
 第2日程：令和3年1月30日～令和3年1月31日

総合型 出願期間 令和2年12月4日～令和2年12月8日
 個別学力検査 令和2年12月25日
 合格発表 令和3年2月12日

一般選抜（前期日程・後期日程） 出願期間 令和3年1月25日～令和3年2月5日
 前期日程 個別学力検査 令和3年2月25日
 合格発表 令和3年3月6日
 後期日程 個別学力検査 令和3年3月12日
 合格発表 令和3年3月20日

学科名		区分	募集人員	志願者	合格者	入学者
植物生命科学科		前期	28	33	31	26
		後期	4	19	6	5
		学校推薦型	4	14	6	6
		総合型	4	5	4	4
		私費外国人	若干名	0	0	0
応用生物化学科		前期	27	53	31	28
		後期	3	32	3	2
		学校推薦型	6	18	6	6
		総合型	4	6	2	2
		私費外国人	若干名	0	0	0
森林科学科		前期	18	28	20	19
		後期	4	21	1	1
		学校推薦型	5	13	6	6
		総合型	3	7	3	3
		私費外国人	若干名	0	0	0
食料生産環境学科	農村地域デザイン学コース 食産業システム学コース	前期	26	39	33	32
		後期	4	13	4	3
		学校推薦型	6	9	6	6
		総合型	4	1	1	1
		私費外国人	若干名	0	0	0
	水産システム学コース	前期	10	14	13	13
		後期	3	11	2	2
		学校推薦型	5	9	4	4
		総合型	2	2	0	0
		私費外国人	若干名	0	0	0
動物科学科		前期	18	44	19	14
		後期	3	20	5	3
		学校推薦型	6	20	6	6
		総合型	3	9	3	3
		私費外国人	若干名	1	1	1
共同獣医学科		前期	22	73	24	24
		後期	3	33	4	4
		学校推薦型	-	-	-	-
		総合型	5	40	6	6
		私費外国人	若干名	1	0	0

計	前期	149	284	171	156
	後期	24	149	25	20
	学校推薦型	32	83	34	34
	総合型	25	70	19	19
	私費外国人	若干名	2	1	1
合計		230	588	250	230

(4) 令和3年度学校推薦型選抜状況

選考方法 小論文，面接，推薦書，調査書及び本人の出願理由書

出願期間 令和2年11月2日～令和2年11月6日

選考試験 令和2年11月20日 小論文及び面接

合格発表 令和2年12月1日

学科名		募集人員	志願者	合格者	入学者
植物生命科学科		4	14	6	6
応用生物化学科		6	18	6	6
森林科学科		5	13	6	6
食料生産 環境学科	農村地域デザイン学コース	6	9	6	6
	食産業システム学コース				
	水産システム学コース	5	9	4	4
動物科学科		6	20	6	6

(5) 令和3年度植物生命科学科・応用生物化学科・食料生産環境学科・動物科学科編入学選抜状況

選考方法 調査書，小論文及び面接（口頭試問を含む）

出願期間 令和2年7月2日～令和2年7月6日

選考試験 令和2年8月5日 小論文及び面接

合格発表 令和2年9月3日

注）各日程は，新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために募集要項記載の日程から延期。

学科・コース		募集人員	志願者	合格者	入学者
植物生命科学科		1	4	0	0
応用生物化学科		1	6	0	0
食料生産 環境学科	農村地域デザイン学コース	2	1	1	1
	食産業システム学コース		2	0	0
	水産システム学コース		2	1	1
動物科学科		1	2	0	0

(6) 令和2年10月入学及び令和3年4月入学大学院総合科学研究科（修士課程）選抜状況

ア 日程

推薦入試

出願期間	学力検定試験日	合格発表日
2.6.8～2.6.10	2.7.1	2.7.9

令和2年10月入学

出願期間	学力検定試験日	合格発表日
2.7.10~2.7.14	2.8.19~2.8.20	2.9.3

令和3年4月入学

区分	出願期間	学力検定試験日	合格発表日
第1期	2.7.10~2.7.14	2.8.19~2.8.20	2.9.3
第2期	2.12.2~2.12.4	3.1.26~3.1.27	3.2.10

イ 志願者・合格者・入学者

推薦入試

専攻・コース名	募集人員	志願者	合格者	入学者
地域創生専攻 地域産業コース		名 12	名 12	名 11
地域創生専攻 地域・コミュニティデザインコース		0	0	0
合計		12	12	11

令和2年10月入学

専攻名	募集人員	志願者			合格者	入学者
		一般入試	社会人入試	外国人留学生入試		
農学専攻 植物生命科学コース	若干名	名 0	名 0	名 0	名 0	名 0
農学専攻 応用生物化学コース		0	0	0	0	0
農学専攻 動物科学コース		0	0	0	0	0
地域創生専攻 地域産業コース		0	0	0	0	0
地域創生専攻 地域・コミュニティデザインコース		0	0	0	0	0
合計		0	0	0	0	0

令和3年4月入学

専攻・コース名	募集人員	第1期募集				第2期募集				入学者
		志願者			合格者	志願者			合格者	
		一般入試	社会人入試	外国人留学生入試		一般入試	社会人入試	外国人留学生入試		
農学専攻 植物生命科学コース	50名	6名	0名	0名	5名	4名	0名	0名	3名	7名
農学専攻 応用生物化学コース		14	0	0	13	1	0	0	1	14
農学専攻 動物科学コース		7	0	0	7	0	0	0	0	7
地域創生専攻 地域産業コース	.	5	0	0	5	4	0	1	3	7
地域創生専攻 地域・コミュニティ デザインコース	.	1	0	0	1	0	0	0	0	1
合計	.	33	0	0	31	9	0	1	7	36

(7) 令和2年10月入学及び令和3年4月入学大学院獣医学研究科(博士課程)選抜状況

ア 日程

令和2年10月入学

出願期間	学力検定試験日	合格発表日
2. 7.15 ~ 2. 7.17	2. 8.21	2. 9. 3

令和3年4月入学

区分	出願期間	学力検定試験日	合格発表日
第1期	2. 7.15 ~ 2. 7.17	2. 8.21	2. 9. 3
第2期	2.12. 2 ~ 2.12. 4	3. 1.28	3. 2.10

イ 志願者・合格者・入学者

令和2年10月入学

専攻	募集人員	志願者		合格者	入学者
		一般入試	外国人留学生特別入試		
共同獣医学専攻	若干名	1名	0名	1名	1名

令和3年4月入学

専攻	募集人員	第1期募集			第2期募集			入学者
		志願者		合格者	志願者		合格者	
		一般入試	外国人留学生特別入試		一般入試	外国人留学生特別入試		
共同獣医学専攻	5名	1名	0名	1名	1名	0名	0名	1名

2. カリキュラム

(1) 植物生命科学科

区分	授業科目	単位数	
		必修	選択
専門基礎科目	基礎数学入門		2
	線形代数学入門		2
	微分積分学入門		2
	物理学入門		2
	物理学		2
	化学入門		2
	化学		2
	生物学入門		2
	生物学		2
	地学入門		2
	生物統計学		2
	基礎数学演習		1
	基礎物理学実験		1
	基礎化学実験		1
	基礎生物学実験		1
			3
学部共通科目	総合フィールド科学	2	
	総合フィールド科学実習	1	
	地域おこし論		2
	インターンシップ		1
	科学英語	2	
	科学文献読解法		2
	海外特別実習		1
	農学のための倫理学		2
	卒業研究	6	
専門重点科目	農学概論	2	
	作物栽培学概論	2	
	食用作物学	2	
	食用作物学		2
	果樹園芸学概論	2	
	蔬菜・花卉園芸学概論	2	
	蔬菜園芸学各論	2	
	花卉園芸学各論		2
	果樹園芸学各論		2
	遺伝学概論	2	
	植物育種学	2	
	植物育種学	2	
	遺伝育種学		2
	環境植物生理学		2
	General Plant Biology		2
	植物生理学	2	
	生物制御学概論	2	
	植物病理学	2	
	植物病理学	2	
	植物ウイルス学		2
	応用昆虫学	2	
	応用昆虫学	2	

区分	授業科目	単位数	
		必修	選択
専門重点科目	昆虫生理学		2
	農業経済学	2	
	食料・農業政策論	2	
	農業経営学		2
	作物学実験	1	
	園芸学実験	1	
	植物育種学実験	1	
	植物生理学実験	1	
	植物病理学実験	1	
	応用昆虫学実験	1	
	農業時事演習		1
	植物生命科学演習	1	
	植物生命科学演習	1	
	雑草防除論		2
	農場実習	1	
	農場実習		1
	農場特別実習		1
専門展開科目	生化学	2	
	生化学	2	
	分子生物学	2	
	土壌資源利用論		2
	遺伝子工学		2
	細胞生物学		2
	植物栄養学・肥料学		2
	植物栄養生理学		2
	生化学		2
	分子生物学		2
基礎分析化学		2	
農業気象・環境学		2	
有機化学概論		2	
植物ストレス応答学		2	
必要修得単位数		60	31
合計必要修得単位数		91	

(2) 応用生物化学科

区分	授業科目	単位数	
		必修	選択
専門基礎科目	基礎数学入門		2
	線形代数学入門		2
	微分積分学入門		2
	生物統計学		2
	基礎数学演習		1
	物理学入門		2
	基礎物理学実験		1
	物理学		2
	化学入門		2
	化学		2
	生物学入門		2
	基礎生物学実験		1
	生物学		2
	地学入門		2
	基礎化学実験	1	
			5
学部共通科目	総合フィールド科学	2	
	総合フィールド科学実習	1	
	地域おこし論		2
	インターンシップ		1
	科学英語	2	
	科学文献読解法		2
	海外特別実習		1
	農学のための倫理学		2
	卒業研究	6	
専門重点科目	有機化学概論	2	
	生化学	2	
	基礎分析化学	2	
	生化学	2	
	土壌資源利用論	2	
	食品化学	2	
	食品化学工学	2	
	天然物化学	2	
	微生物学概論	2	
	栄養化学	2	
	分子生物学	2	
	植物栄養生理学		2
	ケミカルバイオロジー	2	
	微生物生理学	2	
	植物栄養学・肥料学	2	
	食品衛生学	2	
	生化学		2
	食品物理化学		2
	遺伝子工学		2
	分子生物学		2
	公衆衛生学		1
	機器分析化学	2	
	産業微生物学		2
	土壌環境微生物学・生化学		2
美味学		2	

区分	授業科目	単位数	
		必修	選択
専門重点科目	食品保蔵学	2	
	食品機能学		2
	細胞生物学		2
	植物ストレス応答学		2
	応用生物化学演習	1	
	応用生物化学演習	1	
	食品加工システム学		2
	分析化学実験	1	
	植物栄養学実験	1	
	食品化学実験	1	
	生化学実験	1	
	微生物学実験	1	
	化学生物学実験	1	
	栄養化学実験	1	
	食品化学工学実験	1	
	分子生物学実験	1	
専門展開科目	植物生理学		2
	環境植物生理学		2
	General Plant Biology		2
	林産化学		2
	作物栽培学概論		2
	食用作物学		2
	蔬菜・花卉園芸学概論		2
	植物育種学		2
	植物病理学		2
	応用昆虫学		2
	農業経済学		2
	農産食品プロセス工学		2
	動物資源利用学		2
	動物資源利用学		1
水産微生物学		2	
水産食品加工学		2	
水産食品化学		2	
生命情報学		2	
医薬品科学		2	
必修修得単位数		57	34
合計必修修得単位数		91	

(3) 森林科学科

区分	授業科目	単位数		
		必修	選択	
専門基礎科目	基礎数学入門	2		
	線形代数学入門		2	
	微分積分学入門		2	
	物理学入門		2	
	物理学		2	
	化学入門		2	
	化学		2	
	生物学入門		2	
	生物学		2	
	地学入門		2	
	生物統計学	2		
	基礎数学演習		1	
	基礎物理学実験		1	
	基礎化学実験		1	
	基礎生物学実験		1	
			4	3
	学部共通科目	総合フィールド科学	2	
総合フィールド科学実習		1		
地域おこし論			2	
インターンシップ		1		
科学英語			2	
科学文献読解法			2	
海外特別実習			1	
農学のための倫理学		2		
卒業研究	6			
専門重点科目	森林科学入門	2		
	森林科学基礎演習	1		
	木材と住宅	2		
	森林計測学	2		
	林業・木材産業論	2		
	森林測量学	2		
	森林測量学実習	2		
	環境防災学		2	
	樹木学	2		
	樹木学実習	1		
	暖帯林概論		1	
	森林科学研修	1		
	林産化学	2		
	森林・雪氷水文学		2	
	山村経済・地域おこし論		2	
	森林測量学	2		
	森林測量学実習	1		
	林業生産工学	2		
	地域生態系保全論		2	
	野生動物管理学	2		
	森林環境教育論		2	
	森林保全生態学		2	
	木材工学		2	
	木材工学演習		1	
	森林バイオマスの成分利用		2	

区分	授業科目	単位数	
		必修	選択
専門重点科目	森林化学演習		1
	砂防学	2	
	林業生産工学実習	1	
	海外・日本の林業	2	
	森林政策学	2	
	森林造成学	2	
	森林造成学実習	2	
	林道工学	2	
	森林計測学実習	1	
	自然環境保全論		2
	NPO・環境ガバナンス論		2
	野生動物管理学実習		1
	環境と樹木の生理		2
	森林保護学		2
森林科学応用演習	1		
砂防学実習	2		
森林計画学		2	
データ分析演習		1	
林道工学実習	1		
森林科学応用演習	1		
公開森林実習		1	
専門展開科目	応用昆虫学		2
	植物生理学		2
	植物病理学		2
	植物病理学		2
	有機化学概論		2
	天然物化学		2
	生化学		2
	微生物学概論		2
	分子生物学		2
	機器分析化学		2
	応用力学		2
	応用数学		2
	構造力学		2
	水理学		2
	緑地環境学		2
	施設開発管理学		2
	地域景観保全論		2
フィールド・ティイク及び農作業安全		2	
必要修得単位数		61	30
合計必要修得単位数		91	

(4)・1 食料生産環境学科 農村地域デザイン学コース

区分	授業科目	単位数	
		必修	選択
専門基礎科目	基礎数学入門		2
	線形代数学入門		2
	微分積分学入門		2
	物理学入門	2	
	物理学		2
	化学入門		2
	化学		2
	生物学入門		2
	生物学		2
	地学入門		2
	生物統計学		2
	基礎数学演習		1
	基礎物理学実験	1	
	基礎化学実験		1
	基礎生物学実験		1
			3
学部共通科目	総合フィールド科学	2	
	総合フィールド科学実習	1	
	地域おこし論		2
	インターンシップ		1
	科学英語		2
	科学文献読解法		2
	海外特別実習		1
	農学のための倫理学		2
	卒業研究	6	
学科共通科目	食料生産環境学概論	2	
	応用数学	2	
	応用力学	2	
	情報処理演習	1	
専門重点科目	構造力学	2	
	構造力学演習		1
	土質力学	2	
	土質力学演習		1
	測量学	2	
	測量学基礎実習	1	
	測量学フィールド実習	1	
	地理情報処理学	2	
	地理情報処理演習		1
	水理学	2	
	水資源論	2	
	水理学実験演習		1
	土壌物理学	2	
	施設開発管理学	2	
	水文・水利学	2	
	農地工学	2	
	土壌・土質実験		1
	材料実験		1
	地域デザイン論	2	
	環境防災学		2
	農村計画学	2	

区分	授業科目	単位数	
		必修	選択
専門重点科目	緑地環境学		2
	地域生態系保全論		2
	地域景観保全論	2	
	地域振興政策論		2
	海外農林開発論		2
	環境修復学		2
	農村地域デザイン学演習	1	
	農村地域デザイン実践論	2	
	農村地域デザイン学セミナー		1
専門展開科目	作物栽培学概論		2
	農業経済学		2
	農業気象・環境学		2
	栽培施設学		2
	食料・農業政策論		2
	農業動力利用学		2
	土壌資源利用論		2
	土壌環境微生物学・生化学		2
	栽培環境制御学		2
	有機化学概論		2
	天然物化学		2
	基礎分析化学		2
	機器分析化学		2
	食品化学工学		2
	食品物理化学		2
	木材と住宅		2
	森林環境教育論		2
	野生動物管理学		2
	砂防学		2
農業循環工学		2	
NPO・環境ガバナンス論		2	
必要修得単位数		50	41
合計必要修得単位数		91	

(4)・2 食料生産環境学科 食産業デザイン学コース

区分	授業科目	単位数	
		必修	選択
専門基礎科目	基礎数学入門		2
	線形代数学入門		2
	微分積分学入門		2
	物理学入門	2	
	物理学		2
	化学入門		2
	化学		2
	生物学入門		2
	生物学		2
	地学入門		2
	生物統計学		2
	基礎数学演習		1
	基礎物理学実験	1	
	基礎化学実験		1
	基礎生物学実験		1
		3	6
学部共通科目	総合フィールド科学	2	
	総合フィールド科学実習	1	
	地域おこし論		2
	インターンシップ		1
	科学英語		2
	科学文献読解法		2
	海外特別実習		1
	農学のための倫理学		2
	卒業研究	6	
学科共通科目	食料生産環境学概論	2	
	応用数学	2	
	応用力学	2	
	情報処理演習	1	
専門重点科目	6次産業化論	2	
	栽培施設学	2	
	農業気象・環境学	2	
	植物環境物理学		2
	栽培環境制御学		2
	農作業システム学	2	
	農業動力利用学	2	
	フィールドロボティクス及び農作業安全		2
	農業循環工学	2	
	機械と施設的设计	2	
	ものづくり実習	1	
	ポストハーベスト工学	2	
	熱工学	2	
	農産食品プロセス工学	2	
	生鮮食品保存科学	2	
	農業経済学	2	
	農業経営学		2
	食料・農業政策論	2	
	農業時事演習	1	
	食産業システム学実験	1	
	食産業システム学実験	1	

区分	授業科目	単位数	
		必修	選択
専門重点科目	食産業システム学演習	1	
	農場実習	1	
専門展開科目	作物栽培学概論		2
	果樹園芸学概論		2
	蔬菜・花卉園芸学概論		2
	遺伝学概論		2
	雑草防除論		2
	食用作物学		2
	果樹園芸学各論		2
	蔬菜園芸学各論		2
	花卉園芸学各論		2
	植物育種学		2
	植物病理学		2
	応用昆虫学		2
	植物生理学		2
	農場実習		1
	農場特別実習		1
	制御工学		2
	ロボティクス工学		2
	土質力学		2
	地理情報処理学		2
	水資源論		2
	水理学		2
	土壌物理学		2
	農地工学		2
	農村計画学		2
土壌資源利用論		2	
植物栄養学・肥料学		2	
食品化学工学		2	
食品化学		2	
食品保蔵学		2	
美味学		2	
食品衛生学		2	
公衆衛生学		1	
必要修得単位数		51	40
合計必要修得単位数		91	

(4)・3 食料生産環境学科 水産システム学コース

区分	授業科目	単位数	
		必修	選択
専門基礎科目	基礎数学入門		2
	線形代数学入門		2
	微分積分学入門		2
	物理学入門		2
	物理学		2
	化学入門		2
	化学		2
	生物学入門		2
	生物学		2
	地学入門		2
	生物統計学		2
	基礎数学演習		1
	基礎物理学実験		1
	基礎化学実験		1
基礎生物学実験		1	
			6
学部共通科目	総合フィールド科学	2	
	総合フィールド科学実習	1	
	地域おこし論		2
	インターンシップ		1
	科学英語		2
	科学文献読解法		2
	海外特別実習		1
	農学のための倫理学		2
	卒業研究	6	
学科共通科目	食料生産環境学概論	2	
	応用数学		2
	応用力学		2
	情報処理演習	1	
専門重点科目	6次産業化論	2	
	水産科学入門	2	
	水産増殖学	2	
	水産動物学	2	
	水産植物学	2	
	水族ゲノム生物学		2
	水族生理学	2	
	漁業資源生態学	2	
	水圏環境学		2
	数理漁業資源学	2	
	水産食品加工学	2	
	水産食品化学		2
	水産微生物学		2
	ミクロ経済学入門	2	
	経営管理学入門	2	
	地域振興経済・政策論	2	
	自然環境論		2
	環境経済学・資源経済学入門	2	
	水産物流・マーケティング論	2	
	水産制度学	2	
	水産政策学	2	

区分	授業科目	単位数	
		必修	選択
専門重点科目	コミュニケーション論	1	
	水産生物学実験	1	
	分析化学実験	1	
	海洋実習	1	
	海洋実習	1	
	漁村調査実習	1	
	漁具漁法概論		2
	漁業資源管理学		2
	水産生命科学特別講義		2
	水産システム学演習	1	
水産システム学演習	1		
専門展開科目	遺伝学概論		2
	熱工学		2
	農産食品プロセス工学		2
	生鮮食品保存科学		2
	地域デザイン論		2
	地域生態系保全論		2
	遺伝子工学		2
	基礎分析化学		2
	細胞生物学		2
	食品衛生学		2
	食品化学		2
	食品機能学		2
	食品加工システム学		2
	公衆衛生学		1
生化学		2	
食品化学工学		2	
食品保蔵学		2	
NPO・環境ガバナンス論		2	
動物組織学		1	
動物発生学		1	
ロボティクス工学		2	
制御工学		2	
必要修得単位数		52	39
合計必要修得単位数		91	

(5) 動物科学科

区分	授業科目	単位数	
		必修	選択
専門基礎科目	基礎数学入門		2
	線形代数学入門		2
	微分積分学入門		2
	物理学入門		2
	化学入門		2
	生物学入門		2
	地学入門		2
	生物統計学		2
	基礎数学演習		1
	基礎物理学実験		1
	基礎化学実験		1
	基礎生物学実験		1
	物理学		2
	化学		2
	生物学		2
学部共通科目	総合フィールド科学	2	
	総合フィールド科学実習	1	
	地域おこし論		2
	インターンシップ		1
	科学英語		2
	科学文献読解法		2
	海外特別実習		1
	農学のための倫理学		2
	卒業研究	6	
専門重点科目	動物科学総論	2	
	実験動物学概論	1	
	動物生理学	2	
	動物生理学	2	
	動物形態学	2	
	動物形態学	2	
	動物組織学	1	
	動物遺伝育種学	2	
	動物発生学	1	
	動物生殖学	2	
	動物生殖学各論	1	
	家畜生殖技術論	1	
	動物栄養学	2	
	動物栄養学	2	
	飼料機能学	2	
	家畜飼養学	2	
	愛玩動物栄養学		1
	草地学	2	
	畜産環境評価論		2
	動物管理学	2	
	動物行動学	2	
	動物園学		1
	野生動物学		1
動物資源利用学	2		
動物資源利用学		1	

区分	授業科目	単位数	
		必修	選択
専門重点科目	動物科学実験	3	
	動物科学実験	3	
	牧場実習	1	
専門展開科目	農業経営学		2
	食品化学工学		2
	応用昆虫学		2
	食品化学		2
	生化学		2
	生化学		2
	野生動物管理学		2
	分子生物学		2
	遺伝子工学		2
	細胞生物学		2
	食品保蔵学		2
	地域生態系保全論		2
	遺伝学概論		2
	微生物学概論		2
	植物栄養学・肥料学		2
	有機化学概論		2
	植物生理学		2
天然物化学		2	
美味学		2	
公衆衛生学		1	
必要修得単位数		51	40
合計必要修得単位数		91	

(6) 共同獣医学科

区分1	区分2	授業科目	単位数		
			必修	選択	
基礎獣医学科目	基礎獣医学科目群	獣医学概論	2		
		獣医倫理	2		
		獣医事法規	1		
		運動器・神経系解剖学	2		
		内臓・脈管系解剖学	2		
		解剖学実習	3		
		組織学	2		
		組織学実習	1		
		発生学	1		
		統合生理学	2		
		器官制御生理学	2		
		内分泌学	2		
		生理学実習	1		
		獣医遺伝育種学	1		
		動物行動学	2		
		実験動物学	2		
		実験動物学実習	1		
		基礎放射線学	2		
		獣医基礎生化学	2		
		獣医代謝生化学	2		
		生化学実習	1		
	基礎薬理学	2			
	統合薬理学	2			
	薬理学実習	1			
	小計	41			
	基礎獣医学科目	病原獣医学科目群	微生物学総論	2	
			病原微生物学	2	
			微生物学実習	1	
			微生物学実習	1	
			免疫学	2	
			原虫・原虫病学	2	
			蠕虫・蠕虫病・衛生動物学	2	
			寄生虫学実習	1	
			動物感染症学	3	
			家禽疾病学	2	
			魚病学	2	
		動物病理学総論	2		
		動物病理学各論A(主要臓器)	2		
		動物病理学各論B(他臓器・組織)	2		
		病理学実習	1		
		病理学実習	1		
小計		28			
応用獣医学科目群	公衆衛生学総論	1			
	疫学	2			
	人獣共通感染症学	2			
	環境衛生学	2			
	公衆衛生学実習	1			
	毒性学	2			
	毒性学実習	1			
	動物衛生学	2			
	動物衛生学実習	1			
	野生動物学	1			
	食品衛生学(獣医)	2			
	食品衛生学実習	1			
公衆衛生実践実習	1				
小計	19				

区分1	区分2	授業科目	単位数	
			必修	選択
実証獣医学科目	小動物臨床獣医学科目群	内科学総論	1	
		呼吸器病・循環器病学	2	
		消化器病学	2	
		外科学総論	1	
		麻酔学・手術学	1	
		軟部外科学	1	
		小動物内科学実習・基礎編	1	
		小動物内科学実習・応用編	1	
		小動物外科学実習・基礎編	1	
		小動物外科学実習・応用編	1	
		内分泌病・皮膚病学	2	
		代謝病・中毒学	1	
		血液免疫病学	1	
		神経病・運動器病学	2	
		泌尿器病・生殖器病学	2	
		臨床病理学	2	
		臨床薬理学	1	
		臨床腫瘍学	2	
		臨床栄養学	1	
		画像診断学	2	
		画像診断実習	1	
	眼科学	1		
	動物行動治療学	1		
	総合参加型臨床実習	1		
	総合参加型臨床実習	1		
	総合参加型臨床実習	1		
	小計	35		
	大動物臨床獣医学科目群	繁殖機能制御学	2	
		臨床繁殖学	2	
		繁殖機能制御学実習	1	
		臨床繁殖学実習	1	
		産業動物臨床学	2	
		産業動物臨床学	2	
		馬臨床学	1	
		大動物臨床実習・基礎編	1	
大動物臨床実習・応用編		1		
総合参加型臨床実習		1		
小計	15			
選択科目	インターンシップ(獣医)		1	
	海外実習		1	
	人と動物関係学		2	
	動物品種論		2	
	食品安全管理学		2	
	動物園動物学		2	
	国際感染症制御学		2	
動物病院経営学		2		
小計		6		
科目専修	獣医学演習		4	
	卒業研究		10	
小計		14		
計		152	6	
合計			158	

3. 学部学生

(1) 入学年度別在籍者数

令和2年4月1日現在

入学年度 学科・課程等	定 員			令和2年度			平成31年度			平成30年度			平成29年度			平成28年度		
	入学	編入	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
植物生命科学科	40	1	162	26	14	40	18	22	40	26	14	40	23	20	43	3	2	5
応用生物化学科	40	1	162	18	24	42	11	31	42	21	21	42	24	16	40	2	1	3
森林科学科	30	-	120	16	17	33	18	13	31	18	11	29	16	15	31	4	1	5
食料生産環境学科	60	2	244	37	25	62	41	24	65	33	28	61	34	34	68	5	-	5
動物科学科	30	1	122	10	22	32	10	22	32	10	20	30	9	21	30	1	-	1
共同獣医学科	30	-	180	17	15	32	12	22	34	16	16	32	19	15	34	18	13	31
農学生命課程	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
応用生物化学課程	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
共生環境課程	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
動物科学課程	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
獣医学課程	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計	230	5	990	124	117	241	110	134	244	124	110	234	125	121	246	33	17	50

入学年度 学科・課程等	平成27年度			平成26年度			平成25年度			平成24年度			平成23年度			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
植物生命科学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	96	72	168
応用生物化学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	76	93	169
森林科学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	72	57	129
食料生産環境学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	150	111	261
動物科学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40	85	125
共同獣医学科	14	21	35	1	-	1	2	-	2	-	-	-	-	-	-	99	102	201
農学生命課程	2	-	2	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	0	4
応用生物化学課程	2	-	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	0	3
共生環境課程	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
動物科学課程	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2
獣医学課程	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
計	19	22	41	4	-	4	2	-	2	-	-	-	-	-	-	541	521	1,062

(2) 研究生・科目等履修生・特別聴講生受入状況

令和2年4月1日現在

区 分	研 究 生	科目等履修生	特別聴講生	特別研究生	合 計
学 部	2	0	1	0	3
大 学 院	2	0	0	0	2
計	4	0	1	0	5

(3) 卒業生数

令和3年4月1日現在

学科・課程	令和2年度	備考
植物生命科学科	42	
応用生物化学科	38	
森林科学科	26	
食料生産環境学科	72	
動物科学科	30	
共同獣医学科	35	
農学生命課程	1	
応用生物化学課程	0	
共生環境課程	0	
動物科学課程	0	
獣医学課程	0	
計	244	

(4) 卒業生の進路状況 (令和2年度)

学部	学科	卒業生数	卒業後の状況										就職者の産別																就職先							
			進学等			就職		その他	農業	漁業	鉱業・採石業	建設業	食品・飲料・たばこ・繊維・衣服	印刷・関連産業	化学・石油	鉄鋼・非鉄・金属製品	汎用・生産用・業務機械	電子部品・デバイス	電気・情報通信機器	輸送用機器製造業	その他の製造業	電気・ガス・水道	情報通信業	運輸・郵便業	卸売・小売業	金融・保険業	不動産・物品賃貸	学術・研究・専門技術		教育・学習支援	医療・福祉	サービス業	公務	岩手県内就職者	県外就職者	
			大	研	その他	就職希望者	就職者																													
農学部	植物生命科学科	男	21	5	0	0	15	14	2	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	1	0	0	6	2	12
		女	22	5	0	0	17	16	1	4	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	7	9	7	
	計	43	10	0	0	32	30	3	5	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3	0	0	1	1	0	13	11	19		
	応用生物化学科	男	23	7	0	0	14	13	3	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	2	0	0	0	4	2	11	
		女	16	9	0	0	7	7	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	4	6	1	
	計	39	16	0	0	21	20	3	1	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	3	0	2	0	0	8	8	12		
森林科学科	男	13	5	0	0	8	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	4	2	6		
	女	14	2	0	0	12	12	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0	0	2	4	4	8		
計	27	7	0	0	20	20	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	3	0	0	3	8	6	14			
食料生産環境学科	男	38	11	0	0	26	26	1	2	0	0	0	6	0	0	0	1	1	0	0	0	0	4	1	3	0	0	1	0	0	1	6	11	15		
	女	34	7	0	0	27	25	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4	0	0	1	0	0	4	12	9	16		
	計	72	18	0	0	53	51	3	2	0	0	0	7	1	0	0	1	1	0	0	0	0	5	2	7	0	0	2	0	0	5	18	20	31		
動物科学科	男	10	4	0	0	5	5	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	1	0	5		
	女	20	5	0	0	14	14	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	3	3	2	3	11		
	計	30	9	0	0	19	19	2	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0	3	5	3	3	16		
共同獣医学科	男	15	0	0	0	11	10	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5	0	0	3	1	9		
	女	20	0	0	0	18	18	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	8	0	2	2	4	0	18		
	計	35	0	0	0	29	28	7	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	13	0	2	2	7	1	27	
計	男	120	32	0	0	79	76	12	5	0	0	0	9	0	0	2	0	1	1	0	0	1	0	8	1	7	2	0	10	1	0	4	24	18	58	
	女	126	28	0	0	95	92	6	8	0	0	0	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	7	3	0	13	0	5	11	33	31	61		
	計	246	60	0	0	174	168	18	13	0	0	0	16	1	0	2	0	1	1	0	0	1	0	11	2	14	5	0	23	1	5	15	57	49	119	

4 . 大学院修士課程

(1) 在籍者数

総合科学研究科

令和2年10月1日現在

専攻	定員		令和2年度			平成元年度			平成30年度			合計		
	入学	収容	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
地域創生専攻 地域産業コース (農学部に所属する教員が指導する学生)			10	5	15	16	6	22	0	0	0	26	11	37
地域創生専攻 地域・コミュニティデザインコース (農学部に所属する教員が指導する学生)			0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1
農学専攻 植物生命科学コース	50	100	8	6	14	7	4	11	1	0	1	16	10	26
農学専攻 応用生物化学コース			11	7	18	11	8	19	0	0	0	22	15	37
農学専攻 動物科学コース			2	7	9	6	7	13	0	0	0	8	14	22
計			31	25	56	40	25	65	1	1	2	73	51	124

(2) 修了者数

総合科学研究科

令和3年4月1日現在

専攻	令和2年度	備考
地域創生専攻 地域産業コース	18	
地域創生専攻 地域・コミュニティデザインコース	1	
農学専攻 植物生命科学コース	8	
農学専攻 応用生物化学コース	19	
農学専攻 動物科学コース	11	
計	57	

(4) 修士論文一覧

令和2年9月修了

専攻	氏名	修士論文題目
地域創生専攻 地域産業コース 高度農林業プログラム	JIANG ZHUOQIU	シイタケ廃菌床から得たブロック材料の機械的性質および断熱性能
農学専攻 植物生命科学コース	小山田 有紀	ダリア園芸品種の花色と花色素
	HABTAMU ASSEGA ALEMAYEHU	Genotypic variations of cold tolerance during reproductive development in Ethiopian rice germplasm

令和3年3月修了

専攻	氏名	修士論文題目
地域創生専攻 地域産業コース 高度農林業プログラム	藤原 拓摩	森林科学を専攻する学生の森林・林業に対する意識の変容
	大倉 恒星	山地小流域における分布型融雪流出解析の試み
	押切 智博	岩手県内におけるニホンジカのロードキルの位置情報と影響要因の解析
	今野 雄太	電磁探査測定による土壌特性の広域的評価手法の研究
	佐藤 和人	岩手県内陸部におけるミサゴの行動とその決定要因の分析・GPS 発信機の活用による考察
	関川 春奈	クワ抽出物のスキンケア関連作用および有効成分
	高橋 長仁	八郎潟粘土地盤の圧密変形特性とその動態予測
	高橋 郁成	物理探査によるダムとため池の堤体内部物性の評価手法の研究
	田中 文悠	北東北産樹木精油の抗アルツハイマー病作用
	土谷 幹	送流土砂による付着藻類カワシオグサの剥離効果に関する研究
	羽柴 考佳	UAV 写真計測を用いた間伐施業評価技術の検討
	松村 修平	誘引衝突式トラップによるカミキリムシ相の把握とその年変動および林相の影響
	宮 隆之	竹廃材を利用した地盤の力学的特性の改良効果に関する研究
	森 航大	三陸地域におけるミサゴの生息環境保全に向けた研究 広域的な営巣環境と給餌魚種に着目して
	山影 航也	パルス電界前処理が農産物の乾燥工程における乾燥速度および品質変化に及ぼす影響
	YANG JIE	中国武漢市における大学生の環境意識と行動
地域創生専攻 地域産業コース 水産業革新プログラム	小笠原 聖佳	養殖サクラマスサプライチェーンにおける鮮度保持方法の検討
	武藤 章	様々な保存条件におけるマボヤ体壁筋生化学特性及び性状変化
地域創生専攻 地域・コミュニティデザインコース 防災・まちづくりプログラム	渡辺 聖夏	岩手県内の廃校の特性と廃校利用における課題

専攻	氏名	修士論文題目
農学専攻 植物生命科学コース	秋田谷 茉那	ハクサイ根こぶ病抵抗性遺伝子 <i>Crr1b</i> と <i>Crr2</i> の責任遺伝子の同定に関する研究
	伊藤 圭汰	Identification of mechanism of cesium transport
	及川 誠司	初冬直播き水稲栽培に適した品種およびその要因の解明
	岡部 由梨子	リンゴ果実の肥大と植物ホルモンの関係解明
	佐々木 祥子	マメ科植物の莢形質と種子形質の遺伝育種学的解析
	杉田 健史	Understanding the molecular mechanism of selective herbicidal activity of 2,4-dichlorophenoxyacetic acid
	高谷 聡汰	ソバの倍加半数体および形質転換体の作出に関する研究
	谷内 慎	ミヤコグサと <i>Bradyrhizobium</i> 属根粒菌間における根粒共生メカニズムの解析
農学専攻 応用生物化学コース	及川 和吉	久慈産琥珀の超臨界メタノール分解・抽出物の生物活性物質の単離精製，構造決定，並びに生物活性
	大宮 萌	がん/精巣抗原の細胞内局在および機能に関する研究
	長田 悠佳	アポトーシス関連タンパク質 Calpain-1 の立体構造解析および分子シャペロン ERp57 との相互作用に関する研究
	加賀 彩夏	アミノ酸による骨格筋タンパク質分解抑制作用の速筋と遅筋の相違の解析
	菅野 琴華	TAT 経路による分泌タンパク質膜透過の分子機構の解明
	澤口 尚生	スギ葉からの Rubisco 抽出・精製法の開発および比活性評価
	ZHU WENRUI	流動性ヨーグルトの「滑らかさ」の明確化と評価法の確立
	柴田 拓道	「もちもち」食感の理化学的定義および客観的評価
	関谷 優晟	リン脂質および糖脂質 MPlase の生合成に関与する Cds ファミリーの構造機能解析
	高嶋 大輝	組換え麹菌発現系における <i>Penicillium citrinum</i> AIU Z26-4-8 由来アミノ酸化酵素の精製と諸性質解明
	高屋敷 望	がん細胞での中心体クラスタリング阻害物質のケミカルライブラリーからの探索
	谷本 悠	ザゼンソウ熱産生組織における Selenium-binding protein 1 遺伝子の発現に関する研究
	田村 健	シロツメクサ複葉形成機構の解析
	平野 雄大	尾部懸垂ラットの骨格筋萎縮に対するフェネチルイソチオシアネートの効果
	松浦 秀太郎	コビキチンリガーゼ変異酵母 <i>rsp5A401E</i> 株を用いたスクリーニング系の検討とケミカルライブラリーからの活性物質の探索
	松本 晶	海藻を原料としたバイオプラスチックの微生物合成
	三浦 舞音	コレステロール生合成経路から分岐するフェリニン経路の哺乳動物における機能解析
	三浦 悠花	プロテインホスファターゼ M1A (PPM1A) の活性化作用と細胞での脱顆粒抑制活性との関連性
八重沢 菜々恵	肝臓細胞におけるオレアノール酸の糖代謝応答に及ぼす影響の解析	
農学専攻 動物科学コース	岩川 岳	ニワトリ-マウス間の生殖細胞の異種間移植による移動能力の解析
	沖津 和男	ヒツジの血漿抗酸化活性に及ぼすアスコルビン酸の影響
	片平 睦子	ウシ超早期妊娠因子モノクローナル抗体の作出と特異性評価
	門岡 憲	胚発生と超早期妊娠因子様物質の関連性

専攻	氏名	修士論文題目
農学専攻 動物科学コース	金谷 圭太	塩漬剤としての4種類のミネラルが牛肉の理化学特性およびドリップのグルタミン酸濃度に及ぼす影響
	木村 ちはる	ヒツジの抗酸化活性に及ぼす保定ストレスおよび隔離ストレスの影響
	平 彩花	アルキル型リン脂質の摂取条件の違いがリボ蛋白質代謝関連臓器のエーテル型リン脂質動態に及ぼす影響
	瀧田 千恵	ニワトリにおけるアミノ酸アマドリ化合物の分解に関する研究
	中井 瑞歩	鹿肉の加工特性および理化学特性に及ぼす要因に関する研究
	三浦 瑠璃	SOX2 およびその関連因子がブタ胚の初期発生および組織分化におよぼす影響
	渡辺 亮平	接触型電極を用いたインピーダンス測定による黒毛和種8筋肉のオレイン酸割合の推定

5 . 大学院博士課程

(1) 岩手大学大学院連合農学研究科

【課程修了による学位取得者 5名】

令和2年9月25日

学籍	専攻	連合講座	氏名	配属大学	学位論文題目	指導教員
29	生物生産科学	植物生産学	生沼 英之	帯広畜産大学	吸着剤の投与による泌乳牛における放射性セシウムの飼料から乳への移行抑制に関する研究 (Study on suppression of radiocesium transfer from feed to milk in lactating dairy cows by administration of adsorbents)	花田正明
29	生物生産科学	植物生産学	BRANDT, Alexander Christian	山形大学	Influence of snow dynamics on mountainous forest soil hydrological cycle (積雪動態が森林土壌の水循環におよぼす影響)	村山秀樹
29	生物資源科学	生物機能開発学	魏 華茂	岩手大学	Changes in Biochemical Properties and Microstructure of Scallop(<i>Patinopecten yessoensis</i>) Striated Adductor Muscle During Freeze-thawing, Freeze-drying and Rehydration Process (凍結解凍, 凍結乾燥および復水プロセスによるホタテガイ (<i>Patinopecten yessoensis</i>) 閉殻横紋筋の生化学的特性と微細構造の変化)	袁 春紅
29	生物資源科学	ゲノム工学	HOSSAIN, Md. Tanvir	弘前大学	Studies on the adaptation of single-stranded RNA virus to novel environments using thermal adaption experimental evolution of RNA bacteriophage Q as a model system (RNA バクテリオファージ Q の高温適応進化実験をモデルとして用いた一本鎖 RNA ウイルスの新規環境への適応に関する研究)	柏木明子
29	生物環境科学	地域環境管理学	澤 陽之	岩手大学	新潟県における歴史的砂防施設の建設経緯と地域資源としての利活用に関する研究 (A study on the history of construction of historical Sabo facilities in Niigata prefecture and utilization as local resources)	井良沢道也

【課程修了による学位取得者 18名】

令和3年3月23日

学籍	専攻	連合講座	氏名	配属大学	学位論文題目	指導教員
30	生物生産科学	植物生産学	安 松浩	弘前大学	サクラ 'ソメイヨシノ' (<i>Prunus x yedoensis</i> 'Somei-Yoshino') の着色に関する研究 (Research on coloration in the Blossom of the 'Somei-Yoshino' Cherry Tree(<i>Prunus x yedoensis</i> 'Somei-Yoshino'))	荒川 修
30	生物生産科学	植物生産学	ZAHER MD AKIK BIN	弘前大学	Effects of elevated atmospheric carbon dioxide concentration on growth, photosynthesis, morphology and corm germination in eddo at different air temperatures (異なる気温下の大気中の高濃度二酸化炭素がサトイモの成長, 光合成, 形態および球茎発芽に及ぼす影響)	松山信彦
30	生物生産科学	植物生産学	DINH, Thi Lam	弘前大学	Studies on wild genetic resources to improve phosphorus deficiency tolerance in rice (<i>Oryza sativa</i> L.) (イネにおけるリン酸欠乏耐性改良のための野生遺伝資源に関する研究)	石川隆二
30	生物生産科学	植物生産学	舛谷 悠祐	岩手大学	気候変動下のイネ乾物生産における表現型可塑性の品種特性 (Phenotypic plasticity of dry matter production of rice cultivars under climate change)	下野裕之
30	生物生産科学	植物生産学	劉 嘉儀	岩手大学	リンゴの花芽分化と開花誘導に関する研究 (Study on flower bud differentiation and flowering induction in apple trees)	小森貞男
30	生物生産科学	動物生産学	江村 菜津子	岩手大学	ブタ初期胚の組織分化を制御する分子基盤に関する研究 (Studies on molecular mechanisms involved in differentiation in porcine preimplantation embryos)	澤井 健
30	生物生産科学	生物生態制御学	KIMANI SAMUEL MUNYAKA	山形大学	Utilization of Azolla in rice cultivation for climate change adaptation and mitigation (気候変動の適応と緩和のための稲作におけるアゾラの利用)	程 為国
30	生物資源科学	生物分子機能学	青木 聡樹	山形大学	未利用キノコの新規化合物探索源としての活用を目的としたツキヨタケ (<i>Omphalotus japonicus</i>) 子実体と菌糸培養物に含まれる二次代謝産物に関する化学的研究 (Chemical study of secondary metabolites from the fruiting body and mycelial culture of <i>Omphalotus japonicus</i> for utilization as a search resources of new compounds of unutilized mushrooms.)	村山哲也
30	生物資源科学	生物分子機能学	西川 華子	岩手大学	糖脂質 MPLase を用いた再構成系によるタンパク質膜挿入・膜透過反応の分子機構の解明 (Molecular mechanisms underlying protein integration and translocation by means of the reconstitution system involving glycolipid MPLase)	西山賢一

30	地域環境創生学	地域資源・環境経済学	滝沢 裕子	岩手大学	ドイツにおける林業労働力問題の新局面に関する研究 (Research on a New Phase of Forestry Labor Problems in Germany)	山本信次
30	地域環境創生学	地域環境工学	伊藤 絵里香	山形大学	二枚貝の安全性向上のためのヒト腸管系ウイルス蓄積特性の解明 (Analysis of accumulation of human enteric viruses in bivalves for their safer supply)	渡部 徹
30	地域環境創生学	地域環境工学	田邊 大	山形大学	無人航空機(UAV)と人工知能(AI)を用いたバレイショの収量予測に関する研究 (Research on potato yield prediction using unmanned aerial vehicles and artificial intelligence)	片平光彦
30	地域環境創生学	地域環境工学	樋川 佳士	弘前大学	客土水田の浸透型が稲体の銅およびカドミウム吸収に及ぼす影響 (Influence of percolation patterns on copper and cadmium uptake of rice plants of paddy fields with soil dressing)	佐々木長市
30	地域環境創生学	地域環境工学	PHUNG Duc Luc	山形大学	Reuse of treated wastewater for rice cultivation through continuous sub-irrigation: Assessment on greenhouse gas emissions and heavy metal contamination in the plant-soil system (水稻栽培のための連続地下灌漑による下水処理水の再利用: 温室効果ガス排出と植物・土壌システムの重金属汚染の評価)	渡部 徹
30	地域環境創生学	地域資源・環境管理学	千葉 翔	山形大学	集団枯損が発生したオオシラビソ林の衰退リスクの評価と更新促進方法の検討 (Risk rating for stand decline and methods for promoting natural regeneration in large-scale declined <i>Abies mariesii</i> forests)	林田光祐
27	生物生産科学	動物生産学	川越 雄太	岩手大学	老化した胚における老化関連物質 CXCL5 の発現とその機能解明 (Expression and function of senescence associated secretory factor CXCL5 in aging preimplantation embryos)	松原和衛
29	生物環境科学	地域環境工学	船引 邦弘	帯広畜産大学	ポテトハーベスタの作業性能向上に関する研究 (Studies on improving work performance of potato harvesters)	佐藤禎稔
27	生物環境科学	地域環境管理学	貝塚 淳	帯広畜産大学	北海道の異なる森林タイプにおけるオサムシ科甲虫類(Coleoptera, Carabidae): 群集構造, 分布および環境要因との関係 (Carabid beetles (Coleoptera: Carabidae) in several types of forest in Hokkaido, Japan: Relationship with carabid assemblages, distributions and environmental factors)	押田龍夫

【論文提出による学位取得者 3名】

令和3年3月23日

氏名	博士學位論文名	推薦教員名 (所属大学)
KAMAL, Md Mostafa	Responses of plants to environmental stresses: understanding of basic mechanisms and practical applications (植物の環境ストレスに対する応答: 基本的なメカニズムの理解とその応用)	上村松生 (岩手大学)
木村 中	初期成長期の栄養制御による成長および生理特性に対するプログラミング効果に関する研究 (A Study on metabolic programming effects of nutritional manipulation in early life on growth and physiological property)	松崎 正敏 (弘前大学)
塩野 宏之	日本海側積雪寒冷地水田のメタン発生量の特徴と実用的な削減技術に関する研究 (Characteristics of methane emission from rice paddies in a cold region on the Japanese Sea side and its mitigation techniques)	程 為国 (山形大学)

(2) 岐阜大学大学院連合獣医学研究科

【課程修了による学位取得者 2名】

令和2年9月18日

学籍	専攻	連合講座	氏名 (配属大学)	学位論文題目	指導教員
28	獣医学	基礎獣医学	Sayed Sharif Abdali (岩手大学)	Studies on the Distribution of Cells Expressing Vomeronasal Receptors in the Olfactory Organ of Turtles (カメ嗅覚器における鋤鼻受容体発現細胞の分析に関する研究)	宇塚 雄次
29	獣医学	臨床獣医学	尾形 透 (岩手大学)	黒毛和種牛の肥育時期による第一胃液性状と細菌叢構成および第一胃粘膜上皮の遺伝子発現に関する研究	高橋 透

【課程修了による学位取得者 3名】

令和3年3月15日

学籍	専攻	連合講座	氏名 (配属大学)	学位論文題目	指導教員
29	獣医学	病態獣医学	Peru Gopal Biswas (岩手大学)	Studies on Morphological and Molecular Characterization of Helminths Parasitizing Domestic Chickens in Bangladesh (バングラデシュの鶏に寄生する蠕虫類の形態学および分子学的特徴の解明に関する研究)	村上 賢二
29	獣医学	臨床獣医学	加藤 惇郎 (岩手大学)	コーンサイレージ給与が乳牛の生産病発生と第一胃液性状および肝組織中遺伝子発現に及ぼす影響に関する研究	木崎景一郎
29	獣医学	臨床獣医学	田村 倫也 (岩手大学)	3軸加速度センサを用いた牛の行動解析, 反芻行動解析および疾病予知に関する研究	佐藤 繁

【論文提出による学位取得者 1名】

令和3年3月15日

氏名	博士學位論文名	推薦教員名 (所属大学)
秦 英司	牛マイコプラズマの分子疫学解析ならびに薬剤感受性に関する研究	村上 賢二 (岩手大学)

國際交流

1. 海外渡航

令和2年度は、海外渡航の実績なし。

2. 外国人研究者の受入

氏名	現職	研究(研修)期間	受入区分	受入学科等・教員名	
Kim Yohan	岩手大学	R2.4.1 ~ R2.8.31	客員研究員	共同獣医学科	佐藤 繁

3. 留学生の受入

令和2年11月1日現在

		中国	韓国	バングラ	ベトナム	計	
学部	植物生命科学科	2	1			3	
	応用生物化学科		1		1	2	
	森林科学科		1			1	
	食料生産環境学科	1				1	
	動物科学科					0	
	共同獣医学科					0	
	計	3	3	0	1	7	
大学院	総合科学研究科 農学専攻	2				2	
	総合科学研究科 地域創生専攻()	2				2	
	計	4	0	0	0	4	
研究生等	研究生	学部	2			2	
		大学院			1	1	
	特別聴講学生	学部					0
		大学院					0
計	2	0	1	0	3		
合計		9	3	1	1	14	

は、農学部に所属する教員が受け入れた留学生の人数を記載。

4. 交換留学生の派遣と受入

令和2年度は、派遣、受入ともに実績なし。

地域交流

1. セミナー・公開講座等の開催

(1) 職業的専門家（経営者・技術者等）を対象とするもの

（森林科学科）

第232回木を勉強する会（木勉会）

- ・期 日：令和2年8月21日（金）
- ・場 所：宮古市川井生涯学習センター大ホール
- ・テ ー マ：「アカマツ勉強会」
- ・話題および講師：「アカマツの青変被害防止について」
岩手県林業技術センター 上席専門研究員 谷内 博規 氏
「株式会社ウツティかわいのアカマツ集成材の生産について」
株式会社ウツティかわい 常務取締役・総務企画部長 小野寺 淳 氏
常務取締役・生産本部長 鈴木 満幸 氏
- ・主 催：木勉会（代表幹事：関野 登，担当幹事：谷内博規）
TEAM「MY Forest」（宮古地域林業関係者組織）
- ・参加人数：約30名

第233回木を勉強する会（木勉会）

- ・期 日：令和2年11月19日（木）
- ・場 所：（株）古里木材物流 第一ストックヤード（矢巾町煙山第2地割）
- ・テ ー マ：株式会社 古里木材物流による林地残材活用の取り組み
（各種高性能林業機械のデモンストレーション）
- ・講 師：代表取締役 畠山 正 氏
- ・主 催：木勉会（代表幹事：関野 登，担当幹事：伊藤幸男）
- ・参加人数：約50名

第234回木を勉強する会（木勉会）

- ・期 日：令和3年1月13日（水）
- ・場 所：岩手県水産会館 5階 大会議室
- ・テ ー マ：「森林資源と人間社会 ～基礎的ないくつかの話題～」
- ・講 師：岩手大学農学部森林科学科 教授 関野 登 氏
- ・主 催：木勉会（代表幹事：関野 登，担当幹事：酒井博忠），岩手県森林・林業会議
- ・参加人数：45名

第235回木を勉強する会（木勉会）

- ・期 日：令和3年3月17日（木）
- ・場 所：岩手県工業技術センター 3階 中ホール
- ・テ ー マ：木材加工技術講習会
「Fusion360のCAD/CAMを活用した木製品の3次元自動加工技術について」
- ・講 師：岩手県工業技術センター 主査専門研究員 内藤廉二 氏
- ・主 催：木勉会（代表幹事：関野 登，担当幹事：有賀康弘），岩手県工業技術センター，岩手木工研究会
- ・参加人数：12名

（附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター）

牛の臨床繁殖検査等に関する技術研修

- ・対 象：岩手県農業共済組合新採獣医師
- ・期 日：令和2年6月3日（水）～6月26日（金）
- ・場 所：御明神牧場
- ・参加人数：4名
- ・内 容：岩手県農業共済組合に新規採用された獣医師に対し，牛の直腸検査などに関する技術研修のため，供試牛と場所を提供した。

牛の臨床繁殖検査等に関する技術研修

- ・対 象：岩手県農業共済組合新採獣医師

- ・期 日：令和2年7月10日（金）～8月5日（水）
- ・場 所：御明神牧場
- ・参加人数：1名
- ・内 容：岩手県農業共済組合に新規採用された獣医師に対し，牛の直腸検査などに関する技術研修のため，供試牛と場所を提供した．

個体別型哺乳ロボットシステム研修会

- ・対 象：畜産技術者，臨床獣医師
- ・期 日：令和2年10月29日（木）
- ・場 所：御明神牧場
- ・参加人数：10名
- ・内 容：農業改良普及員，家畜保健衛生所獣医師，岩手県農林水産部，盛岡広域振興局の行政系畜産技術者に対し，学内外の講師を招き，技術職員による御明神牧場における個体別型哺乳ロボットシステムの導入事例を紹介しながら，同システムの紹介と普及のための研修会を実施した．

牛の生体内卵子回収，体外胚生産技術に関する技術研修会（基本技術編）

- ・対 象：臨床獣医師
- ・期 日：令和2年11月10日（火）～11日（水）
- ・場 所：御明神牧場
- ・参加人数：6名
- ・内 容：全農いわて職員に対し，牛の生体内卵子回収，体外胚生産に関する基本的技術について，御明神牧場で飼養する雌牛や雌牛生殖を研修材料に提供して，講演と実習により教授した．

第83回フォレストテクニカルエクステンション・岩大型作業路普及プログラム（46）

- ・対 象：民間林業技術者（フォレストワーカー研修生）
- ・期 日：令和2年11月9日（月）～10日（火）
- ・場 所：御明神演習林
- ・参加人数：21名
- ・内 容：岩大型作業路の計画・作設技術に関する講義・実習を民間林業技術者（フォレストワーカー（3年目））研修生に行った．講義により作業路作設に関する基本的な考え方を理解するとともに，簡易路線測量，ザウルスロボによる作設実習により，技術修得を目標に行った．

第84回フォレストテクニカルエクステンション・岩大型作業路普及プログラム（47）

- ・対 象：民間林業技術者（フォレストリーダー研修生）
- ・期 日：令和2年11月17日（火）
- ・場 所：御明神演習林
- ・参加人数：25名
- ・内 容：岩大型作業路の計画・作設技術に関する講義・実習を民間林業技術者（フォレストリーダー研修生）に行った．講義・実習は効率的な細部路網計画の理論と実際を現地踏査，路線測量，路網配置図作成などを通じて修得することを目標とした．

（附属動物医学食品安全教育研究センター）

第17回FAMS全体研修会

- ・テ ー マ：「家畜衛生と次世代型通信（遠隔操作等含む）を用いた農畜水産業の展望」
- ・期 日：令和2年12月5日（土）13時～17時

- ・場 所：岩手大学総合教育研究棟（生命系）2階ぼらんホールならびにWebexを用いた同時配信
- ・参加人数：36名（学外：19名，学内および関係者：17名）

令和2年度FAMS診療技術セミナー

- ・テ ー マ：「産業動物の繁殖管理について」
- ・期 日：令和2年11月30日（月）13時30分～12月2日（水）12時
- ・場 所：岩手大学農学部附属動物病院 産業動物診療棟1階実習室，2階視聴覚室
- ・参加人数：7名

第7回東北農場HACCP研究会

（東北農場HACCP研究会ならびにFAMS主催）

- ・期 日：令和3年2月20日（土）13時30分～15時
- ・場 所：オンライン（Webex）
- ・参加人数：28名

6 大学共同開催フォーラム

- ・テ ー マ：「食を科学する ～安全・おいしい・健康にいい食品とは?!～」
- ・期 日：令和3年3月21日（日）13時～17時
- ・場 所：宮崎大学創立330記念交流会館（コンベンションホール）・ZoomによるWeb配信
- ・主 催：宮崎大学 産業動物防疫リサーチセンター，岩手大学農学部 動物医学食品安全教育研究センター，東北大学大学院農学研究科 食と農免疫国際教育研究センター，東京大学大学院農学生命科学研究科 食の安全研究センター，大阪府立大学 食品安全科学研究センター，神戸大学大学院農学研究科 食の安全・安心科学センター

FAMS 成果発表会およびJRA 牛白血病対策セミナー

- ・日 時：令和3年3月8日（月）13時～14時50分
- ・場 所：岩手大学総合教育研究棟（生命系）7番講義室ならびにWebexを用いた同時配信
- ・参加人数：42人

(2) 一般市民・児童生徒を対象とするもの

(森林科学科)

- ・期 日：令和3年10月14日(水)14:35～15:25
- ・場 所：大船渡市立大船渡中学校
- ・テ ー マ：「土砂災害の危険性」
- ・講 師：井良沢道也
- ・参加人数：2年生62名
- ・備 考：岩手県学校防災アドバイザー事業として対応

(附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター)

第161回フィールドセミナー(総合学習時間における森林学習(45))

- ・対 象：盛岡市立下橋中学校1年生
- ・期 日：令和2年7月6日(月)
- ・場 所：下橋中学校
- ・参加人数：61名
- ・内 容：世界と日本の森林の現状と課題についての講義を行った。

鵜住居川流域巨木ツーリズム(橋野地区地域資源利用魅力向上事業(橋野町振興協議会))

- ・対 象：一般市民
- ・期 日：令和2年11月8日(日)
- ・場 所：釜石市栗橋地区
- ・参加人数：21名
- ・内 容：釜石市栗橋地区において市指定文化財巨樹古木の現地観察会講師および「巨樹・古木の生理と保存」について講義を実施した。

(3) 公開講座等

ア 公開講座

(森林科学科)

「樹木の成長・繁殖様式から森林の成り立ちを知る」

- ・対象：高校生
- ・期 日：令和2年10月24日(土)
- ・場 所：岩手大学農学部(滝沢演習林)
- ・参加人数：10人
- ・内 容：樹木の成長と繁殖様式がどのように森林の構造や動態に影響を与えているのか、森林内を散策して説明した。

(食料生産環境学科)

「原発事故からの約10年を振り返る -福島復興活動で気づいたこと-」

- ・対象：一般市民
- ・期 日：令和2年10月28日(水)
- ・場 所：オンライン
- ・参加人数：45人
- ・内 容：東京大学大学院 溝口勝教授に、福島原発事故の被災地における活動事例をご紹介いただいた。

「INTRODUCTION TO AGRICULTURAL SCIENCE」

- ・対象：スティルマン大学(インドネシア)新入生
- ・期 日：令和2年11月18日(水), 11月25日(水), 12月2日(水)
- ・場 所：Zoomによるウェビナー開催
- ・参加人数：450-500人
- ・内 容：スティルマン大学(インドネシア)で農学を学び始める新入生を対象として、原科幸爾(地域生態管理学), 金山素平(土環境工学), 下野裕之(作物学)の3名が当該分野の概論について英語による講義を行った。

ウ その他

(附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター)

ブルーベリー摘み取り

- ・対象：一般市民
- ・期 日：令和2年7月20日(月)～8月7日(金)の平日
- ・場 所：滝沢農場
- ・参加人数：455名
- ・内 容：上記13日間の午前中を3つの時間帯に分け、完全予約制で実施した。新型コロナウイルスの対策として、来場者が圃地のどの区画を利用したのかを記録した。期間前半の予約が多く、後半の予約は少なかった。しかし、期間全体を通した販売額は例年よりも増加した。

第23回森の駅市場

- ・対象：一般市民および学内者
- ・期 日：令和2年9月16日(水)
- ・場 所：滝沢農場および上田キャンパス
- ・参加人数：約100名
- ・内 容：植物生命科学科および食料生産環境学科食産業コース3年生が履修する農場特別実習の一環

で早生リンゴやトウモロコシなど滝沢農場産の生産物及び加工品を販売した。最初に滝沢農場で販売会を開催したが、生産物が多く残ったため、急遽、上田キャンパスの数か所でも販売会を開催した。

第24回森の駅市場

- ・対象：学内者
- ・期 日：令和2年11月27日（金）
- ・場 所：学生センター前
- ・参加人数：約120名
- ・内 容：植物生命科学科および食料生産環境学科食産業コース2年生が履修する農場実習の一環でリンゴなど滝沢農場産の生産物及び加工品を販売した。例年はポランハウスで開催していたが、今年度は3密を避けるため学生センター前で開催した。

リンゴ即売会

- ・対象：一般市民
- ・期 日：令和2年12月9日（水）
- ・場 所：滝沢農場
- ・参加人数：115名
- ・内 容：家庭用向け‘ふじ’などを参加者がコンテナから選び、袋に詰め、それを計り売りした。その他、農場の生産物も販売した。

御明神牧場牛肉の販売会

- ・対象：学内者
- ・期 日：令和2年12月9日（水）
- ・場 所：農学部2号会議室
- ・参加人数：約70名
- ・内 容：御明神牧場において例年より長期の1年3ヶ月にわたって肥育した経産雌牛肉を、株式会社いわちくにおいて冷凍スライスとし、あるいは希少部位は1kgブロックで、岩手大学教職員に対して、便宜とFSCの広報のために販売した。

リンゴ即売会

- ・対象：一般市民
- ・期 日：令和3年1月14日（木）
- ・場 所：滝沢農場
- ・参加人数：62名
- ・内 容：家庭用向け‘ふじ’などを参加者がコンテナから選び、袋に詰め、それを計り売りした。その他、農場の生産物も販売した。

2. その他の地域連携事業

(1) いわてアグリフロンティアスクール

ア 事業実施の背景、目的

(ア) 平成 24 年度までの取組み経過

日本農業の現状を背景とし、国際競争力のある高生産性ビジネス農業を育成するため、経営感覚・企業家マインドを持つ先進的な農業経営者を養成できる教育プログラムの開発と実践が求められた。岩手大学では、こうした要請に応えるべく文部科学省の支援を受け、岩手大学を事業主体の中心として岩手県及び農業団体と連携し、建学の精神（地域のための農学）に立ち返る「いわてアグリフロンティアスクール」を平成 19 年度に設立して、産官学連携による先進的な農業経営者等の養成を目指す教育を展開してきた。

平成 19 年度から平成 24 年度までの 6 年間、農業者、農業関係の県・市町村・団体職員などを対象に、農業経営、生産管理、マーケティング及び農業ビジネス戦略計画書を策定する教育プログラムを開発・展開した。この間、延べ 446 名が本スクールを受講し、延べ 254 名に学校教育法第 105 条に基づき、履修証明書を交付した。また、評価委員会で合格とされた 133 名には、岩手大学が認定する「アグリ管理士」の資格を授与している。

(イ) 新体制での取組み(平成 25～27 年度)

前年度までで社会人再教育としての所期の目的が達成され、文部科学省の事業として岩手大学における取組を終了することとした。一方、農業における先導的な経営体育成に向けて岩手県や農業団体より強い継続要望があり、予算を含めた県・農業団体・岩手大学 3 者の連携によって農業者教育を続けることとした。

平成 25 年 4 月 23 日には、岩手県農林水産部長、岩手県農業協同組合中央会常務理事及び岩手大学農学部長の 3 者による「いわてアグリフロンティアスクール運営協議会」を新設して開講式に臨んだ。

本スクールから、岩手県内の認定農業者、農業経営者、農業後継者及び農業従事者等を対象として岩手大学が開発した教育プログラムに基づく教育を展開することとした。また、所定の条件を満たした修了者にはこれまでと同様に学校教育法に基づいて履修証明書を交付し、岩手大学が認定する「アグリ管理士」の資格を授与した。平成 25～27 年度の受講者は 89 名で、履修証明書は 66 名に交付、「アグリ管理士」の資格は 61 名に授与された。

(ウ) 平成 28 年度のカリキュラム等の再編と令和元年度の事業内容

岩手県及び岩手大学の長期計画等の見直しを機に、平成 28 年度より過去 3 カ年の実施状況を踏まえ、主に募集対象者や科目構成について大きく見直した。受講対象にはこれまでの認定農業者等に加えて、6 次産業に取り組む者、農村地域活動に携わる者を募集することとし、定員も 30 名から 35 名に増員した。カリキュラムとしては、従来の農業経営科目群に、6 次産業化科目群及び農村地域活動科目群を新設した。修了者の履修証明書交付やアグリ管理士資格授与の手続きは従来と同じである。この他、令和元年度は前年度の事業内容を踏襲しながら、受講生の要望に応じて教育効果を高めるためにカリキュラムの改善を行なった。平成 28～令和元年度の受講生は 177 名で、履修証明書は 135 名に交付され、「アグリ管理士」は 130 名に授与された。

イ 令和 2 年度の実施状況

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、国の緊急事態宣言発出及び岩手県の緊急事態宣言を受け、令和 2 年度はスクールの開催中止を決定した。一方、この時点で、28 名の受講申し込みを受けており、本スクールの講師陣や修了生の協力を得ながら、遠隔講義等コロナ禍でも本年度受講申し込み者や修了生に提供できる農業経営支援への取組みを実施することとした。

(ア) 遠隔講義の実施

令和 2 年度受講申し込み者と修了生を対象に以下 7 講義を配信した。

- ・農業経営科目群：農業経営戦略論，農業経営計画策定，農業経営戦略演習，経営計画改善演習

- ・ 6次産業化科目群：食産業ビジネス論，地域資源活用論
- ・ 農村地域活動科目群：農村活性化とリーダーシップ

(イ) スクール広報動画の作成

下記のスクール広報動画を作成し，HP等で公開した．

- ・ タイトル「21世紀農業を切り拓く！いわてアグリフロンティアスクール～」
- ・ 収録時間 16分1秒（ダイジェスト版3分13秒）
- ・ いわてアグリフロンティアスクールHP公開日 12月17日

(ウ) いわてアグリフロンティアスクール特別講座（公開講座）の開催

令和2年度受講申し込み者を対象とした特別講義を開催し，修了生に公開して実施した．

- ・ 日時，場所：令和2年10月30日（金） アートホテル盛岡（鳳凰の間）
- ・ テーマ：「ビジネス感覚に磨きをかけよう～修了生の企業家マインドから学ぶ～」
- ・ 対象：令和2年度受講申し込み者（特別講座），修了生・協議会関係者（公開講座）
- ・ 参集者：43名（受講申込者12名，修了生16名，協議会関係者14名，その他1名）

(2) AFR（岩手農林研究協議会）

AFRは、岩手県農林研究協議会の略称で、平成10年3月に高橋壯学部長（当時）の提唱で、岩手県内の農林科学技術や研究開発に係わる関係者（県農業研究センター、県林業技術センター、県工業技術センター等の県関係試験研究機関、農林業関係民間企業及び岩手大学地域共同研究センター、岩手大学農学部の関係者）が連携して共同研究等の推進を図り、地域の農林業の振興発展に寄与するために発足、平成30年現在、構成機関は、岩手大学農学部、岩手県農業研究センター、岩手県林業技術センター、岩手生物工学研究センター、東北農業研究センター、森林総合研究所東北支所の6公所で、「岩手育種談話会」、「木勉会（木を勉強する会）」など7の研究会が多方面にわたり産官学の共同研究を展開している。

AFRの研究会一覧

【令和3年3月現在】

分類	名称	代表者	目的
農	岩手育種談話会	畠山勝徳（岩大農）	岩手県の植物育種に関する事業、研究等を行っている関係者間の研究交流、情報交換を目的とする。
	りんどう研究会	高畑義人（岩大名誉教授）	りんどうの分子生物学的及び細胞生物学的手法を用いて研究している研究者・技術者及び交配種法等従来技術を用いて品種育種している個人育種家等の相互の情報交換を促進し、もって関連領域の研究活動を活性化し、地域におけるりんどうの振興に寄与するとともに会員相互の学術交流を図ることを目的とする。
業	イワテヤマナシ研究会	片山宏則 （神戸大学大学院農学研究科）	岩手県の宝であるイワテヤマナシ（ミチノクナシ）を遺伝資源として蘇らせ、新たな利用方法を開発し、地域振興への活用を図り、次の世代に引き継ぐことを目的とする。
	岩手野菜研究談話会	金澤俊成（岩大教育）	本会は、岩手県内で研究を行っている野菜関係の研究者が、各自の研究や岩手県内の野菜等について、自由な立場で意見交換を行いながら、互いの研究を深め、岩手県や東北の野菜振興について話し合うことを目的とする。

分類	名称	代表者	目的
林	岩手・木質バイオマス研究会	伊藤幸男（岩大農）	この研究会は、木質バイオマス利用の普及を通じて、岩手の風土、地域性に根ざした循環型社会の形成に資することを目的とする。
	木勉会 （木を勉強する会）	関野 登（岩大農）	森林・林業・木材産業・建築といった川上から川下までの相互理解を深め、木材利用の活性化を、健全な森林の育成・保全・利用の活性化を通じて、森林の育成・保全・利用の一助となることを目的とする。
業	木質資源総合利用研究会	関野 登（岩大農）	低炭素輩出社会並びに高炭素蓄積社会の構築には、木質資源の持続的かつ総合的な利用が重要となる。本研究会は、木質資源の利用拡大に向けて、構成員が係わる分野の技術課題や現状について情報交換を行うとともに、研究連携の基盤を醸成することを目的とする。

3．受託研究員の受入

令和2年度は、受入実績なし。

附属施設

1．附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター

1-1．地域フィールド総合科学分野

(1) 概要，教育研究の内容

岩手大学農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター第1分野（農学部内）は，本センターの設置（2002.4.1，平14）に伴い新設された分野である．

第1分野は，地域フィールド総合科学分野と称し，その業務内容は，フィールドサイエンスに関する教育研究を企画立案し，農学部と地域社会との窓口（連携調整）の役割を担う．また，地域の活動や課題を調査研究し，総合的フィールド科学教育，地域マネジメント，農畜林複合経営などの実践的な教育研究を行う．さらには，農学部からの協力教員の参加を得て，フィールド科学に関する情報の収集・発信，地域からの支援要請，依頼研究，共同研究を推進する．なお，2007年4月（平19）より地域連携推進機能とエクステンション機能の一部は「地域連携推進室」へ移転した．

(2) 地域貢献

地域貢献事業は，職業的専門家（経営者・技術者等），一般市民・児童生徒を対象に開催されている．職業的専門家が対象の事業には，獣医師対象の研修や森林・林業技術者のスキルアップを目指した研修などがあり，延べ178人の参加を得た．一般市民・児童生徒が対象の事業では，中学生対象の森林学習やセンター産農林産物の直売などが行われ，1000人を超える参加者を得た．

1-2．持続型農業生産技術分野（第二分野，滝沢農場および御明神牧場）

(1) 概要

持続型農業生産技術分野は，滝沢農場と御明神牧場から成り立っている．

・滝沢農場（所在地：岩手県滝沢市巣子1552，面積44ha）

本農場は1902（明35）年に盛岡高等農林学校が創設されるに当たり，校舎敷地内（現上田キャンパス）に設置された附属実験農場が始まりである．その後の新制大学移行に伴い，大学の整備計画の進展と農業近代化に対応するため1966（昭41）年に農林省種畜牧場用地の一部所管換えを受け，滝沢農場が設立された．以後，1976（昭51）年3月に農産製造実験実習棟が新築されたのを始め，温室，果樹収納貯蔵庫，短期学生宿舎が新設されるなど，施設・設備の整備が行われ現在に至っている．また，2008（平20）年3月末をもって乳牛部門は廃止されたため，現在では作物および園芸の2部門を柱に，学生の実習教育や教員・大学院生等の研究に活用されている．

・御明神牧場（所在地：岩手郡雫石町御明神大石野，54ha）

本牧場は，1906（明39）年に設置された盛岡高等農林学校附属経済農場に始まる．戦前には文部省第一拓殖訓練所が併設され，多くの若者が満蒙開拓の夢を抱いて現牧場用地の開墾を行った．大学移行後の農学部附属経済農場を経て1984（昭59）年に農学部附属御明神牧場と改称された．ここでは山麓高冷地の立地条件を活かし，家畜の飼養管理と衛生，飼料作物管理とサイレージ調製を中心に実習教育が行われている．近年は，黒毛和種の優良系統を導入して繁殖育成に関する高度な研究が行われている．

(2) 教育研究の内容

実習教育の充実，卒業論文の指導，地域貢献を柱に，教育研究活動を展開している．学内において当分野が担当するのは，作物，園芸，畜産に関する基本技術についての体系的な実習教育である．また，岩手県立大学・盛岡大学・富士大学の实習や岩手県立盛岡みだけ支援学校高等部・岩手大学教育学部附属特別支援学校高等部の農業体験実習等を行っている．加えて，当分野のフィールドでは教育学部や理工学部も含めた多様な実験・実習が行われている．地域貢献では「いわてアグリフロンティアスクール」，「御明神牧場一般公開」などが行われている．

(3) 実習等

滝沢農場及び御明神牧場で実施する学生実習等は、次表のとおりである。

農場実習・牧場実習（学内向け）

学科・課程名等	科 目	単位数	2年(1年)		3年 前期	全学 後期	場 所
			前期	後期			
全学向け教養教育 地域課題演習 H	地域課題演習 H	2				3時間	一部を滝沢農場・御明神牧場で実施
農 学 部	総合フィールド科学実習	1	2時間				1年次全員, 下台, 各フィールド
植物生命科学科	農場実習	1	3時間				滝沢農場
食産業システム学 コース	農場実習	1	3時間				滝沢農場
植物生命科学科	農場実習	1		3時間			滝沢農場
食産業システム学 コース	農場実習	1		3時間			滝沢農場
植物生命科学科	農場特別実習	1			4泊5日		滝沢農場, 2020年度は日帰り5日
食産業システム学 コース	農場特別実習	1			4泊5日		滝沢農場, 2020年度は日帰り5日
教 育 学 部	栽培理論	2					一部を滝沢農場で実施
教 育 学 部	栽培理論	2					一部を滝沢農場で実施
動 物 科 学 科	牧場実習	1			3泊4日		御明神牧場

学部実習等への協力並びに施設の利用計画

学科・課程名等	科 目	前期	後期	摘 要
動 物 科 学 科	牧場実習	3年		一部を御明神牧場で実施
	動物科学実験 (動物遺伝育種学 動物行動学)		2年	一部を御明神牧場で実施
	動物科学実験 (動物繁殖学)	3年		一部を御明神牧場で実施
共同獣医学科	繁殖機能制御学実習		4年	一部を御明神牧場で実施
	大動物臨床実習応用編	5年		一部を御明神牧場で実施
	産業動物臨床実習	5・6年		一部を御明神牧場で実施
	動物衛生学実習		3年	一部を御明神牧場で実施
東京農工大学 共同獣医学科	参加型臨床実習	5年		一部を御明神牧場で実施(2020年度は中止)
学 生 支 援 課	特別支援学生による活動プログラム	特別支援 指定学生	特別支援 指定学生	特別支援指定学生, 3~5名(全学, 大学院)・上田下台圃場 における, 農作業体験, 栽培体験

学外実習等への協力並びに施設の利用計画

学外機関名	科目	のべ人数	日時	摘 要
附属特別支援学校	実習	50		10月中下旬に5日程度
みたけ支援学校	農場実習	80		滝沢農場で年間5回
盛岡大学	生物学	100	5月	一部滝沢農場で実施
岩手県立大学	地域政策講座ゼミ	25	6~11月	一部滝沢農場で実施
富士大学	フィールドワーク	30	8月	一部御明神牧場で実施
	フィールドワーク	30	7月	一部滝沢農場で実施
盛岡大学	地域食材資源論	70	11月	一部滝沢農場で実施

滝沢農場 開放事業等（2020年度）

月日	部門	内容等	担当職員	参加者	案内方法等
4月	温室	花苗販売	5名	25名	ハガキ50枚で案内
6月	果樹	ブルーベリー園見学	渡邊, 村上	100名	岩手ブルーベリーの会(夏期講習会)
7月	果樹	ブルーベリー園見学・摘み取り	村上	20名	岩手県サイクリング協会
7月20日(月)	果樹	ブルーベリー 摘み取り	全員	455名	学内メール, ハガキ100枚で案内, すべて予約制
~8月7日(金)	有機	エダマメ 摘み取り	全員		
9月16日(水)	実習	販売会	全員	100名	ハガキ, 学内メール・滝沢農場, 上田キャンパス(農場特別実習)
11月27日(金)	果樹	販売会	全員	120名	学内メール, 上田キャンパス(農場実習)
12月9日(水)	果樹	リンゴ販売会	5名	115名	ハガキ100枚で案内
1月14日(木)	果樹	リンゴ販売会	4名	62名	ハガキ50枚で案内

(4) 土地利用計画(単位 a)

	滝沢農場	御明神牧場	合計
水田	544		544
畑作	61		61
有機畑作	46		46
牧草地	900	10,496	11,396
果樹園	385		385
蔬菜園	10		10
花卉	1		1
温室	4		4
野草地		400	400
小計	1,951	10,896	12,847
建物敷地, 防風林	1,723	1,552	3,275
総計	3,674	12,448	16,122

(5) 家畜

家畜頭数(令和3年3月31日現在)

種類	御明神牧場
成育肉牛	90頭
育成肉牛	39頭

(6) 農畜産物売払高

令和2年度 部門別売払高	
部 門	売 払 高
稲 作	3,394 千円
畑 作	72 千円
有 機 作	311 千円
果 樹	3,548 千円
蔬 菜	170 千円
花 卉	158 千円
農産製造物	894 千円
飼 養	27,950 千円
飼 料 作	190 千円
合計	36,687 千円

1-3. 循環型森林管理技術分野（第三分野，御明神演習林，滝沢演習林，実験苗畑）

(1) 概要

循環型森林管理技術分野のフィールドは，御明神演習林（岩手県岩手郡雫石町），滝沢演習林（岩手県滝沢市）の2演習林と実験苗畑（岩手県盛岡市上田）から成っている．二つの演習林は比較的近距離にあるが，地形，地質，気象，植生など立地条件が異なった特徴をもっており，それぞれの対照的な立地特性を生かし，森林科学の基礎的研究や応用研究が行われている．また，学生の実験実習や卒論・修論研究の場として活用されているほか，動植物，地質，土壌などに関する自然研究や教育にも広く利用されている．

御明神演習林は，1905（明38）年12月農商務省から国有林の所管換えを受け，本学の前身盛岡高等農林学校附属演習林として設置された．1906（明39）年10月に設置された隣接する岩手大学農学部附属経済農場山林を併合し，現有面積は1,040.34haである．

滝沢演習林は，1913（大2）年3月農商務省から国有林の所管換えを受け設置された．1919（大8）年10月これに北接する国有林の所管換えを受け拡大したが，その後東北本線の線路変更による交換分合，四十四田ダム用地としての建設省への所管換えなどで，地積形状に変動があり，現有面積は280.51haである．

実験苗畑は，盛岡高等農林学校創設とともに，キャンパス北辺に林学苗圃として設けられ，当初は林学実習場として広く保有していたが，その後大学の諸施設の建設に伴い，現在の下台地区に移転し，現有面積は6,080 m²である．

(2) 教育研究の内容

演習林は農学部における森林に関する教育研究の場として，非常に重要な役割を果たしている．演習林を利用して行われている最近の研究テーマには以下のものがある．

森林科学科：「森林収穫技術の高度化」，「森林路網技術」，「広葉樹二次林構成樹種の生理特性と更新」，「ヒバ林の更新メカニズム」，「スギ人工林における光環境と光合成生産」，「林業用車輛の安定性」，「林業作業の労働負担」，「林業の労働形態」，「複層林地施業」，「ケヤキ林施業」，「斜面侵食と土砂流出」，「中小径広葉樹の材質と利用」，「木材の含有成分」，「GIS・GPS・RSによる森林管理技術」，「森林バイオマス利用と造成」，「森林環境教育」，「森林に対する市民の意識」

この他にも他大学，研究機関などから，林業に関する研究のみではなく広く自然研究にも利用されている．演習林はこれらの研究の場を提供して人的・物的に補助協力するのみではなく，共同研究や独自の基礎的，応用的な調査，研究を実施しており，教育面では，学生の実験実習の場として頻りに活用されてい

る。

農学部における主要な実習には以下のものがある。

森林測量学実習，森林測量学実習，林道工学実習，砂防学実習，林業生産工学実習，野生動物管理学実習，総合フィールド科学実習，森林計測学実習，森林造成学実習

他学部の実習としては，人文社会科学部の野外生物学実習，教育学部の植物学特別実験が実施されている。

御明神演習林および滝沢演習林は，平成 28 年度から文部科学省の「教育関係共同利用拠点」に認定されており，これまで，鹿児島大学「温帯林概論」，富士大学「フィールドワーク」「フィールドワーク」，岩手県立大学「専門演習入門」「環境調査実習」，日本女子大学「環境生物学実験」など幅広い学問領域で学ぶ他大学の実習に利用されている。加えて，全国の大学生を対象とした公開森林実習「森林インターンシップ」「冷温帯林と持続的森林・林業」を実施している。

また，演習林を会場として林業技術者を対象としたフォレストテクニカルエクステンションや一般市民・児童・生徒を対象に森林教育を行うフィールドセミナーも開催されている。

(3) 御明神演習林

地種別面積

総面積 ha	学術研究林						除地 ha
	生態系保護研究林	特定研究林	見本研究林	保全研究林	施業技術研究林	計	
1,040.3	265.8	229.9	6.9	263.1	248.4	1,014.1	26.2

資料：御明神演習林第 2 次森林管理計画書

森林の現況

区分	面積 ha	立木蓄積 ^{m³}		
		針葉樹	広葉樹	計
人工林	276.8	116,373	2,813	119,186
天然林	727.7	92,583	70,224	162,807
無立木地，他	35.8	45	28	73
計	1,040.3	209,001	73,065	282,066

資料：御明神演習林第 2 次森林管理計画書

(4) 滝沢演習林

地種別面積

総面積 ha	学術研究林						除地 ha
	生態系保護研究林	特定研究林	見本研究林	保全研究林	施業技術研究林	計	
280.5	23.6	23.3	33.9	33.9	156.0	270.6	9.9

資料：滝沢演習林第 2 次森林管理計画書

森林の現況

区分	面積 ha	立木蓄積 ^{m³}		
		針葉樹	広葉樹	計
人工林	112.2	61,870	2,363	64,234
天然林	157.4	36,681	14,916	51,596
無立木地，他	10.9	-	-	-
計	280.5	98,551	17,279	115,830

資料：滝沢演習林第 2 次森林管理計画書

(5) 林産物の販売（令和2年度）

区 分		販 売 額
素 材	御明神演習林	20,139千円
	滝沢演習林	18,058千円
	(小計)	38,197千円
その他(木工品)	御明神演習林	0千円
	滝沢演習林	0千円
	(小計)	0千円
計		38,197千円

2 . 附属動物病院

(1) 概要

家畜病院は盛岡高等農林学校創立の翌年（1903年）に設置され、既に110年の歴史を刻んでいる。戦前戦後長く使われてきた木造建物（1,485 m²）を経て、昭和46年には鉄筋コンクリート造りの本館（1,051 m²）が建造され、昭和53年に入院厩舎（100 m²）、59年に別棟（391 m²）が増築された。以来40年が経過して老朽化し、現在の獣医学教育病院の水準に合致する施設設備とはほど遠い状態が続いていた。この間、平成15年に呼称を動物病院に改め、診療体制の見直しを図ってきた。平成24年度からは本学と東京農工大学とで共同獣医学科を発足させ、双方の大学で獣医学教育を保管しながら、これまで以上に高度化させる体制となった。本学における臨床実習と診療の高度化を図るため、全学からの支援と文部科学省の補助金を使って、平成25年4月に伴侶動物診療棟（総面積1,922 m²）の新築工事が完成し、引き続き旧来の動物病院建物は産業動物診療施設に大改修された。

新築された伴侶動物病院棟は広い待合室、5つの診療室、処置室、犬猫別の入院室、陽圧手術室、各種検査室など高度獣医療を担うに相応しい施設となり、最新の医用機器が設置された。主な診療設備として、MRI診断装置、X線CT撮影装置、伴侶動物用X線撮影装置、超音波断層撮影装置、手術用X線透視装置、デジタル画像データ管理装置、内視鏡、腹腔鏡、硬性鏡、血圧透析装置、ホルター心電計、全自動血液生化学測定装置、電解質・血液ガス分析装置、血球自動計数装置、伴侶動物集中治療用ケージ、麻酔機および麻酔監視装置などがある。平成30年度にはこれまで1室であった外科手術室に加え、施設の改修を行い第二手術室を設置した。令和元年度には、受付業務の簡素化を図り、紙媒体に頼らない診療記録の保存のために、院内ネットワークシステムを構築し電子カルテシステムを導入した。産業動物の臨床教育と研究には、産業動物診療施設を利用するほかに、7名乗りワゴン車、検査機器と冷蔵庫を装備した5名乗りワゴン車、家畜運搬車および自家発電機を搭載して全自動血液生化学測定装置、冷却遠心機、冷凍・冷蔵庫、純水製造装置、携帯用超音波診断装置などを装備した家畜検診車が稼働している。また、治療台、无影灯、顕微鏡、超音波断層撮影装置、伴侶動物用X線撮影装置、麻酔監視装置、血液生化学簡易測定装置、電解質分解装置、血球自動計測装置など一通りの診療機器を装備した犬猫用移動診療車は、岩手県沿岸部の東日本大震災被災地仮設住宅で飼育されている動物の健康相談に出動している他、東北各県の獣医師会と協定を締結し、災害発生時に獣医師会に貸し出すなどして被災地域の診療に役立てるよう計画している。

本学動物病院では産業動物と伴侶動物のバランスのとれた臨床教育をめざし、症例は犬猫だけではなく牛馬も多い。近年では産業動物臨床のスタッフの充実を図り、牛の外来受診件数を増加させて学生実習に活用すると共に、キャンパス近隣に位置する農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター、家畜改良センター岩手牧場、岩手県畜産研究所、小岩井農場技術研究センターなどとの協力で臨床実習牛を確保し、臨床教育や研究の充実を図っている。また、岩手県内の農業協同組合や農業共済組合と連携して家畜検診車を使って牛や馬の集団検診を実施している。伴侶動物診療棟の稼働を機に、平成25年から伴侶動物外来診療体制は、原則東北各県の開業獣医師からの紹介症例のみを診察する二次診療体制に移行して、地域の開業医師と連携を図っている。

(2) 診療状況

症例頭数及び収入（令和2年度 単位：頭，円）

	犬	猫	エキゾ	牛	馬	豚	緬・山羊	その他	計
診療頭数	1,643	557	45	906	80	-	-	10	3,241
金額	98,937,013	24,281,570	883,480	5,351,985	833,440	-	-	691,740	130,979,228

学用症例頭数及びこれに要した診療費（令和2年度 単位：頭，円）

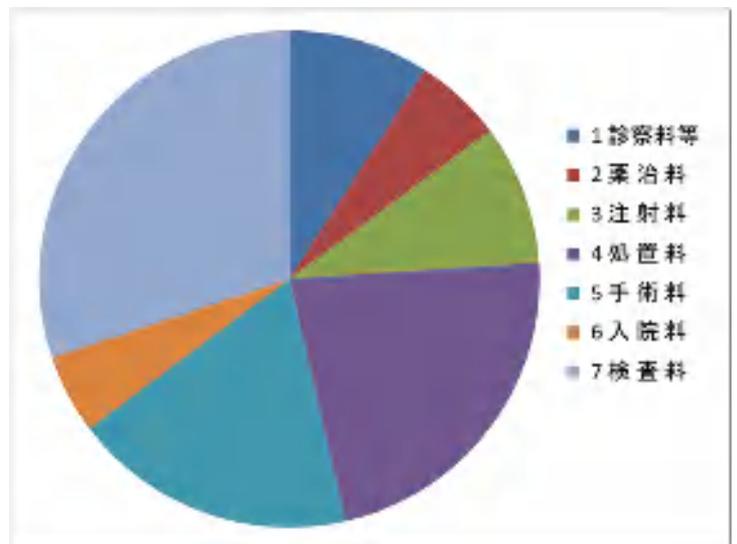
	犬	猫	エキゾ	牛	馬	豚	緬・山羊	その他	計
学用頭数	1	4	-	174	17	-	-	-	196
金額	318,990	462,220	-	77,600	204,340	-	-	-	1,063,150

診療収入の内訳

令和2年度(R2.4.1~R3.3.31 単位:円)

診察科目	金額	割合
1 診察料等	11,959,385	9.1%
2 薬治料	7,453,230	5.7%
3 注射料	11,968,923	9.1%
4 処置料	29,396,520	22.4%
5 手術料	23,996,500	18.3%
6 入院料	6,730,900	5.1%
7 検査料	39,473,770	30.1%
総計	130,979,228	100.0%

令和2年度動物病院収入内訳



(3) 臨床教育の内容

動物病院では4年次，5年次学生に対し小動物内科学実習2単位，大動物内科学実習1単位，小動物外科学実習2単位，大動物外科学実習1単位，獣医臨床繁殖学実習1単位，獣医画像診断学実習1単位，総合参加型臨床実習，，，合計4単位の実習を履修させている．さらに，平成24年度より開始された東京農工大学との共同獣医学科における総合参加型臨床実習，，として，平成28年度より東京農工大学に在籍する5年次学生に対して合計2単位の实習を岩手大学農学部附属動物病院にて履修させている．総合参加型臨床実習は伴侶動物と産業動物診療の総合的な臨床実習で，例年6月から12月初旬まで12週間にわたり火曜日と水曜日に5年次学生を班分けして，伴侶動物は院内にて外来診療動物を，産業動物は近隣の獣医師を委嘱して牛の診療実習をさせている．総合診療実習の最終回には全員が担当症例をまとめた発表会を実施している．なお，岩手大学に所属する5年次学生は総合参加型臨床実習，，として東京農工大学動物医療センター（東京都府中市）において合計2単位の实習を履修している．

本年度発表会のプログラムは別表のとおりである．

令和2年度 臨床実習症例検討会プログラム

日 時：2020年11月18日10時00分～16時00分

場 所：教育学部 北桐ホール

発表時間：5分，質疑3分

司 会：一條俊浩

開会式 氏名	動物病院長：山崎真大先生 演 題	10：00～10：05 担当教員(外部講師)
	小動物臨床【座長：内田直宏先生】	10：10～10：34
1 照喜名弘樹	犬の肝転移を伴う脾臓の間質肉腫	内田先生
2 大堀文也	シクロフォスファミドを高用量で投与されたリンパ腫の犬	内田先生
3 小崎萌加	小型雑種犬における末梢性歯原性線維腫	内田先生
	小動物臨床【座長：小林沙織先生】	10：37～11：01
4 中島冬萌	膵炎および続発性胆嚢炎疑いの犬	小林先生
5 庄司泰盛	急性腎障害のトイプードル	小林先生
6 岡本義希	トイプードルの異物誤飲	山崎先生
	休 憩	11：04～11：14
	小動物臨床【座長：内田直宏先生】	11：14～11：38
7 中嶋慧介	肉芽腫性髄膜脳脊髄炎を疑診したチワワ	宇塚先生
8 宮地洋平	ミニチュアダックスフンドにおける多発性関節炎	宇塚先生
9 成毛悠太	シーズーの類皮腫洞及び脊椎奇形	内田先生
	小動物臨床【座長：星野有希先生】	11：41～12：05
10 萩原聖弥	腎移植猫における尿管結石	片山先生
11 加藤雅也	腎盂拡張が見られない腎臓にSUBを入れた猫とEDTA溶液での洗浄	星野先生
12 荻野史織	ネコの骨盤腔内尿道損傷における膀胱粘膜を使用した狭窄部拡張	片山先生
	休 憩	12：08～13：10
	産業動物臨床【座長：金沢朋美先生】	13：10～13：42
11 鍋野由莉香	黒毛和種繁殖牛の鼻腔腺癌	後藤浩子先生
12 池内葵	黒毛和種子牛発生した慢性関節炎および関節周囲炎	川向先生
13 中川桂	ホルスタイン種乳牛の純性発情	田高恵先生
佐藤太一	ホルスタイン種乳牛の地方病性牛白血病	加藤惇郎先生
	産業動物臨床【座長：木村淳先生】	13：46～14：18
14 山村実穂	黒毛和種子牛のアキレス腱断裂	加藤真紀先生
15 浦本右文	黒毛和種子牛の蹄関節炎と股関節脱臼	千葉恵樹先生
16 小野雅樹	ホルスタイン種乳牛の臍静脈炎および尿管遺残症	一條先生
菅原里佳	黒毛和種子牛の中足骨における難治性骨折	菊池智菜先生
	休 憩	14：22～14：32
	産業動物臨床【座長：高橋正弘先生】	14：32～15：04
17 和賀萌美	くずまき高原牧場の牛群検診	高島恵介先生
18 高井雄也	黒毛和種子牛の慢性化膿性気管支肺炎	田端先生
19 中谷仁美	黒毛和種牛における水腎症	木村淳先生
大森亮平	黒毛和種子牛における慢性肺炎	田端先生
	大動物臨床【座長：一條俊浩先生】	15：08～15：40
20 斎藤宗一郎	ホルスタイン種乳牛の心膜中皮腫	加藤惇郎先生
21 吉田朋恵	歩様異常を示した黒毛和種子牛	尾形透先生
26 渡邊佳和子	ホルスタイン種乳牛の咽頭膿瘍	万代一翔先生
27 齋藤優気	痙攣性不全麻痺を疑った黒毛和種子牛	尾形透先生
講評・閉会式	動物病院副院長 宇塚雄次先生	15：44～16：00

3 . 附属植物園

(1) 概要

附属植物園は、盛岡高等農林学校創設時（明治 35 年）、敷地東南部に設置され、数年後に現在の教育学部構内北部に移転した。昭和 49 年、大学整備拡充に伴い創立当時の植物園、樹木園、校舎敷地を合わせ現在地に再移転した。面積 49,500 m²、現在 137 科 530 属 800 種以上の木本・草本植物が生育し、「博物館に相当する施設」として国の指定を受けている（昭和 27 年 4 月文部省告示第 13 号、昭和 30 年文部省告示第 108 号）。本植物園は、植物学を基礎とする農業生命科学や森林科学など幅広い学問分野の研究教育に資するべく、国内外の植物の蒐集に努めるとともに自生種の保護管理に力を入れている。設置以来百年を経過し、都市域では稀少貴重な巨木の杜が各所に形成されている。四季を通じて様々な野鳥が訪れ昆虫相も豊富で、都市域の生物共生系モデルとして注目され、学内活用はもとより、広く学外にも解放され、地域の人々への環境教育の場ともなっている。藩政時代の武家屋敷の庭が忍ばれ、宮沢賢治ゆかりの数々の樹木や石川啄木の妻節子生誕地など盛岡に生きた人々の歴史が随所に残っている。

植物園内北側に建つ農業教育資料館（旧盛岡高等農林学校本館）は、平成 6 年国指定の重要文化財となった。平成 14 年には開学百周年を迎え、本学ゆかりのメタセコイヤの記念植樹がおこなわれ、賢治モニュメントが設置された。翌 15 年には、植物園内の旧高等農林時代の図書館を岩手大学ミュージアム本館として使用することとなり、報知板や案内板の新設・散策路の補修など多くの整備がなされた。

(2) 主な構成

自啓の森

旧盛岡高等農林学校学生寮“自啓寮”跡地に、岩手の山野に発達する自然林を模し、階層構造を組み込み、郷土森林生態観察モデル林として、昭和 60 年に造成されたアカマツ・コナラ群落、コナラ・クリ群落、ブナ・ミズナラ群落の 3 ブロックで構成され、一隅に“自啓寮跡”の記念碑が建つ。

北水の池

岩手大学環境整備第 1 期計画（昭和 55 年度実施）によって、「北水の池」、「水生植物展示圃」、「築山」が農業教育資料館（旧盛岡高等農林学校本館）の南東側に造成された。北水の池は昭和 55 年に「破碎転圧工法」（旧農業土木学科農地造成研究会の考案）で造成され、1,350 m²、水深 0.2~1.2m で、漏水がないことで評価された。池の余水は、水生植物展示圃に流れ込み、経過して東側の土水路に流下し、「湿地帯」へと導かれる。

水生植物展示圃

「自啓の森」が郷土の樹木をモチーフとしたのに対し、本造成では、水分環境傾度を軸とする、草本植物主体の一連の植物配置が計られた、さまざまな湿地条件がもたらす多様な生物層とともに、岩礫山体によって乾性基盤の立体景観をつくりだし、自然、生態系、そして水と緑の修景について、一体的に学べる空間をめざした。展示圃の総面積は 600 m²で、培土層の深さや水深を変えて、6 つの区画が池東端の築山を囲むように並んでいる。本展示圃では、関係する学外の方々とも共同して、展示、試験を行っている。展示圃の区画配置は、0 区（深水）、1 区（中深水）、2 区（浅水）、3 区（中深水）、4 区（深水）、5 区（深水）となっている。

旧高等農林のガラス温室（森の駅ポランハウス）

農業教育資料館南のガラス温室は、大正 14 年に完成し、当時は東北一の規模を誇り、冬でもバナナ、パイナップル、ゴムなどの南洋植物が常緑葉を光らせ、学外からの参観が絶えなかった。長きにわたっての学内事業により改修・整備がなされ、「森の駅ポランハウス」として再スタートし、地域社会に向けた情報発信の場として、また教職員学生が取り組む環境教育や本学に集うものの交流の場として、よく利用されている。

宮澤賢治モニュメント

農業教育資料館南側のドイツトウヒのそばに設置されている。賢治の花巻農学校時代も終わりに近い大正 15 年、学校付近の畑で撮った写真がモチーフとなっており、帽子をかぶってうつむいている様

はどこかベートーベンに似ている。

旧第一学生寄宿舍前のヒノキ

賢治は、第一寄宿舍(南寮)の一室に居る頃、窓越しに見える若いヒノキを題材に「ひのきの歌」を詠んでいる。今やそのヒノキは、百年の星霜を刻む大成木となり、賢治の心を伝えている。

ポランの日時計

「ポランの広場」の一隅に設置されている。日時計と説明板は、宮澤賢治が愛用した楽器(チェロ)と譜面台の関係を模倣している。太陽による標柱の影を文字盤で読み時刻を計る。盛岡太陽時を基準として作られているため、常用時(明石)との時差として・25分と近似差による補正が必要である。

旧第三教練跡地に立つメタセコイヤ

属名メタセコイヤ(*Metasequoia*)は、三木 茂(盛岡高等農林学校、大正10年卒業)により命名され世に知られるようになった、かつての学び舎第三教練地の跡地に、本種大成木が見下ろすように立っている。ラクウショウと並びたつ空間は見事な景観を形成している。

旧上田新小路

植物園の中央、東西に小径が残る。この上田新小路一帯は、嘉永時代に新たに開かれた侍屋敷町である。当時、諸士の屋敷割りは、間口13間、奥行25間、300坪が基準となっていた。ちなみに石川啄木の妻節子は明治19年上田新小路に生まれ幼少期をここで過ごしている。

目時のスギとヒバおよび山邊のマツ

南部藩の時代、家臣団の名門目時家の屋敷は、ヒバ(実はサワラ)やスギを生け垣にしていたようである。初代盛岡市長の目時敬之は本屋敷で生まれ、市長時代はしばしば全職員を招き会合が催された。

旧高等農林学校の通用門を入れてすぐ正面が山邊家の庭にあたる。やはり、当家の庭園は、侍屋敷が並ぶ一体で、ひと際みごとだったと見られる。マツはゴヨウマツ(別名ヒメコマツ)で老木の大樹の伏臥姿はみごと、当時の侍屋敷の庭が偲ばれる。

(3) 園内概況

珍しい植物

岩手県が南限分布地のもの：ヒメカユウ、アカエゾマツ

岩手県が北限分布地のもの：カヤ、モミ、ヒメクヰミ、ミズメ、イヌシデ、ヤブサンザシ、ニガイチゴ、ヤマニガイチゴ、チドリノキ、オオバアサガラ

岩手県が固有産地のもの：シダレカツラ、モリオカシダレ(サクラ)

西日本が分布地のもの：ヤマコウバシ、ナツツバキ、アオギリ、モクゲンジ、アキニレなど

外国産原種：チョウセンモミ、ブンゲンストウヒ、モンクナマツ、バンクスマツ、ストロウマツ、リキダマツ、メタセコイヤ、ラクウショウ、エンピツビャクシン、ニオイヒバ、コノテガシワ、カシグルミ、シナサワクヰミ、オウシュウシラカンバ、オウシュウブナ、ユリノキ、アメリカスズカケノキ、エンジュ、シンジュ、コブカエデ、トリネコバナカエデ、サトウカエデ、ベニバナトチノキ、キュウエイ、セイコウシナノキ、チョウセンゴシュユ、サンシュユ、クロフネツツジ、アメリカトネリコ、ハナキササゲなど

花

3月下旬 マンサク、ギンドロ、バッコウヤナギ、フクジュソウ、オオイヌノフグリ、ハコベなど

4月上旬 アセビ、レンギョウ、サンシュユ、ウメ、コウバイ、ヒョウガミズキ、アブラチャンなど

中旬 カツラ、シダレカツラ、コブシ、エゾムラサキツツジ、スイセンなど

下旬 エドヒガン、ソメイヨシノ、ミネザクラ、ドウダンツツジ、イタヤカエデ、チドリノキなど

5月上旬 ユキヤナギ、ボケ、ヤマブキ、ハクモクレン、シバザクラ、ヒメオドリコソウ、チューリップなど

中旬 ヤマツツジ、クロフネツツジ、モクレン、リキュウバイ、シロヤマブキ、キリなど

- 6月上旬 ボタン, ハナショウブ, カキツバタ, ヒトツバタゴ, ハクウンボク, ミズキなど
 中旬 シャクヤク, ショウブ, ケアサガラ, エゴノキ, ユリノキ, ミヤコワスレ, フランスギク
 など
 下旬 ハナキササゲ, イボタノキ, ナツハゼ, スイレン, サツキ, ニワフジ, ウメモドキ, シャ
 スターデージー, ムラサキツユクサ, セイヨウノコギリソウなど
- 7月 ナツツバキ, アジサイ, セイヨウシナノキ, ネムノキ, ムラサキシキブ, ノリウツギ, ジ
 ャノヒゲなど
- 8月 エンジュ, サルスベリ, ムクゲ, オオウバユリ, ヤブラン, ミズヒキ, オオハンゴンソウな
 ど
- 9月 アキニレ, ヤマハギ, ミヤギノハギ, マルバハギ, ハナタデ, イヌタデなど
- 10月 ハナゾノツクバネウツギ, ノコンギク, ホトトギス, ミゾソバ, キクイモ, キンエノコロ,
 ハマギクなど

(4) 運営委員会

運営委員

立川史郎(委員長, 植物園長), 立澤文見(植物生命科学科), 大野美紗(応用生物化学科), 真坂一
 彦(森林科学科), 袁 春紅(食料生産環境学科), 澤井 健(動物科学科), 佐々木淳(共同獣医学科),
 (担当事務: 櫻田美幸, 三浦勇次郎)

第1回植物園運営委員会

令和2年4月14日(火)

- 議題 1. 植物園運営委員会について
) 令和2年度委員一覧
) 植物園運営委員会規則について
) 平成31・令和元年度の事業内容について
2. 令和2年度事業について
) 令和2年度事業費について
) 農学系技術部への業務依頼について
3. 植物園内の樹木整理について
4. 外来種オオハンゴンソウの除去等について
5. 北水会100周年記念モニュメントの設置について
6. 施設委員会委員の選出について
7. その他

第2回植物園運営委員会

令和3年1月21日(木)

- 議題 1. 附属植物園長適任候補者の推薦について
2. 令和2年度収支報告について
3. 令和2年度活動報告について
) 水生植物展示圃管理作業について
) 植物園内巡視について
) 植物園内樹木の状況調査について
) 特定外来生物(オオハンゴンソウ)の防除について
4. 植物園内の樹木整理について
5. 外来種オオハンゴンソウの除去等について
6. その他
) 農学系技術部への支援要望について

(5) 令和2年度 植物園・ガラス温室利用状況
植物園

月 日	行 事	使用者	人 数	備 考
4月 1日	ラジオ体操	上田三小路町内会	40名程度	令和2年11月30日まで
4月11日	ミーティング等	岩手大学植物園観察会	15名	令和2年12月14日まで
5月14日	自然観察	盛岡市立仁王小学校	93名	
5月15日	自然観察	うえだ保育園	23名	
6月15日	写真撮影	盛岡第一高等学校	43名	
6月16日	生活科学習	盛岡市立上田小学校	63名	
6月20日	部活動	オリエンテーリング部	20名程度	
6月23日	生活科学習	盛岡市立仁王小学校	96名	
6月23日	七夕用竹の採取	まちのあそびの園	2名	
7月 2日	生活科学習	河北小学校	64名	
7月30日	研究	筑波大学 学生	1名	令和2年8月31日まで
8月29日	自然観察	河北児童センター	24名	
9月 7日	研究	森林科学科 学生	3名	令和3年3月31日まで
9月24日	生活科学習	河北小学校	34名	
9月25日	遠足	盛岡幼稚園	36名	
9月25日	自然観察	盛岡市立緑が丘小学校	107名	
9月30日	部活動	オリエンテーリング部	10名程度	
10月16日	生活科学習	盛岡市立仁王小学校	90名程度	
10月30日	柿狩り	うえだ保育園	48名	
10月31日	自然観察	もりおか復興支援センター	10名	
11月11日	研究	連合農学研究科 学生	2名	令和2年12月10日まで
11月19日	柿狩り	Nature Circle けらけら	10名	
3月10日	研究	農学専攻 学生	1名	令和3年3月31日まで

ガラス温室

月 日	行 事	使用者	人 数	備 考
7月6日	植物の播種・育苗	岩手大学環境マネジメント学生委員会	約20名	令和2年11月30日まで

この他、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、休憩スペース等は閉鎖した。

4 . 附属農業教育資料館

(1) 概要

岩手大学農学部附属農業教育資料館は、明治35年3月に我が国最初の高等農林学校として設置された盛岡高等農林学校の本館で、大正元年12月に竣工した。この旧本館は、青森ヒバを用いた明治後期を代表する木造二階建て総面積約1,007㎡の欧風建物で、他に便所、用務員室と校舎をつなぐ渡り廊下が付属していた。当時一階は、校長室、事務室、会議室等として、また二階の大講堂（446.3㎡）は学内の諸儀式に使用されていたが、昭和24年、学制改革により岩手大学が設置されてからは、大学本部として一階は学長室、事務室などに利用されていた。昭和49年に大学本部が現在地に移転後、老朽化が激しくなったため、昭和52年11月に修復され、翌53年から岩手大学農学部附属農業教育資料館として活用されるようになった。農業教育資料館は、盛岡高等農林学校開校以来、今日の農学部に至る農業教育関係の資料および宮澤賢治在学中の資料を主に展示公開するとともに、二階講堂は学内の入学、卒業にかかわる諸儀式および学会、研修会、諸会議などに広く活用されてきた。その後、農業教育資料館は平成6年に再度大修復工事が行われ、装いも新たに再出発した。

この農業教育資料館（旧本館）は、明治期に設置された国立の専門学校の中心施設のうち、現存する数少ない遺構の一つであり、改造が少なく保存状態も良好で、我が国の学校建築の歴史を知る上で貴重な建物であることにより、平成6年7月2日、門番所と旧正門（土塁の一部を含む）を含め、重要文化財に指定された。

なお、平成24年4月23日～同年10年31日までを工期として、耐震化工事が行われ、ほぼ大正元年の竣工当時の姿に復元された。この工事に合わせて、展示資料の整理とリニューアルが行われ、平成25年5月31日には岩手大学農学部創立110周年記念式典が二階講堂にて挙行された。

(2) 展示資料

盛岡高等農林学校設立の経緯から現在までの歴史的な変遷、高農時代の実験器具類、当時の教官の研究業績関連資料の一部（鈴木梅太郎博士研究報告、大獄了博士遺品、内田繁太郎博士の笹標本）、その他初代玉利喜造校長、関豊太郎教授の冷害関係研究資料や後年の関教授の手帳、教材用剥製標本、図譜類、写真、学生のノート、組織標本の顕微鏡スケッチ、事務関係書類等の歴史的資料、卒業生著書、寄贈図書、専門図書の一部等を展示している。

宮澤賢治関係資料としては、在学当時の「校友会会報」、「注文の多い料理店」の原本、賢治および同級生らの卒業論文、「岩手県稗貫郡地質及び土性調査報告書」、「アザリア」（一部）、「雨ニモマケズ」、恩師関豊太郎教授宛「手紙」等の複写および賢治全集、学生時代の写真、関豊太郎教授の賢治追想の文、賢治在学時代の地質調査用具、岩石標本作製用器材、鉱物・岩石標本、賢治が高農時代に採取した岩石および盛岡周辺の探索マップ、賢治が作った顕微鏡用岩石薄片、その当時に使われた教材、賢治と小野寺伊勢之助教授に関する資料、その他賢治に師事した松田甚次郎関係の資料等を展示している。

(3) 令和2年度入館者数

単位:人

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
12	0	65	96	111	77	124	312	37	7	9	58	908

(4) 農業資料館収蔵資料の他施設・団体への貸出実績

相手先	目的	貸出情報
越谷市科学技術体験センター	企画展への展示	盛岡付近地質図 外
花巻南高校	授業での使用	植物学の教科書 外

(株)ナガセ	大学の web 紹介動画作成のため	資料館外観写真
(株)NHK エンタープライズ	NHK 制作 DVD 発行のため	盛岡高等農林学校の旧学生寮の写真
(株)明治図書出版	中学校用国語教材への掲載	岩石の標本

5 . 農学部附属動物医学食品安全教育研究センター (FAMS)

岩手大学農学部附属動物医学食品安全教育研究センター (FAMS) は、「健康な家畜の生産から加工・流通を経て食卓に至るまで」いわゆるFarm to Tableで食の安全・安心に関する科学を学際的・横断的に希求し、その成果を地域と世界に発信する拠点として、平成18年4月1日に設置された。FAMSは現在4つの部門：企画調整部門、食の安全部門、動物生産部門および環境放射線衛生学部門で構成され、主に以下の活動を行っている。

- (1) 動物性食品に関する分野横断的な卒業教育・学部教育の提供
- (2) 地域密着型・問題解決型の動物性食品に関する研究推進
- (3) 食品に関する学際的・横断的な教育研究拠点形成
- (4) 放射線教育体系の構築

この中でも特に卒業教育には力を入れており、分野を問わず食に関わる人を対象にした「全体研修会」のほか、各分野の人を対象にした「部門別研修会」を企画調整部門を除く3部門で毎年開催している。令和2年度は、部門別研修会の開催が新型コロナウイルス感染症の影響で止むを得ず2部門の研修会を中止とした。

近年、食の安全確保においてHACCP (Hazard Analysis and Critical Control Points) やGAP (Good Agricultural Practice) 方式が国際標準となり、食に関する事業者はその導入が求められている。FAMSでは東北地域の関係団体とともに「東北農場HACCP研究会」を設立し、農場におけるHACCP導入に対する支援活動も行っている。また、岩手県内に所在する国、自治体、あるいは民間の試験研究機関等と「岩手Farm to Tableフォーラム研究会」を設立し、分野横断的な勉強会を定期的で開催するとともに、地域連携の推進にも努めている。

令和2年度の活動内容は次のとおりである。

1 . FAMS事業推進委員会

動物医学食品安全教育研究センター (FAMS) の運営方針や事業内容について、大学外の行政機関・民間企業等と意見交換をする目的で設置された委員会であり、令和2年度は1回開催された。

令和2年度FAMS事業推進委員会

- ・期 日：令和2年7月14日(火)～7月31日(金) 【書面審議】
- ・参加人数：FAMS事業推進委員会 23名

2 . 卒業教育活動

(1) 全体研修会

○第17回FAMS全体研修会

- ・テ ー マ：「家畜衛生と次世代型通信（遠隔操作等含む）を用いた農畜水産業の展望」
- ・期 日：令和2年12月5日（土）13時～17時
- ・場 所：岩手大学総合教育研究棟(生命系)ぼらんホールならびにWebexを用いた同時配信
- ・参加人数：36名（学外：19名、学内および関係者：17名）

(2) 部門別研修会

○令和2年度FAMS診療技術セミナー

- ・テ ー マ：「産業動物の繁殖管理について」
- ・期 日：令和2年11月30日（月）13時30分～12月2日（水）12時
- ・場 所：岩手大学農学部附属動物病院 産業動物診療棟1階実習室、2階視聴覚室
- ・参加人数：7名

3 . 地域連携活動

(1) 東北農場HACCP研究会

- ・テ ー マ：「農場HACCP認証における円環認証の可能性と注意点」

- ・期 日：令和3年2月20日（土）13時30分～15時
 - ・場 所：オンライン（Webex）
 - ・主 催：東北農場HACCP研究会，岩手大学農学部附属動物医学食品安全教育研究センター
 - ・参加人数：28名
- (2) 家畜の病態解析に関わる農業共済組合（NOSAI）とのネットワーク構築
- ・期 間：平成29年～（継続）

4. 講師派遣・その他

(1) 講師派遣

○牛白血病に関する講演

- ・期 日：令和3年1月20日（水）10時～12時
- ・場 所：JA新みやぎ本店 3階 大会議室
- ・主 催：新みやぎ農業協同組合
- ・講 師：一條 俊浩（動物生産部門）

5. FAMS共催・協賛事業

(1) 6大学共同開催フォーラム

- ・期 日：令和3年3月21日（日）13時～17時
- ・テーマ：「食を科学する ～安全・おいしい・健康にいい食品とは?!～」
- ・場 所：宮崎大学創立330記念交流会館（コンベンションホール）・ZoomによるWeb配信
- ・主 催：宮崎大学 産業動物防疫リサーチセンター，岩手大学農学部 動物医学食品安全教育研究センター，東北大学大学院農学研究科 食と農免疫国際教育研究センター，東京大学大学院農学生命科学研究科 食の安全研究センター，大阪府立大学 食品安全科学研究センター，神戸大学大学院農学研究科 食の安全・安心科学センター

6. 研究活動

(1) 日本中央競馬会畜産振興事業

○「感染子牛育成センターを利用した地域で持続可能な牛白血病清浄化モデル開発事業」

- ・期 間：平成31年4月1日～令和4年3月31日
- ・補助金総額：29,751,000円（令和2年度）
- ・研究代表：岩手大学農学部附属動物医学食品安全教育研究センター
- ・研究分担：NOSAI東北家畜臨床研修センター，動物衛生研究所，東北各県家畜保健衛生所，東北各県NOSAI

(2) 農業・食品産業技術総合研究機構 生産性革命に向けた革新的技術開発事業

○「スマート捕獲・スマートジビエ技術の確立」

- ・期 間：平成30年度～令和2年度
- ・補助金総額：650,000円（FAMS配当分，令和2年度）
- ・研究代表：長崎県農林技術開発センター
- ・研究分担：株式会社R・F・J，鳥羽商船高等専門学校，宇都宮大学，岩手大学，甲子園大学，株式会社ファスマック，株式会社ニッポンジーン，農研機構東北農業研究センター・西日本農業研究センター，宮城大学，静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター，（株式会社一成，株式会社スカイシーカー，兵庫県県立大学，長崎県農山村対策室，森林研究・整備機構森林総合研究所，東京理科大学

(3) 農業・食品産業技術総合研究機構 労働力不足の解消に向けたスマート農業実証

- 「共同型スマートCBS（キャトルブリーディングステーション）による地域一体となった労働力不足解消技術体系の実証」

- ・期 間：令和2年度
- ・補助金総額：2,450,000円（FAMS配当分）
- ・研究代表：阿寒農業協同組合
- ・研究分担：岩手大学，東京理科大学，釧路市，北海道標茶高校

7．成果発表会

(1) FAMS成果発表会

- ・日 時：令和3年3月8日（月）13時～14時50分
- ・場 所：岩手大学総合教育研究棟（生命系）7番講義室ならびに Webex を用いた同時配信
- ・参加者：42人

8．会議開催実績

- | | |
|--------------|----|
| (1) 運営委員会 | 2回 |
| (2) 企画調整部門会議 | 6回 |

事務組織等

1. 事務組織

事務長	久 慈 秀 俊
学部運営グループ	
主査（副事務長）	佐 藤 光 展
主査	内 村 勝 人
主査	櫻 田 美 幸
主査	藤 根 智 子
主任	三 浦 勇 次 郎
主事	對 馬 一 圭
主事	齋 藤 友 輝
事務補佐員	藤 原 友 子
事務補佐員	佐 藤 育 子
事務補佐員	大 下 和 枝
事務補佐員	高 杉 亜 希
事務補佐員	小 野 寺 福 恵
臨時用務員	佐 々 木 君 子
寒冷フィールドセンターグループ	
主査（副事務長）	後 藤 和 子
主任	佐 々 木 敬 規
事務職員（再雇用）	田 澤 昭 男
事務職員（再雇用）	山 崎 信 也
事務職員（再雇用）	小 野 寺 昭 好
事務補佐員	九 翟 里 美
連合大学院グループ	
主査（副事務長）	黒 澤 喜 一
主査	竹 原 裕 二
主任	小 笠 原 朋 美
主事	井 上 早 苗
事務補佐員	川 戸 道 代
地域連携推進室	
特任研究員	沼 田 聡
事務補佐員	吉 田 珠 美
事務補佐員	岡 田 早 紀
事務補佐員	安 海 桂 子

令和2年10月1日現在

2. 令和2年度予算関係

支出額

（単位：円）

区 分	学 部	附属寒冷フィールドサイ エンス教育研究センター	合 計
運 営 費	115,925,748	76,783,827	192,709,575
外 部 資 金	158,080,870	2,098,682	160,179,552
合 計	274,006,618	78,882,509	352,889,127

学部には連大分を含まない。

3. 職員の動向

(1) 教育職員

発令年月日	新 職 名	氏 名	前 職 名
【採 用】			
2.10. 1	教授（食料生産環境学科）	飯田 俊彰	東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授
"	助教（森林科学科）	山崎 遥	北海道大学北方生物圏フィールド科 学センター学術研究員
【昇 任】			
2. 4. 1	教授（食料生産環境学科）	金山 素平	准教授（食料生産環境学科）
"	教授（動物科学科）	西向めぐみ	准教授（動物科学科）
2. 9. 1	教授（附属動物病院）	片山 泰章	准教授（共同獣医学科）
2.11. 1	教授（応用生物化学科）	宮崎 雅雄	准教授（応用生物化学科）
3. 2. 1	教授（動物科学科）	松原 和衛	准教授（動物科学科）
【配 置 換】			
2. 4. 1	助教（寒冷フィールドサイエンス教 育研究センター）	白旗 学	助教（森林科学科）
【退 職】			
2. 7.31	退職	大野 美紗	助教（応用生物化学科）
2.10.21	退職	福井 大祐	准教授（共同獣医学科）
3. 3.31	定年退職	吉川 信幸	教授（植物生命科学科）
"	定年退職	倉島 栄一	教授（食料生産環境学科）
"	定年退職	佐藤 繁	教授（共同獣医学科）

(2) 事務職員

発令年月日	新 職 名	氏 名	前 職 名
【採 用】			
2. 4. 1	農学部主事	齋藤 友輝	
"	農学部事務職員（再雇用）[寒冷フィールドセンター上田]	田澤 昭男	
"	農学部事務職員（再雇用）[御明神牧場]	小野寺昭好	
【配 置 換】			
2. 4. 1	農学部寒冷フィールドグループ主査（副事務長）[兼：附属動物病院]	後藤 和子	学務部学務企画課総務グループ主査（副課長）
"	農学部連合大学院グループ主査（副事務長）	黒澤 喜一	理工学部学部運営グループ主査（副事務長）
"	農学部主任	佐々木敬規	福島大学入試課人間発達文化学類係主任
"	研究・地域連携部研究推進課総括・企画グループ主査	大矢 真	農学部連合大学院グループ主査
"	法人運営部総務広報課主任[秘書室]	藤井 美樹	農学部主任[動物病院]
【出 向】			
2. 4. 1	岩手県	芳賀 清亮	農学部寒冷フィールドセンターグループ主査
【退 職】			
3. 3.31	定年退職	久慈 秀俊	農学部事務長

(3) 技術職員

発令年月日	新 職 名	氏 名	前 職 名
【採 用】			
2. 4. 1	農学系技術部農学系第一技術室農学生命・生物グループ技術職員	高橋 雅人	
"	農学部系技術部農学系第一技術室技術職員（再雇用）	千田 広幸	
【退 職】			
3. 3.31	定年退職	佐々木 修	農学系技術部農学系第一技術室農学生命・生物グループ技術専門職員
"	定年退職	高橋 健保	農学系技術部農学系第二技術室森林・環境グループ技術専門職員
"	退職	齋藤 誠	農学系技術部農学系第二技術室森林・環境グループ技術職員（再雇用）

令和3年11月30日発行

発行 **岩手大学農学部**

〒020-8850 岩手県盛岡市上田三丁目 18-8

TEL 019-621-6103

FAX 019-621-6107

発行責任者 岩手大学農学部長 伊藤 菊一

IWATE UNIVERSITY

*FACULTY
OF
AGRICULTURE*